2020 年度

教師海外研修　代替国内研修　報告書

# ～「持続可能な社会の創り手」を育てる授業実践集～

パラグアイ共和国

ザンビア共和国

（東京都・埼玉県・千葉県・群馬県・新潟県・長野県）

独立行政法人 国際協力機構　東京センター

# はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、国際協力に関する知識の普及と国民の理解の推進のため、開発教育・国際理解教育を推進することを果たすべき使命の一つとしております。教育委員会や教員のみなさま、あるいは自治体、NGO 等と連携しながら、JICA の海外での協力現場における「知見の還元」、地球規模課題への取組を紹介し「考える機会の提供」および地域の課題と地球規模の課題を結び付け、その解決のために行動する児童生徒を育てていただくための「橋渡し役」となることの 3 点に重点を置き、「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」国際理解教育・開発教育の支援に取り組んでいます。

学校教育の現場で次代を担う児童生徒の教育に携わり、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象として、教師海外研修を実施しています。教員の方々が実際に開発途上国を訪問し、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、教育活動に役立ててもらうことを目的とし、約 50 年にわたり継続して実施しています。

ところが、コロナ禍により海外の協力現場の大幅な縮小を迫られた 2020 年度は、海外研修を実施することができませんでした。そこで、派遣予定国であったザンビア・パラグアイとの国際協力を実施されている団体や企業を紹介し、グローバルな課題に挑戦する人々の想いや活動への理解を深めていただく代替国内研修を実施しました。また、日本国内の国際化、多文化共生の実現に取り組む団体の紹介も組み込みました。その結果、持続可能な社会の実現には、グローバルな視点とローカルな行動が不可欠であり、国内にも様々な国際課題が存在することへの理解を深めていただくことができました。

JICA 東京センター所管地域である、東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県から 22 名の教員が参加され、研修の成果を活用した授業を実践しています。本報告書は、今年度の研修の概要及び参加者の帰国後の勤務校における授業実践の実例をまとめたものです。教育現場の第一線で日々生徒たちと向き合っている教員の方々が、それぞれの教育現場で実践を行っていただいたことは大きな励みとするところです。これらを通じて、持続可能な社会実現への生徒たちの理解が深まり、周りの方々にも波及していくような好循環が生まれることを期待しています。

結びに、本研修の実施にあたりご支援をいただいた外務省、文部科学省、各教育委員会並びに関係諸団体に感謝を申し上げるとともに、今後とも JICA が取り組む市民参加協力事業にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和３年３月

独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター

所　長　　田中　泉

# 目　次


はじめに …… 1

1．参加者一覧 …… 4

2．研修概要 …… 5

3．オンライン導入研修 …… 11

4．研修参加者写真 …… 13

5．国内視察 …… 14

6．授業研究 …… 22

7．授業実践 …… 23

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小学校　総合・道徳科 | | | |
| **澤野　裕香**<br>坂戸市立浅羽野小学校 | 「国際理解　日本と外国のつながり」 | 小学４年生<br>総合的な学習の時間 | 24 |
| **橋本　雄介**<br>千葉市立扇田小学校 | 世界とつながろう！ | 小学５年生<br>総合的な学習の時間 | 28 |
| 小学校　教科 | | | |
| **岡田　紘明**<br>市川市立稲荷木小学校 | 平和への思いを稲荷木小から発信しよう | 小学４年生<br>国語科<br>総合的な学習の時間 | 32 |
| **樋口　善幸**<br>羽村市立武蔵野小学校 | 「ちいきに伝わる音楽に親しもう」 | 小学４年生<br>音楽科 | 37 |
| **大平　要**<br>八丈町立三根小学校 | 音楽でつながる、音楽でつなげる<br>～ここからつたえる、みつねミュージック～ | 小学６年生<br>音楽科<br>総合的な学習の時間 | 45 |
| 中学校　総合・道徳・キャリア | | | |
| **増田　有貴**<br>村上市立荒川中学校 | 「地域から発信！ SDGs の視点で、グローカルな生き方を学ぼう～持続可能でレジリエントな社会を目指すには？～」 | 中学１年生<br>総合的な学習の時間<br>道徳 | 52 |
| **中村　太郎**<br>阿賀町立三川中学校 | SDGs × 地域づくり × キャリア教育 | 中学１年生<br>総合的な学習の時間 | 58 |
| **須賀　与恵**<br>川口市立小谷場中学校 | 仕事で解決！日本の社会問題 | 中学１年生<br>総合的な学習の時間<br>キャリア教育 | 64 |
| **後藤　亮**<br>明治大学付属明治中学校 | SDGs のレンズを通して社会に目を向けよう | 中学２年生<br>特別の教科<br>道徳・ＨＲ・特別活動 | 70 |
| **輪湖　みちよ**<br>板橋区立板橋第三中学校 | 中学生のチカラを発揮した探究活動 | 中学３年生<br>総合的な学習の時間 | 78 |
| 中学校　教科 | | | |
| **黒川　八重**<br>東京女子学園中学校 | 近世の日本、開国と近代日本の歩み | 中学２年生<br>社会（歴史） | 83 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 高校　総合・探究 | | | |
| **大塚　圭**<br>中央大学杉並高等学校 | SDGs でつなぐ国際協力 | 高校１年・２年・３年<br>総合的な学習（探究）の時間 | 92 |
| **吉田　大祐**<br>埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 | 防災教育講演会 | 高校１年・２年・３年<br>総合的な探求の時間 | 98 |
| **陣野　俊彦**<br>東京都立大島海洋国際高等学校 | なし | 高校２年生<br>国際理解 | 104 |
| 高校　地理・日本史 | | | |
| **仲田　莉果**<br>埼玉県立大宮中央高等学校 | 「地球的課題と私たち」<br>「日本の自然環境と防災」 | 高校１年・２年・３年<br>地理Ａ | 110 |
| **水野　修**<br>和洋九段女子中学校高等学校 | 琉球・沖縄史 | 高校２年生<br>日本史Ｂ | 117 |
| 高校　外国語・英語 | | | |
| **松井　市子**<br>新潟県立津南中等教育学校 | 外国語授業における<br>データサイエンスを活用した地域探究学習 | 高校２年生<br>外国語（英語表現Ⅱ） | 126 |
| **篠崎　早織**<br>千葉市立稲毛高等学校 | The Vancouver Asahi（20 世紀初頭の日系カナダ人の境遇と野球との関わりについて理解する） | 高校２年生<br>総合英語 | 133 |
| 高校　理科 | | | |
| **菅原　唯**<br>千葉県立市川工業高等学校 | 科学技術と人間・環境 | 高校３年生<br>科学と人間生活 | 139 |
| 特別支援　中学 | | | |
| **鈴木　優成**<br>千葉県立東金特別支援学校 | 友達と協力して社会貢献活動に取り組もう<br>～僕たち、私たちにできること～ | 中学１年・２年・３年<br>総合的な学習の時間 | 145 |
| 特別支援　高校 | | | |
| **鍵本　ひかる**<br>東京都立足立特別支援学校 | 「SDGs について知ろう」 | 高校２年生<br>特別活動（LHR） | 151 |
| **汐中　義樹**<br>埼玉県立熊谷特別支援学校 | 産廃×幸せな生き方× SDGs | 高等部ⅠⅡ類<br>自立活動 | 158 |

**8. 教師海外研修 OB/OG による在外事務所とのオンライン授業** …… 168

| | | | |
|---|---|---|---|
| **中島　真紀子**<br>筑波大学附属中学校 | HRH シリーズもの学習<br>「立場をこえて，広がる輪」２年生バージョン | 中学２年生<br>HRH（オンライン実施） | 169 |
| **吉田　大祐**<br>埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 | 「命の詩を繋ぐ」第六部パレスチナ | 高校３年生<br>世界史Ｂ | 177 |
| **石井　誠**<br>渋谷区立松濤中学校 | 「映像教材を使用した SDGs 学習への動機づけ」 | 中学３年生<br>総合的な学習の時間 | 185 |
| **竹村　ゆかり**<br>長野県長野高等学校 | ザンビアにおける鉛汚染 | ３校の希望者<br>３校合同オンライン講座 | 188 |

**9. 授業実践報告会** …… 190

**10. 総括研修** …… 191

**11. 教師海外研修を終えて** …… 192

**12. 学校・教員のための開発教育・国際理解教育支援プログラム** …… 193

**おわりに** …… 195

# 1．参加者一覧

## 2020 年度初参加者

| 氏名 | 学校名 | 担当教科 | 担当学年 | 都県 |
|---|---|---|---|---|
| 岡田　紘明 | 市川市立稲荷木小学校 | 全教科 | 小４ | 千葉 |
| 橋本　雄介 | 千葉市立扇田小学校 | 算数／全教科 | 小５ | 千葉 |
| 鍵本　ひかる | 東京都立足立特別支援学校 | 職能開発課 | 高２ | 東京 |
| 後藤　亮 | 明治大学付属明治高等学校・中学校 | 英語 | 中２ | 東京 |
| 篠崎　早織 | 千葉市立稲毛高等学校 | 英語 | 高２ | 千葉 |
| 水野　修 | 和洋九段女子中学校高等学校 | 日本史・世界史 | 高２ | 東京 |
| 大平　要 | 八丈町立三根小学校 | 音楽・外国語総合的な学習の時間 | 小６ | 東京 |
| 中村　太郎 | 新潟県阿賀町立三川中学校 | 社会科 | 中１ | 新潟 |
| 樋口　善幸 | 羽村市立武蔵野小学校 | 音楽 | 小４ | 東京 |
| 澤野　裕香 | 坂戸市立浅羽野小学校 | 全教科 | 小４ | 埼玉 |

## 過年度参加者

※本研修は、2019 年以前の教師海外研修経験者の参加を可能とし、初参加者と共に学びあいました。

| 氏名 | 学校名 | 担当教科 | 担当学年 | 都県 |
|---|---|---|---|---|
| 菅原　唯 | 千葉県立市川工業高等学校 | 理科 | 高３ | 千葉 |
| 陣野　俊彦 | 東京都立大島海洋国際高等学校 | 英語 | 高２ | 東京 |
| 汐中　義樹 | 埼玉県立熊谷特別支援学校 | 自立活動 | 高１・２ | 埼玉 |
| 大塚　圭 | 中央大学杉並高等学校 | 英語 | 高１～３ | 東京 |
| 輪湖　みちよ | 板橋区立板橋第三中学校 | 社会科（地理・歴史・公民） | 中３ | 東京 |
| 松井　市子 | 新潟県立津南中等教育学校 | 英語 | 高２ | 新潟 |
| 仲田　莉果 | 埼玉県立大宮中央高等学校 | 地理歴史・公民 | 高１～３ | 埼玉 |
| 須賀　与恵 | 埼玉県川口市立小谷場中学校 | 数学 | 中１ | 埼玉 |
| 鈴木　優成 | 千葉県立東金特別支援学校 | 全教科 | 中１～３ | 千葉 |
| 増田　有貴 | 村上市立荒川中学校 | 英語 | 中１ | 新潟 |
| 黒川　八重 | 東京女子学園中学校高等学校 | 社会科 | 中２ | 東京 |
| 吉田　大祐 | 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 | 世界史Ｂ | 高１～３ | 埼玉 |

## 運営事務局

| 氏名 | 所属 | 役割 |
|---|---|---|
| 佐藤　真久 | 東京都市大学大学院　環境情報学研究科　教授 | 教師海外研修アドバイザー |
| 前橋　俊輔 | JICA 東京センター　市民参加協力第一課 | 学校教育アドバイザー |
| 古賀　聡子 | JICA 東京センター　市民参加協力第一課 | 職員 |
| 深林　真理 | JICA 東京センター　市民参加協力第一課 | 職員 |

# ２．研修概要

**■研修の目的**

（１）　国内研修を通じ、「持続可能な社会づくり」「国際協力の必要性」に対する研修参加者の理解を促進する。
（持続的に学校現場で国際理解・開発教育を実践できる教員の育成）

（２）　研修参加者による学校現場等での授業実践を通じ、開発課題を自らの問題として捉え、主体的に考える力、またその根本解決に向けた取り組みに参加する力をもつ「持続可能な社会の創り手」となる児童生徒を育成する。
（持続的な児童生徒の国際問題・相互依存・援助の必要性等の理解促進）

［研修で修得を目指すスキル］

① 国際理解・開発教育の必要性を理解し、説明できる。
② 開発途上国が置かれている現状、国際協力の現場で起きている現状を理解し、児童生徒に説明できる。
③ 開発途上国と日本との関係、特に相互依存関係について理解し、児童生徒に説明できる。
④ 国際協力の必要性及びJICAの概要を理解し、児童生徒に説明できる。
⑤ 上項を踏まえた開発教育（国際理解教育）の授業計画・教材を作成し、授業を実施できる。

**■主催：**

独立行政法人 国際協力機構　東京センター（JICA東京）

**■後援：**

外務省、文部科学省、各都県及び政令指定都市の教育委員会、各都県の私立中学高等学校協会

**■参加人数**

2020年度新規応募者：10名
過年度参加者のうち希望者：12名
計22名

**■研修内容**

・オンラインおよびJICA東京においての座学・ワークショップの実施
・国際協力、多文化共生に取り組む団体・企業への訪問
・学校現場での国際理解教育・開発教育の授業実践

**■研修日程**

8ページに記載のとおり

**■応募資格**

次の資格をすべて満たす方とする。

①東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校において教職員として教育活動に従事していること。

②応募締切（2020年5月）の時点で、初任者研修を修了していること。私立学校に勤務する者の場合は、応募締切時点で一年以上の教員経験を有すること。

③所属する学校の校長の推薦および実践授業の実施およびその公開に理解があること。

④研修国の事情を勘案した上で、参加に耐えうる健康状態であること（持病を持っていない事、継続的な投薬・治療を行っていない事）

**■参加要件**

次の要件をすべて満たす方とする。

①国内研修及び海外研修の全行程に参加可能であること。

②パソコンメールアドレスでの連絡（ファイルの送受信を含む）が可能なこと。

③帰国後、所定期日内に海外研修報告書を提出すること。

④帰国後、本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行うこと。

⑤当該授業の実践報告書を提出すること。

⑥JICAのウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。

⑦JICAが実施する国際理解・開発教育支援事業に協力（エッセイコンテストへの応募など）可能であること。

⑧本研修の過年度参加者ネットワークづくり（各都県を含む）に参加・協力可能であること。

※また、研修成果を児童生徒だけでなく他の教員にも広く還元していただくことを目的とし、校内研修や研究授業の実施を推奨いたします。

**■参加費用**

（1）JICA負担

・研修参加時の交通費、宿泊費（日当は除く）

・講師謝金

・視察に必要な交通費及び入場料

（2）参加者負担

・食費（日本国内、海外研修）

・保険の加入費用等（必要に応じて）

## 1　教師海外研修（国内代替研修）の目的と年間スケジュール

### ２０２０年度 JICA東京 教師国内研修

**背景**：JICA第二四半期まで海外派遣中止
各教育委員会の夏季・冬季休業短縮
→ 海外研修はできない
→ 応募者13名+OB対象に国内研修を実施する

＜ねらい＞

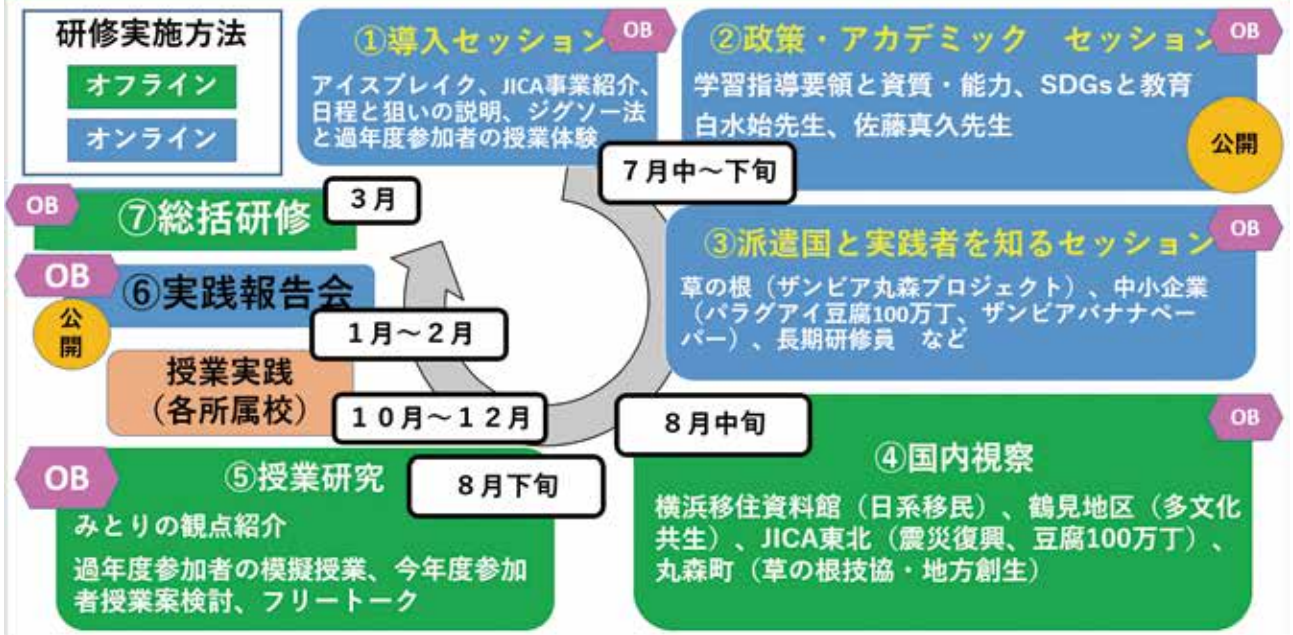
1．海外研修によって提供してきた「持続可能な社会づくり」「国際協力の必要性」への理解を、国際協力実施団体・多文化共生・ソーシャルビジネスなど「国内のリソース」視察により提供する

2．訪問先はJICA事業との関わりに加え研修予定国であったザンビア・パラグアイに関連するものを取り入れ、過去の成果を活用しつつ、当該国への理解を深めて次年度の研修につなぐ

3．参加者が来年度以降の海外研修に再応募（※）する可能性があることを踏まえ、授業実践（授業案作成）のテーマは「国際協力・多文化共生の担い手」にフォーカスする（※次年度の連続参加も可能とする）

4．教師海外研修過年度参加教員との協働により、教員同士のネットワーク構築を進めるとともに、国際協力に関わる多様なステークホルダーとの繋がりを深め、学びの循環を形成・強化する

### ２０２０年度 JICA東京 教師国内研修



■研修の流れ

## ◇オンライン導入研修

**7 月 19 日(日)・ 7 月 25 日(土)・ 8 月 2 日(日)**

・研修の趣旨および、JICA や日本の国際協力、訪問国に関する理解を深める
・国際理解教育・開発教育への理解と参加型学習の手法・過年度参加者の授業体験
・研修における各自の役割の理解と、国内視察研修に向けて準備

## ◇国内視察

**8 月 11 日(火)～ 8 月 14 日(金)**

訪問予定国であったパラグアイ、ザンビアとの国際協力や多文化共生に携わる団体や企業を訪問し、またはオンライン講義を受けることで、国内にある国際協力の実際を理解する。また、授業実践に必要な教材の材料等を収集する。

## ◇授業研究

**8 月 30 日(日)**

国内視察研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考える。

## ◇授業実践

**9 月～12月(各勤務校において 1 回以上)**

研修の経験を生かした授業を実施し、成果を各自で検証する。

※実施後、授業実践報告書の提出

## ◇授業実践報告会

**12月～ 3 月(各都県別に 1 回)**

研修の成果(主に授業実践)について、教育関係者をはじめとする地域の方に報告する。

## ◇総括研修

**3 月21日(日)**

持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる。

## ◇教師海外研修参加後 (翌年以降)

研修の成果を生かして、各所属校および地域で国際理解教育・開発教育を推進する。
・授業 / 活動のブラッシュアップ
・JICA 国際理解教育 / 開発教育支援プログラムの活用
・実践者のネットワークへの参加　等

## ■JICA教師海外研修（2020年度）事前課題

2015 年 9 月、国際社会は、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goals（SDGs）に合意し、17 の国際目標と 169 の指標が提示されました。SDGs は、複雑に絡み合う経済・社会・環境問題に対し、すべての国が包括的に取り組むことを求めています。開発途上国だけではなく、日本を含む先進国も国内目標を設定し、開発の恩恵から誰一人取り残されない、持続可能な世界の実現を目指しています。JICA は、開発途上国や国際社会とのパートナーシップのもと、SDGs の達成に積極的に取り組んでいます。

派遣前研修の事前課題として、参加教諭には勤務校周辺で SDGs に関係すると思われる写真を 3 枚撮影し、①撮影者、②撮影場所、③撮影日、④撮影した理由、⑤ SDGs との関係性について記載をし、派遣前研修に持参していただくことをお願いしました。

写真の例

| | | |
|---|---|---|
| | | |
| 撮影者：山田太郎<br>撮影場所：●●市立●●小学校近隣<br>撮影日：2017 年 5 月 30 日<br>撮影した理由：駐輪してある自転車が点字ブロックにはみ出していて危ない<br>SDGs との関係：3. すべての人に健康と福祉を | 撮影者：山田花子<br>撮影場所：●●県立●●高校学区域<br>撮影日：2017 年 5 月 30 日<br>撮影した理由：まだ使えるかもしれない家電製品が捨てられている<br>SDGs との関係:7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに　12. つくる責任つかう責任 | 撮影者：国際一郎<br>撮影場所：●●市立●●小学校通学路<br>撮影日：<br>撮影した理由：通学路にもいる外来種。ヒトへのサルモネラ菌の感染例あり。在来淡水カメ類の卵を捕食するほか、食物となる水動植物が影響を受ける<br>SDGs との関係：14. 海の命を守ること |

## ■提出された課題（一部）

①撮影者：岡田紘明
②撮影場所：千葉県市川市の自宅
③撮影日：8 月 1 日
④撮影した理由：小さな中の商品を入れるための大きすぎる梱包用段ボールがもったいなく感じた。
⑤ SDGs との関係性：11．住み続けられるまちづくりを／ 15．陸の豊かさも守ろう

①撮影者：汐中義樹
②撮影場所：シタラ興産（深谷市の産業廃棄物処理業者）
https://www.shitara-kousan-group.co.jp/shitarakousan/business/factory.html#sunrise
③撮影日：7 月 30 日
④撮影した理由：日本初の AI を搭載した廃棄物自動選別機を導入し、産業廃棄物のリサイクル等の処理を行っている企業である。自動化できない重要な工程を担うのは外国人労働者。「one team」「Run for tomorrow」をスローガンに、国境を越えたチーム力で産廃物と向き合っている。技術革新とそれを支える外国人労働者というコントラストにとても魅力を感じたため撮影をした。
⑤ SDGs との関係性：7．エネルギーをみんなにそしてクリーンに／ 8．働きがいも経済成長も／ 9．産業と技術革新の基盤をつくろう／ 10．人や国の不平等をなくそう／ 12．つくる責任　つかう責任

①撮影者：水野修（和洋九段女子）
②撮影場所：東京都千代田区九段下
③撮影日：8 月 6 日
④撮影した理由：東京都都心にいながら広い空を感じたため
⑤ SDGs との関係性：7．LED の電灯や信号機の普及で、ターゲット 7.3 のエネルギー効率の改善につながる／ 9．電線などが地下に埋められたことによりレジリエントなインフラの構築につながる／ 11．先に書いた配線が地下になることにより災害に強い安全な都市につながる／ 13．省エネにより、気候変動へのアプローチにもなり、SDG12 の使う責任にもつながる

①撮影者：大平要
②撮影場所：八丈島　底土港
③撮影日：7 月 23 日（木・祝）
④撮影した理由：今年は地域住民で声をかけあって海浜清掃を行いました。その結果、油が入ったペットボトル数本を含め、大量のゴミが捨てられていました。観光客によるゴミの投棄や海から流れてくる漂流物等が島では問題になっています。
⑤ SDGs との関係性：14．海の豊かさを守ろう

①撮影者：菅原唯
②撮影場所：駅前のロータリー付近
③撮影日：7 月 25 日
④撮影した理由：日差しが強い炎天下の日に、日陰のない場所で標識に掴まりながら立ち続けているご高齢の女性。私が把握しているだけでも 2 時間以上も同じ場所に立ち続けていた。心配で声をかけたところ、「これが仕事だからね」と言葉が返ってきた。「駅前自転車整理員」と書かれたベストを着用して立つことで、注意喚起を促している。そのおかげで自転車の違法駐車はほとんどなくなっているが・・・。
⑤ SDGs との関係：3．すべてのひとに健康と福祉を／ 8．働きがいも経済成長も／ 11．住み続けられるまちづくり

# 3．オンライン導入研修

日時：2020 年 7 月 19 日（日）・7 月 25 日（土）・8 月 2 日（土）

目的：① 地球的規模の課題、途上国の現状、国際協力・ODA、JICA 事業、訪問国の概要等を理解する

② 国際理解・開発教育の理念・意義を理解し、授業実践に用いる教材の作成方法を理解する

③ 教師海外研修過年度参加教員との協働により、教員同士のネットワーク構築を進めるとともに、国際協力に関わる多様なステークホルダーとの繋がりを深め、学びの循環を形成・強化する

## 7 月 19 日（日） 導入セッション @ オンライン

| 所要時間 | | プログラム | 会場 | 目的／説明 | 講師・進行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 12:30 | | 受付開始 | | | JICA 東京　前橋俊輔 |
| 12:55 | 5 | 開催挨拶 | オンライン | 研修の意義・期待される成果について理解する | JICA 東京<br>市民参加協力第一課<br>課長　高田宏仁 |
| 13:00 | 5 | スタッフ紹介 | オンライン | JICA 東京参加スタッフ、佐藤アドバイザーの紹介 | JICA 東京　深林真理 |
| 13:05 | 40 | 【事業説明】<br>日本の国際協力と JICA 事業<br>教師海外研修の概要 | オンライン | ODA と JICA 事業について理解する<br>研修の目的と全体スケジュール確認 | JICA 東京　古賀聡子 |
| 13:45 | 20 | 参加型学習の手法について | オンライン | | JICA 東京　前橋俊輔 |
| 14:05 | 5 | 休憩 | | | |
| 14:10 | 60 | 授業実践事例紹介 | オンライン | 2019 年度教師海外研修参加者のジグソー法による授業を体験することで、ジグソー法の授業について理解するとともに、今後の授業案作成のための視点を手に入れる | 埼玉県立大宮工業高等学校<br>英語　駒谷健介 教諭<br><br>埼玉県立杉戸高等学校<br>地理 B　大塚由貴 教諭 |
| 15:10 | 30 | 授業体験を踏まえた意見交換① | オンライン | 体験した授業についてグループに分かれて気付いたことなどをグループ内で共有し視野を広げる | |
| 15:40 | 30 | 授業体験を踏まえた意見交換② | オンライン | 体験した授業について全体で共有し視野を広げる | |
| 16:10 | 20 | 授業者から授業を作成するときに大切にしたこと等の紹介 | オンライン | 授業者から授業作成時に大切にしていたこと等を聞くことで今後の授業づくりに向けたイメージを広げる | 埼玉県立大宮工業高等学校<br>英語　駒谷健介 教諭<br><br>埼玉県立杉戸高等学校<br>地理 B　大塚由貴 教諭 |
| 16:30 | 5 | 事務連絡・アンケートの記入 | オンライン | 今後の研修の流れについて | JICA 東京　深林真理 |

## 7 月 25 日（土） アカデミックセッション@オンライン

| 所要時間 | | プログラム | 会場 | 目的／説明 | 講師・進行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 11:10 | | 受付開始 | オンライン | | JICA 東京　前橋俊輔 |
| 11:35 | 5 | オープニング主催挨拶 | オンライン | | JICA 東京　高田宏仁 |
| 11:50 | 10 | 講師紹介・イントロダクション | オンライン | | JICA 東京　前橋俊輔 |
| 12:00 | 60 | 講義 1 ：資質・能力の育成に向けた授業づくり | オンライン | JICA の教師海外研修と資質・能力を育成する授業づくり | 国立教育政策研究所<br>総括研究官<br>白水　始 氏 |
| 13:00 | 20 | 質疑応答 | オンライン | | |
| 13:20 | 5 | 休憩 | オンライン | | |
| 13:25 | 5 | 講師紹介・イントロダクション | オンライン | | |
| 13:30 | 70 | 「探究× SDG s ～「 国連･ESD の 10 年」の経験を活かし、SDGs の本質に向き合う | オンライン | 国際理解教育の理念を理解し、生徒の資質・能力を育成する授業案を考える | 東京都市大学<br>教授<br>佐藤真久 氏 |
| 14:40 | 20 | 質疑応答 | オンライン | | |
| 15:00 | 5 | ブレイクアウトルームへ移動 | オンライン | | |

| 所要時間 | | プログラム | 会場 | 目的／説明 | 講師・進行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 15:05 | 30 | ブレイクアウトセッション | オンライン | 「今後どんなことをしてみたいか」をテーマにブレイクアウトセッションで意見交換を行う | 東京都市大学<br>教授<br>佐藤真久 氏 |
| 15:35 | 30 | 佐藤先生とのセッション | オンライン | 話し合いの結果をチャットで報告し、意見交換及び佐藤先生から講評をいただく | 東京都市大学<br>教授<br>佐藤真久 氏 |
| 16:05 | 5 | 事務連絡・アンケートの記入 | オンライン | 今後の研修の流れについて | JICA 東京　前橋俊輔 |

## ８月２日（日）　派遣国と実践者を知るセッション@オンライン

| 所要時間 | | プログラム | 会場 | 目的／説明 | 講師・進行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9:00 | | 受付開始 | オンライン | | JICA 東京　古賀聡子 |
| 9:25 | 5 | 事務連絡 | オンライン | 本日の流れについて | |
| 9:30 | 30 | 持続可能な社会を読み解く多様なレンズ | オンライン | SDGs のレンズの活かし方について | 東京都市大学　教授<br>佐藤真久 氏 |
| 10:00 | 30 | 民間企業のとりくみと JICA 連携事業について<br>ワンプラネットカフェ | オンライン | ザンビアでのバナナペーパー、フェアトレード等に関するワンプラネットカフェの取組、JICA との連携の展望を理解する | 株式会社<br>ワンプラネット・カフェ<br>代表取締役社長<br>エクベリ聡子 様 |
| 10:30 | 10 | 質疑応答及び休憩 | | | |
| 10:40 | 40 | 草の根技術協力事業について<br>ザンビア丸森プロジェクトについて | オンライン | 草の根技術協力事業を実施した丸森プロジェクトの小野調査員からプロジェクトの概要を聞き、その意義を理解する（併せてザンビアの概要についても最初に説明） | 小野　玲　元プロジェクト現地調整員　現山形デスク |
| 11:20 | 10 | 質疑応答及び休憩 | | | |
| 11:30 | 40 | 民間企業のとりくみについて<br>パラグアイ豆腐 100 万丁プロジェクト・日系社会との協働について | オンライン | パラグアイ豆腐 100 万丁プロジェクト・日系社会と民間企業の協働について理解する | 株式会社サラダコスモ<br>代表取締役社長<br>中田智洋 様 |
| 12:10 | 10 | 質疑応答及び休憩 | | | |
| 12:20 | 30 | 昼食・休憩 | | | |
| 12:50 | 40 | 国概要資料（事前課題）質問・補足説明 | オンライン | 前半 15 分ブレイクアウトルームで質問を整理<br>後半 25 分で高田、古賀より補足説明 | JICA 東京<br>高田宏仁・古賀聡子 |
| 13:30 | 10 | 休憩 | | | |
| 13:40 | 20 | 「時空を超えて、人が繋がるために」をテーマとした授業実践紹介 | オンライン | 「時空を超えて、人が繋がるために」をテーマとした授業実践を学び、日系社会及び国際的な人のつながり、共感などについての取り上げ方を考察する | 東京都立大泉高等学校<br>附属中学校　国語科<br>玉腰朱里 教諭 |
| 14:00 | 20 | 玉腰先生の授業実践を踏まえた意見交換 | オンライン | ブレイクアウトルーム使用（6 人 6 グループ）<br>全体共有（スプレッドシート、チャット活用） | JICA 東京　前橋俊輔 |
| 14:20 | 20 | 授業の背景、授業案を作成するとき大切にしたこと、思いについて | オンライン | PPT 画面共有 | 東京都立大泉高等学校<br>附属中学校　国語科<br>玉腰朱里 教諭 |
| 14:40 | 20 | 事務連絡・アンケートの記入 | オンライン | 今後の研修の流れ・質疑応答 | JICA 東京　古賀聡子 |

【講義】導入セッション

【講義】アカデミックセッション

# ４．研修参加者写真

## JICA 東京にて

## 総括研修

# 5．国内視察

**日時：**2020年8月11日（火）～8月14日（金）

**目的：**①持続可能な社会づくり、国際協力・多文化共生の必要性を理解する

②研修予定国であったザンビア・パラグアイに関連するJICA事業関連団体の訪問を通じ当該国への理解を深める

③教師海外研修過年度参加者との協働により、教員同士のネットワーク構築を進めるとともに、国際協力にかかわる多様なステークホルダーとの繋がりを深め、学びの循環を形成・強化する



## 国内視察研修　日程表

| 日時 | | | 内容 | ねらい |
|---|---|---|---|---|
| 8/11（火） | 10:00 | | JICA 東京集合・チェックイン | |
| DAY1 | 10:30 | （60） | 朝礼・関係者紹介・事務連絡<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 「私の１枚」を使用しながら、各自、自己紹介を行う。 |
| | 11:30 | （60） | 昼食<br>【JICA 東京：食堂】 | |
| | 12:30 | （60） | バス移動<br>【JICA 東京→鶴見地区】 | ◇マイクロバス２台に乗車する。 |
| | 13:30 | （60） | 多文化共生を支える市民の活動について<br>質疑応答<br>【鶴見国際交流ラウンジ研修室】 | 鶴見区に拠点を置く ABC ジャパンより、在住外国人支援・協力の状況について伺う<br>【ABC ジャパン　若者コーディネーター<br>安富祖　樹里　氏】 |
| | 14:30 | （10） | 休憩 | |
| | 14:40 | （60） | 鶴見地区における多文化共生について<br>【鶴見国際交流ラウンジ研修室】 | 鶴見地区における多文化共生・日系人のアイデンティティについて<br>【横浜国際交流協会　沼尾　実　氏】 |
| | 15:40 | （60） | 鶴見地区フィールドワーク<br>鶴見駅 15:50 発―鶴見小野駅 15:53 着、朝鮮幼稚園：外からの見学終了 16:10<br>仲通り―ブラジル食品店～沖縄物産センター～東漸寺～ 16:50 入船小学校前集合・バス乗車 | 鶴見地区における多文化共生の状況を理解する<br>【横浜国際交流協会　沼尾　実　氏】<br><br>◇２グループに分かれて視察する。マイクロバス２台に分かれたグループで行動する。 |
| | 16:40 | （60） | バス移動<br>【鶴見地区→ JICA 東京】 | JICA 東京に到着し翌日以降の予定を確認する |
| | 17:40 | （5） | 諸連絡<br>【JICA 東京（オフライン）】 | ◇翌日に高田先生の実践事例の紹介があるので YouTube の視聴を参加者に告知する。 |
| | 18:00 | | 夕食<br>【JICA 東京：食堂】 | |
| | 18:30 | （90） | 経験共有／教材共有セッション① | ◇参加している先生方の有志で実施<br>◇できれば２つくらいのセッションを用意できるか、また、参加については任意なので個人の時間としてもいい<br>◇国際理解教育に関わるゲームや資料を用意する<br>秦先生　言葉の多様性アクティビティ<br>◇『未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK』<br>◇先生方が SDGs や探究に役立つ資料や書籍を各自で持参する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 20:30 | | 経験共有／教材共有セッション①終了 | |
| | | | 【JICA 東京宿泊】 | ◇佐藤先生、JICA 東京職員は帰宅する |
| 日時 | | | 内容 | ねらい |
| 8/12（水） | 8:40 | （10） | 朝礼・諸連絡<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 8/12（水）の日程について確認をする |
| DAY2 | 8:50 | （10） | 研修の準備　ZOOM 接続 | |
| | 9:00 | （60） | 遺構荒浜小学校について　出前講座<br>【JICA 東京《オンライン》】 | 遺構荒浜小学校について出前講座を聞き、東北の震災について理解を深める<br>【荒浜小学校解説員　髙山智行　氏】 |
| | 10:00 | （15） | 質疑応答<br>【JICA 東京《オンライン》】 | |
| | 10:15 | （15） | 休憩　MicrosoftTeams 接続 | ◇リフレッシュタイム① |
| | 10:30 | （15） | JICA 東北の事業説明<br>【JICA 東京《オンライン》】 | JICA 東北で行われている事業について理解を深める<br>【市民参加協力課長　本田勝】 |
| | 10:45 | （40） | JICA の東日本大震災復興支援について<br>【JICA 東京《オンライン》】 | 震災における JICA の復興支援、震災からうまれた自治体との連携事例について理解を深める。<br>【JICA 東北　菅野あゆみ】 |
| | 11:25 | （15） | 被災地の子どもたちの様子について<br>～女川町の事例～<br>【JICA 東京《オンライン》】 | 被災後の子どもたちがおかれた状況と子供たちの思いについて理解を深める。<br>【JCIA 東北　稲村友紀】 |
| | 11:40 | （20） | 質疑応答<br>【JICA 東京《オンライン》】 | |
| | 12:00 | （60） | 昼食<br>【JICA 東京：食堂】 | |
| | 13:00 | （30） | 実践事例紹介①<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 震災、難民に関する実践事例の紹介から、各参加者がアイデアを得る<br>【授業実践者　高田裕行　氏】 |
| | 13:30 | （30） | 実践事例紹介②<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 地域に開かれた学習（島民会議、パーニュ）に関する実践事例の紹介から、各参加者がアイデアを得る<br>【授業実践者　高田裕行　氏】<br>【授業実践者　増田有貴　氏】 |
| | 14:00 | （10） | 質疑応答<br>【JICA 東京（オフライン）】 | |
| | 14:10 | （10） | 休憩 | |
| | 14:20 | （60） | ワークショップ①<br>【JICA 東京（オフライン）】<br>◇用意するもの<br>・模造紙<br>・ポストイット（大きいもの数色）<br>・マジック<br>・A4 の用紙（メモ等を取るため）<br>◇４日間の作業が見えるように設営を工夫する。 | 8/12（水）に得た情報をもとに、インターネット等も活用しながら震災学習に関する授業アイデアをグループで検討する<br><br>（4 人×６班、計 24 名）<br><br>PPT 等で簡単にまとめを作成してもらい全体発表の準備も行う<br>◇グループの中で過年度参加者がファシリを行う、グループはワークショップごとに変えていく |
| | 15:20 | （10） | 休憩 | |
| | 15:30 | （30） | ワークショップ②<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 各班３分で代表者が発表する（6 班×４分、計 24 分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 16:00 | (50) | 本日の指導講評及びディスカッション①<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 8/12（水）の研修内容を踏まえ、本日の振り返りを行っていただく<br>【東京都市大学　佐藤真久　氏】 |
| | 16:50 | (5) | 諸連絡 | |
| | 17:55 | (30) | 「総合的な学習（探究）の時間からの教科教育」に活用できる教材の作成について | 【JICA 東京　市民参加協力第一課　前橋俊輔】 |
| | 18:00 | | 夕食<br>【JICA 東京：食堂】 | |
| | 19:00 | (90) | 経験共有／教材共有セッション② | ◇参加している先生方の有志で実施<br>◇２日目以降は、初日の様子を見て決める。 |
| | 20:30 | | 経験共有／教材共有セッション②終了 | |
| | | | 【JICA 東京宿泊】 | ◇佐藤先生、JICA 東京職員は帰宅する |
| 日時 | | | 内容 | ねらい |
| 8/13<br>(木) | 8:40 | (10) | 朝礼・諸連絡<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 8/13（木）の日程について確認をする |
| DAY3 | 8:50 | (10) | 研修の準備 | |
| | 9:00 | (135) | 丸森町草の根技術協力に関する研修<br>【JICA 東京《オンライン》】<br><br>【内容】<br>・スライドを使用したプロジェクトの概要説明<br>・プロジェクトに関わった方々から経験談や感想などを発表してもらう。<br>・質疑応答 | 丸森町を訪問することが難しいため、オンラインによる丸森町に関する研修を実施する。<br>【参加者】<br>・石塚 PM/・大槻局長（耕野振興会）<br>・玉川／宮原（地域おこし協力隊）<br>・栄養／調理指導短期専門家で派遣された方１名（予定）<br>・会場に来ていただく農家さん１名<br>・現場を LIVE 配信する農家さん１名<br>・ザンビアの村を訪れた高校生１名<br>・耕野地区地域おこし協力隊１名 |
| | 11:15 | (15) | 休憩 | |
| | 11:30 | (50) | ザンビアについて<br>【JICA 東京《オンライン》】 | ザンビアについての説明を聞き、ザンビアについての理解を深める。とくに、ザンビアにおける農業の実態について説明を受ける。<br>【JICA 山形デスク<br>（前　丸森町草の根技協現地調整員）　小野玲　氏】 |
| | 12:20 | (10) | 質疑応答<br>【JICA 東京《オンライン》】 | |
| | 12:30 | (60) | 昼食<br>【JICA 東京：食堂】 | |
| | 13:30 | (90) | ワークショップ③<br>【JICA 東京（オフライン）】<br><br>【テーマ】（案）<br>①世界と地域<br>②普遍と個別<br>③伝統と現代<br>④競争と公正<br>⑤精神と物質 | これまでの研修内容をもとに、グループに分かれて授業アイデアの検討を行う。テーマごとに分かれて実施する。<br><br>◇テーマについては後日、再度検討をしたうえで最終決定する。<br><br>（4 人× 6 班、計 24 名）<br><br>◇グループでひとつのアイデアを作り上げる。 |
| | 15:00 | (30) | 休憩 | ◇リフレッシュタイム② |
| | 15:30 | (30) | ワークショップ④<br>【JICA 東京（オフライン）】 | （4 人× 6 班、計 30 分）<br>◇アイデアを共有する。 |
| | 16:00 | (50) | 本日の指導講評及びディスカッション②<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 8/12（水）の研修内容を踏まえ、本日の振り返りを行っていただく【東京都市大学　佐藤真久　氏】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 16:50 | （20） | 諸連絡・今後に向けたオリエンテーション | ◇「諸連絡・今後に向けたオリエンテーション」が終了したら個人で作業を行う時間とする |
| | 17:10 | | 各研修内容について、更に必要となる情報や資料の提出締切り（ワークショップ等は行わないで資料を回収し、事務局が整理する）<br><br>◇この日は 16:50 以降、各自での情報の整理等の時間にあてる | ◇これまでのワークショップの内容、各自の授業づくりのための構想を踏まえ、これまでの講師の方々に求める資料等の整理を行う<br><br>◇まとまったら各講師の先生方へ送付し、回答をもらう。その後、参加者と共有を行う。 |
| | 18:00 | | 夕食<br>【JICA 東京：食堂】 | |
| | | | 【JICA 東京宿泊】 | ◇佐藤先生、JICA 東京職員は帰宅する |
| 日時 | | | 内容 | ねらい |
| 8/14（金） | 8:40 | （10） | 朝礼・諸連絡<br>【JICA 東京（オフライン）】 | 8/14（金）の日程について確認をする |
| DAY4 | 8:50 | （10） | 出発の準備 | |
| | 9:00 | （10） | チェックアウト | |
| | 9:10 | （60） | バス移動<br>【JICA 東京→ JICA 横浜】 | |
| | 10:10 | （10） | JICA 横浜に到着、研修準備 | |
| | 10:20 | （50） | 南米パラグアイについて<br>【JICA 横浜（オフライン）】 | 南米パラグアイについて講義を聞き、理解を深める。<br>【JICA 東京市民参加協力第一課　高田宏仁　課長】 |
| | 11:10 | （10） | 質疑応答<br>【JICA 横浜（オフライン）】 | 【JICA 東京市民参加協力第一課　高田宏仁　課長】 |
| | 11:20 | （60） | 昼食＠港の見えるレストラン | |
| | 12:20 | （40） | 女性のエンパワーメントについて／日本について感じたこと<br>【JICA 横浜（オフライン）】 | 【パラグアイ　ニホンガッコウ職員<br>Carlos Hernan Avalos Valdez　氏】 |
| | 13:00 | （120） | 横浜移住資料館　視察②<br>【横浜移住資料館】 | ◇２グループに分けて移住資料館、図書館、JICA 横浜展示を視察する。 |
| | 15:00 | （60） | バス移動、諸連絡<br>【JICA 横浜→新宿駅】 | |
| | 16:00 | （60） | バス移動<br>【新宿駅→ JICA 東京】 | |
| | 17:00 | | JICA 東京到着、解散 | |

# 国内視察研修写真

JICA 東京田中所長より研修の目的説明

宮城県丸森町によるザンビア草の根技術協力を学ぶ

ザンビア草の根技術協力プロジェクト関係者インタビュー動画

JR 鶴見駅にある時計　帰国事業で北朝鮮へ渡る人々から贈られたもの

南米に移民した沖縄県人の２世３世が集住する鶴見

鶴見地区在住の日系ブラジル人が中心となり、多文化共生社会の推進をめざす NPO 法人 ABC ジャパンから経験共有

市民参加協力第一課高田課長よりパラグアイの概要説明

JICA 横浜海外移住資料館にて

# 私の１枚

## 地域の歴史的背景と多文化共生

**・メッセージ**

何気なくたたずむ１件のお店だけれども、沖縄料理とラテン料理が同じ店で提供されている不思議さ。このお店の不思議さには地域の抱える歴史的・文化的な背景があることに気づかされた。他国から日本に移住した人々の背景を知ることが、多文化共生のための重要な視点の１つではないだろうか。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

今回の研修を通して、そもそも「日本とは？日本人とは？」何なのかを改めて問い直すきっかけになった。同じ枠組みの中にも様々な背景があり、一概に日本・日本人として一括りにはできない。世界各国はもちろんのこと。だからこそ、多文化共生には相手の背景を知る視点が必要であり、その大事さを改めて学ぶ機会となった。

| 名　前 | 水野　修 | 学　校 | 和洋九段女子中学校高等学校 |
|---|---|---|---|

## 大人も、対話的な学び

**・メッセージ**

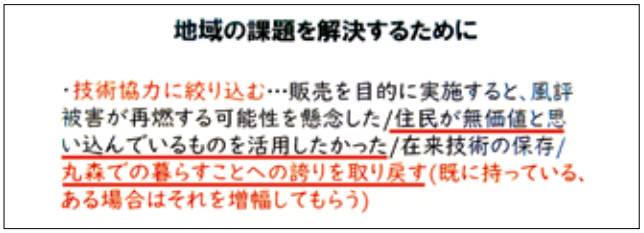
研修夜の議論を通して、「その視点、いいね。」「エッセンスを取り入れてみよう。」等、対話を通して、自分の考えが広がったり深まったりするよさを実感することができた。そして、創造的な議論の根っこには、「思いやり・思いやられ」の関係の構築が必要だと実感した。子供だけでなく私たち大人も、お互いに思いやって生活できているかな。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

研修をとおして、「課題を自分ごととして捉え、議論して、自分や周りを変えていく」というESDの学びのプロセスが、子供たちが、これから先の未来を切り拓いていく力に直結するのではないかと確信した。「音楽専科だからこそ、視野を広くしたい」という願いを叶えてくれた、そして「子供たちが自分を変える力を身に付けるようにする」という、自分がやりたいこと・やるべきことを示してくれた教海研に、感謝している。

| 名　前 | 樋口　善幸 | 学　校 | 羽村市立武蔵野小学校 |
|---|---|---|---|

## 無価値→価値のあるものへ！




**・メッセージ**

阿賀町にも丸森町と似た地域課題を抱えている。丸森町の取組のように≪他者とかかわること≫で、地域の魅力を認識し、郷土愛を育ませたい。そして、地域の魅力を発信することで生徒が「無価値」だと思い込んでいたことは、「価値」あるものなのだと実感するような授業づくりのきっかけとなった。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

様々な人との出会い、つながりによって、自分自身の視野の広がりを感じた。人とつながることで今まで気づけていなかったモノが、価値ある資源に変わっていった。自分がどうにかしなくてはと思っていたことも、教海研の先生や JICA、地域の方とつながることで解決していった。人と人をつなぐ役割、人とのコネクションを大事にしていきたいと実感した。

| 名　前 | 中村　太郎 | 学　校 | 新潟県阿賀町立三川中学校 |
|---|---|---|---|

## SDGs カードゲーム

**・メッセージ**

研修３日目の夜に有志で行った、「自主研修」での１枚である。金沢工業大学が産学共同で開発した「THE SDGs　アクションカードゲーム X(クロス)」をやっている様子である。

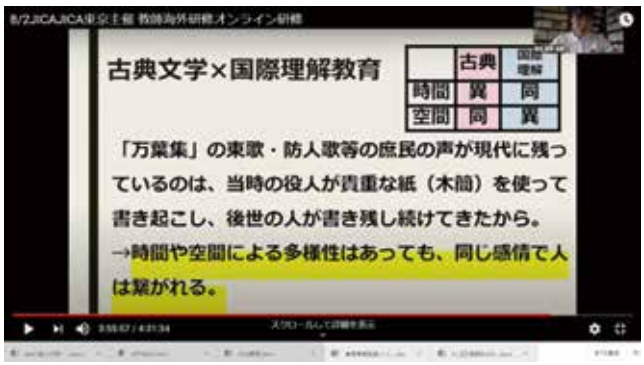
このゲームでは、「トレードオフ」といった、SDGs を考える上で大切な概念を楽しく学ぶことができる。楽しみながらも深く SDGs を学ぶことができ、授業でも使ってみたいと感じた。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

私は 2019 年度の教海研でザンビアを訪問し、２度目の参加となりました。今回の研修では、「SDGs」以外にも、「震災」や「移民」、「多文化共生」など、国内の様々なテーマを扱ってくださいました。一見関連がないように思えますが、その１つ１つが、SDGs と関わっていること、相互に関連しあっていることに気付くことができました。

| 名　前 | 仲田　莉果 | 学　校 | 埼玉県立大宮中央高等学校 |
|---|---|---|---|

## 「感服しました。」




**・メッセージ**

昨年度参加の玉腰先生の授業実践報告。ご自身の専門教科である「古典」と「国際理解教育」の関係性を、「時間」と「空間」という二つの尺度でさらりと図示化。感服しました。そして、自分自身も自分の専門教科に拘りたいと考えるきっかけとなりました。素晴らしい実践を行う先生方と出会えるのも、本研修の魅力です。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

「人との出会いの中で、自分もまだまだ成長できる」と考えるきっかけとなりました。校種や教科を越えた様々な先生方との研修は、刺激的で魅力的で、大きな成長の機会となりました。「学び続ける教員」として、これからも国、地域、校種、教科、年齢、あらゆる垣根を越えて、人と関わり変わり続ける人間になります。

| 名　前 | 吉田　大祐 | 学　校 | 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 |
|---|---|---|---|

## 鶴見朝鮮初級学校の設立

**・メッセージ**

研修の初日に神奈川県横浜市鶴見区を訪れた。移民の人々の苦悩やコミュニティ形成の難しさを感じた。中でも印象的だったことは、朝鮮初級学校の方の「金がある者は金を、力のある者は力を、知恵のある者は知恵を。」という言葉である。設立当初、日本に住んでいるにも関わらず、国からの援助を受けることが叶わなかったというお話は、考えさせられる内容であった。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

私は研修初日、この研修についていくことができるのか不安に感じました。今年度は、過年度参加者の先生方を交え、数えきれないほどのグループディスカッションを重ねることができました。その中で自分の考えを持ち始め、子どもたちに伝えたい思いが生まれました。今後も国際理解・開発教育を学び続けていきたいと考えています。

| 名　前 | 澤野　裕香 | 学　校 | 埼玉県坂戸市立浅羽野小学校 |
|---|---|---|---|

## 故大川常吉氏の碑

**・メッセージ**

この写真は、研修初日に横浜市鶴見区の潮田町にある東漸寺内にある「故大川常吉氏の碑」である。「関東大震災の混乱の中で、罪のない朝鮮の人々を虐殺が起こった」という事実は知っていたが、そんな中でも、大川氏のように朝鮮の人々を守った人がいたこと、さらにはその大川氏に感謝する碑が建てられていたことは驚きだった。国と国との間に問題があったとしても、人と人とが分かり合うこと、支えあうことは可能なのだと改めて感じさせられた研修でした。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

私は今年度、ザンビアを訪問する予定だった。残念ながら、その希望は叶わなかったが、国内研修を通して SDGs の開発目標を意識して教材研究を行うことができるようになったと感じている。それは、今回の研修に以前、教師海外研修に参加したことのある過年度参加者の先生方がいたおかげである。魅力的な実践や考え方に触れ、良い刺激を頂いた。国内研修終了後も、引き続き学びを深めていきたい。

| 名　前 | 岡田　紘明 | 学　校 | 千葉県市川市立稲荷木小学校 |
|---|---|---|---|

## あなたの夢は？

**・メッセージ**

世界には様々な立場の人がいて、抱えていることや状況は異なる。しかし、どのような状況においても、どんな人でもできることは、考えを巡らせることである。コロナ禍で制限がある世の中で、JICA 横浜にたくさんの思いと夢が集まった。これらの思いが実を結びますように。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

今回の研修を通して、「つながるには、距離は大した問題ではない」ということに気付いた。遠くの人とオンラインでつながったり、反対に近すぎてみえないことに気付いたり、その逆も含めて、つながることはどこでもできるのだということを強く感じた。今回の研修でつながった絆を生かして、授業交流を行ったり、得た知識を使って授業実践を行ったりしている。近くても、遠くても、積極的につながる気持ちをもてたことが、私にとって大きな変化である。

| 名　前 | 大平　要 | 学　校 | 八丈町立三根小学校 |
|---|---|---|---|

## 一気に串を刺すように

**・メッセージ**

ワンプラネットカフェの活動は、日本とザンビアの課題を「一気に串を刺すように」解決した事例である。SDGs は、目標同士が互いに関わり合っているので、一つの活動で様々な課題を同時に解決できることを実感した。写真は、授業で生徒がワンプラネットカフェの活動についてストーリーを考えるフォトランゲージ形式の実践である。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

私は、今まで途上国を題材にした授業を実践することが多かった。しかし、今回の国内研修を通して、SDGs を実現するために国内から発信する様々な企業や自治体、NGO 団体を知ることができ、視野が広がったと感じている。グローカルな視点で授業を見直すことができた。また、SDGs と探究という二つのキーワードを自身の教育実践に取り入れていく最初の一歩になった。

| 名　前 | 大塚　圭 | 学　校 | 中央大学杉並高等学校 |
|---|---|---|---|

## 皆さんお元気ですか？

**・メッセージ**

1959 年から開始された帰国事業だが、当時は「お元気で」と感謝される社会があった。しかし鶴見朝鮮初級学校の先生のお話から、そのように感謝される社会に今なっているのか疑問を持った。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

多文化共生をテーマに授業実践をした。しかし毎週教材開発をするのは困難であり、市販の教材をベースに実践を重ねた。継続した結果、多文化共生とは何か、どう伝えるのかの一端を知り、結果として上述の疑問に迫るメッセージを生徒に伝えることができた。何よりも自分の言動や思考に差別がないか向き合う過程の中に変化を見つけることができた。

| 名　前 | 陣野　俊彦 | 学　校 | 東京都立大島海洋国際高等学校 |
|---|---|---|---|

## それぞれ居場所は違っても

**・メッセージ**

オンラインで対面した方々の居場所や関わりのある土地を示してくれた研修室の地図が私の一枚です。研修後は地図を見ると、地名や場所だけでなく、話してくださった方々の表情が浮かぶようになりました。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

何よりもオンラインでつながることの可能性に気付きました。その後の授業でも長崎県（高校生平和大使：３年歴史）、福島県只見町（只見中学校 / 東北地方・海洋プラゴミ：２年地理・３年公民）や中央大学付属高校など生徒同士の交流、NPO や企業の方々へのインタビューと様々な場面で活用しました。

| 名　前 | 輪湖　みちよ | 学　校 | 板橋区立板橋第三中学校 |
|---|---|---|---|

## 竹のように強くしなやかな社会を目指すには…？

**・メッセージ**

「SDGs」と「レジリエンス」を軸に展開した総合学習。何か予期せぬことが起きても、簡単にポキッと折れることなくすぐに元に戻る竹のように「持続可能で強くしなやかな社会作りに大切なこと」は何だろう？生徒は、探究学習を通して自分の言葉で表現し、他者に気づきを与えたり行動の変容を促したりするような発信をすることができた。

**・国内代替研修をとおして感じた気づきや自分の変化**

「SDGs ×レジリエンス」を学び、「持続可能で竹のように強くしなやかな社会」を考え続けたことは私自身のレジリエンスにもなった。「複数の選択肢・強みをもち、複合的に活かす。クリエイティブであり続ける。様々なネットワークを構築し、多様なコラボレーションを図る。何事も柔軟にスピード感をもって挑戦する。コミュニティ（地域）の繋がりを強固に、地域資源を活かす。」教海研の講師の皆様、仲間たちからの学びである。

| 名　前 | 増田　有貴 | 学　校 | 村上市立荒川中学校 |
|---|---|---|---|

# 6．授業研究

日時：2020 年 8 月 30 日（日）
場所：JICA 東京センター
目的：国内視察研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考える。

**日程表**

| 日時 | | | 内容 | ねらい |
|---|---|---|---|---|
| 8/30（日） | 9:50 | | JICA 東京集合 | |
| | 9:50 | （10） | 諸連絡（本日の日程等） | |
| | 10:00 | （70） | 印象に残った 1 枚についての共有<br>（21 名× 3 分＝ 63 分） | 本研修内容から学んだことについて、最も印象に残った写真や研修内の画像を共有する中で、研修内容について振り返り、理解を深める。 |
| | 11:10 | （10） | 休憩 | |
| | 11:20 | （80） | 授業実践案シートを活用した授業案の検討（グループ協議①）<br>（3 人× 7 グループ、1 人につき、授業案の説明 10 分、授業案についての意見交換 15 分） | 授業案についてグループ内で説明し、グループ内のメンバーと意見交換をして、授業案を検討する。テーマの近いメンバーで構成する。 |
| | 12:40 | （60） | 昼食休憩 | |
| | 13:40 | （10） | 「見とりの観点シート」についての説明 | JICA 東京　前橋　俊輔 |
| | 13:50 | （20） | 各自の授業アイデアについて「見とりの観点シート」の検討、作成（個人作業） | 個人で各自の授業アイデアについて「本時特に育成したい資質・能力」「この授業の中で期待する資質・能力の発揮のされ方」「資質・能力が発揮された姿の具体例（発言など）」を検討する |
| | 14:10 | （10） | 休憩 | |
| | 14:20 | （90） | 授業実践案シート及び見とりの観点シートを活用した授業案の検討（グループ協議②）<br>（3 人× 7 グループ、1 人につき、授業案の説明 10 分、授業案についての意見交換 20 分） | グループ協議①とは異なるグループを編成する。テーマの異なる参加者で構成する。 |
| | 15:50 | （10） | 休憩 | |
| | 16:00 | （30） | グループ協議②の内容の共有<br>（7 グループ× 3 分＝ 30 分） | |
| | 16:30 | （30） | 指導講評 | 東京都市大学　佐藤真久　氏 |
| | 17:00 | （10） | 今後についての事務連絡 | |
| | 17:10 | | 解散 | |

「国内視察の体験の共有」

佐藤アドバイザーと経験の整理

# 7．授業実践

**JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書**

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | | 学校名 | 都・道・府・県<br>立　　学校 |
| 担当教科等 | | 対象学年（人数） | 年　組（　名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 年　月　～　月（　時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域： | | |
| 2. 単元(活動)名： | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：「　」<br>単元目標：<br>関連する学習指導要領上の目標： | | |
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>【単元の意義】<br>【児童／生徒観】<br>【指導観】 | |
| 6. 単元計画（全　時間） | | |

| | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 本時 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |

1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7. 本時の展開（　時間目）<br>本時のねらい： | | | |
| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
| 導入（　分）<br>展開（　分）<br>まとめ（　分） | | | |
| 8. 評価規準に基づく本時の評価方法 | | | |
| 9. 学習方法及び外部との連携 | | | |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 | | | |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | |
| 12. 改善点 | |
| 13. 成果が出た点 | |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | |
| 15. 授業者による自由記述 | |

参考資料：

**※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。　是非ご覧ください！**

**https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html**

2

授業実践

※過去の本研修参加教員による実践事例を、JICA 東京ホームページに掲載しています。
http:/ /www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 澤野　裕香 | 学校名 | 埼玉県坂戸市立浅羽野小学校 |
| 担当教科等 | 全教科 | 対象学年（人数） | ４年２組（２５名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2021 年 1 月　～　3 月（10 時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間 | | |
| 2. 単元(活動)名：「国際理解　日本と外国のつながり」 | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：「日本と外国のつながり」<br>単元目標：日本と他国の共生とよりよい社会づくりのために、調べ学習を通して、SDGsに対する取り組みとその工夫や努力、人々の思いに気付き、「自分にできることは何か」の視点をもって学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。<br>関連する学習指導要領上の目標：⑶探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 | | |
| 4. 単元の評価基準 | ①　知識及び技能 | ○外国や SDGs について正しく理解する。<br>○課題に対して情報を収集する。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | ○課題を見出すことができる。<br>○調べ学習を通して、得た情報を整理・分析して表現することができる。<br>○自分なりの考えをもつことができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | ○外国や SDGs について主体的に学習に取り組むことができる。<br>○「自分にできることは何か」という視点をもって学習に取り組み、自分の思いや考えを深めようとする。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】【単元の意義】<br>本単元では、自分が興味を持った国について主体的に調べたり、日本と外国の現状からSDGsの視点から課題を見出し考えたりしながら、国際理解を深めることのできる教材である。児童一人一人が、様々な国の現状や課題に思いを寄せ、自分にできることはなにか考えられるようにしていきたい。<br><br>【児童／生徒観】<br>第四学年の児童は、フィリピンや中国にルーツを持つ児童がいたことから、国籍に対しての考え方が柔軟である。また、二学期までに、車いすや白杖、盲導犬ふれあい体験などを通して福祉の学習を積み重ねてきた。誰もが公正な社会づくりについて、関心を持っている。しかし、自分になにができるのか考えたり、行動に移したりすることができる児童は多くない。<br><br>【指導観】<br>グローバル化が進む今日、国際的な関わりが今後さらに増すことが予想される。小学校においても、2020年の学習指導要領の実施に伴い、外国語活動が教科として導入された。<br>児童には、我が国日本が抱える課題に留まらず、さらに視野を広げて国際的な課題を自ら見出し、思いを寄せ、自分になにができるのか考え実行する力を身に付けさせたい。また、学習の過程で、児童が自分とは違う考えを受け入れながら、自分の考えを深めることができるようにしたい。 | |

6. 単元計画（全 10 時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>～<br>3 | 日本×SDGs | SDGs について知り、日本にとって最も重要な課題について考えを持つことができるようにする。 | ① SDGs とは何か<br>② 食育指導<br>給食の残飯一日分の写真をもとに、そこから考えられる課題について児童に考えさせる。また、給食で使用した油を再利用して石鹸を作り給食室で使われていることを紹介した。<br>③ 「わたしが考える！日本のダイアモンドランキング」<br>児童一人で 17 の目標に優先順位を考えさせる。 | ① ワークシート<br>（参考：私たちが目指す社会 P25）<br>SDGs ロゴマーク<br>② 給食の残飯と石鹸作りの写真<br>③ ワークシート<br>SDGs ロゴシール<br>（JICA より） |
| 4<br>本時 | 他国×SDGs | 他国にとって最も重要な課題について考えを持つとともに、日本と比べることで、課題を見出すことができるようにする。 | ④ 「わたしたちが考える！○○のダイアモンドランキング」<br>ヒントカードの情報を持ち寄り、ジグソー法で考えを深めていく。複数の国を取り扱うことで、国によって重要な目標は違うことに気付くことができるようにする。 | ④ ワークシート<br>SDGs ロゴマーク<br>ヒントカード<br>（参考：共につくる私たちの未来）<br>あいさつカード |
| 5<br>～ | 他国について調べよう | 自分が興味をもった国について調べ学習を行い、他国の文化や課題についてまとめ発表することができるようにする。 | ⑤～⑦<br>調べたい国を決め、その国の言語、文化、SDGs に対する取り組みなどについて調べコンピュータを用いてまとめる。<br>⑧～⑩<br>調べた国について発表会を行う。発表を通して、様々な国に対しての関心を高めるとともに、日本のよさや課題を再認識できるようにする。 | |

7. 本時の展開（　時間目）

本時のねらい：外国の抱える社会情勢について正しく理解し、課題意識を持ったことを交流したり、それについてよりよい社会となるように意見を出し合ったりすることで、自分の考えを深めることができる。

| 過程<br>時間 | 教員の働きかけ<br>発問および学習活動<br>指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | 1 アイスブレイキング<br>あいさつカードを用いてグループ分けを行う。 | ◇自分から多くの友達と関わり、同じ国（言語）の仲間を見つけられるようにする。 | あいさつカード |
| つかむ<br>（7分） | 2 「わたしが考える！日本のダイアモンドランキング」で、自分が最も優先順位が高いと考えた目標をグループ内で発表し合う。<br>3 本時の課題を知る。<br>ダイアモンドランキングを考えよう。 | ◇自分の考えを持ち、全員が発表できるようにする。<br>◇自分とは違う考えに気付くことができるようにする。 | ワークシート<br>（既習） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 活動する<br>（25 分） | 4　課題に対する解決方法を考えよう。<br>①グループによる学び合い<br>ジグソー法を用いて、外国のダイアモンドランキングを考える。<br>②グループ発表<br>グループで考えた最も優先順位の高い目標を発表する。 | ◇少人数グループで話合わせ、全員が意見を出し合い、考えを深められるようにする。<br>◇発表や質問から多角的な見方、考え方に気付くことができるようにする。<br>◇友達の考えを聞いて、他国の抱える課題に気付いたり、新たな疑問を見出したりすることができるようにする。 | ワークシート<br>SDGs ロゴマーク<br>ヒントカード |
| 振り返る<br>（8 分） | 5　本時の振り返りをする。<br>新たな課題を提示し、自分にできることは何か考える。 | ☆本時の発表を踏まえ、新たな課題に対する考えを持ち、自分事として捉えることができる。 | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

本時の発表を踏まえ、新たな課題に対する考えを持ち、自分事として捉えることができる。

（観察・ワークシート・発表）

9. 学習方法及び外部との連携

・自分の考えを持ちながらグループ活動を行ったことで、多様な見方・考え方に気付くことができた。

・前時に日本のダイアモンドランキングを考えたことで、日本と他国の課題の違いに目を向けることができた。

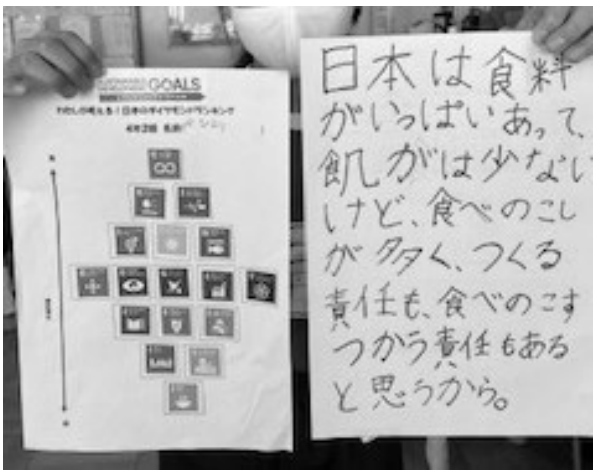
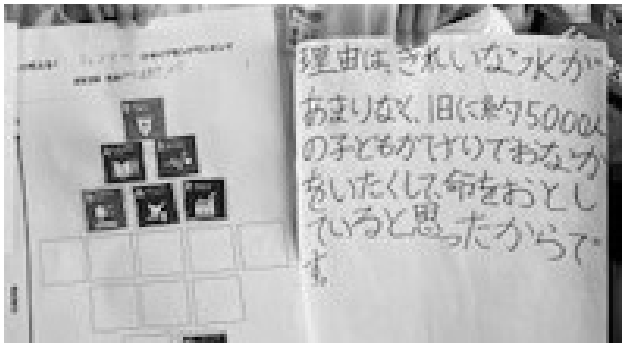
・日本人学校（ケニア・フィリピン）に勤務した教員による講話を実施する。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組：

校内における研究授業の実施

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 国際理解・開発教育の学習環境が整っておらず、児童が予備知識のない SDGs について、現状の学習過程の中にどのように組み込んでいけるか考えさせられた。授業実践にあたり、直面した課題は①教材の作成と②他の教職員からの理解であった。 |
| 12. 改善点 | 研究授業で取り上げた国は、いずれも開発途上国であった。児童生徒の興味・関心が高い国を取り上げてもよかった。理由としては、開発途上国に対して「貧乏でかわいそう」「行きたくない」などといった感情で終わることのないようにしたい。そのために、ヒントカード（児童に示す情報）の工夫が必要であると感じた。 |
| 13. 成果が出た点 | 児童一人一人が日本のダイアモンドランキングを作成し、日本が抱える一番の課題を発表した。それにより、児童は考え方に違いがあることに気付くことができた。さらに、日本が恵まれていることを再認識した後に、途上国のダイアモンドランキングを作成したことで、17 の目標を『自分事』として捉えることができた。実践を通して、児童は日本の資源は世界の資源であることを学んだ。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） |  <br>←私が考える日本のダイアモンドランキング<br>↓私たちが考える〇〇のダイアモンドランキング（ブラジル・ミャンマー）<br> <br>  |
| 15. 授業者による自由記述 | 今回、この研修に参加させていただいたことにより、参加前の私では実践できなかった授業を行うことができた。国際理解・開発教育を行うにあたり、どのように実践していくか、校内の体制はもちろん、教員の意識の差や教材の不足など、様々な見えない壁を感じた。しかしそれらは、少し前の私自身であるのだと恥ずかしくもあった。<br>今年度は実際に現地へ足を運ぶことが叶わなかったが、同じ志を持つ仲間と、前年度までの参加者、JICA の職員の皆様と学び、考え、意見を交わす中で、知識の広がりを確かに感じ、授業に還元することができた。未来を担う子どもたちが自他のよさを認め合い、協働してよりよい社会を築くことができるよう、その素地を養う教育現場で、教員として彼らに伝えたいことを今一度考えるきっかけとなった。 |

参考資料：『共につくる私たちの未来　SDGs から「持続可能な社会の創り手」への一歩を』
JICA 地球ひろば
『私たちが目指す世界　子どものための「持続可能な開発目標（SDGs）」
～2030 年までの 17 の目標～』
独立行政法人国際協力機構

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 橋本　雄介 | 学校名 | 千葉県<br>千葉市立　扇田小学校 |
| 担当教科等 | 算数 | 対象学年（人数） | ５年　２組（　３０名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年６月　～　２０２１年１月（４０時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間 | | |
| 2. 単元(活動)名：世界とつながろう！ | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：「ＳＤＧｓについて知り、世界の課題を自分事としてとらえ、解決に向けて自分たちにできることを話し合う。」<br>単元目標：世界の課題を自分事としてとらえ、解決に向けて考え、学び合う子の育成<br>関連する学習指導要領上の目標：年間指導計画に位置付けられている、国際理解の領域の学習。 | | |
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 世界には先進国と発展途上国があるということ、ＳＤＧｓの内容や目的について理解している。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 各国の課題やＳＤＧｓを自分事としてとらえ、自分たちにできることは何かを判断している。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 日本を含む世界各国の課題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを広めたり、課題解決に協力したり、進んで取り組もうとしている。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>児童は自分の日常で見たものや、学習の経験から学んだことは認識していたが、世界で起きている問題や抱えている課題については、知らないことがたくさんあった。ＳＤＧｓについて知っている児童もほとんどいなかったため、設定した。<br>【単元の意義】<br>第１次では自分の興味のある国の基本情報や特色を調べる活動を通して、世界には様々な国のよさがあるということを理解させる。第２次では、開発途上国やＳＤＧｓについて知るとともに、各国の課題と解決方法について考えさせる。開発途上国に行ったことのあるゲストティーチャーから現地の現状を聞いたり、教師が作ったプレゼンを見せたりすることで、各国の課題解決から、よりよく課題を解決するきっかけを与える。<br>【児童／生徒観】<br>世界では様々な問題が起きていることは知っているが、開発途上国にできることについては、思いつかない児童が多かった。また、洋服や水、食べ物などの物資やお金を寄付することなど一時的な解決策が多く、もの作りや農業のやり方を教えるなどの、長期的な開発策はなかなか出てこなかった。<br>【指導観】<br>この単元で持続可能な社会づくりについて考えることを通して、世界の課題に対して自分にできることは何かを考えさせた。また、各課題に対する目標は国によっても違うし、人によっても捉え方が違うので、協力して広めることが大切であることに気付かせる。 | |

| 6. 単元計画（全４０時間） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
| １<br>｜<br>４<br>５<br>｜<br>１３ | 世界に興味をもとう！ | ・世界の国々の文化や特色を知り、自国との比較をしながら互いのよさに気付く。 | ・インターネットや資料集で世界の人口や国旗、宗教や文化などを調べてノートにまとめる。<br>・自分の興味をもった国の特徴や文化、魅力や課題をインターネットで調べ、プレゼンの資料を作る。 | ・インターネット<br>・社会科教科書<br>資料集<br>・本 |
| １４<br>１５ | 興味のある国を紹介しよう！ | ・世界には様々な国があり、それぞれ魅力があれば、課題もあるということを知る。 | ・自分の調べたことを４・５人のグループに分かれてプレゼンで発表し合い、感想や助言を伝え合う。→ふりかえり | |
| １６<br>｜<br>１９<br><br>２０<br>｜<br>３２ | 世界の課題を自分事してとらえよう！ | ・先進国と開発途上国という言葉を知り、どんな国があるかを調べる。<br>・ＳＤＧｓの存在意義を知る。<br><br>・各国の課題を見つけ、解決目標を表現する。 | ・教師が作ったアフガニスタンの紹介資料やゲストティーチャー（キルギスに行ったことのあるＪＩＣＡ隊員）の話を聞いて、世界にはどんなＳＤＧｓが必要で自分たちに何ができるかを考える。<br><br>・世界にはどんな課題があるかを調べ、ＳＤＧｓのどの目標が必要かを考え、プレゼン資料にまとめる。 | ・ＪＩＣＡ東京千葉デスクの木村明日美による講演・ご指導「キルギスの実態課題から、私達にできること」<br>・「自分ごとからはじめよう SDGs 探求ワークブック～旅して学ぶサステイナブルな考え方」<br>・「未来の授業 私たちの SDGs 探求 BOOK」 |
| ３３<br>本時<br><br>３４<br>｜<br>４０ | 世界の課題について発表し合おう！ | ・それぞれの国の課題やＳＤＧｓの目標についての考えを広げたり深めたりする。<br><br>・友達の意見をもとに、それぞれの国の課題やＳＤＧｓの目標についての考えを広げたり深めたりする。 | ・中間発表をし合い、ふりかえる。<br>・パワーポイントや発表の仕方について議論するよりも、国の課題やＳＤＧｓの目標についての質問を重視させ、考えをより深める。<br><br>・友達の発表を聞いて知ったことやもらったアドバイスをもとに、より深いプレゼン資料を作成する。<br>・一人ずつみんなの前で発表する。<br>・自分でたてた「自分にできること」ができているかをふりかえる。 | ・インターネット |

7. 本時の展開（３３時間目）

本時のねらい：

・よりよいプレゼンをするために世界の課題やＳＤＧｓ、自分たちにできることを考えて説明することができる。（思考力、判断力、表現力等）

・日本を含む世界の問題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを考えようとする意欲をもつ。（学びに向かう力、人間性等）

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（3分） | 1　前時までの学習を確認する。<br>・国の課題を伝える。<br>・国が目指すＳＤＧｓを伝える。<br>・自分にできることを伝える。<br><br>2　本時のめあてを確認する。<br>よりよいプレゼンにするには、どうすればよいのだろうか。 | ○ただの国の紹介ではなく、各国の課題とＳＤＧｓ、わたしたちにできることを考えてきたことを確認させる。 | ・黒板掲示 |
| 展開<br>（39分） | 3　教師のプレゼンを聞き、聞く側の視点を確認する。<br>・ＳＤＧｓを使って説明した方がよい。 | ○発表の仕方だけではなく、国のＳＤＧｓ、私たちにできることが明確かどうかに注目させる。 | ・ＰＣ |
| | 4　三、四人のグループで発表し、プレゼンがよりよくなるようにアドバイスし合う。<br>・水がないということは、飢餓の心配だけではなく健康や教育にも影響がでるんじゃないかな。 | ○３分以内で発表→アドバイスの順に繰り返させる。<br>○世界の課題からどのＳＤＧｓが必要で、自分達に何ができると考えているのかを読みとらせる。 | ・ＰＣ<br>・プレゼン原稿<br>・ワークシート |
| | 5　グループで話し合われた内容を全体で共有し、考えを深めたり広げたりする。<br>・「②飢餓をゼロに」を達成するためには、世界中の人に広めることが大切だという意見をもらいました。 | ○グループで話し合われたことを全体で集約し、ＳＤＧｓに対して自分達にできることが持続可能かどうかについて考えさせる。 | |
| まとめ<br>（3分） | 6　今日の学習を振り返り、発表に向けてこれからのめあてをたてる。<br>・1 つの課題から様々な視点で目標を考える。 | ○次のプレゼン作成に向けてやるべきことを確認させる。<br>○発表の仕方やパワーポイントの内容ばかりではなく、各国の課題やＳＤＧｓ、自分たちにできることについて書かせる。 | ・ＰＣ<br>・ワークシート |

| |
|---|
| 8. 評価規準に基づく本時の評価方法<br>◇日本を含む世界の問題を自分事としてとらえ、自分たちにできることを考えようとする意欲をもつ。<br>（学びに向かう力、人間性等）<br>◇世界の問題について自分たちにできることを考え、説明することができる。<br>（思考力、判断力、表現力等） |
| 9. 学習方法及び外部との連携<br>各国の課題はそれぞれ見つかったものの、課題に対して私たちにできることについて「ごみを拾う」や、「給食を残さず食べる」等の答えしか出てこなかった。児童の考えを深める手立てについて、ＪＩＣＡの夏の研修で他の協力隊に相談し、千葉デスク木村明日美さんがゲストティーチャーとして参加してくれることになった。<br>開発途上国に行ったことのあるゲストティーチャーから現地の現状を聞いたり、教師が作ったプレゼンを見せたりすることで、各国の課題解決から、よりよい解決策を考えるきっかけを与えた。 |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>研究授業を校内の先生方に参観してもらい、教員間の SDGs への知見を高めるとともに、国際理解の授業展開例を提案した。<br>人権週間と関連させて SDGs のポスターを掲示して、啓発活動に努めた。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 各国の SDGs 達成率について、学級で調べ学習をしたが、有力なサイトがアクセスできず、校内のインターネットで調べるには限界があった。 |
| 12. 改善点 | 授業の振り返りとしては、「プレゼンをよりよくする」という学習問題ではなく、内容にせまる学習問題をたてるべきだった。発表の仕方について議論するのではなく、SDGs や私たちになにができるかという内容について、さらに深く話せるようにできればもっとよかった。 |
| 13. 成果が出た点 | 調べる時間を確保したため、一人一人が各国の現状や課題について理解し、友達に広めることができた。まずは自分たちにできることを考えることで、世界の課題を自分事として考えることができた。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ・調べていくうちにどんどんその国について詳しくなっていった。<br>・自分たちにできることを実践するようになった。<br>例）・給食の残飯が減った。・紙の無駄使いが減った。<br>・SDGs の掲示物を教室に掲示することで、社会科で環境問題について考える授業など、他教科で学習する時も SDGs に繋がっていることを確認できた。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 今回の研修（4 月から授業実践まで）を通して、自分自身が世界の問題を自分事としてとらえることができた。最初は私も他の教員、児童も SDGs の存在すら知らなかったが、活動や授業を通して考えるきっかけとなった。また、SDGs は社会科の地理の学習以外でも、様々な産業の学習とも関わっていることがわかり、日本を客観的にみることも可能だと気付いた。 |

参考資料：・「自分ごとからはじめよう SDGs 探究　ワークブック～旅して学ぶサステイナブルな考え方」
・「未来の授業　私たちの SDGs 探究 BOOK」

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| 氏名 | 岡田　紘明 | 学校名 | 千葉県市川市立稲荷木小学校 |
|---|---|---|---|
| 担当教科等 | 全教科 | 対象学年（人数） | ４年生（６１名） |
| 実施年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年１１月～２０２０年１２月（１３時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| １．実践する教科・領域：国語科・総合的な学習の時間 | | |
| ２．単元（活動・主題名）：平和への思いを稲荷木小から発信しよう | | |
| ３．授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：ＳＤＧｓゴールと争いのない社会<br>単元目標：戦争（争い）をなくす方法をＳＤＧｓの開発目標と関連付けて考える。<br>関連する学習指導要領上の目標<br>総合的な学習の時間<br>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。 | | |
| ４．単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 世界の多様性や日本との繋がり、世界の抱える問題への理解を深めている。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた題材を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にして書こうとしている。（国語科） |
| | ③学びに向かう力人間性等 | 進んで世界の抱える問題を自分ごととして捉え、学習の見通しを持って、自分にできることを考えている。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>昨今の日本は、グローバル化の一層の進展により、外国からの留学生や観光客、就労者がますます増加している状況である。教育現場においても、外国にルーツを持つ児童とともに学習することは、もはや珍しいことではなくなっている。日本で学ぶ外国人留学生の数は、１９８３年からずっと右肩上がりである。<br>一方、日本を出て外国で学ぶ学生の数は、減少傾向にある。私は、国境を越えた人の移動が活発化する現代社会においては、よりグローバルな視点を持つ児童生徒の育成が求められていると考え、本単元を設定した。<br><br>【単元の意義】<br>小学４年生の子どもたちにとって、戦争は身近なことだとは言いづらい。それは、後のアンケート結果からも明確である。そこで、本単元を教科横断的に扱うことで、「戦争のない世界」と「SDGｓの開発目標」を結び付け、平和への貢献を「自分ごと」として、具体的な行動に結びつけていくことができるのではないかと考えた。<br><br>【児童観】<br>本学級の児童は、事前アンケートの結果、３分の１以上は、日本が過去に戦争をしたことがあることすら知らないことが分かった。また、知っていると答えた１９名の児童も、「戦争があったということしか知らない」という答えであったり、具体的な内容に関しては誤った認識をしていたりする児童も多い。そこで、国語科の「一つの花」の教材だけを扱うのではなく、ゲストティーチャーの活用、戦争に関する | |

絵本の読み聞かせ、映画鑑賞など様々な角度から、予備知識を与えてやる必要性を感じた。また、「平和のために何か行動したいか」「具体的にどんなことをしてみたいか」という問いに対しては、３０名中２８名が肯定的な回答をしており、子どもたちなりに今の社会への問題点や改善が必要な点を感じ取っていることが分かった。具体的には、以下のような問題意識を持っている。

・家族や友だちとけんかをせず、仲良くする　８人
・ゴミを減らす、すてないようにする　７人
・コロナウイルスにかからないように対策をする　５人
・世界の色々な国の人たちと仲良くする、交流する　４人
・地球温暖化対策をしたい　１人
・ルールを守って生活したい　１人

この視点を切り口に平和とSDGｓゴールをつなげて考えさせるようにしたい。

【指導観】

本単元を通して、子どもたちに現代社会の抱える問題に対する意識を高めてほしいという思いはもちろんある。しかし、それと同時に、４年生になって、発言することを恥ずかしがったり間違えたりすることを恐れる児童が増えてきているという課題を、話し合う内容を明確にしたり目的意識を持たせたりすることで、改善していきたいとも考えている。具体的には、国語科の学習問題をWhich型とし、「子どもが選択、判断する」場面を設定したり思考ツールをもとにした話し合い活動を行ったりしていく。このような活動が、予測不可能と言われるこれからの時代を生きる子どもたちに必要な能力を身につけることにもつながると考えている。

６．単元計画（全１４時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | １０年後の自分たちのくらしを考えよう（総合的な学習） | ・ＳＤＧｓの１７のゴールを知る。 | ・１０年後の自分について想像してみる。<br>・ＳＤＧｓに関わるパワーポイントを見て、現代社会が抱える様々な社会問題について知る。 | |
| ２～１０ | 平和への思いを稲荷木小から発信しよう（第１部）（国語科） | ・戦時中の人々のくらしの様子について読み取る。 | ・映画「この世界の片隅に」を鑑賞し、戦争中の人々の暮らしについて理解を深める。<br>・教科書教材「一つの花」（教育出版４年上）の本文から、登場人物の様子や気持ちを読み取る。 | DVD「この世界の片隅に」 |
| １１<br>１２ | 平和への思いを稲荷木小から発信しよう（第２部）（総合的な学習） | ・平和への思いを手紙にし、折り鶴と一緒に佐々木貞子さんへ届ける。 | ・市川市被爆者の会の方をゲストティーチャーとして招き、出前授業を行う。<br>・絵本「おりづるの旅」の本文を読み、佐々木貞子さんの生涯について読み取りを行う。 | 絵本「おりづるの旅」 |
| １３<br>本時 | どうして戦争（争い）は起きるのかを考えよう（道徳科） | ・争いが起きる原因をＳＤＧｓの目標と比較して考える | ・ふだんの自分たちの学校生活で争い（ケンカ）が起きる時の原因について考える。 | |

７．本時の展開（１３時間目）

本時のねらい：ＳＤＧｓの開発目標を目指すことが、争いを減らす方法の１つであるということに気づくことができる。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | １　前時までの学習内容を振り返る<br>・戦争の悲惨さや人々の暮らしを振り返る。<br><br>・折り鶴作りは心情面での行動であり、実践面で何か出来ることはないか問いかけ、戦争の原因について考えさせる。 | ・「一つの花」「おりづるの旅」などの教材で学習したことを想起させる。 | |
| | どうして戦争（争い）は起きるのかを考えよう | | |
| 展開<br>（5分） | ２　戦争の原因について考える<br>①ふせんに自分が考えた原因を書かせる<br>（例）資源の問題、領土問題、民族同士の対立<br>政治への不満　など | ・「戦争」でイメージが浮かばないようであれば、自分たちの喧嘩の原因を振り返ってみるよう助言する。<br><br>・人同士のトラブルが起こりやすい場として「避難所生活」の写真を提示する。 | 社会科資料集 |
| （10分） | ②班ごとに仲間分けを行う<br>（クラゲチャートを活用） | | 思考ツール一覧表 |
| （5分） | ３　争いの原因をＳＤＧｓの開発目標と関連づけて考える。<br>（例）資源問題：開発目標１、２、３、６、７<br>１０、１３、１４、<br>１５ | ・児童がＳＤＧｓの開発目標を想起できるような掲示物を準備しておく。<br><br>・ＳＤＧｓの１７の目標は一つ一つが独立したものではなく、相互に関わり合っていることを確認しておく。 | |
| （5分） | ４　各班で作成したチャートの交流を行う | ・他の班のチャートを見て、自分たちとの相違点や共通点をワークシートに記入するよう助言す | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | る。 | |
| まとめ<br>（5分） | 5　地球温暖化問題やゴミ問題について考える<br>・ツバルに関する写真絵本の読み聞かせを行う。 | ・実物投影機を活用し、全児童に写真の様子がわかるように配慮する。 | 写真絵本「地球温暖化、しずみゆく楽園　ツバル」 |
| （5分） | 6　戦争をなくすために必要なことを考える<br>（例）水を大切に使う<br>電気をこまめに消す<br>ゴミを減らす<br>食べ残しをしない　　など | ・一見つながりが見えにくいＳＤＧｓの開発目標を目指すことが、戦争をなくしたり減らしたりするための手段であることに気づかせる。<br><br>・つながりに気づきにくい場合は、ツバルで起きている事例について、自分の家庭や家族に置き換えて考えさせる。 | |

８．評価規準に基づく本時の評価方法

○争いの原因を進んで考え、班の友だちと協力してチャートにまとめることができる。

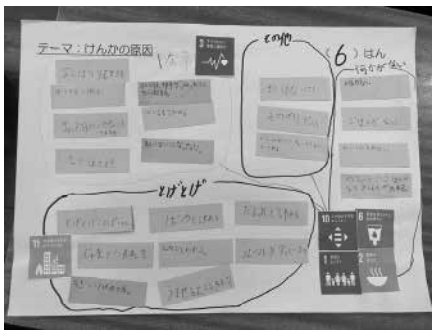
○争いの原因とＳＤＧｓの開発目標を関連づけて考えることができる。

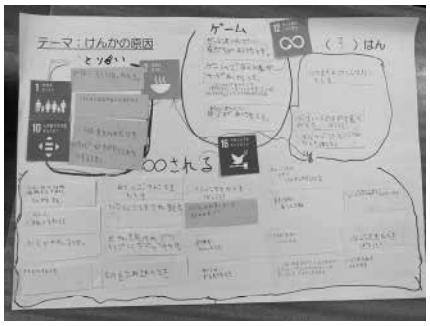
９．学習方法及び外部との連携

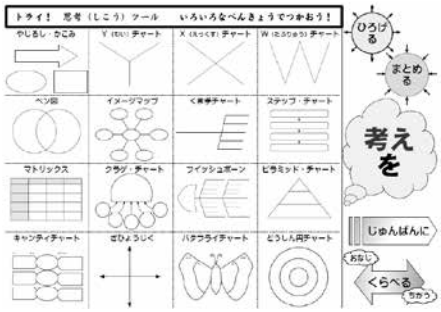
○被爆体験講和

市川市被爆者の会に所属する児玉三智子さんをゲストティーチャーとして招き、被爆体験ついてお話していただいた。児玉さんは、７歳の時に広島市内で被爆し、現在８２歳。被爆者の声を生で聞くことのできる機会はこの先、少なくなる一方である。昨今の事情もあり、zoom を使った授業ではあったが、児童にとっても教職員にとっても大変貴重な時間となった。

○思考ツールを活用したグループワークの実施




小学校４年生にとって身近な事とは言い難いＳＤＧｓの問題を自分たちのケンカの原因となっていることを思考ツールを使ってまとめ、考えさせることで、「自分ごと」として考えられるように工夫した。

１０．学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

○千葉県教師海外研修報告会にて実践発表

○千葉県教育研究会市川市会国際理解教育部会にて実践発表

○校内研修として国際理解教育授業公開を実施

【自己評価】

| | |
|---|---|
| １１．苦労した点 | ある程度事前に想定していたことではあるが、４年生という発達段階においてＳＤＧｓについて考える授業はかなり難しいものであった。気候変動やクリーンエネルギー問題などのＳＤＧｓの土台となる知識であるゴミ、水、防災の学習は４年生の後期になってようやく扱う内容である。工夫次第で小学校中学年でも扱えないことはないと思うが、高学年の方がより深い学びを行えるのではないかと考えた。 |
| １２．改善点 | 上にも記述したように、SDGｓゴールを意識した活動は土台となる基礎知識が不可欠であると感じた。そのため、小学校低・中学年で実施する場合は、１７のゴールすべてを扱うのではなく、いくつかに絞ること、分かりやすくかみ砕いて伝えることの必要性を感じている。<br>今回の私の実践では、主なターゲットは１６「平和と公正をすべての人に」であるが、子どもたちに「争いのない平和な世界を目指すにはどうしたらいいだろう？」と問いかけても、具体的な行動はなかなか挙がらなかった。そこで、戦争を「友だち同士の喧嘩」や災害時の避難所生活に置き換えることで自分ごとと捉えさせようと試みた。何かしら、スモールステップの手立てを考える必要性を感じている。 |
| 13. 成果が出た点 | 本時において、ふせんと思考ツールを活用し、子どもたち自身のケンカの原因とSDGｓゴールを結び付けて考える学習を行った。その結果、４年生の子どもたちなりに積極的に話し合いを行い、班ごとにグルーピングをしたり、それぞれのグループごとにどのSDGｓゴールと結びつくかを考えたりする姿が見られた。ＳＤＧｓについての知識はまだまだ不十分であるが、自ら考え、意見を出し合う姿は新しい学習指導要領の中で求められている「予測不可能な社会」を生き抜く力につながるものだと考えている。 |
| 14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど) | ・この授業で、戦争を止めるには、小さいことをやっていくことが大きなことに結びついていくのだと分かった。これからは、ＳＤＧｓを意識して生活したい。<br>・今日の授業を通して、「ツバル」が困っていることは分かったが、世界では他にどんなことに困っている国があるのかをもっと知りたいと思った。<br>・自分たちが地球温暖化の原因になってしまっているかもしれないということを初めて知りました。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 授業を行う前は、小学校４年生の子どもたちにとって、ＳＤＧｓについて考えることはハードルが高いと考えていた。実際、知識の不足などから難しさも多々感じたが、それ以上に児童の「持続可能な社会」への意識の高さに驚かされた。多くの子どもたちが「これは何とかしなければ」と「自分ごと」として考え、自分に何ができるかを真剣に考え、仲間と話し合う姿が見られたことには大変驚いた。今回の学習では、主に国語科の学習と結び付け、平和について考えさせたが、社会科の「ゴミや水の行方」に関する学習と結び付けても面白いのではないかと感じている。<br>来年度以降は、実際に現地で見て学んだことを生かして教科横断的にカリキュラムマネジメントを行って授業を行っていきたい。 |

参考文献：佐藤真久『未来の授業　私たちのＳＤＧｓ探究 BOOK』宣伝会議（２０１９）
佐藤真久『SDGｓライフキャリア BOOK』宣伝会議（２０２０）
山本敏晴『地球温暖化　しずみゆく楽園ツバル』小学館（２００８）

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 樋口　善幸 | 学校名 | 東京都<br>羽村市立武蔵野小学校 |
| 担当教科等 | 音楽科 | 対象学年（人数） | 4年　3組（28名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2021年　1月（4時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：音楽科

2. 題材(活動)名：「ちいきに伝わる音楽に親しもう」

3. 授業テーマ（タイトル）と題材目標

授業テーマ：「児童が『Think Globally Act Locally』するための
カリキュラム・マネジメント&授業づくり」

題材目標：

・日本の民謡や地域に伝わる音楽の歌声や楽器の音色、旋律と曲想との関わりについて気付く。
（知識及び技能）

・音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
（思考力、判断力、表現力等）

・日本の民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽を調べたりして，日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高める。（学びに向かう力、人間性等）

関連する学習指導要領上の目標：

A表現（1）ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

B鑑賞（1）ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

共通事項（1）ア　表現及び鑑賞の指導を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える力を身に付けること。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識・技能 | ・歌声や楽器の音色，旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想と関わりについて気付いている。 |
| | ②思考力・判断力・表現力 | ・音色や旋律の特徴などを聴き取り，　それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，日本の音楽を味わって聴いている。<br>・旋律や音色の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。 |
| | ③主体的に学習に取り組む態度 | ・音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見いだしながら聴く学習に進んで取り組もうとしている。<br>・民謡の特徴やよさを味わって聴いたり，地域に伝わる音楽を調べたりして，地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組み、自己の考えや学び方を調整しようとしている。 |

| | |
|---|---|
| 5. 題材設定の理由・題材の意義<br><br>（児童観、教材観、指導観） | 【題材設定の理由】<br><br>教師海外研修においては、「SDGsの本質」について、多面的な角度から学ぶことができた。2030年の未来を、「ありたい社会」に変えていくためには、未来の担い手である児童が「持続可能な社会の創り手に必要な力」を身に付けていくことが必要だと学んだ。その力を身に付けるためには、私は、子供が対象となる「ひと・もの・できごと」の本質を見極め、自分がどう関わっていくか・自分の行動をどう変えていくかを考え続けることが大切であると考えた。<br><br>研修の中で、パラグアイのスラム街に住む子供たちに、ゴミからリサイクルした楽器を与え音楽教育を行ったという「ランドフィルハーモニック」の事例に出会った。「ランドフィルハーモニック」は、創設者のファビオ・チャベス氏が、「子供たちを変えたい」「社会を変えたい」という思いをつないで・広げて、現在も活動を継続している。<br><br>そこで、本題材においては、地域で生まれ、人々がつないできた「地域に伝わる音楽」を取り上げることとした。「ランドフィルハーモニック」と同様に、音楽を伝え続けていくためには、地域に住む人々の思いや努力が必要であると考える。また、集団で１つの音楽をつくり上げるうえで、地域の人々とつながりが生まれるとともに、同じ音楽を演奏してきた先人の思いとも対話することができると考える。このような音楽の意義を児童が深く考えるようにすることで、児童が、自分と音楽・地域との関わり方について見直したり、音楽のもつ価値を捉え直したりすることをねらい、本題材を設定した。<br><br>【題材の意義】ESDを基軸としたカリキュラム・マネジメントの実施<br><br>本校では、今年度「主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業の創造～新しい教育を学ぶ『情報教育・教科教育・グローバル教育』を通して～」という主題で、校内研究を行っている。グローバル教育部においては、4年生・総合的な学習の時間「20才の私たちへのメッセージ」という単元を実施した。この単元は、「海洋問題等の環境課題に対して関心をもち、様々な視点から解決策を自分なりに見出し、友達と協力しながらより良くするために工夫する」ことをねらいとした。総合的な学習の時間を基軸に、ESDレンズ(UNESCO,2012)を働かせる場面を組み入れ、教科領域等横断的に資質・能力を育成していくことをねらい、総合的な学習の時間と音楽科とを関連付けて学習指導を行った。本題材においては、総合的な学習の時間で働かせた「つながるレンズ（統合的レンズ）」を活用し、「地域に伝わる音楽を学ぶ」ことが、どのような意味をもち、どのようにつながっていくかを考えることができるよう、計画した。このように、他教科で身に付けた資質・能力を本題材において活用し、本題材を通して身に付けた力を他教科で発揮するという、双方向型の指導を行うことができるという点に、本題材およびESDを基軸としたカリキュラム・マネジメントの意義があると考える。<br><br>【児童観】<br><br>本学級においては、どの題材・領域の学習に対しても意欲的に取り組む児童が多い。授業の中では、自分の考えを自分の言葉で発言する場面や、何度も歌い方や演奏の仕方を試行錯誤して、よりよい音楽をつくろうとする場面が見られる。また、特に意欲的に学習に取り組む児童からは、気付いたことや感じたことを、音色・強弱・速度等といった「音楽のもと」の視点から分析し、根拠をもって説明しようとする姿も見られる。<br><br>一方、羽村市に住む子供たちにとって、伝統的な音楽は生活の身近な場面にあるものではない、という実態がある。自分たちの身近にはないものを学習対象とする際、学習に対して・教師に対して素直に反応する本学級の児童は、「教師が求めているであろう」方向から自分の考えを発言したり、「正解であろう答え」を述べたりしようとすると考えられる。このような実態から、児童が本題材において主体的に課題を設定することや、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しいことが予想される。<br><br>【指導観】<br><br>本題材は、児童が、日本の民謡や地域に伝わる音楽に触れ、その背景にある思いや願いを考える学習を通して、地域に伝わる音楽への興味・関心を高めるとともに、音楽を未来へ受け継いでいくこと・音楽を学び続けていくことの意味を考えることをねらいとしている。<br><br>第１次では、パラグアイの「ランドフィルハーモニック」について学び、貧困の連鎖に苦しんでいる人々を変えたいという、設立者の音楽教師の思いを感じ取ることで、「0からなにかをつくること」「続けていくこと」の意義について、児童が自分なりの思いをもつことができるようにする。その後、一度消滅の危機に瀕しながらも、人々の想いで受け継がれ、今日では全国的に有名になった「こきりこ節」の鑑賞を行う。体験活動を組み入れた鑑賞の学習を通して、日本の楽器の音色や民謡の発声方法、五線譜によらない記譜方法等に興味・関心をもつことができるようにする。また、保存会の人々の話を聴くことで、「こきりこ節」を受け継いできた背景に触れ、地域に伝わる音楽を受け継いでいくことの大切さや難しさについて捉え直し、自分の考えを調整するようにする。 |

| | |
|---|---|
| | 第２次では、地域に伝わる音楽を、日常の一部として捉え自然に関わっている八丈島の子供たちの「八丈太鼓」の演奏を鑑賞する場面を設ける。「こきりこ節」「八丈太鼓」を比較鑑賞し、「地域に伝わる音楽を学び続けるよさは何か」という問いを入り口に、思考ツールを使って考えを可視化するようにする。よさについて「人々の思いを受け継いでいける」「いろんな人とつながることができる」「思いを一つにすることができる」「努力して、自分自身が成長できる」等と整理することで、児童が地域に伝わる音楽を受け継いでいくことの本質を捉えることができるようにする。また、これらの学びは、「地域に伝わる音楽」を通してのみ得られるものではなく、現在児童自身が関わっているコミュニティの中でも学ぶことができることに気付かせる。そこから自分たちが今できることは何か・これから何をしていきたいかを考えるようにし、「今できることから行動し、将来地球規模の課題を解決する力を身に付ける」Think Globally Act Locallyの「種を蒔く」題材とする。 |

6. 題材指導計画（全４時間）

| 時 | テーマ | 学習のねらい | 学習活動<br>★評価【評価の観点および評価方法】 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | チャベスさんは、どのような思いで楽団をつくったのかを考えよう | 日本の民謡や地域に伝わる音楽への興味・関心を高める。 | ・「Landfillharmonic」が演奏する、「アイネクライネナハトムジーク」を聴く。<br>・パラグアイについて知り、「Landfilharmonic」の演奏および、設立者のファビオ・チャベス氏の話を聴く。<br>・チャベス氏が、なぜ、カテウラで、ゴミからできた楽器を使ったオーケストラを設立したのかを考える。<br><br>★地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習にすすんで取り組み、「何もないところからつくり上げること」「つくったものがゼロになってしまうこと」について、自分なりの考えをもとうとしている。【主　発言】 | ・Landfillharmonicの演奏DVD<br>・絵本「スラムにひびくバイオリン」<br>・パラグアイ　イグアス移住地の生活（スライド） |
| 2 | 音色や音の重なりに注目して、こきりこ節を聴こう | 「こきりこ節」を鑑賞したり体験したりする活動を通して、音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら、日本の郷土の音楽を味わって聴く。 | ・「こきりこ節」の鑑賞用 CD の模範演奏を聴き，主な旋律に親しむ。<br>・範唱を聴き，歌い方の特徴を感じ取るとともに、五線譜によらない記譜方法に親しむ。<br>・主な旋律の歌い方に親しみ、伴奏に合わせて歌う。<br>・体験学習を通して、「こきりこ節」に使われている楽器「棒ざさら」「こきりこ」に関心をもつ。<br>・「越中五箇山こきりこ唄保存会」の話を聴く。<br>★歌声や楽器の音色，旋律などによる日本の音楽の特徴と曲想との関わりについて気付いている。<br>【技　発言・体験の様子】<br>★音色や旋律の特徴などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，日本の民謡を味わって聴いている。<br>【思　発言、ワークシート】 | ・「こきりこ節」演奏の様子（動画）<br>・棒ざさら・びんざさら（実物楽器）<br>・「越中五箇山こきりこ唄保存会」の話（動画） |
| 3<br>本時 | 八丈太鼓を聴いて、「地域に伝わる音楽を学び続けるよさ」を考えよう | 「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。 | ・「八丈太鼓」の演奏を聴いたり、「月曜会」に所属する小学生が太鼓を打つ映像を見たりする。<br>・郷土につたわる音楽を学び、続けていくことのよさを考え、友達と話し合う。<br><br>★民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりし、地域に伝わる郷土の音楽への関心を高める学習に取り組み、自己の考えや学び方を調整しようとしている。【主　発言】 | ・郷土に伝わる音楽が生活とともにあり、幼少の頃から親しんできた八丈島の子供たちの演奏（動画） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 学習を振り返り、音楽を通して身に付ける力や、その価値を考えよう | 地域に伝わる音楽を学び、続けていくことにどのような意味があるのかを話し合い、今の自分たちにできることは何かを考える。 | ・「地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさ」について、グループで話し合う。<br>・Xチャートやベン図を用いて、「地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさ」について、「伝統をつなぐ」視点、「地域の人と関わる」視点、「自分自身の成長となる」視点等に分類できることに気付く。<br>・まとめた図をもとに、今の自分たちにできること・したいことは何か考える。<br>・歌詞の意味を味わって「校歌」・「国歌（君が代）」を歌う。<br>★歌詞と音色や旋律との関わりに興味・関心をもち、歌唱する学習に進んで取り組もうとしている。<br>【主　発言、ワークシート】 | ・思考ツール<br>・パラグアイ・アルパ奏者の演奏<br>（伝統楽器を使った、流行曲の演奏） |

7. 本時の展開（全４時間中の３時間目）

本時のねらい：「八丈太鼓」の演奏や、演奏者の話を聴いたり、友達と話し合ったりする活動を通して、地域に伝わる音楽を学び、続けていくことのよさを自分なりに考える。【主体的に学習に取り組む態度】

| 過程・時間 | ○学習内容　・学習活動<br>T 発問　C 予想される児童の反応 | ◆留意点 | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ・前時の、「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話をもとに、五箇山の人々が、どのような思いで「こきりこ節」をつないできたのか、話し合いで出た意見を振り返る。<br>**【都会からお嫁に来て、「こきりこ」を踊っている人の話】**<br>「住むなら踊る、それが当たり前なんです。踊りは楽しいですよ。全国でここにしかない踊りを踊れるって、誇らしいです。」<br>**【ふだんは都会にいて、お祭りのときに帰ってくる人の話】**<br>「古いスタイルの踊りや、即興でつくったという唄。古典的で素朴で、「ほんもの」っていうのがみりょくです。」<br>C:「こきりこ」は、楽しいけど難しい。私は体験でうまくできなくて、くやしくて、だからやりたいと思った。昔の人も同じ気持ちだったのではないかと思う。<br>C：なくなると、もう１から作れないから、つなごうとしたのだと思う。<br>T：みなさんが、もし五箇山に生まれていたら、「こきりこ節」について、どう感じていたでしょうか。<br>C：大人と一緒にお祭りとかでやるのは、楽しそう。<br>C：でも、練習が大変そうだ。やらなきゃいけないから。 | ◆前時の児童の意見を、まとめて板書しておき、学習の振り返りをすることができるようにする。 | 「越中五箇山こきりこ唄保存会」の人の話（教育芸術社・4 年授業参考資料 DVD） |
| 展開<br>20分 | 【学習問題】私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくよさって？<br>**○「八丈太鼓」の鑑賞・体験および、演奏者の話を聴くことで、五箇山や八丈島の人たちは、どのような思いで地域に伝わる音楽を学んでいるのかを考える。**<br>・「八丈太鼓」の演奏を聴き、気付いたことを話し合う。<br>C：２人で太鼓を打っている。 | ◆「リズム」「強弱」「音の重なり」等、これまでの題材で学んだ視点から考えるよう | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | C：拍子にのって、同じリズムを反復している。<br>C：力強い演奏。<br>C：なんだか踊っているような気分になる。<br>C：聴いていると、うれしい気分になる。<br>・前時に引き続き、長胴太鼓を使って、「八丈太鼓」を体験したり、友達の演奏を聴いたりする。 | に促すことで、児童が音楽を形作っている要素とその効果について考えることができるようにする。 | |
| | ・前時・本時で行った「八丈太鼓」の体験を振り返り、気付いたことや感じたことを話し合う。<br>C：「自由に打つ」って難しいけど、楽しい。<br>C：先生と合わせるのが、難しかった。<br>C：もっとやってみたい。 | ◆教師は、「下拍子」を担い、児童は即興的に「上拍子」を打つようにする。 | |
| | ・再度、映像付きで、「八丈太鼓月曜会」の演奏を映像付きで聴く。<br>C：自分たちの打ち方と全然ちがって、びっくりした。<br>C：小学生が堂々と打っていて、すごい。<br>C：さっき「かっこいい」と思って聴いた演奏が、同い年の子がやったものだったなんて、びっくり。<br>・「八丈太鼓月曜会」に所属する児童の話を聴き、地域に伝わる音楽を学ぶこと・つなげていくことのよさについて考える<br>「おばあちゃんが、八丈太鼓をやっていて、それで（太鼓を）始めました。」<br>「相手と同じ速さで、同じリズムはなるべく使わないようにしています。」<br>「例会で、下拍子も上拍子も、かっこよくできるようにしたいです。」 | ◆総合的な学習の時間で交流する、八丈町立三根小の児童が打っている演奏を聴くことで、児童が「八丈太鼓」をより身近に感じることができるようにする。 | 「八丈太鼓」を、同い年の児童が演奏する映像 |
| まとめ<br>20分 | **○「こきりこ」「八丈太鼓」の鑑賞や体験を通し、自分たちが地域に伝わる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのかを考える。**<br>・個人で自分の考えをまとめ、付箋に記入する。<br>C：地域の人々の伝統を受け継いでいくことができる。<br>C：みんなで同じ音楽を演奏できると、楽しい。<br>C：協力することを学べる。<br>C：昔の人々や、地域の人々の思いや願いも、歌にのせて伝えていくことができる。<br>C：なくならない、ということも、良さだと思う。<br>C：できなくて、くやしい。努力をして、成長できるかもしれない。<br>C：大人から子供へと音楽を教える中で、地域の大人の人と仲良くなれるかもしれない。<br>C：自分たちの音楽を、受け継ぐだけでなく、広めていける。<br>C：教わった側も、教えた側も嬉しくなる。<br>C：誰でも参加できるってことは、SDGs の 5 番や 10 番がつながりそうだ。<br>C：続けていくってことで、つくる責任・使う責任にもつながるかもしれない。 | ◆次時でチャート上にまとめることができるように、付箋に記入するよう指示する。 | チャート例示<br>ベン図<br>Y チャート<br>X チャート |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | **○郷土につたわる音楽を学び、続けていくことに、どのような良さがあるのか、自分たちの考えをまとめる。**<br>・グループで、短冊に書いた内容を交流する。次時で、グループごとにＸチャートにまとめて、発表会をすることを知る。 | ◆モデリングすることで、チャートを使って自分たちの考えを仲間分けすることについて、見通しをもつことができるようにする。 | SDGs シール |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

民謡の特徴やよさを味わって聴いたり、地域に伝わる音楽をつないでいる人々の話を聴いたりする活動を通して、友達や資料との対話を通して、自己の考えを調整しようとしている。【主　発言】

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】

・児童の思考を可視化し、分類したり、関連を見える化するために、思考ツールを活用した。今回は、ベン図、Ｙチャート、Ｘチャートの３種類を示した。ベン図を使うことで、児童が、「よさ」どうしの関連を考えることができると考えた。また、Ｘチャートや Ｙチャートを使うことで、児童が、「よさ」を分類することができると考えた。どのチャートを選択しても、分類したり関連を考えたりする必要があり、必然的にグループにおいて児童が意見を交流するようにした。

【外部との連携】

・教師海外研修参加者の、八丈町立三根小学校音楽専科の大平教諭と連携し、「八丈太鼓月曜会」に所属している小学生が、八丈太鼓を打つ動画を撮影し、鑑賞教材として用いた。また、澤野教諭と連携し、埼玉県在住のパラグアイ・アルパ奏者が日本の流行曲を演奏する様子の動画を入手し、まとめの場面で用いた。

・地域に縁のあるパラグアイ在住の方から、パラグアイの生活や人々の考え方についての情報を得た。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

・学校外において ESD に関する研修を受け、OJT でプレゼンテーションを行う等し、校内に還元した。また、校内研究を推進し、4 年生・総合的な学習の時間の研究授業を軸に、校内の教員が ESD に関する実践を積むことができるよう支援した。

・音楽室前に「10 年後の私たちへ」コーナーを設置し、JICA の資料や絵本「スラムにひびくバイオリン（汐文社、スーザン・フッド　作)」「地球温暖化、沈みゆく楽園　ツバル（小学館、山本敏晴　著)」を読むことができるようにしたり、パラグアイおよび「Landfillharmonic」についての資料を展示したりした。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ・音楽科のねらいを達成させる過程で、ESD を組み入れる必要があった点<br>音楽科のねらいを達成するために、鑑賞の活動を中心に行った。話し合い活動が膨らむにつれ、音楽科の授業とのずれが生じるのではないかと懸念し、指導方法を工夫した。<br>・教科横断的に指導を行う上で、担任との共通理解を図る点<br>ESD の本質を達成させるためには、教科領域等横断的な指導が必要で、専科教員としては担任との連携が必要である。今回は 4 年生の担任との協議を密に行った。 |
| 12. 改善点 | ・研究授業のためのカリキュラム・マネジメントではなく、学校全体で効果的に ESD を実施していく視点から、ESD カレンダーを作成するようにしていく。<br>・ESD の本質を見極め、教科のねらいの達成との両軸に立った指導計画を作成していく。 |
| 13. 成果が出た点 | ・鑑賞時に、実物楽器を使った体験活動を組み入れた結果、児童が主体的に地域に伝わる音楽に関わる姿が見られた。<br>・総合的な学習の時間で学んだことや、働かせた見方（ESD レンズ）を活用することができるよう、カリキュラム・マネジメントを行った結果、児童の SDGs との関連を意識した発言をする姿が見られた。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童の反応、感想文、作文、ノートなど） | ① 本題材 2～4 時に記入するようにしたワークシート記述より |

**私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。**

続けていくことでわすれない音楽になり、大人でも子どもでもいっしょにやると仲良くしSDGsの17番につながり、おもしろいから大人も子どもにも人気になって続くと思います。

**私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。**

昔からあったおどりは、それぞれちがっていて、全国に1つの大切な大切なおどりだし、受けつがれている命のように、昔からその地いきにあるおどりで、みんなの心がつながると思います。

**私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。**

私たちが大人になっても、ずっと受けつがれると思うから、昔から伝わる伝統になる。だから音楽の美しさも分かり昔の人々のねがいなどが伝わる。

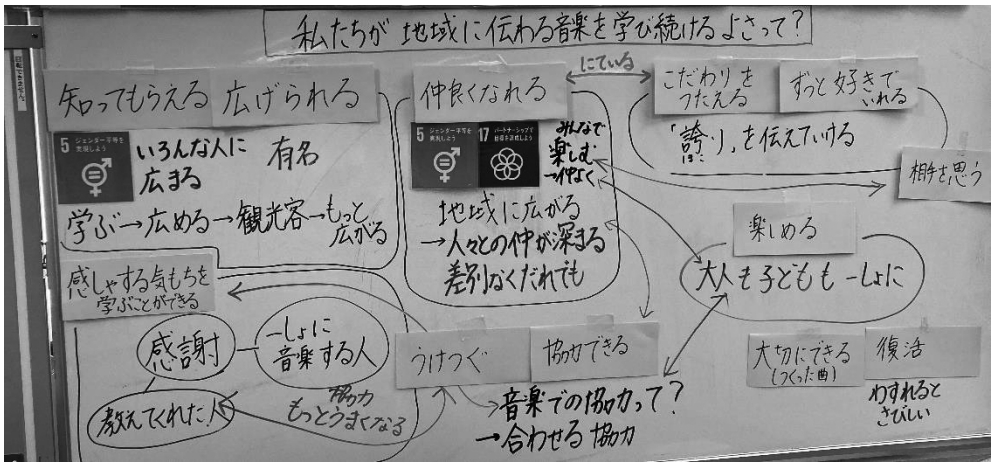
**私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。**

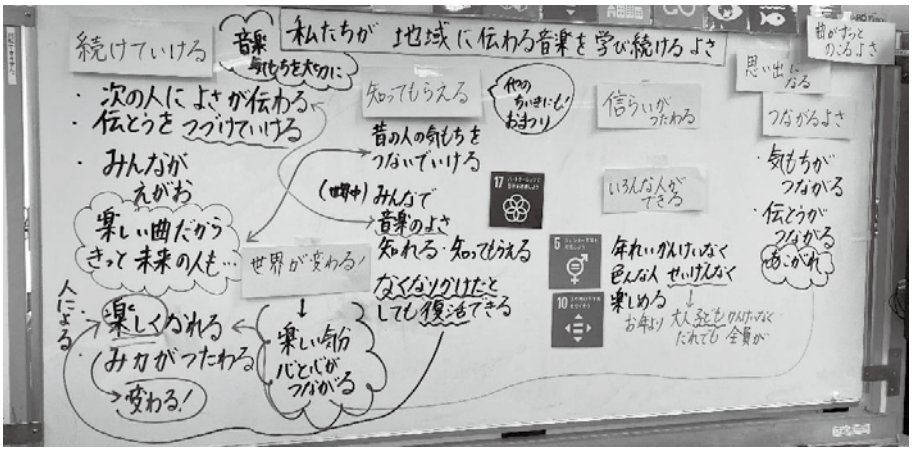
昔のおどりをおどる日を毎年つづけることで作った人のねがいがつたわって昔の人がよろこぶかなと思い、つづけている。相手のことをしっかりみてやることで協力という力がみにつく。

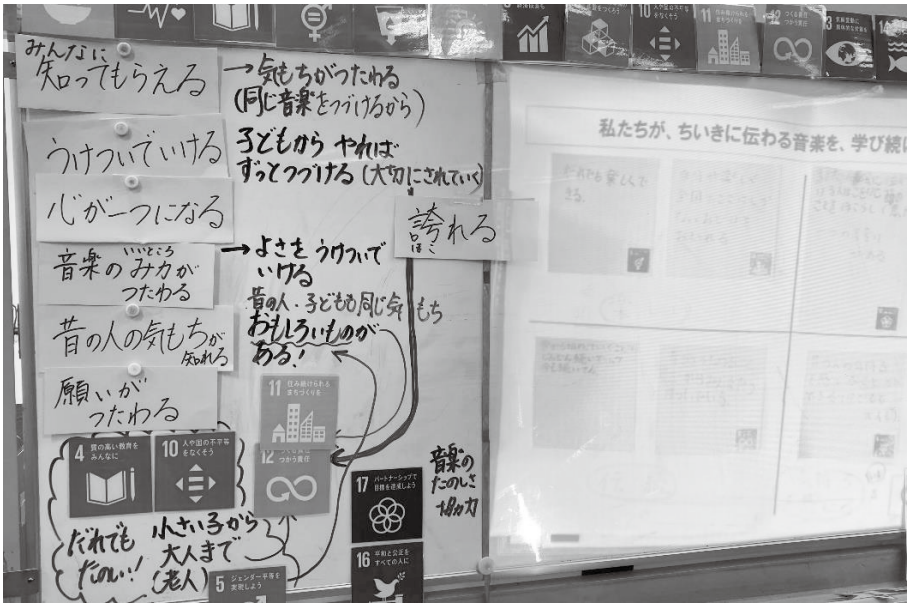
**私たちが、ちいきにつたわる音楽を学び、続けていくことに、どんなよさがあるのだろうか。**

昔の人々がいっしょうけんめい作ってくれたから、これを子どもたちに伝えれば子どもも音楽の楽しさが分かる。自分に教えてくれていた人もよろこぶし他の人たちに広まるかもしれないから。

② 第 4 時　板書（※一部抜粋）






| | |
|---|---|
| 15. 授業者による自由記述 | 私は最初、学習指導要領の基盤でもある「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成について、音楽専科として、教科との親和性の観点からかなり難しくとらえていた。ましてや社会や環境の課題である SDGs について、音楽科とどのように結び付くのか、考えることができないでおり、その答えを探すために本研修に参加した。<br>実践の中で、児童が、民謡や郷土芸能といった、なじみのないものに対して本気で向き合い、思考と思考とを結び付けて考える姿が見られた。さらには、「音楽を学び続けること」と SDGs の目標との関連について自分の考えを話す児童も複数見られた。この姿は、自分が普段通りの題材指導を行っていたら見られなかったものであろう、と感じた。<br>この経験から、児童がレンズを働かせながら、課題を「自分事」として捉えることが、教科における主体的・対話的で深い学びの出発点となるのではないか、ということに気付いた。そして、音楽専科教員だから自分のテリトリーの中での ESD の実践は難しい、という考えから、ESD の実践をすることが、教科の学びを豊かにするという考えに変わっていった。本研修に参加した最大の成果は、このように自分自身の「音楽専科」という立場に対しての見方の変容・捉え直しをすることができた、という点である。<br>今後も、日々の音楽科指導の中で ESD の実践を意識することができるように、授業改善を図るとともに、学んだことを発信し、職場全体で ESD を推進することができるよう、尽力していく。 |

【参考文献】
・「身近な課題の解決に挑む　未来の授業　私たちの SDGs 探究 BOOK」（宣伝会議）
監修：佐藤真久　編集協力：認定 NPO 法人 ETIC
・「スラムにひびくバイオリン」（汐文社）　スーザン・フッド　作
・「地球温暖化、沈みゆく楽園　ツバル」（小学館）　山本敏晴　著

【参考 Web サイト】
・富山県西部観光社　「水と匠」mizutotakumi.jp

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 大平　要 | 学校名 | 八丈町立三根小学校 |
| 担当教科等 | 音楽科 | 対象学年（人数） | ６年（31 名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年９月～２０２１年１月（12 時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域：音楽科（歌唱・音楽づくり・鑑賞）、総合的な学習の時間 | | |
| 2. 単元(活動)名：音楽でつながる、音楽でつなげる　～ここからつたえる、みつねミュージック～ | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：「震災×コロナ　音楽が喪われたあの日から」<br>単元目標：「音楽が喪われた日」から、「音楽によって希望を取り戻した時」まで、希望を取り戻そうとした人々の行動や、生じた人々の思いを通し、自分の音楽表現へとつなげる。<br>（物質的、精神的な　レンズから） | | |
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | ①「ほらね、」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。<br>②各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌っている。<br>③東日本大震災と楽曲における精神的なつながりについて気付いている。<br>④順次進行や音階の特徴を意識して、曲をつくっている。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | ①音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができている。<br>②歌詞や曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもっている。<br>③自分でつくった「コロナ川柳」の言葉に合うように、リズムや旋律を工夫することができている。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | ①「ほらね、」が生まれた背景に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。<br>②震災の「女川中学生の詩」を参考にしながら、「コロナ川柳」の歌詞を考える活動に主体的に取り組もうとしている。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>新型コロナウイルスが日本に猛威を振るいはじめてから、歌唱や器楽の授業ができなくなったり、マスクを用いた音楽の授業が当たり前になったりし、「当たり前にできていた音楽の授業」ができなくなってしまった。マスクをしながら生活をしていることで、少しずつ児童から表情が消えつつあることを危惧している。今回教師海外研修で授業者が震災教育について学び、色々な方の講話を傾聴する中で、震災とコロナにおける音楽科の共通点について、「歌が消えてしまった」ことが挙げられると考えた。前向きな気 | |

持ちで音楽に取り組むために、「歌が消えた」事実だけでなく、音楽によって元気が取り戻されていくことも伝え、今回の授業を通して「音楽のもつ力」を再確認し、前向きに希望をもって自分の意志で表現をしていく力をもつ児童を育てていきたい。

【単元の意義】

本単元で扱う「ほらね、」という楽曲は、東日本大震災をきっかけにして生まれた「歌おうNIPPONプロジェクト」の企画でつくられた楽曲である。被災から歌を歌えなくなってしまったり、辛い思いを未だもっていたりする人々に元気を出してほしいという思いでつくられている。震災について思いをめぐらせる中で、パラグアイの日系人たちによる「豆腐百万丁運動」等、世界各国からの協力があってこそ、今の日本があるということを知り、自分たちと震災、自分たちと世界各国が結びつくこともねらいの一つである。

また、これらの出来事を自分ごと化するために、震災とコロナという「音楽が喪われた」機会を結び付け、女川中学生の詩を参考にしながら、コロナ川柳をつくり、ぴったりの曲をつけることで、自分なりに体験を音にして伝える活動につなげていきたい。

【児童／生徒観】

島嶼部での生活しか経験したことのない児童が約８０％おり、移動教室がはじめての離島経験だった児童もいるような状況である。そのため、あまり外界に興味がある児童が少なく、外国語の授業において「東京都の紹介をしよう」という単元の時には、「八丈島のことしかわからない」という児童が少なからずいた。そのため、外のことを知ること、いろいろな情報を得ること、様々な体験をした人々の話を聞くこと等、多くの情報に触れることを大切にしたい。

【指導観】

音楽という教科を媒体にして、持続可能な社会を目指して生涯学び続ける地球市民としての資質や能力を国際交流を通して児童に身に着けさせたい。

6. 単元計画（全１２時間）　音楽科　１１時間　総合的な学習の時間　１時間

| 時 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|
| 1<br>歌唱 | 音楽がもつ力について考え、自分なりの意見をもつ。 | ○「音楽」にはどんな力があるのか考える。<br>・１学期に鑑賞した「歌劇」「ミュージカル」「ダンスパフォーマンス」を思い出す。<br>・「音楽のもつ力」について、考えたことを記入する。<br>○「ほらね、」について興味・関心をもつ。<br>・「ほらね、」の歌詞を味わう。<br>・「ほらね、」の範唱を聴く。<br>・「ほらね、」の初発の感想をワークシートに記入する。<br>・何人かが、発表・共有する。<br>・主旋律に親しむ。 | 「ほらね、」<br>（歌おう NIPPON プロジェクト）<br> |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2-3<br>歌唱 | 旋律や音の重なりに着目して歌い、曲の構成を捉える。 | ○「ほらね、」の副旋律に親しみ、曲の構成を知る。<br>・主旋律を通して歌う。<br>・各パートの音程を確認しながら、主旋律を意識して歌う。<br>・楽譜に記載されている強弱記号を確認する。<br>・楽曲の流れ、構成について確認する。 | 「ほらね、」<br>（歌おう NIPPON プロジェクト） |
| 4<br>歌唱 | 旋律や音の重なりに着目して歌い、曲の構成を捉える。 | ○「ほらね、」を３声合わせて歌う。<br>・３声のパートに分かれて歌う練習を行う。<br>・音程を確認しながら合わせて歌う。 | 「ほらね、」<br>（歌おう NIPPON プロジェクト） |
| 5<br>鑑賞 | 「ほらね、」が生まれた背景に興味をもつ。 | ○音楽において、震災と現在のコロナ禍における共通点について気付く。<br>・最近の音楽と震災が関わる話題（震災ピアノ）について教師の話を聞く。<br>・東日本大震災（宮城県女川町）について知る。<br>・女川中学校の生徒がつくった詩について知る。<br>・パラグアイと日本の震災時における交流の話や、昨年度教海研参加者の体験談を伝える。<br>・感じたことをワークシートに記入する。 | 女川一中生の句　あの日から（小野智美編・はとり文庫） |
| 6<br>本時<br>鑑賞 | 音楽が喪われてしまった時に、どのようにして音楽を取り戻していったのかを知り、人々を支える音楽の力に気付く。 | ・東日本大震災（福島県南相馬市）について知る。<br>・群青～仮設校舎からの卒業式（動画）を鑑賞する。<br>・東日本大震災がきっかけで生まれた曲（群青）を鑑賞する。<br>・感じたことをワークシートに記入する。<br>○「ほらね、」がつくられた背景について理解する。<br>・「歌おう！NIPPON」プロジェクトについて知り、震災中に音楽を通して日本を元気づけようという動きがあったことを知る。<br>・リモート版の「ほらね、」を鑑賞する。<br>・「ほらね、」をどのように歌いたいか、思いを記入する。<br>・現時点でも思いを込めて「ほらね、」を歌唱する。 | 群青～仮設校舎からの卒業式（動画）<br><br>動画「ほらね、」<br>https://www.youtube.com/watch?v=vt5z0ucD6VM |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7<br>総合 | 東日本大震災にて、日本に援助をしてくれたパラグアイについて、実際に現地で生活していた人から話を聞き、異文化について理解する。 | ・菅原富美さん（JICA 海外協力隊経験者）のパラグアイについての講話を聞く。<br>・疑問に思ったことを質問する。<br>・現地の楽器「アルパ」の生演奏を聴く。 | |
| 8-9<br>音楽づくり | 順次進行を意識した旋律づくりを通して、条件にのっとった音楽をつくる喜びを味わう。 | ○コロナ川柳をつくり、文字に合わせて旋律を合わせる。<br>・コロナ中心の生活について川柳をつくる。<br>・順次進行を意識し、リズムと音程を言葉に合わせる。<br>・つくった旋律を演奏してみる。 | 女川一中生の句　あの日から（小野智美編・はとり文庫） |
| 10<br>音楽づくり<br>鑑賞 | 音楽がもつ力について気付き、自分なりの考えをもって表現に生かしていく。 | ○自作川柳の音楽発表会をする。<br>・各自練習をする。<br>・試行錯誤をしながら、旋律を作り変えたり、工夫したりする。<br>・グループごとに発表会をする。<br>○エストニアの事例を鑑賞し、音楽が演奏できないもどかしさをもった人々の例を知る。<br>・エストニアの音楽祭の映像を見る。<br>・ワークシートに記入する。<br>○「音楽のもつ力」について考える。<br>・「音楽のもつ力」について、考えたことを記入する。 | 女川一中生の句　あの日から（小野智美編・はとり文庫）<br><br>エストニア音楽祭の映像（個人所有） |
| 11<br>歌唱 | 歌詞や曲想から、表現を工夫し、どのように表現するか思いや意図をもつ。 | ○前回までの授業を通して、「ほらね、」をどのように演奏したらよいか考える。<br>・「ほらね、」を通して歌唱する。<br>・グループごとに歌詞や曲想から、「ほらね、」をどのように歌うか考える。（重要ポイント探し）<br>・グループごとの工夫を発表し、全体で歌って試してみる。 | 「ほらね、」<br>（歌おう NIPPON プロジェクト） |
| 12<br>歌唱 | 歌詞や曲想から、表現を工夫し、どのように表現するか思いや意図をもつ。 | ○「ほらね、」の表現を学級全員で考え、演奏の工夫を全体でまとめる。<br>・それぞれの工夫したいポイントを拡大譜に貼り付けていく。<br>・練習番号ごとに歌い、録音したものを全体で鑑賞する。 | 「ほらね、」<br>（歌おう NIPPON プロジェクト） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・気付いたことを発表し、演奏を調整していく。<br>・最後に学級で決めた表現を確認し、まとめの演奏をする。 | |

7. 本時の展開（6時間目）

本時のねらい：音楽が喪われてしまった時に、どのようにして音楽を取り戻していったのかを知り、人々を支える音楽の力に気付く。

| 過程・時間 | 発問および学習活動 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（10分） | ・発声練習を行う。 | | |
| | 「ほらね、」の背景になった、東日本大震災について理解を深め、「ほらね、」の音楽表現につなげよう | | |
| | ・東日本大震災（福島県南相馬市）について知る。 | 実際に写真を見せながら、地震と原発の問題、小高中学校について説明する。 | 福島県南相馬市の写真 |
| 展開<br>（30分） | ・群青～仮設校舎からの卒業式（動画）を鑑賞する。 | 動画をただ見るだけにならないよう、適宜解説を入れる。 | 群青～仮設校舎からの卒業式（動画） |
| | ・東日本大震災がきっかけで生まれた曲（群青）を鑑賞する。<br>・感じたことをワークシートに記入する。 | 演奏者の心情、作詞者の心情に意識して鑑賞させる。 | 合唱曲「群青」 |
| | ○「ほらね、」がつくられた背景について理解する。<br>・「歌おう！NIPPON」プロジェクトについて知り、震災中に音楽を通して日本を元気づけようという動きがあったことを知る。 | 同時に「花は咲くプロジェクト」等、多くの取組について伝える。 | |
| | ・歌が歌えなくなった、コロナ禍でオンラインで大勢が演奏した「ほらね、」を鑑賞する。<br>・「ほらね、」をどのように歌いたいか、思いを記入する。 | コロナ禍と震災時、どちらも音楽によって日本中、そして世界とつながっていることを確認する。 | |
| まとめ<br>（5分） | ・現時点でも思いを込めて「ほらね、」を歌唱する。 | 歌っている途中で、声掛けや支援は極力行わない。 | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

以下の観点に基づき評価する

①知識及び技能：③東日本大震災と楽曲における精神的なつながりについて気付いている。

→ワークシートへの記述や発言によって評価する。前時及び本時の内容をもとに、東日本大震災と楽曲を結び付け、なおかつ自分の意見を記入できていればA, いずれかできてB, いずれもできないC

【SDGｓ関連項目　11住み続けられるまちづくりを　17パートナーシップで目標を達成しよう】

②思考力、判断力、表現力：本時では評価しない。本時の内容をもとに次時で取り扱う。

③学びに向かう力、人間性：①「ほらね、」が生まれた背景に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

→ワークシートへの記述や発言によって評価する。本時の内容に基づいて、客観的な事実と自分の思いを記入できていればA、自分の思いだけならばB、「感動した」など内容が具体的ではないものはC

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】

・歌唱指導（歌詞の読み込み、旋律に親しむ、ハーモニーを楽しむ）

・鑑賞指導（気付いたことの記述、感じたことの記述）

・音楽づくり（想起したことを言語化し、そこに音程とリズムを重ねる）

【外部との連携】

・JICA海外協力隊経験者（パラグアイ）を外部講師としてお呼びしての講演会の開催。震災×コロナだけではなく、国際理解の視点を取り入れる。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

・上記JICA海外協力隊経験者の講演会に、保護者をお呼びする。

・掲示物の工夫（国際理解コーナー）

・OJTの実施（教師海外研修で学んだこと、実践の報告）

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 音楽と他の要素を結び付ける際、授業中に音楽に触れる時間が減ってしまう。そのため、他教科との関連等を考えたが、どうしても無理やり他教科を巻き込む形になりそうだったので、工夫して音楽の中で国際理解や震災教育の要素を盛り込んだ。また、コロナウイルス禍において歌唱の授業や器楽の一部の授業が行えないことにより、最後まで授業を行うことが困難になってしまった。 |
| 12. 改善点 | 音楽科を柱にしながら、家庭科や生活科、総合的な学習の時間とうまく関わらせながら、計画を立てていくと一面的なものの見方だけではなく、児童の考え方が深まる時間になっていくと考える。また、映像資料に関しては、自分が知っているものを中心に選んでしまったが、生の教材を実地に探しに行ったり、もっと見識を広げることで取り組める授業の中身はさらに広がると考える。 |
| 13. 成果が出た点 | 歌唱表現に深みが出た。工夫して歌いたい場所を児童が積極的に挙げ、曲想からも歌詞からも、思いを込めて歌うことにつながった。また、関連があるかは不明確ではあるが、外国語科の授業への取組も真剣さが増し、外国について興味をもつ児童が増えた。<br>また、出前授業でのパラグアイについての講演とアルパの演奏では、豆腐百万丁運動の話を聞いていた６年生は、しっかりと傾聴しており、生の民族楽器に興味を抱いていた。<br>結果として、「音楽が喪われた」という状態に戻ってはしまったが、児童が歌いたいという思いを強くもっていることが分かったことは、大きな成果であった。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | 被災地の現状や中学生の俳句を紹介した時には、思わず息を飲む児童や「こんなことがあったなんて思いもしなかった」という意見をワークシートに書く児童がみられた。また、パラグアイの豆腐百万丁運動の話を伝えた際には、「遠く離れた地から日本に支援をしてくれるなんて、誰にでもできることではない」という意見が出て、後日パラグアイに関わる方法はないかという発言もみられた。<br>また、コロナ川柳において「負けない」「力をこめて」等の言葉が出たことで、今の状況に打ち勝とうという強い思いを感じた。旋律づくりでも「これから先に希望が出る感じだから明るい終わり方にしたい」等の書き込みがあった。 |
| 15. 授業者による自由記述 | コロナ禍において音楽の授業は制限され、なかなかできることが少ない現状にある。その中で子供たちは、歌や合奏などに思いをめぐらせ、何の制限もなく活動ができることの素晴らしさを再認識できたのではないかと思う。今回、東日本大震災とそれを支える諸外国の動きについて新しく知り、そして支えてくださった国について現地で生活した人から知識を得て、どこの国でも音楽によって通じ合えることを学ぶことができた。子供たちからは、「コロナで困っている今こそ、他の国の情報も知りたい」という意見が出て、世界の動向に興味をもつ児童も出てきた。今後様々な活動において、グローカルな視点をもって取り組んでいきたいと考えている。 |

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 増田　有貴 | 学校名 | 新潟県村上市立荒川中学校 |
| 担当教科等 | 英語 | 対象学年（人数） | １学年（７２名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2020 年９月　　～　2021 年２月 | |

【実践概要】

**1. 実践する教科・領域**：総合的な学習の時間、道徳

**2. 単元名**：「地域から発信！SDGsの視点で、グローカルな生き方を学ぼう
～持続可能でレジリエントな社会を目指すには？～」

**3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標**

**授業テーマ**：「持続可能でレジリエントな社会を考える」

**単元目標**

(1) SDGsの学習を通して、諸外国と日本、さらには自分とのつながりを実感し、地域や世界についての課題意識をもつ。（知識及び技能）
(2) 様々な課題解決の事例やインタビュー等から、持続可能でレジリエントな社会のあり方を考え、それを自分の言葉で表現することを通し、他者に働きかけるための発信力を高める。（思考力、判断力、表現力）
(3) SDGsやレジリエンスの学びを自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考えたりする。（学びに向かう力）

**関連する学習指導要領上の目標**：

- 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。（総合的な学習の時間）
- [国際理解，国際貢献]世界の中の日本人としての自覚をもち，他国を尊重し，国際的視野に立って，世界の平和と人類の発展に寄与すること。（道徳）

| | | |
|---|---|---|
| **4. 単元の評価規準** | **①知識及び技能** | ● 国際協力の学習、新潟巡検を通して学んだ知識やその意義等について、SDGs を視点として自分の言葉でまとめることができる。 |
| | **②思考力、判断力、表現力等** | ● 様々な課題解決の事例やインタビュー等から、持続可能でレジリエントな社会のあり方を考え、それを自分の言葉で表現することを通し、他者に働きかける発信ができる。 |
| | **③学びに向かう力、人間性等** | ● SDGs やレジリエンスの学びを自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考えたりしている。<br>● 追及したい分野について、積極的に他者とコミュニケーションを取ったり、調べたりして深めようとしている。<br>● レポートやプレゼン作成の過程で、何度も推敲しながら論理的で相手に伝わるような発信を目指している。 |

| | |
|---|---|
| **5. 単元設定の理由・単元の意義**<br>**（児童／生徒観、教材観、指導観）** | 【単元設定の理由】<br>2020年は世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、未曽有の経済危機に瀕した。近年は自然災害も頻発している。VUCAの時代といわれている今、SDGsの達成を現実的にするには、「これからありうる社会」を想定し、対応していく必要がある。そこで「持続可能性」と「レジリエンス」を総合的な学習の時間の視点の核とし、単元のテーマを「新潟から発信！SDGsの視点で、グローカルな生き方を学ぼう～持続可能でレジリエントな社会を目指すには？～」と設定した。<br><br>【単元の意義】<br>本単元では、震災被災者の想いや国際協力の学び、県内でSDGsに取り組む方々へのインタビュー活動を通し、生徒自信が「持続可能でレジリエンスな社会づくりに大切なことは？」という問いに５ヶ月間向き合う。中学1年生にとって難しい問いであると予想されるが、正解のない問にと共に生きる逞しさ、しなやかさを育みたい。また、インタビュー活動では大人と交流する場面がある。そのような経験も踏まえた本単元での学びが探究活動の土台となり、2年目、3年目は生徒自身で自走できるようになってほしいと願う。そのために視点や視座を高め、多様な他者とコミュニケーションをとりながら学びを深め、他者に働きかける発信力を高めるための1年としたい。以上のことをふまえた単元デザインとした。<br>【児童／生徒観】<br>１学年の生徒数は72名。小学校の総合的な学習の時間では、地域資源や水害の歴史、環境に関する地域学習、発信活動の経験がある。生徒は１学期から総合的な学習の時間にとても意欲的に参加し、学びを深めている。6月にSDGsを導入した際は、自主学習ノートに調べた内容をまとめた生徒が複数いるほど、世界の問題に関心が高い。一方で、学びを自分の言葉で言語化したり論理立てて記述したりすることが苦手な生徒が多い。そのため、本単元ではアウトプットの場を段階的に設定し、生徒の発信力を高めることに重きを置くこととした。また、他者に発信し意見交流をする中で自身の考えを整理・再考させるねらいがある。<br>【指導観】<br>前半は「レジリエンス」に繋がる概念を道徳の授業で導入した上で、国際協力の事例からイメージを掴み、地域資源との関連を考えながら自分の足元へと視点を移していく。単元のメインであるオンライン新潟巡検では、班の探究テーマをもとに県内で活動する方々にインタビューをすることで、身近な取組が広い世界の課題解決に繋がることを学ぶ。最後にアウトプットを通して、学びを整理し、他者へ働きかけるプレゼンを行う。１年間の学びの軌跡を生徒が確認できるよう、学年の廊下の掲示物は全て総合関係とした。また、ワークシートの記述から見える生徒の変容等を丁寧に見取り、一人ひとりにコメントを返すことで誰一人取り残さない授業を心がけた。 |

6. 単元計画（全 26 時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| １学期【総合時間】 | (1) SDGs を視点に、2030 年の世界と地域を考える。<br>(2) 中学生にできる地域貢献×SDGs を考える。<br>(3) SDGs を視点に、地域の課題を見直す。（外部連携）<br>(4) 地域貢献活動に参加する（地域の特産品であるラベンダー園の整備作業）。 | | | (1)～(4)の学びをレポートにまとめる |
| 1<br>本時① | 【道徳】<br>つながる想い | ● 東日本大震災の被災者に思いを馳せることで、普段の日常が当たり前ではないこと、予測のつかない事態が起こりうる世界に生きていることに向き合う。<br>● 国籍や住んでいる場所など関係なく、お互いに助け合うことの大切さに気づき、他者貢献・国際貢献をしようとする意欲をもつ。 | ● 写真をもとに東日本大震災の被害状況を振り返り、俳句を読んだ女川中学校の生徒の心情に思いを馳せる。<br>● 震災後の世界中からの支援を知り、相互支援の在り方を考える。（パラグアイからの豆腐 100 万丁プロジェクト）<br>● 全国各地、そして世界の国々から俳句の下の句を紡ぐ取り組みが行われたことを知り、この「想いを紡ぐ取組」がどのような結果をもたらしたか、考える。<br>● 自然災害や新型ウイルス感染症などの諸問題がこれからも世界中で起こりうる状況の中で、「これから自分はどのように生きていきたいか」考える。 | ● 『みあげれば　がれきの上に　こいのぼり』山中勉（日本宇宙フォーラム）<br>● 2019 年教師海外研修で撮影したパラグアイのラパス日本人学校での授業写真<br>● 2019 年教師海外研修参加の鈴木航太先生と玉腰朱里先生からのメッセージ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 【総合学習】レジリエントな社会を考えよう | ●現在、不確実な時代を生きていることを認識するとともに、国際協力の事例から、レジリエントな社会づくりに大切なことについて考えをもつ。 | ●昨今のグローバルイシュー、COVID19、地域の課題等がある中で、 SDGs 達成のためには「ありうる社会」にも対応していく必要があることを押さえ、そのために「持続可能で竹のように強くしなやかな社会（レジリエントな社会）」を目指していくことを確認する。<br>●丸森町とザンビアの草の根技術協力を事例として、「竹のように強くしなやかな社会（レジリエントな社会）に大切なこと」についてグループで考え、画用紙にまとめる。ワールドカフェ方式で共有する。 | ●丸森町とザンビアの草の根技術協力に関する写真、新聞記事、当事者の声 |
| 3 | 【総合学習】地域の魅力や強みから、レジリエントな社会を考えよう | ●地域資源を理解し、レジリエントな社会にどのように繋がるか、考えをもつ。 | ●グループごとに、レジリエントな社会作りにつながる地域の強みや魅力（地域資源）を書き出す。<br>●地域の強みや魅力がどのようにレジリエントな社会に繋がるか考え、画用紙にまとめる。(①レジリエントな地域、②レジリエントな個人、③レジリエントな国)<br>●ワールドカフェ方式で共有する。<br>●レジリエントな社会作りについて地元企業を例にイメージをもち「新潟巡検×SDGs」に繋げる。 | ●株式会社　開成の循環型農業の例 (https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokusan/recycle/h25_02/pdf/doc2_2.pdf) |
| 4<br>｜<br>9 | 【総合学習】ｵﾝﾗｲﾝ新潟巡検×SDGs［事前学習］ | ● 探究テーマをもとに、SDGs の視点で調べ学習を行い、疑問を明確にした上で、自分の言葉でｵﾝﾗｲﾝ新潟巡検の目的を語ることができる。 | ● 班ごとに探究テーマを選択する。<br>● インタビュー先の調べ学習を通して、SDGs との関連や探究テーマに関する疑問を明確にする。<br>● 事前学習合同発表会の場において、他の班員にｵﾝﾗｲﾝ新潟巡検の目的を自分の言葉で語り、意見交換をする。 | |
| 10 | 【総合学習】ｵﾝﾗｲﾝ新潟巡検×SDGs［ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ活動本番］ | ● インタビュー活動を通して、SDGs を実践する方々から世界や地域の諸問題を解決するための取組や考え方を学ぶことで、「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を考える。 | インタビュー活動を通して「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を考える。<br>【各班の探求テーマ】<br>「電気自動車を活用した地域 SDGs の取組とは?」「地域の再生可能エネルギーで地球温暖化 STOP!」「持続可能な社会づくりのための銀行の役割とは?」「SDGs×スーパーの取組とは?」「島の大自然や人の温かさをたっぷり詰め込んだゲストハウスの魅力とは?」「世界農業遺産に指定された地域が目指すものとは?」「新聞社×SDGs～「地方創生プラットフォーム　SDGs にいがた」が目指すこと～」「SDGs×循環×地域の特産物「バナナ」とは?」「日本初!米を原料としたバイオマスプラスチックとは?」「SDGs 未来都市の取組とは?」「外国からの持続可能な原料調達と製紙業」「村上市で南国フルーツがとれる理由は?～地域資源を活かした循環型農業～」「地球や人に優しい消費のあり方とは?水・食・エネルギー×SDGs」「人と街と地球にやさしい家づくりとは?」「SDGs に本気で取り組むコーヒー店の魅力とは?」「テクノロジー×大学×SDGs で世界の課題解決へ!」「水辺からはじまる生態系ネットワーク」 | |
| 11<br>｜<br>16 | 【総合学習】ｵﾝﾗｲﾝ新潟巡検×SDGs［事後学習］ | ● 新潟巡検での学びを整理しながら、「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を自分の言葉で表現し、自身の行動につなげるレポートを作成する。 | ●新潟巡検での学びを文章記述し、振り返りレポートを作成する。(①考えたこと、興味をもったこと、もっと調べてみたいと思ったこと、②一番心に残ったこと、心に響いた一言、③SDGs との繋がり、持続可能な社会やレジリエントな社会づくりに大切なこと、④これから自分が周りの人と協力して取り組んでいきたいこと、⑤担当者の方へメッセージ)<br>●振り返りレポート内容を元に礼状を作成する。<br>●右記の項目に沿ってまとめレポート作成する。 | ① 自分の問題意識、関心ごと、テーマを選んだ動機、等<br>② インタビュー先の事業についてどんな取組をしているか。関連する SDGs<br>③ 質問に対する回答<br>④ 新潟巡検で特に心に響いた言葉（担当者のメッセージ<br>**⑤ 持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと**<br>**⑥ 「持続可能でレジリエントな社会づくり」や「SDGs の達成」を目指して、自分が取り組みたいこと**<br>⑦ 新潟巡検を終えた感想、読み手・聞き手へのコアメッセージ |
| 17<br>｜<br>26 | 【総合学習】ｵﾝﾗｲﾝ新潟巡検×SDGs［ﾌﾟﾚｾﾞﾝ大会］ | ● 新潟巡検での学びから「持続可能でレジリエントな社会づくりに大切なこと」を考え、他者貢献する | ● レポートを使用し、４分間プレゼン大会の準備・練習を行う。<br>● プレゼン大会（テーマの異なる６人グループで発表する。メンバーを変えて２回行う）<br>● 代表者プレゼン（学年の代表者８名のプレゼ | |

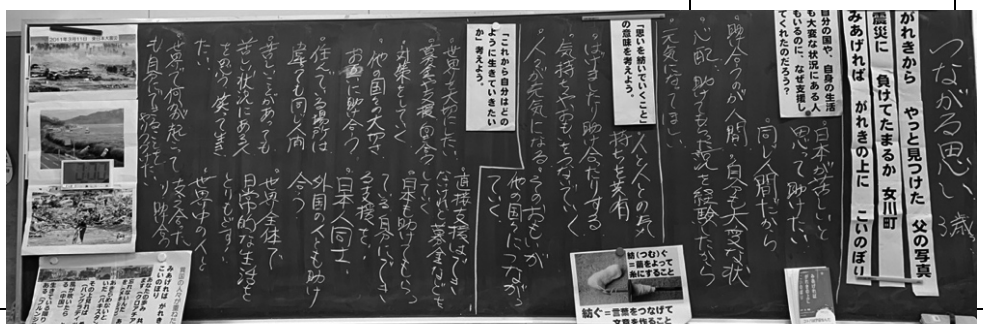
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ような論理立てたプレゼンを行う。 | ンから学ぶ。）<br>● 阿賀町立三川中学校とｵﾝﾗｲﾝ合同発表会 | |

7. 本時の展開（１時間目）

本時のねらい：

- 東日本大震災の被災者に思いを馳せることで、普段の日常が当たり前ではないこと、予測のつかない事態が起こりうる世界に生きていることに向き合う。
- 国籍や住んでいる場所など関係なく、お互いに助け合うことの大切さに気づき、他者貢献・国際貢献をしようとする意欲をもつ。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | ● 女川中学校の俳句を読み、「誰が」「どんな状況で詠んだ俳句か」想像する。<br>「みあげれば　がれきの上に　こいのぼり」「がれきから　やっと見つけた　父の写真」「震災に　負けてたまるか　女川町」<br>発問１「どんな人が、いつ、どんな思いで書いた俳句だろう？」 | ● 生徒の呟きを板書する。 | ● 『みあげれば　がれきの上に　こいのぼり』山中勉（日本宇宙フォーラム） |
| 展開<br>（30分） | ● 写真をもとに震災の被害状況を振り返り、俳句を読んだ女川中学校の生徒の心情に思いを馳せる。<br>● 震災後の世界中からの支援を知り、相互支援の在り方を考える。（パラグアイからの豆腐 100 万丁プロジェクトの紹介）【他者貢献、国際貢献への意欲】<br>発問②「自国や、自分の生活も大変な状況にある人もいるのに、なぜ支援してくれたのか？」<br>● 全国各地、そして世界の国々から俳句の下の句を紡ぐ取り組みが行われたことを知り、この「想いを紡ぐ取組」がどのような結果をもたらしたか、考える。【空間を超えて思いがつながる、共助の精神】<br>発問③「思いを紡いでいくことの意味を考えよう」<br>● 2019 年の教師海外研修で、パラグアイのラ・パス日本語学校を訪れた鈴木航太先生と玉腰朱里先生の授業を知る。<br>● ラ・パス日本語学校の生徒が書いた感想を読み、どんな思いで書いたのかを考える。「（豆腐 100 万丁プロジェクトについて）助けてくれてありがとうと思った」<br>発問④日本語学校の生徒が書いた「『助けてくれてありがとう』にはどんな思いが込められている？」 | ● 生徒の発言を拾いながら、関連するエピソードを紹介する。<br>① 過年度参加者の高田裕行先生の経験談「福島県民でさえ、県外に避難する人が多かったのに多くの外国人がボランティアに来てくれた」<br>② 2016 年に教師海外研修でタイのクロントイスラムを訪れたこと、そこで震災後行われた街頭募金についても紹介。<br>③ 「日本が色々な国に支援したから」という発言を聞いて、モルディブのスマトラ沖地震のときの恩返しの話を付け足した。<br>④ 鈴木航太先生と玉腰朱里先生からのメッセージを紹介 | ● 福島民報(2011/5/19) パラグアイ移民栽培の大豆原料豆腐 100 万丁被災地へ<br>● 2019 年教師海外研修で撮影したパラグアイのラパス日本人学校での授業写真 |
| まとめ<br>（15分） | 発問⑤自然災害や新型ウイルス感染症などの諸問題がこれからも世界中で起こりうる状況の中で、「これから自分はどのように生きていきたいか」<br>● 「授業を通して考えたこと」を記述する。 | ● より多くの生徒の声を拾い、板書する。 | |



8. 評価規準に基づく本時の評価方法

● 予測のつかない事態が起こりうる世界に生きていることを認識し、それをふまえた上で、「今後の自分の生き方」を考えることができる。【ワークシートの記述発問⑤】

● 国籍や住んでいる場所など関係なく、お互いに助け合うことの大切さに気づき、他者貢献・国際貢献をしようとする意欲をもつ。【ワークシートの記述発問②、感想】

9. 学習方法及び外部との連携

● 過年度参加者からのメッセージ（1時間目　道徳授業）

2016年度教師海外研修参加　高田裕行先生、2019年度教師海外研修参加　鈴木航太先生、玉腰朱里先生

● オンライン新潟巡検×SDGsでお世話になった企業、団体、大学　様

新潟国際情報大学 様、新潟スワンエナジー株式会社 様、第四銀行 様、原信ナルスオペレーションサービス株式会社 様、粟島ゲストハウス　おむすびのいえ 様、トキとの共生をめざす米つくりを行う農業従事者、新潟日報社 様、シモダ産業株式会社 様、株式会社バイオマスレジン南魚沼 様、見附市（SDGs未来都市）様、北越コーポレーション株式会社 様、株式会社　開成 様、フェアトレード推進委員会 様、株式会社テクノシステム 様、株式会社ナレッジライフ 様、株式会社 鈴木コーヒー 様、長岡技術科学大学 様、水の駅「ビュー福島潟」様

● オンライン合同発表会でお世話になった　阿賀町立三川中学校　中村太郎先生、1学年生徒の皆様

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

**●SDGsコーナーの設置**

教室近くのラウンジに、SDGsに関連する資料や書籍、JICA発行の資料等を置き、誰でも気軽に手に取れるようにしている。

**●廊下掲示物の充実**

担当する1学年廊下の掲示物を全て総合学習に関連するものを掲示している。学びの軌跡を掲示することで生徒の振り返りの機会になると共に、他学年の職員の目に触れるようにし横断的な教科指導に繋げてもらうためである。

**●国際理解教育プレゼンテーションへの参加**

有志生徒を募り、「『食から考える『世界』と『あしもと』」、「竹のように…！」をテーマに2チームが出場した。9月～12月の間、生徒が主体となり、アフリカへの募金活動やフードドライブ、SDGsアクションの呼びかけなど全校生徒を巻き込んだ活動を行なった。

**●授業実践データの共有**

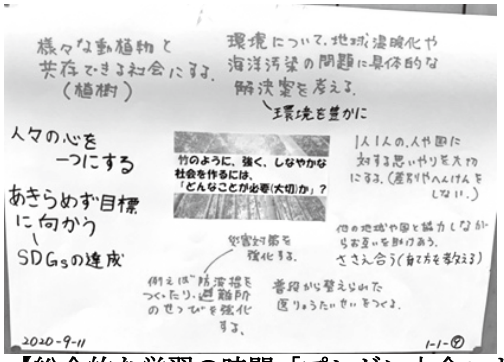
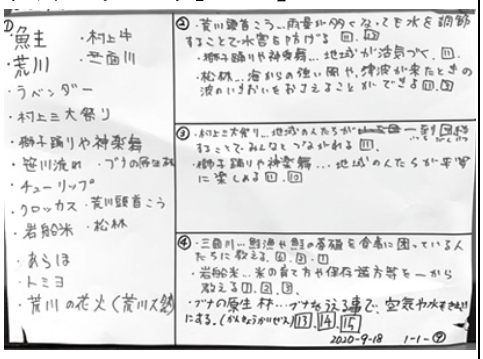
2019年より、希望があった学校内外の職員・友人に、授業で使用したPPT、ワークシート、資料等のデータを共有している。

**●校外での授業実践発表**

2020年11月15日　英語授業研究学会・関東支部 第26回 秋季研究大会　実践発表
2020年11月19日　長岡市三島郡進路指導キャリア教育協議会研修会　実践発表
2021年　2月　2日　長岡市立大島中学校職員研修講師
2021年　2月18日　長岡技術科学大学・長岡工業高等校専門学校SDGs講演会　実践発表

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 「『レジリエンス』をどのように生徒や学年部の職員にイメージ・定着させ、授業展開していくか」が1番の課題で、手探りの中でのスタートだった。本時の道徳授業がレジリエンスの入り口になったことは生徒にとって理解しやすかったようで、次の授業では「防災」を視点にレジリエンスのイメージマップを作成する生徒の姿が見られた。それを3時間目に「国のレジリエンス」「地域のレジリエンス」「個人のレジリエンス」と発展させたかったが、時間も限られておりあまり深められずに終えてしまった。最後に行ったプレゼンの原稿を読むと、「持続可能でレジリエントな社会づくりのあり方」について、単元前半の内容との関連が薄まってしまったことから、「持続可能性」と「レジリエンス」を軸として単元を貫くことの難しさを感じた。 |
| 12. 改善点 | 「レジリエンス」を「竹のように強くしなやかであること」と生徒にイメージをもたせたが、「実際にそのような『国』『地域』『個人』とはどのような状態か」、「何が必要か」、議論する時間を設けるとよい。生徒だけだとアイデアが偏りがちなので、学校職員や地域の大人、新潟巡検の担当者等と議論すると、より考えの広がりがあり面白い。「レジリエンス」「持続可能性」は今後も探究活動の主軸として継続して取り扱っていく。 |

| | |
|---|---|
| 13. 成果が出た点 | 生徒が県内で活躍する大人と直接繋がり、SDGs を視点に踏み込んだ話題について学べたこと、生徒自身の解釈で「持続可能性」や「レジリエンス」を捉え、多分野に渡るテーマで探究した他者と共有したことは、生徒の視点・視座を高め、今後のライフキャリアに繋がる深い学びとなったと考える。また、インタビュー対象が県内の事業所であることから、生徒が郷土に愛着をもちながら主体的に学び、身近にある様々な諸問題を自分ごととして捉えられる実践となった。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | **【道徳授業「つながる想い」より】**<br>「自然災害や、新型ウイルス感染症などの諸問題が、これからも世界中で起こりうる状況の中で、『これから自分はどのように生きていきたいか』考えよう」<br>●自分ができることを精一杯行う。●自分のことばかりではなく周りの人のことも考えていきたい。●備えをしっかりする。●国内や海外で災害があった際、ボランティアや募金活動に携わりたい。●自分が住んでいる地域、国のことじゃないから関係ない、と考えず、同じ地球に住んでいる人だから、自分のこととして、自分も同じ状況だったら、と考える。●日本人同士、外国の人とも助け合う。国を超えて手を取り合う。<br>**【総合的な学習の時間「レジリエントな社会を考えよう」より】**<br>  <br><br>**【総合的な学習の時間「地域の強みや魅力からレジリエントな社会を考えよう」より】**<br>  <br><br>**【総合的な学習の時間「プレゼン大会」より】**<br>生徒は持続可能性やレジリエンスについて「既存のものの価値付けと活用」「資源の備蓄と災害への備え」「多様な他者との協力」「長期的なゴール設定」など様々な視点で語ることができた。<br>**【総合的な学習の時間「１年間の振り返り」より】**<br>● 自分の考えを伝え合うと、自分にはない新しい視点を取り入れることができた。思ったより SDGs に取り組む企業が多い。SDGs について調べていくと普段気が付かない課題や問題のも気づけて、その対策を考えるきっかけにもなった。みんなが言っていた「一人一人できることをやる」中学生にもできて、少しでもやるだけで地球のためになるので行っていきたい。<br>● 物事に対する見方が変わった。多方面から見て、自分の考えをもてるようになったのは大きな成長。一見便利なものでも、本当は環境によくなかったりするかもしれない。そういうことを考えたり、疑問をもつことができるようになった。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 国内研修を通し「防災」や「多文化共生」等、国内にいながらグローバルな視点で多くの知見を得ることができ貴重な学びとなった。授業づくりに行き詰まった際、過年度を含む教海研参加者に気軽に相談できるネットワークがあることが大変心強かった。コロナ禍でオンライン授業へのハードルが一気に下がり、様々なツールが使用可能となった今、外部組織との連携はもちろん、教海研の繋がりを活かし、校種や地域、国を越えた交流が実現できることが非常に楽しみである。研修中やバスの移動中に交わされた熱い議論や、ワクワクが止まらない自主研修では、参加者の皆様から多くの刺激をいただいた。あの時感じた熱量を忘れず、今後も実践を重ねていきたい。JICA 関係者の皆様、大変充実した研修をありがとうございました。 |

参考資料：
●『みあげれば　がれきの上に　こいのぼり』山中勉（日本宇宙フォーラム）
●『レジリエンスとは何か　何があっても折れないこころ、暮らし、地域、社会をつくる』枝廣淳子（東洋経済新報社）
●地域創生プラットフォームにいがた(https://sdgs-niigata.net)

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 中村　太郎 | 学校名 | 新潟県阿賀町立三川中学校 |
| 担当教科等 | 社会科 | 対象学年（人数） | 中学１年（１５名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年１２月～２０２１年３月（１５時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間

2. 単元(活動)名：**SDGs　×　地域づくり　×　キャリア教育**

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：**持続可能な地域づくり（新潟県阿賀町）**

単元目標：**私たちがくらす阿賀町の魅力を理解するとともに、地域の抱える課題を明確にし、持続可能な地域（SDGs：１１　住み続けられるまちづくりを）とはなにかを考える。**

ねらい：

1. SDGs（持続可能な開発目標）を実践しながら世界や地域の諸問題を解決するために活躍する人々の生き方や考え方を知り、自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考えることができる。
2. 阿賀町三川地区や新潟県について理解を深め、地域の魅力を認識したり、自分にできる貢献活動を考えたりすることで、郷土愛を育む。
3. SDGs や国際協力の学習を通して、諸外国と日本、さらには自分とのつながりを実感し、地域や世界についての課題意識をもつ。
4. 地域おこし協力隊や地域住民、地域で働く人々、他地域とのかかわりの中で、新たな視点で地域を見つめ、課題を発見し、探究する力を養う。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | SDGs を実践しながら世界や地域の諸問題を解決するために活躍する人々の生き方や考え方を知り、自らの行動に活かしたり、自分ができる社会貢献について考える。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | SDGs の理解を深め、地域の魅力を認識したり、自分にできる貢献活動を考え、発信していくことができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 様々なかかわりの中で、新たな視点で地域を見つめ、課題を発見し、探究する力を持つことができる。 |

**5. 単元設定の理由・単元の意義**

（児童／生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由】

総合的な学習の時間を≪他者とかかわること≫で、地域の魅力を認識し、郷土愛を育んでほしい。そして、地域の魅力を発信することで生徒が「無価値」だと思い込んでいたことは「価値」あるものなのだと実感し、更なる探究につなげていきたいと考え、本単元を設定した。

【単元の意義】

≪他者とのかかわり≫によって、自分の地域に価値を見出したうえで、「阿賀町（三川・阿賀の里など）を持続可能な地域としてどのようにしていくべきか？」という問いを投げかける。その問いを考えるうえで、SDGs（持続可能な開発目標）と今回の活動を意味付けることで、「自分たちの地域貢献活動はつながっている」と実感し、社会を作る主体であるという意識をもたせていくことができると考える。

【児童／生徒観】

三川中学校の生徒は自分の地域にどこか「価値がない」と思い込んでいるような様子が見受けられる。それは、高齢化や少子化や様々な背景が絡んでいると思うが、一番は子どもたちの郷土愛が決して高くないことが原因ではないかと思う。幼少から変わらぬ人間関係や環境などで、関わる人々が固定され、視野の広がりが希薄である。SDGsに関しても、言葉自体を聞いたことがない生徒が多く、自分とは関係のないものだと考えている生徒が多い。

| | |
|---|---|
| | これらのことから「地域の魅力」と「SDGsの理解」を通して、世界の抱える問題を自分の地域の課題に落とし込んでいき、それらを解決する行動が世界を変える一歩につながるということを感じさせたい。<br>【指導観】<br>SDGsは自分とは関係ない。どこか遠い世界での話。自分には難しいことなのではないかという意識を変えたい。生徒にも先生方にも「そんな難しいことじゃないんだ！」「自分にもできそう！」と思えるような指導をしていきたい。そして、最終的には「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する（Think globally,act locally）」グローカルの人材が育成を目指してきたい。 |

6. 単元計画（全１５時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | SDGs を理解しよう | SDGs の 17 の目標がなぜ生まれたのか理解することができる。 | ・30 年後の世界と地域を考える<br>・諸外国との相互依存 | ・JICA 資料カードゲーム |
| 2～4 | SDGs でプレゼン資料の作成しよう | SDGs の 17 の目標を説明するためのプレゼン資料を作成できる。 | ・自分が調べる目標を 17 の目標から選ぶ<br>・目標の説明　問題を挙げて<br>・目標に取り組んでいる企業や団体、市町村など<br>・自分たちができること | |
| 5 | 作成したプレゼン資料を発表しよう | 作成したプレゼン資料を小学校 5 年生に発表できる。 | ・SDGs の 17 の目標を説明するプレゼン資料を作成<br>→5 人×3 グループに分け、発表 | |
| 6 | 身の回りの SDGs を見つけよう | 身の回りの SDGs に関係する写真を撮影し、説明を加えて、掲示する。 | ①　撮影者　②　撮影場所<br>③　撮影日　④　撮影した理由<br>⑤　SDGs との関係性について | |
| 7～8 | SDGs と地方創生のかかわりを理解しよう | カードゲーム「SDGs de 地方創生」を通して、SDGs×地方創生を考えることができる。 | ≪及川　真央さんの講話≫<br>・福岡県北九州市出身<br>・阿賀町地域おこし協力隊<br>（阿賀黎明高校魅力化 PJ 推進）<br>・SDGs de 地方創生公認ファシリテーター | |
| 9 | 阿賀町の魅力と課題を理解しよう | 阿賀町にゆかりが深い人からのキャリア教育（職業講話）を通して、住むまちの魅力と課題を理解できる。 | ≪林　眞一郎　様　の講話≫<br>・道の駅「阿賀の里」<br>・代表取締役社<br>≪阿部　貴成　様の講話≫<br>・三川小中学校出身<br>・工学院大学卒業<br>・グラフィックデザイナー<br>・YouTube で地元の魅力を発信 | 1.仕事の概要<br>2.仕事の魅力<br>3.仕事の上で大切なもの<br>4.今後の課題と展望<br>5.阿賀町に残していきたいもの<br>6.子どもたちと一緒に考えて、解決してほしいもの |
| １０ | 身近な SDGs の課題の解決策を考えよう！ | 三川中学生ができる身近な SDGs の課題を見つけ、解決策を考えることができる。 | ・SDGs の視点で現在問題となっている身近な問題を挙げる<br>・学級全体で話し合い、多様な意見を出し合い、自分の意見を広げる | |
| １１ | 私たちにできることを考えよう | 道の駅“阿賀の里”を持続可能な地域にしていくために三川中学生にできること | ・阿賀町や三川地区の地域資源が、「地域の課題解決に貢献できることはないか」考えよう！<br>➔子どもたちに促して・・・ | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | を考える。 | 学習課題　「道の駅“阿賀の里”を持続可能な地域にしていくために三川中学生にできるコトとは！？」 | |
| １２～１４ | 考えた解決策のプレゼン資料を作成しよう | 自分の考えた解決策を説明するためのプレゼン資料を作成できる。 | 前回作成したプレゼンを参考にして、「自分たちができること」を具体的な例を挙げてプレゼンを作成する | |
| １５ | 作成したプレゼン資料を発表しよう | 作成したプレゼン資料を村上市立荒川中学校の１年生に発表できる。 | Zoom を使用し、お互いに学習の成果を発表し合う | |

7. 本時の展開（６時間目）

本時のねらい：身の回りの SDGs に関係する写真を、説明を加えて作成できる。

事前準備：・SDGs について基礎知識を身につけておく。
・資料①を印刷して生徒に配布。
・課題として資料①に使用する「身の回りの SDGs に関する画像」を用意しておく。
・一人１台のタブレット端末やパソコンなどの文章作成ソフト

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入（10分） | これまでの活動を振り返る。<br>**●SDGs の説明の前に世界の課題を考える**<br>（日本ユニセフ協会「SDGs CULB より」）<br>発問①　人口面から貧困や飢餓問題へ<br>「世界の人口は何人ですか？」→「約 77 億人」<br>「日本の人口は？」→「約 1 億 2000 万人」<br>「1 日 1.9 ドル（約 210 円）で暮らす人は？」<br>→「約 7 億 6000 万人」（子ども：3 億 8000 万人）<br>「その日食べるものがない、明日以降も食べるものに不安を抱えている（飢餓状態）人は？」→「約 8 億 2000 万人」 | 総合的な学習のねらいと関連付けられるように導く。 | |
| 展開（85分） | 発問②　食品ロス・資源の問題へ<br>（賞味・消費期限の過ぎた食品や傷んだ野菜の画像を提示する）<br>「みんなならこの食べ物、どうしますか？」→「食べない・捨てる」<br>「世界では 1 年でどれくらいの食料が捨てられているか？」→「17 億トン」<br>※世界で生産される食料の 3 分の 1 にあたる<br>「この食料をつくるためだったり、人間が開発することで 1 年間でどれくらいの森林が失われているでしょう？」<br>→「約 330 万ヘクタール（1 分間に東京ドーム 1.3 個＝教室で考えると約８００室）」 | | |

まとめ
（5分）

発問③　持続可能か？

「このままの調子で暮らしていくと地球の10年後・20年後はどうなっていると思いますか？」
→「地球に住み続けることができなくなる」「限界を迎える」「取り残される人が出てくる」
「絶滅してしまう」「取り残される人が出てくる」など

〈SDGs は民主主義の結果・矛盾の産物〉
物質的な進歩主義は経済成長と公平のバランスを保てなかった！

**☆持続可能ではない！タイムリミットが近づいている！**

**●“SDGs” の内容説明（確認）**

【問い】様々な格差や地球環境の課題をそのままにして、誰もが「幸せ」になれる世の中は実現できるのだろうか？
→「できない」「難しい」「実現不可能」など

掲示

「そこで発表されたのがこの SDGs です！」
「どのような内容だったか覚えていますか？」
→　手を挙げてもらう

**●めあてを伝える**

① 身の回りには SDGs があふれていること理解しよう
② 用意してきたものをまとめ、わかりやすく人に伝えよう

**●事前課題「身近な SDGs を見つけてこよう」を参考に実際につくってみよう！**

【作成】
・資料①の例を参考に Word 等の文章作成ソフトを使用し、作成する

生徒が事前に理解しておきたいこと
① 画像の挿入にやり方
② SDGs の 17 の目標のロゴマークの保存→貼り付け

●掲示して鑑賞しよう！

【掲示・鑑賞】
・完成した生徒から掲示していく
・どのようなものを題材にしていて、「なるほどな」と共感する場を設ける。

●まとめ

【問い】「身近な SDGs を探してみてどうでしたか？」
・SDGs の視点で探してみるとたくさんのモノが見つかった。
・SDGs…最初は難しい感じがしたけど、身の回りにあふれていることが分かった。
・ひとつの目標だけでなく、様々な目標がつながっていることが分かった。

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

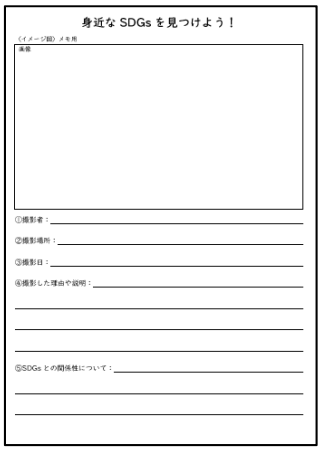
① 身の回りには SDGs に関係することがたくさんあることを知ることができる。
② SDGs のそれぞれの目標を理解し、わかりやすく人に伝える資料を作成できる。
③ 友達の作成した資料を鑑賞し、SDGs についての理解を深めることができる。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 9. 苦労した点 | ・学期の途中から、総合的な学習の時間に組み込んだため、時間的な無理が生じてしまった点。どうにか今までの総合的な学習の時間や教科に SDGs を絡めて考えていったが、計画通りには進まなかった。<br>・SDGs を「ジブンゴト」にするための授業構成。生徒たちは地域の課題と SDGs のかかわりは理解できたようであるが、世界・地球規模にまで広げて考えるレベルまでには到達することができなかった。<br>・国際理解、国際貢献の必要性の伝え方が難しかった。<br>・授業実践を他の教員と共有すること。 |
| 10. 改善点 | ・１学年１クラスであるため、状況（授業の進行具合）に応じて弾力的な時間割編成が可能であったが、複数クラスの場合であったら不可能に近いので入念な計画が必要。<br>・自分一人が頑張るのではなく、地域の資源や人材、JICA の協力を積極的に仰いでいくべきであった。特に JICA の出前講座など。<br>・地域貢献活動から国際協力にまで広げることができなかったので、どのようにしたら地球規模まで考えることができるか再考の必要がある。<br>・教員主導で進めていくことが多かったので、生徒自身が考え、実行していく枠組みを作っていく。 |
| 11. 成果が出た点 | ・授業を通して生徒に伝えたかった・目指したことである３つ目標<br>①SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ！」「自分にもできそうじゃん！」<br>②身の回りには SDGs に関係することがたくさんあるんだ！<br>③SDGs に対するアンテナを高くなった気がする！<br>は生徒の日常の様子を見てると達成できたように感じる。<br><br>・「身の回りの SDGs を見つけよう」を行ったことで、地域の課題と SDGs のかかわりの理解が深まり、新たな活動に移行できたことは成果として挙げられる。 |
| 12. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | 【第５時の小学生の感想】<br>・SDGs という言葉やロゴは見たことあったけど、意味までは知りませんでした。今回、詳しく知れてよかったです。<br>・これからは SDGs を意識して生活していきたいなぁと思いました。<br>・これから 2030 年に向けて私にできることを進んでやっていきたいです。<br>・世界のみんなが幸せになれるように、すべての目標を達成していきたいと思いました。これからは SDGs を意識していきたいです。<br>・ごみが落ちていたら拾ったり、募金をしたり、自分にできることから始めていこうと思いました。<br>【第７～８時の感想】<br>・SDGs はいずれ地球の未来になっていくんだなと思う。だから今のうちに、自分たちから SDGs の活動をしていくのが大切だと思った。<br>・SDGs は「誰一人取り残さなさい」ための目標で、このカードゲームを通して、「対話」が大事だと学んだ。対話がないと何も始まらない。<br>・SDGs は何かを良くしたら連鎖していくと感じたので、世界全体で達成できるよう、まずは自分の町からやっていくべきだと思いました。<br>・人口の少ない阿賀町を守るためには、みんなが協力し合うことが大切だと分かりました。<br>・SDGs は積み重ねが大事。<br>【第９時の感想】<br>・これからも持続していくように若い人たちが必要なのだと感じました。<br>・周りの人からは気づける阿賀町の魅力を自分たちも気づいていきたいと思った。また、外から来てもらえるような工夫が必要だと思った。<br>・三川や阿賀町の素晴らしさに気づき、多くの人に魅力を伝えていきたいと思いました。<br>・都会とは違った阿賀町の魅力に気づけました。阿賀町の自然などの魅力をこれから自分たちにはどう発信できるか考えていきたいです。 |

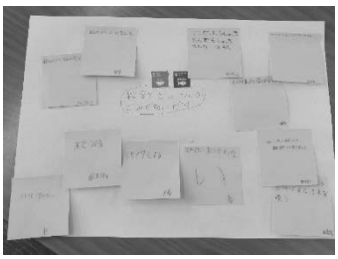
| | |
|---|---|
| 13. 授業者による自由記述 | ・今年度の教師海外研修は国内研修ではありましたが、オンライン研修を含め深い学びの機会を提供していただけました。特に、過年度参加者の方々の知見や力強さには圧倒されることばかりで、すべてが新しい発見で充実した時間を過ごすことができました。<br>・今回の研修で一番印象的だったのは「つながる」ということです。今回の実践を通して、人とつながることで今まで気づけていなかったモノが、価値ある資源に変わっていきました。自分がどうにかしなくてはと思っていたことも、地域の方やJICAの方とつながることでより広い視野で考えられるようになりました。今後は人と人をつなぐ役割、人とのコネクションを大事にしていきたいと強く思いました。 |

【本時で用いた資料】



【第５時発表の様子】

【第１０時の話し合い内容】



# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 須賀与恵 | 学校名 | 埼玉県川口市立小谷場中学校 |
| 担当教科等 | 総合的な学習の時間 | 対象学年（人数） | 1 学年（９０名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2020 年　8 月　　～　2021 年 2 月（　１０時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習・キャリア教育

2. 単元(活動)名：仕事で解決！日本の社会問題

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：職業「職業の選択と社会への貢献」

単元目標：①どのような職業があるのかどのような働き方があるのかを知る。
②「”働く”とはどういうことか」を理解する。
③自分はどのような働き方をしていきたいか考える。

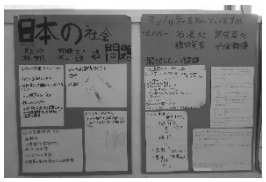
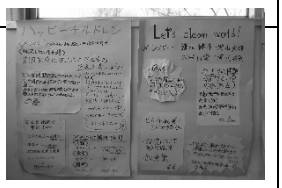
関連する学習指導要領上の目標：
探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 社会にはどのような職業があるのかを知る。<br>自分の必要な情報を適切に入手し、整理する。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 社会にはどのような課題があり、それがほかの課題とどのように繋がっているのかを考察する。<br>自分が調べたものを、新聞やポスターにまとめたり、わかりやすく人に伝えたりすることができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 自分の興味のある課題を見つけ、その解決に向けてどのような仕事でどのように解決することができるか、グループで協働的に考察する。 |

| | |
|---|---|
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>本校1学年の総合的な学習の主なテーマは、「環境教育」と「キャリア教育」である。「キャリア教育」では、例年、「身近な職業調べ」から始まり、学校付近の事業所に訪問して3日間の「職業体験」を行ってきた。しかし、今年度はコロナ禍の影響で、体験活動が中止となり、例年通りの活動が制限されてしまった。また、調べ学習をして体験活動をするという、ただこなすだけのような活動で終わってほしくないという願いがあった。そのことから、将来就く職業が自分の生き方そのものにつながること、そして、仕事を通して社会とどのようにかかわっていくか、貢献していくかを実感してもらいたいと思い、「職業」と「身近な社会問題」を関連付けて、本単元を設定した。<br><br>【単元の意義】<br>本単元では「身近な社会問題」を「仕事」を通してどのように解決するのかを探究する学習活動である。働くことが「社会への貢献」とどのように繋がっているかを理解することで、将来の自分の生き方を考える機会となる。このような学習活動を通して、自分の進路を考えたり、得意なことを生かしたりしようとする態度を養うことにつながると考える。<br><br>【児童／生徒観】<br>本学年の生徒たちは、生活面で非常に落ち着いており、学習にも前向きに取り組んでいる。仲間同士の関係も良好であり、話し合い活動は活発に行うことができる。また、問いかけ次第で、興味の持ったものは自ら進んで調べたり、まとめたりする生徒もいる。しかし、自ら日本の社会問題に対して興味を持ち、進んで調べたり自ら行動を起こそうとしたりする生徒はほとんどいない。新聞をとっている家庭が非常に少なく、世の中のニュースなどの情報は、テレビやネットのニュースから入手しているようだ。生徒それぞれで、興味のある社会問題は異なるため、お互いに調べてきたものを授業内で共有することで、個人の考えを広げたり、深めたりしていくことができる。<br><br>【指導観】<br>本単元に入る事前指導として、まずは身近な課題に目を向けるために、「川口の社会問題」を調べて新聞にまとめる活動を行う。そこから、日本全体でも同じような課題があることに気付かせ、問題が起きる原因やその解決策を調べることで、いくつかの事例を収集する。その事例をもとにして、身近な課題の解決に戻り、自分たちには何ができるのかを考えさせる。<br>指導に当たっては情報を収集する際、元となる情報がどこから集めるか、集めた情報をまとめる際に、どのような項目で整理すればよいかなどの手だてを重点的に指導する。また、個人で行う作業と、グループで協働的に学ぶ時間を明確に分けて、学びを広げたり、深めたりなど、できる限り生徒一人一人の個性が発揮できるように配慮しながら指導していく。 |

6. 単元計画（全１０時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | ・「職業」に関する学習の流れを把握する。<br>・解決したい日本の課題を１つ決める。 | ・「働く理由」について考える<br>・身近な課題を想起し、日本の社会問題にはどのようなものがあるのかを知る。<br>・解決したい日本の社会問題を１つ決める。「未来の授業　私たちの SDGs 探究 BOOK」を参考にして、31 個の課題の中から自分が一番興味のあるものを１つ選ぶ。<br>・資料をもとにして、次の事柄について、レポートにまとめる。項目は次の通り<br>①どんな場面でその問題が起きているか<br>②なぜその問題が起きているか（原因）<br>③どんな解決策があるか | 「未来の授業　私たちの SDGs 探究 BOOK」<br>「課題解決中マップ 2020 and beyond」<br>https://2020.etic.or.jp/<br>環境や SDGs について考えるページ<br>「持続可能な社会へ地球のミライは私たちの手に」<br>https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0008/ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 課題の設定 | ・個人で調べたことをグループで共有し、考えを広げる。<br>・今後、さらに深く調べていくものをチームで決める。 | ・調べてきたことをグループ（生活班）で共有する。<br>・同じ課題や似たような課題を選んだ生徒同士で３～４人を基本としたチームをつくる。<br>・チームに分かれて改めて解決したい課題は何かを決める。<br>・選んだ課題をもとにしたチーム名を決める。<br>・チームで決めた課題について、どのような職業でどのように解決できそうか、次回までに調べてくる。 | |
| 3 | 解決策の考察<br>本時 | ・どのような職業で課題を解決するか調べ、考察する。 | ・どのような職業で、どのように解決できるか考察する。<br>・地域の図書館で借りた職業に関する本を用いて、課題を解決できそうな職業を調べる。 | ・川口中央図書館から借りた職業に関する資料５０冊 |
| 4 | 途中経過をまとめる | ・これまで調べてきたものを整理する。 | ・これまでの学習を振り返って、チームで調べたこと、わかったことをポスターにまとめる。項目は以下の通り<br>①どんな課題があるか　②課題が起きる原因　③どんな職業で解決するか　④どのように解決するか |  |
| 5 | 途中経過発表 | ・これまで調べてきたものをチーム同士で共有する。 | ・各チームがどのようなことを調べているか、調べた結果わかったことをポスターセッション形式で共有する。 |  |
| 6，7 | 出前授業 | ・外部講師の話を聞き、新たな視点を得る。 | ・JICA 協力隊経験者３名を招いた出前授業<br>・チーム内でどの講師の話を聞くか決め、３つの教室に分かれて、それぞれの授業を受ける。<br>・講師の先生方の職業観や、仕事を通して社会にどのように貢献しているかの話を聞き、新たな視点を得る。<br>・講師の先生の授業の中で、自分たちが今調べている課題について、解決のためのアイディアを得たり、疑問を解消したりする。 | |
| 8，9 | 出前授業ふりかえり<br>まとめ | ・出前授業で聞いた話をチーム内で共有する。<br>・職業に関する学習のまとめ新聞を作成する | ・チーム内で３つの教室に分かれて授業を受けているため、それぞれの教室でどのような話を聞いたか、どんなことを学んだか共有する。<br>・職業に関する学習をふりかえって、新聞にまとめる。（個人） | |
| １０ | まとめ新聞発表 | ・個人で新聞にまとめたものを発表する | ・職業に関する学習のまとめ新聞を発表する。 | |

7. 本時の展開（３時間目）

本時のねらい：職業を通して課題を解決するにはどうすればよいか考えよう。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | ・本日のめあてを確認する<br>職業を通して課題を解決するには<br>どうすればいいか考えよう。<br>・チームで決めた課題の確認 | | 川口中央図書館から借りた、職業に関する資料や SDGｓに関する資料。50 冊 |
| 展開<br>（30分） | ・チームのメンバーが調べてきたことを共有する。①どんな職業で　②どのように解決できそうか。<br>・チームで決めた課題について、その問題が起こると、ほかにどんな問題が起きるか考察する。<br>・資料をもとに、さらにどんな職業でどのように解決できそうか調べる。 | チームで選んだ課題がほかのどのような問題とつながっているか意識できるように問いかけをする。 | |
| まとめ<br>（15分） | ・これまでの学習を整理する。<br>①どんな問題が起きているか<br>②その問題が起きている原因<br>③どんな職業で解決するか<br>④どのように解決するか<br>・次回は、チームで調べたものや考察したものをポスターにまとめる。 | | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

【知識及び技能】

社会にはどのような職業があるのかを知る。（ワークシート）

自分の必要な情報を適切に入手し、整理する。（選んだ資料）

【思考力・判断力・表現力】

社会にはどのような課題があり、それがほかの課題とどのように繋がっているのかを考察する。（ワークシート）

【学びに向かう力、人間性】

課題の解決に向けてどのような仕事でどのように解決することができるか、グループで協働的に考察する。（話し合い活動）

| |
|---|
| 9. 学習方法及び外部との連携<br>・できる限り、生徒が興味を持った日本の課題について各自で調べさせたり、同じような課題に興味を持った生徒同士でチームを作り学習を進めさせたりした。<br>・私自身は全体計画とチーム編成や外部との連携に務め、細やかな授業の進行などは、各担任の先生方に協力していただいた、<br>・川口市内にある中央図書館を利用して、職業に関する資料 50 冊を借りた。<br>・昨年度 JICA 教師海外研修で知り合った 3 名の協力隊経験者に、出前授業をお願いした。<br>①どのような思いで働いているか　②日本や世界にある、どんな社会問題と、どのように向き合っているか　について重点的に話をしていただいた。<br>また、3 名のどの先生の話を聞くかチーム内で分かれて聞くことで、1 つの課題を解決するための様々なアイディアを得られるようにした。 |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>・JICA エッセイコンテストへの参加（国際協力特別賞受賞）<br>・学年の廊下に SDGs や国際理解教育に関する資料を自由に閲覧できるコーナーを設置した。中央図書館から借りた資料も、授業時間以外でも閲覧できるように展示した。<br>・教師海外研修で知り合った先生の学校の生徒たちと、放課後オンラインでつなぎ、SDGs に関する知見や意見交換を行った。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ・調べ学習を行うための資料やインターネットが使える機器を生徒数分揃えるところが苦労した。今となっては GIGA スクール計画が進み、一人一台のタブレットが配布されているが、一斉に使うと回線がダウンしたりするなどの問題もあった。<br>・コロナ禍の影響で、出前授業をお願いしていた 3 名のうち 1 名が急遽来校できなくなり、オンラインで対応をした。授業は遂行できたが、やはりほかのクラスに比べて、臨場感が足りなかったり、予定していた以上に時間がかかってしまったりした。生徒にとっては、オンラインでの授業は新鮮味があって意欲的に取り組んでいたように思える。 |
| 12. 改善点 | 本単元の導入で、「川口の社会問題」について調べる活動を行った。ふりかえってみると、社会問題から入る導入では、マイナスのイメージから地域の事柄について学習を進めることとなり、あまりいい印象ではなくなってしまう。次回このような学習を進める際は、まず「川口の魅力発見」と「その裏に潜む影」など、ポジティブな面とネガティブな面を同時に調べる活動を取り入れると、より前向きに、楽しく学習ができるのではないかと思う。 |
| 13. 成果が出た点 | 生徒の多くは、これまで日本や世界の社会問題を意識して調べたりする活動を行ってこなかったため、改めて調べてみると、意外と課題がたくさんあることや、そのほかの多くの課題とつながっていることを実感できたという感想が多かった。まずは知ることを通して自分の行動を見直してみたり、家族やほかの友人に話をしてみたりするうちに、少しずつ自分の生活に変化が現れたという生徒が多くみられた。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと<br>今、世界でおきているいろいろな問題を職業で解決できるのはすごいなと思った。仕事や職業について、あまり深く考えることはなかったけど、それらはやっぱり、人のため、物のためにあるものなんでなとあらためて思った。これなら、SDGsの課題を解決できる仕事、職業があったり、でてくるかもしれないと思った。<br><br>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと<br>今のストレスや、社会問題は、職業で解決できるんだと分かった。だから、自分が働けるようになったら、自分に合う楽しめる職業をえらんでみたいと思った。<br>もしストレスがたまったら少しは助けになる職業があるので、とても今後に役立つと分かった。<br><br>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと<br>日本の社会問題を解決する職業について考えるために働いている人に出前授業で話を聞いたりして、テレビのようにオブラートに包まないリアルな現状を知ることができて面白かった。またそれをまとめたときに人それぞれ当てるスポットライトの場所が違ていて「こんなこと言ってたんだ～」「こんなこと言っていたね～」と上手く穴うめ方式で意見交換できて深く理解することができた。今回の学習で調べた社会問題以外も調べてまとめてみたい。<br><br>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと<br>物事を様々な観点からとらえて考える良い機会になった。私は「地震」への浅かった認識を深め、職業を通して何が出来るか、非常に難しかったが調べ上げてまとめることができた。身近な事に疑問を感じて調べ、さらに深めたい時、多種多様な方法があることを知り、これまた自分の中の選択しを増やすことに貢献したと感じる。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 今年度は、コロナ禍の影響で例年通りの学習が進められず、計画を立てたとしてもその通りに進められないことが多かった。しかし、教師海外研修に参加した先生方に、本単元の計画を相談したり、オンラインで外部とつないだりするなど協力していただくことで、本校の教員にも少しずつ新しい取り組みに挑戦しようとする姿勢の変化が見られた。単元の計画や具体的な教育方針を決める際は、勤務校の先生方とよく話し合うことが一番大切ではあるが、他校の先生方（特にほかの地域の先生方）に相談することで、異なる視点や新しいアイディアがたくさん出てくる喜びを実感できた。今後も、本研修に参加した先生方とのつながりを大切に、柔軟な視点を取り入れながら、自分にできる最善の教育活動を行っていこうと思う。 |

参考資料：


・「未来の授業　私たちの SDGs 探究 BOOK」佐藤真久（監修）　NPO 法人 ETIC（編集）
・「課題解決中マップ　2020 and beyond」　https://2020.etic.or.jp/
・環境や SDGs について考えるページ「持続可能な社会へ　地球のミライは私たちの手に」
https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0008/

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 後藤　亮 | 学校名 | 東京　私立　　中高一貫　校<br>明治大学付属明治中学校 |
| 担当教科等 | 英語 | 対象学年（人数） | 中学　2　年　E　組（ 34 名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2020 年 10 月　　～　　11 月（　7 時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域： 特別の教科　道徳、ＨＲ、特別活動 | | |
| 2. 単元(活動)名：SDGsのレンズを通して社会に目を向けよう | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ:「ゼロハンガーチャレンジ・エキスパートへのインタビューで社会問題をジブンゴトに」<br>単元目標：身近な問題「食糧問題」を多面的・多角的な視野で捉え、自分たちに出来ることを考える。<br>関連する学習指導要領上の目標：身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てるよう努める。 | | |
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 写真や資料を見て、SDGs との関連性を持ちながら食糧問題の現状を理解する。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 収集した情報や身に付けた知識をもとに、自分の考えたことをまとめたり、それを話し合うことが出来る。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | ・協同学習を通して、他者の意見や考えに耳を傾け、自分にはなかった視点に気付くことが出来る。<br>・学びを深めていくにつれ、自分なりに疑問を持ったり、批判的な視点で課題を見ることが出来る。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>世界、そして日本にある社会課題に目を向けていく中で、まずは身近な「食」に関する問題を切り口に生徒の興味を喚起したり、SNSによる表現活動やエキスパートへのインタビューといった体験を通して、社会問題をより自身にも関係のすることであると認識を持ってもらいたく設定した。<br>【単元の意義】<br>「東京・私学」という恵まれた環境に身を置く本校生徒にも社会課題は身近に存在することを気付かせることで、「自分たちにも出来ることがあるのではないか」という考えを持ち、行動へと繋がせる。<br>【生徒観】<br>本校は100年以上の歴史のある私立大学直系付属の中高一貫校であり、「質実剛健・独立自治」の校訓の下に指導が行われている。自主的に校外での活動や学習を行う生徒もいる一方で、広い視野を持つことに前向きでなかったり、自分自身の興味を広げることに関心の薄い生徒も見られる。裕福な家庭出身の生徒も多いせいか、日本にある課題についての関心も比較的低いと言える。世界の諸問題や日本に存在する問題を関連付け、生徒自身にも関わる社会問題であることを意識し、理解させることでより外に対する意識を持たせるように留意したい。<br>【指導観】<br>本校には独自のカリキュラムによりいわゆる「総合的な学習の時間」が時間割として組み込まれていない。その代わりに特別活動の一環で、中学1年次に「本の紹介文コンクール」、中学2年次に「作文コンクール」、中学3年次と高校1年次に「英語スピーチコンテスト」、そして高校２・3年次に「イングリッシュ・プレゼンテーションコンテスト」がある。それら学校企画や普段の各教科との連携を図ることで、今回行っているような学びが今年度のみ単発的なものではなく、より総合的・統合的な指導により生徒たちの学びを有機的なものへとさせていきたい。 | |

| | |
|---|---|
| | また本校では「独立自治」という校訓の下、宿泊行事やその他行事はもちろんのこと、日常の学校生活においても生徒たちの独自性・主体性が尊重されている。SDGsを通した学びによって、より生徒たちの主体性・協同性を育むきっかけとしたい。 |

6. 単元計画（全　7　時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | “SDGs Day”に向けて | ・食糧問題について知る<br>・日本の輸出入事情について知る。 | ・「モノはどこからきているの？」<br>カードゲームを通して日本にあるモノが他国から予想よりも多いことに気付く。<br>・WFP のウェブページより「ゼロハンガーチャレンジ」について触れ、自分たちが出来ることを考える。 | ・「モノはどこからきているの？」カードゲーム<br>JICA 東京 |
| 2 | 食材から他国と日本を知ろう。 | ・日本の食料自給率について考える。<br>・写真を通して食の在り方について考える。 | ・日本、そして東京の食料自給率を知り、他国や他の地域に頼っていること、見えないようで繋がっていることを理解する。<br>・フォトランゲージ<br>多くの国や地域の家庭の食に関する写真を比較検討し、話し合いを通じながらその類似点や相違点について考える。 | 「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会(DEAR) |
| 3 | ・食糧問題と難民問題 | ・難民の生活を知る。<br>・日本の難民受け入れ現状について考える。<br>・WFP について知る。 | ・写真を比較しながら難民の生活について理解をする。<br>・日本の現状や支援について知識を得たり、話し合いを通じて考える。 | 「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会(DEAR) |
| 4 | ・難民問題と国際貢献 | ・難民問題について考える。<br>・日本の現状と国際貢献の必要性について触れる。 | ・前時に引き続いて、食糧を通して難民問題を知り、その上で世界で起きていることや日本の現状について考える。<br>・日本の現状について触れた上で、国際貢献の必要性について話し合う。 | 「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会(DEAR) |
| 5<br>本時 | ・SDGs Day のインタビューに向けて | ・三団体（こども食堂・WFP・サラダコスモ／ギアリンクス）について知る。 | ・ジグソー法による記事の読解<br>それぞれの団体に関する記事を読み、グループでシェアを行う。<br>・グループごとに質問の作成<br>・インタビューの練習を行う。 | 新聞記事 |
| 6 | ・SDGs Day に向けて | ・前時の続き<br>グループで出てきた質問をクラスでシェア<br>・ゼロハンガーチャレンジ　グループ発表 | ・三団体バランスよく、また様々な視点の質問を生徒たちと共に選ぶ。<br>・グループによる発表。<br>なぜその写真にしたかなどの背景を語る。 | |
| 7<br>(11/10) | SDGs Day | ・三団体の発表 | ・インタビュー形式で行う。事前準備したものに加えて、先方が話した内容についても質問を行う。<br>・前時でクラス内シェアをしたそれぞれのゼロハンガーチャレンジについていくつか講評をいただく。 | |
| 8 | SDGs Day の振り返り | ・三団体それぞれの振り返り | ・ペア／グループ／クラスで話し合いを行って、どんなことを学んだかを振り返る。<br>・振り返り用紙を書くことによって最後は個人に落とし込むようにする。 | |

7. 本時の展開（5時間目）
本時のねらい：「エキスパート」の取り組みを知って、自分たちに出来ることを考えよう。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | ○「ゼロハンガーチャレンジ」について発表<br>・４～５人組で写真を見せ合い、簡単に発表を行う。<br><br>○　SDGs Day について<br>・三団体にインタビューを行う。 | ・グループの進捗状況を確認する。<br>・グループ毎に回収をし、ＨＲ委員に渡す。<br>・来週数枚絞って発表を行う。<br><br>・ただ「聞く」のではなく「インタビューを行う」という意識付けを行う。 | |
| 展開<br>（30分） | ○　ジグソー法を用いて資料を読み解く<br>・３人グループを作る。<br>・SDGs Day で話を聞く三団体について知る。<br>発問：どの団体もどういった意識で社会貢献をしているんだろう？　その人たちの生きがいって？<br><br>エキスパート<br>それぞれ一つのグループをA：こども食堂、B：WFP, C：サラダコスモ／ギアリンクスの３つのグループに分かれて、ABCそれぞれの活動内容をエキスパートのグループの中で読み解く。<br><br>ジグソー<br>・読み解いた３種類の記事を元のグループに戻ってシェアを行う。<br>・話し合った中で特に感銘を受けたところ、自分でも出来ると思ったところ、そしてインタビューで聞いてみたいと思ったところを話し合う。<br><br>クロストーク<br>・近くのグループと意見を交換する。<br>・グループで話し合ったことをクラスで発表。 | ・事前にグループを決めておく。<br><br>・座席移動をスムーズに行うよう促す。<br><br>・司会役／書記役といった役割を決めて行う。<br><br>・話し合った内容に加えて、疑問点についても案が出るように促す。 | ・三団体に関する新聞記事 |
| まとめ<br>（5分） | インタビュー<br>・研究授業に来校された方々にグループ単位でインタビューをする。<br><br>・SDGs Day 本番に聞きたいこと、今後調べてみたいことをワークシートに記入する。 | | ・インタビューシート |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法
・既有知識や経験をもとに、読み解いた情報を組み合わせて疑問点（質問したい点）について話し合っている。【観察・ワークシート】
・他者との協働学習を通してインタビューを行う団体の背景について理解することが出来る【観察】
・グループによる読解や話し合いに主体的に取り組んでいる。【観察・ワークシート】

9. 学習方法及び外部との連携

(1) SDGs Day

11 月 10 日（火）にゲストティーチャーを招いて講演・生徒のインタビューに答えていただくといった形式で学年生徒全員に対する意識の高揚を図った。

A. こども食堂かくしょう寺　代表細川さん

本校より徒歩 10 分にあるお寺覚證寺の住職でもあり、そこで開催されるこども食堂の代表も務める細川さんに来ていただく。本校にすぐ近くにこども食堂がある事実、そういった取り組みがあるといったことを知ってもらいたい、そして住職がこども食堂を始めた思いなどを知ってもらいたく参加をお願いした。

B. WFP（国際連合世界食糧計画）由佐さん

学年教員の知り合いであり、今回 2 学期に取り組む企画「ゼロハンガーチャレンジ」をキャンペーンするＷＦＰに勤務しており、ＷＦＰという組織やその活動内容、そして必要とされる社会情勢や背景を生徒達に知ってもらいたく参加をお願いした。

C. サラダコスモ／ギアリンクス社長　中田さん

2020 年度教師海外研修代替の国内研修でお話を聞かせていただいた経緯よりぜひ生徒達にも中田さんがギアリンクス社を通してパラグアイとの架け橋となったこと、大震災という有事において行動に移せたことの背景やその情熱を伝えていただきたく参加をお願いした。

SDGs Day に関しては本校にあるホールに学年一同を集めて学年集会として行う。ただ一方的に話を聞くというのではなく、事前指導において三団体について学び、当日においても聞いた話をインタビュー形式にして質問をすることで出来るだけ生徒たちが前のめりになって聞けるようにする。

(2) 学年活動

３学期は「気候変動」を切り口に社会問題について議論をする展開を進めている。２月１６日には OB である鈴木秀彦明治大学准教授より南極観測隊に参加した経緯に加え、ご自身の研究と気候変動に関するお話を聞く機会を設けている。11 月同様一方的な講義形式ではなく、事前学習をした上で生徒から質問をするような構成で行う。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

(1) 校内掲示物・学年文庫の設置

校内廊下に SDGs に関すること、今回取り組んだ「ゼロハンガーチャレンジ」に関する情報を掲示した。また学びを深める一環として中学２年廊下に SDGs 関連本やその他社会問題に触れた書籍や絵本等を並べた。

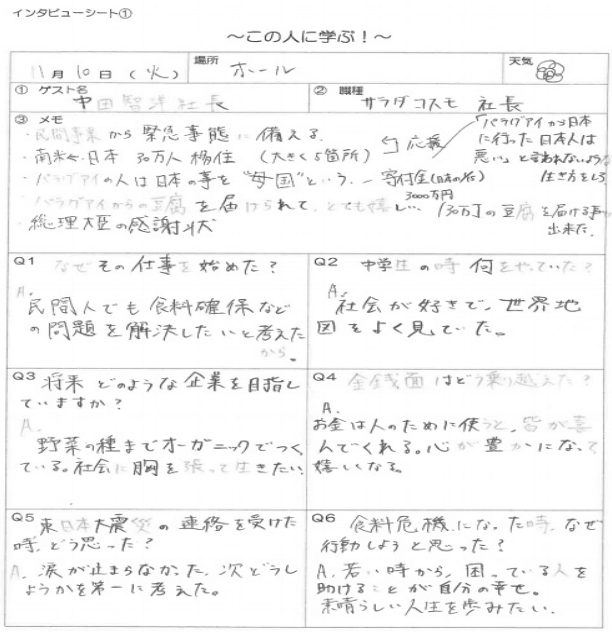
(2) 文化祭学年展示

道徳の授業の中でまず１学期は SDGs そのものについて学んだ。それら学んだものを「見える化」するために模造紙にそれぞれのグループが選んだ SDGs のゴールをまとめたものをイラスト等を交えて書いたものを文化祭の展示物の一つとして掲示した。

(3) 学年教員との連携

今年度の道徳の授業は学年統一事項のものを行うこととなり、年間を通して SDGs について、そして「SDGs のレンズを通して社会に目を向けよう」という共通目標を持って指導をしている。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 指導観でも書いたが、「総合的な学習の時間」がないため、各クラスで共通事項として指導が出来るのは唯一道徳の授業であったため、その時間を使い指導をしていったが行事等が入るたびにそれに関する決め事をしなくてはいけなくなり、指導の時間が少ないクラスも見られた。また教科指導等においてもペア・グループワークを用いる教科は少なくまず慣れてもらうことに時間が掛かってしまった。<br>新聞の資料を集める際、どれがその団体を表すものかと生徒の興味関心に合わせた記事選びの両立が難しく、普段より新聞をスクラップをしたり、SDGs Day に向けた委員を立ち上げたのであるが、彼らに頼むなどしていれば、より早く事前準備が出来たように思う。 |
| 12. 改善点 | ジグソーリーディングの際、手順の流れに重きを置いてしまったため、生徒の読みが浅くなってしまったように感じた。クロストークによるシェアまでたどり着くことは出来たが記事の表面部分に触っただけの理解および意見も見られた。発問をするタイミングや内容をより精査し、生徒の読みが深まった上での議論とクラス内シェアで出来るように工夫が必要である。<br>また生徒の中にも学期を SDGs や外の世界に関心を大いに抱くのもいれば、まだヒトゴトと感じてしまう生徒もいた状態であったので、そのギャップを埋める段階が必要であったと感じている。<br>SDGs Day に向かっては主にＨＲ委員やボランティアを中心に組織を作っていったがもう少し学年全体を巻き込めるシステムを構築しておくべきであった。 |
| 13. 成果が出た点 | ①生徒の変容：教科だけでなく、ネットやテレビの情報を得て、「これって SDGs に関連するのでは？」と考えることが出来るようになった。中学生徒会長選挙の際、「SDGs を通して学校をより良くする。」という公約・目標が生まれるなど自分たちの手で周りの環境を良くするという意識が芽生えたように思われる。<br>SDGs Day に来てくださった子ども食堂に新型コロナが収まればぜひ貢献したい、他にも学校の地域や自分の住んでいる地域で同じように活動している団体がないか調べてみたり、参加を考えている生徒も見られた。<br>また zoom や電話などで保護者と会話をする際も SDGs の話しが出るようになり、家庭内でも SDGs について話す機会があったと報告を受けた。<br>②教員の変容：各教科の各単元を指導する際に SDGs を絡めて指導をしたなどの声が聞こえるようになった。他学年の教員より「SDGs って何？」、「SDGs と自分の教科を関連して教えてみたいのだがどうすれば良い？」などの相談も増えた。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ・SDGs Day 当日のメモ・ふりかえりシートより<br>1.  <br>インタビューシート①<br>～この人に学ぶ！～<br>11月10日（火）　場所 ホール　天気<br>① ゲスト名 中田智洋社長　② 職種 サラダコスモ 社長<br>③ メモ<br>・民間事業から緊急事態に備える。<br>・南米々日本 30万人 移住（大きく5箇所）<br>・パラグアイの人は日本の事を"母国"という。→寄付金(日本の税)<br>・パラグアイからの豆腐を届けられて、とても嬉しい。<br>・総理大臣の感謝状<br>→応募<br>「パラグアイから日本に行った日本人は悪い」と言われないような住み方をした。<br>3000万円<br>30万の豆腐を届けることが出来た。<br>Q1 なぜその仕事を始めた？<br>A. 民間人でも食料確保などの問題を解決したいと考えたから。<br>Q2 中学生の時何をやっていた？<br>A. 社会が好きで、世界地図をよく見ていた。<br>Q3 将来どのような企業を目指していますか？<br>A. 野菜の種までオーガニックでつくっている。社会に胸を張って生きたい。<br>Q4 金銭面はどう乗り越えた？<br>A. お金は人のために使うと、皆が喜んでくれる。心が豊かになって嬉しいなる。<br>Q5 東日本大震災の連絡を受けた時、どう思った？<br>A. 涙が止まらなかった。次どうしようかを第一に考えた。<br>Q6 食料危機になった時、なぜ行動しようと思った？<br>A. 若い時から、困っている人を助けることが自分の幸せ。素晴らしい人生を歩みたい。 |

2.

ふりかえりシート（お話をきいて／後日記入・提出）

| | |
|---|---|
| ★この仕事のイメージは？　お話の前と後では？<br>自分のお金や生活をぎせいにして正直でまじめなのかと思ってしまっていたが、お話を聞いて、本当に人のために働いていることがすごく伝わった。 | ★私が驚いたことは？スゴイと思ったことは？<br>民間人でも、人の役に立つことができるような仕事をしたいということが理由で分の仕事をしているということに驚いた。 |
| ★私がうれしかったことは？<br>食料自給率について詳しく教えてくれたことがうれしかった。<br>企業の将来的な設計図を聞けた。 | ★とても印象に残っている言葉や考えは？<br>自分が困っている人達を支援するということが幸せ。 |
| ★私が考えたこと、自分も見習いたいことは？<br>人の役に立つということを第一に考えたい。<br>人が喜ぶことが自分にとって幸福として、生きたいの | ★さらに聞いてみたいことは？　疑問は？<br>結婚しているのかを聞いてみたい。<br>移住した人達の暮らしについてもっと聞きたいの |

3.

ふりかえりシート（お話をきいて／後日記入・提出）

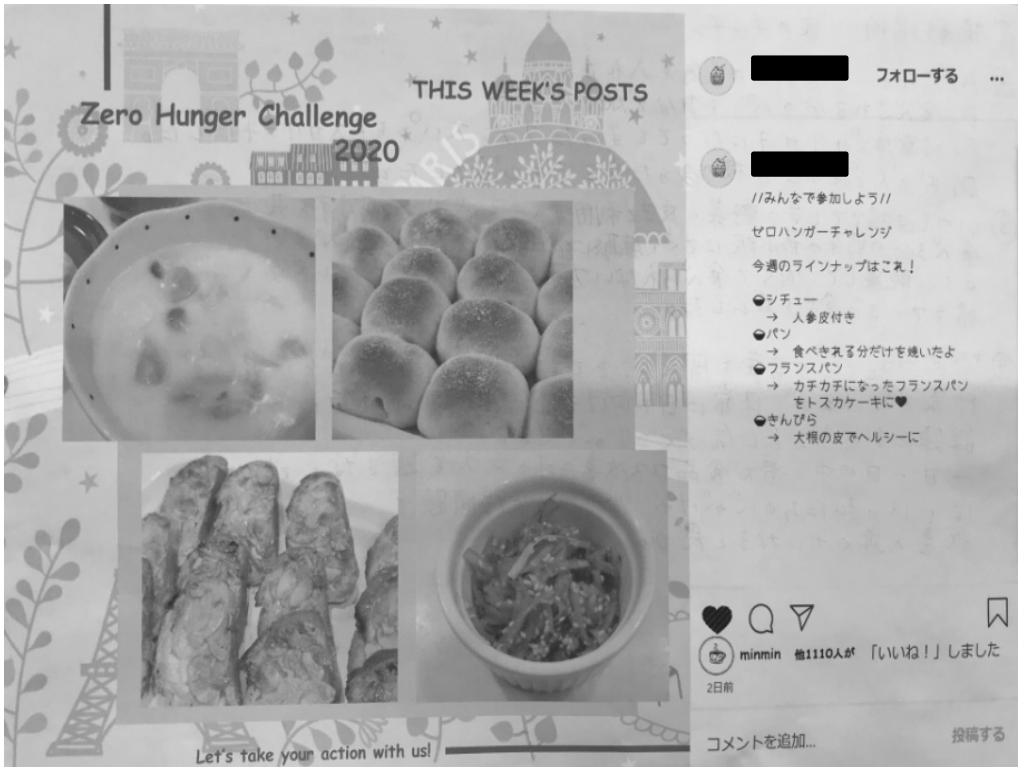
| | |
|---|---|
| ★この仕事のイメージは？　お話の前と後では？<br>前、お金がタダなので経営が厳しい。<br>・少し大変な子どもたちが行く場所。子どもがたくさんあつまる。<br>後、地域の人の支援により成り立つ。<br>・誰でも行ける。　・ボランティアでもする。<br>・大人でも行けて、遊べる。 | ★私が驚いたことは？スゴイと思ったことは？<br>おえらいさんだからといって対応を変えず、フラットな立場が良いということ。<br>需要と供給を考えて活動を計画すること。 |
| ★私がうれしかったことは？<br>私たちの近くに子ども食堂があり少しずつ大変な子どもたちが救われていること。<br>子どもたちがおいしいご飯をお腹いっぱい食べられること。 | ★とても印象に残っている言葉や考えは？<br>信念はなし！<br>その場の状況でエネルギーを使う。<br>子どもの貧困について<br>身近な子どもの貧困について考える。　（上の人にこびたり考えた上での立場の考えは嫌い。言わなかった。） |
| ★私が考えたこと、自分も見習いたいことは？<br>子ども食堂に来るこどもたちの面目を気にして、誰でも来られる雰囲気づくりをしているというところ。<br>⇒他の人の立場に立つこと。 | ★さらに聞いてみたいことは？　疑問は？<br>・印象的なエピソード。（子どもとの）<br>・ケンカのとめ方。<br>・メニューで紅白さんが好きな（みんなに人気の）ものは？<br>・ボランティアの方々とのエピソード。 |

4.

ふりかえりシート（お話をきいて／後日記入・提出）

| | |
|---|---|
| ★この仕事のイメージは？　お話の前と後では？<br>国連ってすごい大変でかしこくなものだと思っていた。<br>でも、外国のつらい人々と関わって自分のしあわせを実感できたりできるのかな、と思った。 | ★私が驚いたことは？スゴイと思ったことは？<br>カカオを小さい子どもたちがとっているということは知っていたけど、実際に見てみると本当にひどいなと思った。<br>こんな状態じゃダメだと思った。 |
| ★私がうれしかったことは？<br>カカオをとっている子供たちは私達よりもずっと苦しい生活を送っているはずだけど、その中でもそれぞれに大切な時間、楽しみにしている時間があって良かった。 | ★とても印象に残っている言葉や考えは？<br>・夫は目の前で殺された子どもをつれてかれた<br>という難民の言葉。<br>これが普通はままでは世の中は良くならないと思った。 |
| ★私が考えたこと、自分も見習いたいことは？<br>カカオをとっている子供がみんな保護施設に入れたのなら、チョコレートはどれくらい高価なものになるのかなもしもチョコレートがなくなる、ということもあるのかなと思ったし、考えた。 | ★さらに聞いてみたいことは？　疑問は？<br>カカオをとっている子供たちもどういう世の中になれば学校に行って、自由な時間を楽しめるのか。<br>そのためには私たちにどういった取り組みができるのか。 |

・SDGs Day に向けて「ゼロハンガーチャレンジ」に取り組んだが、実際に自分で SNS に投稿したり、自分たちで廊下にある掲示板を使用するようになった。



| | |
|---|---|
| 15. 授業者による自由記述 | 2020 年度の研修は新型コロナウイルスの世界的な流行により現地に行くことは残念ながら叶わなかったが、国内研修に参加し、研究授業を行うにあたって自分の教員としての視野や知見を広げることが出来た。SDGs というゴールを掲げ、その上そのゴールに向かって逆算をしてプロセスを踏むのは今回のような指導に限らず、教科・分掌など全ての学校の活動に繋がりうる。<br>今年度は道徳・ＨＲの授業においてほぼ全て共通の内容を担当学年に指導するため、共通指導案を学年担当者と相談しながら作成していった。足りない知識を補ったり、クラスによって少し微調整をしたりと、会話をしていく中でお互いに「どういった生徒を育てていきたいか。」という教育の根幹とも言えるものについて実は今まで共有できていなかったことを話し合うことができ、今まで以上に生徒たちの様子の観察し、生徒たちのことを考える時間を持つことができた。<br>今回研修を通して教員として大いに考えさせられ、一人の人間として成長をするきっかけを与えていただいた。来年度以降も生徒と共に SDGs の視点から挑戦をしていきたい。 |

参考資料：

・「モノはどこからきているの？」カードゲーム　JICA 東京

・「写真で学ぼう！　地球の食卓」開発教育協会(DEAR)

・各社新聞記事（東京新聞／朝日新聞／岐阜新聞／日本経済新聞／朝日中高生新聞／読売中高生新聞）

・「世界から飢餓を終わらせるための３０の方法」　ハンガー・フリー・ワールド編（合同出版）

・冊子「私たちが目指す世界　子どものための持続可能な開発目標(SDGs)」セーブ・ザ・チルドレン

・株式会社ギアリンクス
http://www.gialinks.jp/

・こども食堂かくしょうじ
https://syokudou.kakushoji.or.jp/

・国連 WFP 世界食料デー　キャンペーン 2020
https://www.jawfp.org/worldfoodday2020/index.php#about

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 輪湖みちよ | 学校名 | 東京都<br>板橋区立　　板橋第三中学校 |
| 担当教科等 | 社会科 | 対象学年（人数） | ３年（131 名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2020 年８月～10 月（15 時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間

2. 単元(活動)名：中学生のチカラを発揮した探究活動

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「中学生のチカラ」

単元目標（評価）：

（１）学ぶ・鍛える／

興味・関心に基づく課題を仲間や教員、地域の方々と協働しながら探究し、学んだことや考えたことを表現することができる。

（取組の様子、ワークシート、発表・展示内容、自己 PR カード、面接表）

（２）思いやる／

仲間や教員、地域の方々と対話や協働をする中で多様な個性に気付き、共に生きる社会を築くために大切な姿勢や自分にできることを考え（行動す）る。

（取組の様子、ワークシート、発表・展示内容、自己 PR カード、面接表）

関連する学習指導要領上の目標：

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。各学校においては，目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 探究の基礎・基本となる各教科の知識及び技能を身に付ける。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 探究を通して学んだことや考えたことを表現することができる |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 興味・関心に基づき探究課題を設定し、対話や協働を通して課題解決を行っていく姿勢を身に付ける |

| | |
|---|---|
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】【単元の意義】【児童／生徒観】【指導観】<br>コロナウィルス感染防止の観点から全ての行事が原則中止となった。それに伴い、生徒は学び合い・鍛え合い・認め合いの機会が減少し、これまで当たり前だった「思い出」は得られなくなった(1)。キャリア教育で育むことが期待される資質・能力からすると、自分の良さや個性を知る「自己理解力」や仲間との協働を通して課題を解決する「課題解決力」「人間関係・社会関係形成力」の育成に課題が生じている。直近の課題として、入試で行われる「面接」や「自己 PR カード」で答える内容が限定されてしまい、生徒の良さや個性が活かせないということがある。また、教員からすると授業以外で生徒の良さや個性を発見する機会や関わり合う場が減少し、多面的に生徒を理解することが困難になっている。令和２年７月に行われた文部科学省初中分科会で提出された「『ポストコロナ』を見据えた新しい時代の初等中等教育の在り方について」(2)の ICT 環境よりも生徒と教員との「つながり」が休校中の学習時間に関わっていたという分析からは、関わり |

合いの減少が生徒の学ぶ意欲に影響することも危惧される。一方、本校では生徒が休校中に「先生方へのメッセージ」を集約するなど「自分たちにできることをしたい」という主体的な行動が生まれていた。教員も限られた時間数の中で学習を保障すべくカリキュラム・マネジメントに取り組んだり、生徒に向けて新しい学習者として「自立（律）的学習者」の姿を紹介したりと創意工夫を行っている。

このような生徒と教員の力を合わせれば、生徒の主体的な学びの機会・生徒間や生徒と教員、生徒と地域の方々など多様な他者との対話的な学びの機会を保障すること、生徒が各教科で身に付けた見方・考え方を活用しながら探究を繰り返すことで深い学びを体得していくことができるのではないかと考えた。

そこで、生徒と教員が興味・関心を基にチームを組み、探究を行う(3)。生徒が中心となって学んだことや感じたこと・考えたことをオンラインや展示で表現する「中学生のチカラプロジェクト」を総合的な学習の時間の内容として実施することとした。

尚、全国学力・学習状況調査の結果分析(4)から、総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる生徒ほど教科の平均正答率が高いことや、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」（挑戦心）・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」（達成感）ともに肯定的に回答した生徒ほど主体的に学ぶ姿勢が身に付いていることが明らかになっている。そのため 15 時間を配当し、探究の時間が確保できるようにした。

6. 単元計画（全 15 時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>~<br>2 | 課題設定 | 教員のプレゼンテーションを参考に、自分の興味・関心に基づいた課題を設定することができる | 教員によるプレゼンテーション（オンライン）<br>A　福祉・介護、伝統文化<br>B　継続した取組がもたらす身体能力の向上<br>C　生活に役立つものづくり<br>D　科学の視点で社会をとらえる<br>E　科学技術の発達<br>F　人間の不思議・言語の不思議<br>G　持続可能な地域とは<br>生徒による課題設定・事前アンケート | 各教員作成のプレゼンテーション資料<br>アンケートに基づくグループ分け |
| 3<br>本時 | 各グループでの探究活動 | 地域探検により、地域の特色をつかむ | （これより G グループの活動）<br>地域探検①（写真撮影・インタビュー） | |
| 4<br>~<br>11 | 各グループでの探究活動 | 地域の特色を探検やインタビューを通してさらに深め、収集した情報を選択・分析、活用してまとめる | 地域探検①で気付いたことの共有・情報交換<br>課題設定<br>地域探検②（インタビュー）<br>地域探検②で気付いたことの共有・情報交換<br>文献資料やインターネットによる情報収集<br>情報の分析、活用<br>まとめ、グループ内発表 | 板橋区公文書館資料<br>商店街 MAP |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12<br>～<br>14 | 発表 | オンラインやポスターによる発表を行う | プレゼンテーション（オンライン発表）<br>ポスター発表（体育館に展示）<br>相互評価 | 進路説明会と合わせて行い、保護者にも見てもらう |
| 15 | 振り返り | 取組を振り返り、身に付いた力、発揮した力を自己評価する | 自己評価<br>事後アンケート | |

7. 本時の展開（３時間目）
本時のねらい：地域探検を行い、各自の興味・関心に基づいて地域の特色を発見する

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（５分） | 問い「地域探検に行く目的は何だろう」<br>「地域探検で気を付けること・大切なことは何だろう」・フィールドワーク | 安全確保、インタビューや写真撮影時のマナーについて確認する。 | 地域の地図（10000 分の１）<br>デジタルカメラ |
| 展開<br>（40分） | 事前に聞いた生徒の興味・関心を基に、地域探検の範囲を設定する<br>問い「なぜ〇〇の写真を撮ろうと思ったのか」<br>「〇〇を見てどのようなことを思う・気づく・考えるか」・興味・関心に基づき写真を撮影したりインタビューを行ったりする | フィールドワーク中は生徒の安全確保を第一に見守り、必要に応じて質問や助言を行う | |
| まとめ<br>（５分） | 問い「地域探検で印象に残ったことは何か」<br>「次回追究したいことは何だろう」<br>フィールドワークの感想を一人一言ずつ言う | 個人の気付きを尊重し、個人や地域の多様性に気付くことができるようにする | ワークシート |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法
①探究の基礎・基本となる各教科の知識及び技能を身に付ける（取組の様子、ワークシート）
②探究を通して学んだことや考えたことを表現することができる（発表・展示内容）
③興味・関心に基づき探究課題を設定し、対話や協働を通して課題解決を行っていく姿勢を身に付ける（取組の様子、ワークシート、発表・展示内容）

9. 学習方法及び外部との連携
フィールドワーク（地域探検）で生徒が興味・関心をもったことについて、インタビューによって調査を行った。インタビュー相手は生徒に「何のために、何を知りたいか。」を問い、検討した。管理職に相談した結果、地元町会の役員と商店街の店舗にインタビューを行うことにした。また、生徒の中には通行人にインタビューをしたいという生徒も多かったため、事前にインタビュー内容や対象を設定した上でインタビューを行うように助言を行った。さらに、地域の歴史等インターネットや書籍ではなかなか情報が得にくい分野については、板橋区公文書館に問い合わせ資料を貸し出していただいたり、画像を提供していただいたりした。
フィールドワークで発見したことを基に、インタビューや文献調査を行ったことにより、生徒は身近な地域の魅力を再発見したり、課題に気付いたりしていた。インタビューを重ねて行うことで町会役員の方が自分で調べた資料を提供してくださるなど、交流を通して地域の方々の思いやりに気付く生徒もいた。

| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 |
|---|
| 学校内では生徒の学習活動や発表を他学年の教員も参観し、取組について興味をもっていた。本校のHP や校長通信、学年だよりにおいても、チカラプロジェクトについて取り上げることで他学年の生徒や保護者、地域に発信する機会となった。学校外については、町会や商店街店舗の方にインタビューを行うことで学習活動に興味・関心をもってもらう機会となったと考えている。<br>授業実践を広める取組としては、ESD や SDGs に取り組む教員の集まりや研修会等で実践報告を行った。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ○課題設定<br>学年所属教員の専門教科や興味・関心と生徒の興味・関心が全員一致するわけではないので「自分の興味は○○だけれど、どのグループかわからない」「△△について追究したいのだけれど、できますか」といった生徒の声が聞かれた。一週間ほど相談期間を設け聞き取りの上でグループ分けを行った。<br>○教員間の連携<br>苦労というよりは、力を注いだ点である。８月に学年会で提案するまでの間に事前インタビューを各教員に行い、その内容に基づき探究学習で身に付けたい資質・能力や学習形態についての案を作成した。提案の根拠となる諸資料も集め、学年所属教員が納得して指導にあたれるように力を注いだ。 |
| 12. 改善点 | 秋と卒業期に探究のサイクルを２回実施する計画を立てていたが、他の取組との関係上叶わなかった。その結果、学習の深まりに課題があったと考えている。今後実施する際には、一学年からの積み重ねによる実践や学校全体で成果を共有しながら実践を積み重ねる長期計画を立てることが望ましいと考える。また、総合的な時間と各教科の学びをどのように往還させていくかを検討し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことが必要である。その上で、生徒や保護者に学習活動のねらいや意図、評価について伝えることで、総合的な学習の時間においても連携の上で学習活動に取り組むことができると考えている。さらに、コミュニティスクールの機能を活かし、地域との協働を推進することが社会に開かれた教育課程につながると考える。 |
| 13. 成果が出た点 | ○主体的な学習・自己理解、相互理解<br>生徒も教員も得意分野や興味・関心を活かした探究学習を楽しみながら行うことができた。探究を協働で行ったり、発表し合ったりする中で自他の個性を尊重し、認め合うことができた。<br>○教員間の連携<br>中学校は教科担任制のため、授業についての意見交換や情報交換があまり多いとは言えない。今回、教員がプレゼンテーションをし、それを参考に生徒が課題設定を行うという学習活動の流れによって、教員が互いの「生徒観」「指導観」を自然と話す機会が増えた。<br>○地域との連携<br>生徒が自分から「○○について知りたい」という思いをもって、町会役員や商店街の店舗の方、職場体験でお世話になった先などにインタビューに伺った。コロナ禍の中で行事が中止となり、避難訓練や運動会、文化祭といった地域とも関わる機会がなくなった年において貴重な機会になった。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | （グループＧの生徒）<br>〇生徒Ａのワークシート記述内容より（抜粋）<br>〇最初の興味・関心と理由<br>「地域の魅力は何なのかを知りたい・小学校の時に引っ越してきたため、近所のこともよくわからないから」<br>〇地域探検で気付いた・思った・考えたこと<br>「商店街が多くのお客さんで賑わっていた」<br>「（自分の祖母くらいの）高齢の方が多かった」<br>〇インタビュー対象・内容<br>お店の方に<br>「いつから営業をしているのですか」「どのようなお客さんが多いですか」<br>買い物をしている（高齢の）方々に<br>「なぜ商店街を訪れたのですか」「商店街の魅力は何ですか」<br>町会の役員に<br>「商店街を盛り上げるために行っていることはありますか」<br>「昔と今とで変化はありますか」<br>〇インタビューで気付いた・思った・考えたこと<br>「商店街にあるお店の中には明治から続く店もあり、スーパーが進出する中、常連客や観光で訪れる方によって利用されている。」「商店街を訪れている人は買い物だけが目的ではなく、お店の人との会話を楽しみにしていたり、通りの活気が好きだったりと愛着をもっていることに気付いた。」「商店街周辺にマンションが増えたことで客が増えた」「商店街主催のイベントを行うことで地域住民が交流することができている」 |
| 15. 授業者による自由記述 | 教師海外研修の国内代替研修に参加し、日本各地で地域に根付いた人々の交流が行われることを学んだ。また現地を訪れることはできなくてもオンラインでつながることができることを体験した。この学びから、まずは所属校の生徒と自分達の地域を知ることに取り組みたいと考えた。今後は他地域とオンラインで交流するなど、地域間交流を通して地域をより深く理解する学習に取り組んでいきたい。その中で生徒自身が、地域と世界との関わりに気付き、考え、行動することでグローバルな視野をもちながら、地域をよりよくするために行動する主権者（＝持続可能な社会の創り手）となっていくことを期待する。そのためにも、今後も研修で出会って先生方や講師の方々との関わりを大切にしながら学び続けていきたい。 |

参考資料：

（１）令和２年３月 16 日発行板橋第三中 PTA 誌「ゆうかり」『三年間の一番の思い出』を基に作成

| 三年間の一番の思い出（回答） | 回答生徒数（人） | 総生徒数（134 人）に占める割合（%） |
|---|---|---|
| ３年生の運動会 | 22 | 16.5 |
| 修学旅行 | 20 | 15 |
| ３年生の文化祭 | 17 | 12.7 |
| 部活動 | 11 | ８ |

（２）令和２年７月２日第 126 回初中分科会参考資料２
「『ポストコロナ』を見据えた新しい時代の初等中等教育の在り方について」P2
https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/20200702-mxt_syoto02-000008335_10.pdf

（３）平成３０年１０月１日教育課程部会資料２－１
「総合的な学習の時間の成果と課題について」Ｐ８、Ｐ２
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/__icsFiles/afieldfile/2018/10/10/1409925_4.pdf

（４）　令和元年９月４日教育課程部会
「平成３１年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/__icsFiles/afieldfile/2019/09/11/1420968_9.pdf

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| 氏名 | 黒川八重 | 学校名 | 東京 (都)・道・府・県<br>私立　東京女子学園中学校 |
|---|---|---|---|
| 担当教科等 | 社会（歴史） | 対象学年（人数） | 2　年　1　組（　19　名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2021　年　1　月　～　1　月（　1　時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：
社会（歴史）

2. 単元(活動)名：
近世の日本、開国と近代日本の歩み

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標
授業テーマ：「　国の政策と人口変動から考える過去と現在」

単元目標：
今まで学んだ歴史上の政策と人口変動を関連して考えることで、当時の政策が人々の生活に与えた影響を想像できるようになること。また歴史と照らし合わせて現在の人口問題の解決策としてどのような政策が必要か考えられるようになること。

関連する学習指導要領上の目標：
近世・近代を大観し、国の政策と民衆の生活の関わりを考察することで、公民分野で学ぶ現代社会の諸問題に関心を高め、次年度の学習につなげる。

| 4. 単元の評価規準 | | |
|---|---|---|
| | ①知識及び技能 | 資料から歴史に関わる情報を読み取ることができる。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 読み取った情報を多面的・多角的に考察し、表現できる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 歴史から学んだことを現代の諸問題に照らし、自分なりの解決策を考えて表現できる。 |

5. 単元設定の理由・単元の意義
（児童／生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由】

「人口変動」に着目することで歴史を大観するきっかけを作りたいということ、歴史を大観することで、現代の中長期的な日本の課題、世界の課題に関心が向けられるようになること、人口変動を切り口に多面的多角的に歴史を見ることで、現代社会の諸問題の解決方法を歴史と自分と結びつけて考えられる人になってほしいとの思いで設定した。

【単元の意義】

この単元を通して、大義では「なぜ歴史を学ぶのか」を考えられるようになること、狭義では、教科書に出てこないけれど日本人として触れるべき過去を取り扱うことで、これからも守るべき日本の文化・伝統とは何なのか、変容していくべきことは何なのかを考えられるようになること、である。

【児童／生徒観】

自らテーマを設定し、調べ、発表するという機会が多く、そういったことに慣れている生徒が多い。一方で調べた内容、習得したことを蓄積して多面的多角的に広い視野をもって思考し判断する力はまだまだ不十分と言える。

【指導観】

なぜこの授業テーマなのか、授業を通してどのようなことが分かり、今後にどう活かすかまで考えられるような生徒を育成したい。また1人で考えるだけではなく、級友と知恵を出し合って解決策を考えることの大切さを、授業を通して身につけさせたい。

６．本時の展開（　１　時間目）
本時のねらい：人口変動から見る日本の歴史と今

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br><br>（５分） | 天下統一の時代から明治維新までの人口変動のグラフを見て、分かることを書き出そう。 | 1600 年以降の近世近代に着目すること。グラフの変化が見られるごとに３区分に分けるように指示。 | 図説人口で見る日本史（鬼頭宏著）<br>http://honkawa2.sakura.ne.jp/1150.html |
| 展開①<br><br>（15分） | ①天下統一から江戸中期までの政策<br>②江戸中期から幕末までの政策<br>③明治維新の政策を<br>授業を振り返って挙げてみよう。<br>Q 国の政策と人口変動はどう関連しているだろうか？<br>（予想例）<br>①秀吉の太閤検地・一地一作人制、幕府の新田開発で耕地面積が２倍になった。<br>→ 隷属民が家族を持てるようになった。<br>養える人数が倍増した。<br>②社会の安定、鎖国、度重なる飢饉、効果の出ない三大改革<br>→ 新田開発の限界、日本列島が養える人口は 3000 万人？<br>③開国、富国強兵、殖産興業、<br>→ 開国による食事の変化、殖産興業による産業の多様化が出生率を増加させたのでは？近代化で平均寿命が伸びたか。 | | |
| 展開② | 明治維新以降、人口は急増し続けます。<br>昨年の地理の授業でこんな年表を見たことを覚えていますか？<br>明治初期から 1970 年代までの日本人の海外移民の歴史年表と総移民数の表です。<br>関連させてどのようなことが読み取れますか。<br>（予想例）国内で養えない人数が海外へ移民した。<br><br>浜松市で製作されたブラジル移民１００周年動画を見たの、覚えていますか？<br>鶴見区の写真と昨年の動画から何が分かりますか？<br>→ 現在はルーツを頼って日本にやってくる日系２世３世の方が多く在日しています。 | 急増した人口は国内に留まるだろうか。視野を世界に広げてみるように指摘。 | ・日本の海外移民の歴史（年表と都道府県別海外移民の数の統計）<br>http://www.gialinks.jp/nanbei.html<br><br>・鶴見小野駅周辺の商店街の写真<br>・ＡＢＣジャパンの資料<br>・年齢別日本の人口分布 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (15 分)<br><br>まとめ<br><br>(10分) | 2008 年以降人口減少が急激に進むと予測される日本。特に今後 15～20 年の間は出生率をあげたとしても生産年齢人口の割合は減少傾向です。<br>一方で世界人口はどうでしょう？<br><br>あなたが政治家だったら日本の人口問題を解決するためにどのような政策を考えますか。今日の授業と結びつけて考えましょう。 | 最後の問いは、ロイロノートに今日の感想とともに提出 | ・ギャップマインダーの分布図<br>https://www.gapminder.org |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

ワークシートの記入状況（授業後に提出）

発問に対して、積極的に発言できたかどうか。

授業後の感想

9. 学習方法及び外部との連携

グループワーク、個人の意見をワークシートに記入して、発表する学習方法

なるべく講義中心にならず、生徒が主体的に考えを発展させられるような学習方法を心がけている。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

JICA エッセイコンテストへの応募

ピースピースプロジェクト「平和に関する 1 分間スピーチ」への応募

総合学習の時間を使った探究における S D Gs との関連を意識する取り組み

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 以前の学習内容を振り返り、今学んでいることとつなげ、現代の課題を比べること。<br>オンラインだと基本個人作業になってしまう。<br>海外移民の歴史があって日本にやってきている日系の人々が日本の人口問題解決のキーになることに気づかせることはかなり難しかった。国内の問題をグローバルな視点で解決していく発想に至るにはまだまだ授業を積み重ねる必要がある。 |
| 12. 改善点 | 今回一回に終わらず、折に触れて歴史のつながりについて考える機会を増やすこと。<br>学年を超えて、科目を超えての合同授業ができたら良い。<br>例えば中 1 地理と中 2 歴史の合同授業 |
| 13. 成果が出た点 | グラフの読み取りと一生懸命暗記した歴史用語を結びつけて考えることで、バラバラだった知識を複合して考えることができた点。<br>一問一答的に学習することが身についている生徒たちに対し、歴史を大観することは難しいのかと思っていたが、生徒が事前に教科書を復習してきてくれたので、比較的スムーズに歴史を大観できた点。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ・日本の人口の増減が激しくて、面白いと思いました。<br>・以前に勉強したことを思い出せてよかったです。<br>・1年生の頃も勉強したけど、改めて考えると高齢化が進んで働く人が減っているのが大変だと思った。<br>・働く世代の負担を解決するために、AIの導入と働く世代の年齢の幅を広げることができれば良いと思います。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 国内研修や海外研修の経験を活かして、自分が生徒に伝えたいことは何なのか、普段扱っている教科書の単元を通して、生徒に何を気づいてほしいのか、常に考えて授業を構成しています。<br>教科書にはない角度でテーマを設定して授業を捉え直すことは、一方的なモノの見方ではなく、様々な角度から歴史を見る機会になると思っています。それが、地理や公民の授業との関連、または他教科との関連も生み出すと思います。教科も時代も地域もそれぞれの人も「つながっている」ということを、授業を通して生徒と共有していきたいです。 |

参考資料：

図説人口で見る日本史（鬼頭宏著）http://honkawa2.sakura.ne.jp/1150.html

鶴見小野駅周辺の商店街の写真（添付①）

ＡＢＣジャパンの資料一部抜粋（添付②）

年齢別日本の人口分布（添付③）

日本の海外移民の歴史（添付③）http://www.gialinks.jp/nanbei.html

ギャップマインダーの分布図　https://www.gapminder.org

添付①

添付②

# 鶴見区の歴史

## 特徴

- 外国人が多い
  →横浜で３番目
- 沖縄系日系南米人が多い
  →電気工事に携わっている人が多い
- ブラジル人学校がない
  →みんな日本の学校に通う
  →日本語を必ず覚えなければならない

## 課題

- 日本人と外国人が交流する機会がない
  →相互理解ができず、トラブルの原因に…
- 日本に暮らすための不安定さ・情報の欠如
  →日本人よりも不利な条件で生活
- 授業についていけない子ども
  →結果として、進学・就職・貧困に影響

## ＡＢＣジャパンについて

定住外国人の自立

子どもの教育保障

こころのサポート　次世代の育成

多文化共生

### 定住外国人の自立

●情報提供

・教育セミナー
・家計セミナー
・栄養・和食ワークショップ

### 定住外国人の自立

●大人の日本語教室

▼日本語文法だけでなく、生活にあった内容

### 子どもの教育保障

・「外国つながり」の理解の難しさ

「日系人」という言葉のわかりづらさ

家の中：親の文化が主流
家の外：日本文化が主流

### 学校編

・授業が分からなくても、親に教えてもらえない
・音読のやりがいがない
・九九の相手がいない
・「え、知らないの？」
・親は手紙が読めない前提
・遠足の持ち物が謎な時がある
・手続きあれば、必ず関与
・成績表は解説必要

### 家の中編

・テレビでわからないことあると、誰もわからない
・会話ができても、深い話は難しい

### 家の外編

・日本での人との関係のつくり方に、時々おじおじ…

### 子どもの教育保障

●フリースクール

教室の様子

遠足

フィリピン、アメリカ、ブラジル…

### 子どもの教育保障

●つるみ〜にょ

…放課後に学校の図書館を借りて、宿題支援教室

▼高学年組。

普段の様子。こどもたくさん。

夏休みの宿題支援教室

### 多文化共生

●日本人との交流

・鶴見川クリーンキャンペーン
・カポエイラ教室

▼鶴見川クリーンキャンペーン

カポエイラ教室

### 多文化共生

●ブラジルイベント企画

・ブラジリアンＷＥＥＫＩＮつるみ
・多文化交流カラオケ大会

### 多文化共生

●中学校・高校・大学にて

・ワークショップ
・出張授業
・生徒交流

▼中学校にて講演会

▼高校生を招いて

▼中学校にて料理教室

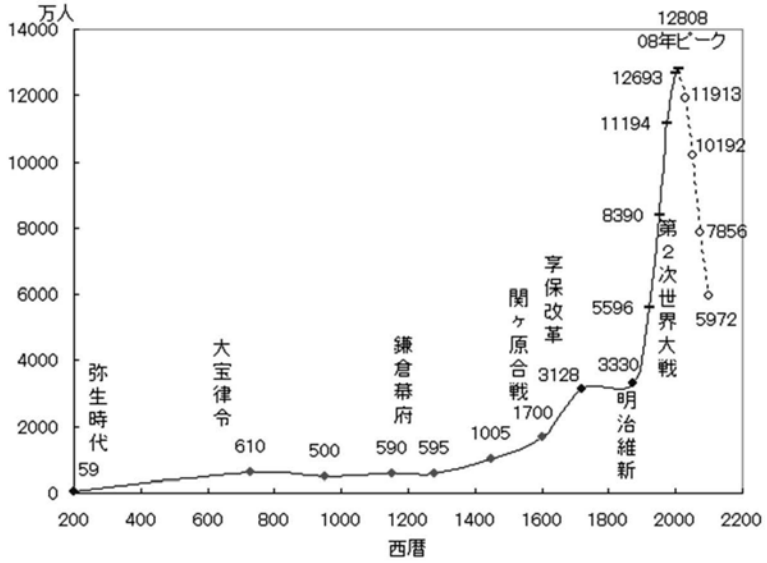
大学にて

▼授業で使ったワークシート

歴史プリント４９「人口変動からみる近代史」　　近代の日本

江戸時代から戦後にかけての人口推移から社会を捉えなおそう

□１学期に見た、人口変動のグラフを覚えていますか？




（資料）
明治維新までは鬼頭宏「図説人口で見る日本史」(2007)（"・"）、及び深尾京司ら編「岩波講座日本経済の歴史（中世）」(2017)（"・"）
1920年、50年、75年、2000年は総務省「国勢調査」、2008年は総務省「推計人口」、（"－"）
2030年、2050年、2075年、2100年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位（死亡中位）推計（"-o-"）

▶グラフから読み取れること

①[1] ……

②[2] ……

③[3] ……

Q　①～③の歴史的背景を考えてみよう。

①安土桃山時代末～江戸時代中期

| |
|---|
| 4 |

②江戸時代中期～幕末

| |
|---|
| 5 |

③明治維新～戦後

| |
|---|
| 6 |

□明治維新以降人口が急増した結果、多くの日本人が「海外移民」となりました。昨年の地理で「移民の歴史」を学んだことを覚えていますか？

当時の人々はなぜ移住したのだろう。→ [7]

政府もさかんに海外移民を呼びかけていましたね。

| | | |
|---|---|---|
| 1868 年 | ハワイ王国への移民 | 江戸幕府が滅び、明治時代へ |
| 1886 年 | 日布渡航条約…官約移民の開始<br>＜計 26 回、約３万人＞ | |
| 1888 年～<br>(明治２０年) | ハワイのほか、米国、カナダ、オーストラリアなどへの移民も | 日清戦争開始 |
| 1894 年 | 官約移民の廃止…民間の移民会社 | |
| 1898 年～ | メキシコ、ペルー、フィリピンへ移民開始 | ハワイがアメリカ合衆国へ併合 |
| 1908 年～ | ブラジルへ移民開始 | |
| 1936年～ | パラグアイへ移民開始 | |
| 1942 年 | | 太平洋戦争開始 |
| 1952年 | 移民再開 | |
| 1963 年 | 海外移住事業団（JICA の前身）設立 | |
| 1964 年 | 戦後初めて海外渡航の自由化 | |

**1885 年から 1972 年までの**
**都道府県別出移民数**（旅券の発行数）

| 都道府県 | 移民数 |
|---|---|
| 広島県 | 109,893 |
| 沖縄県 | 89,424 |
| 熊本県 | 76,802 |
| 山口県 | 57,837 |
| 福岡県 | 57,684 |

Q　静岡県浜松市のブラジル移民１００周年動画を見たこと、覚えていますか？
　　写真（ロイロ参照）は 2020 年神奈川県鶴見区で撮った写真です。

□2008 年以降の人口減少について

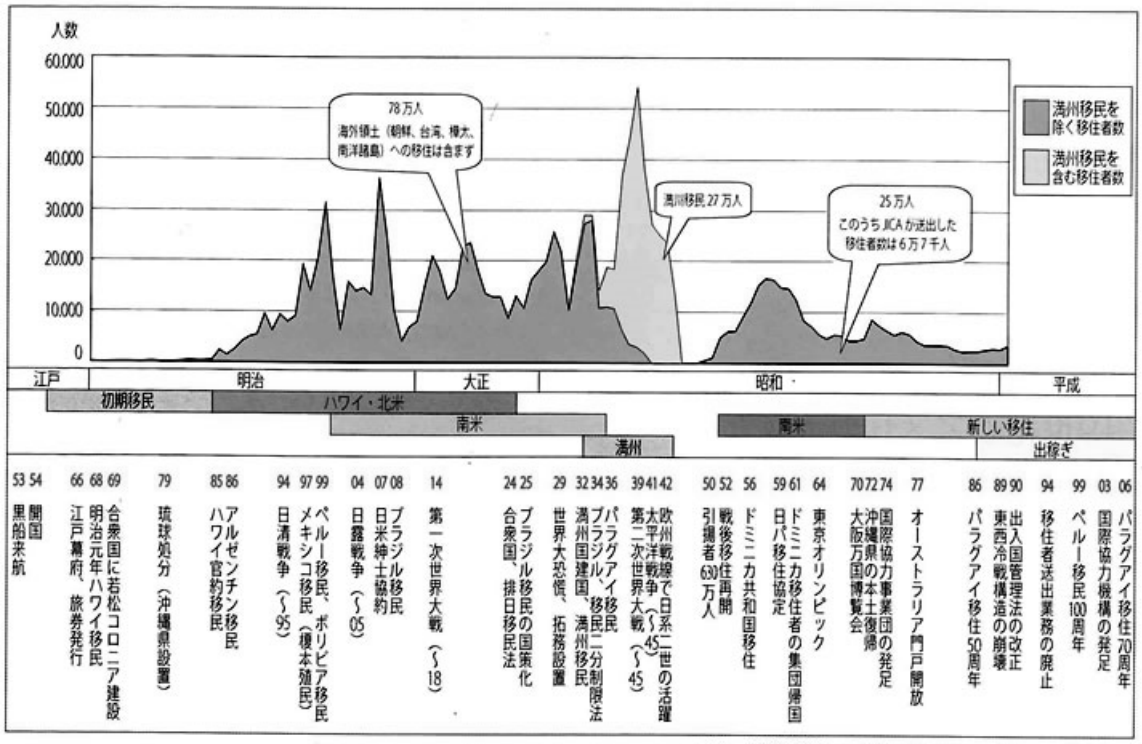
最も大きな原因は何ですか。→ （[8]　　）です。

加えて（[9]　　）が進んでいて、今後ますます働く人（生産年齢人口）が足りなくなってきます。解決策は何か思い浮かびますか？

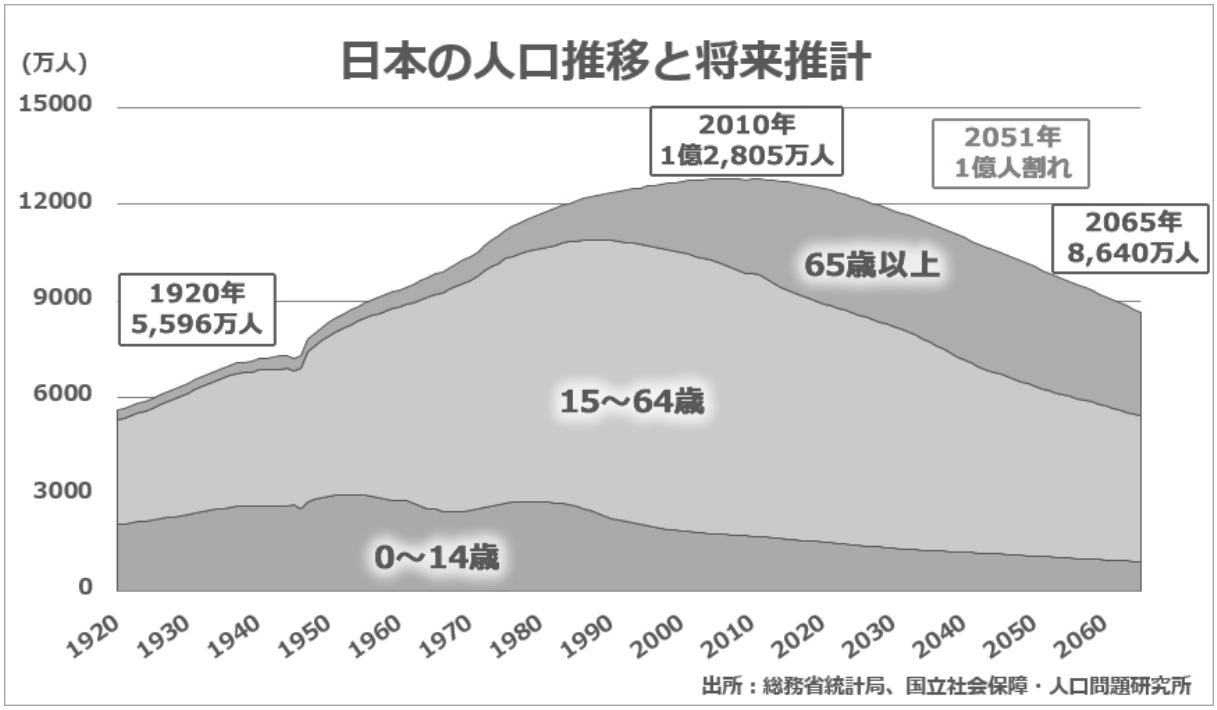
| |
|---|
| 10 |

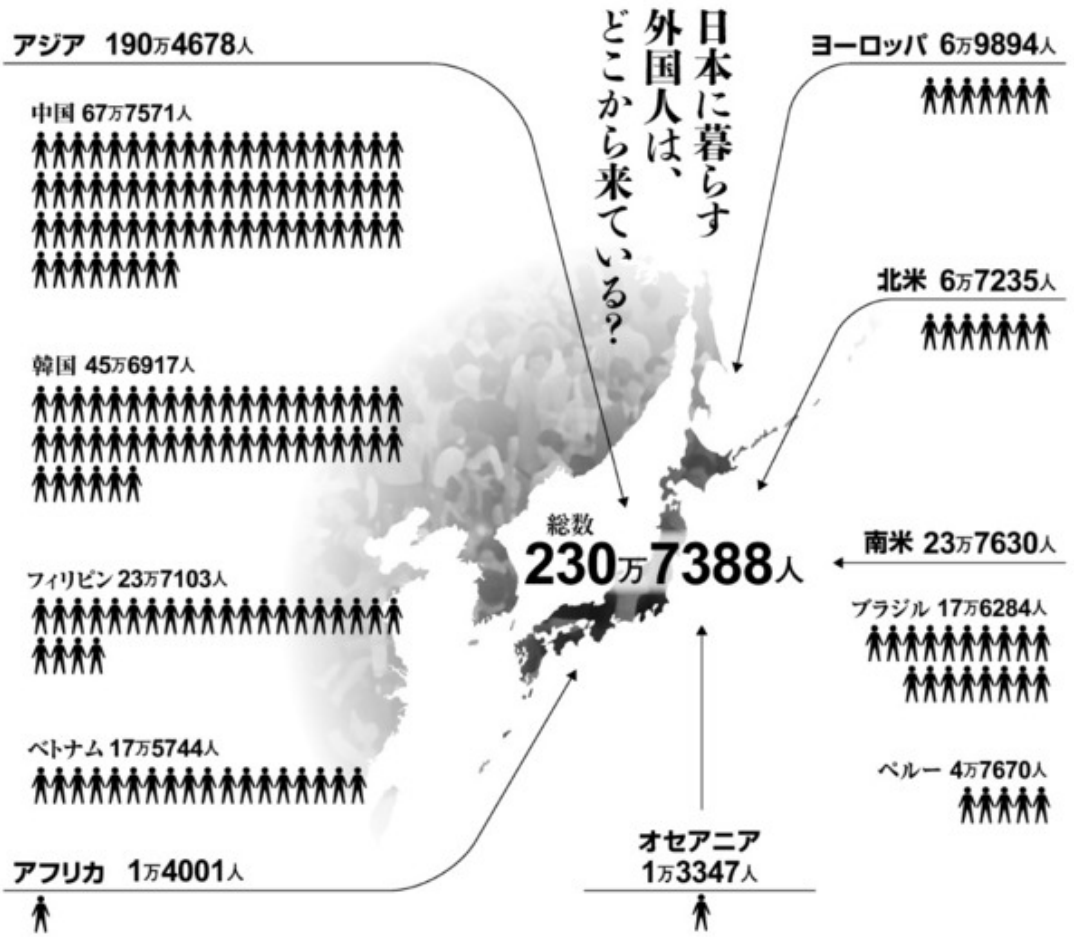
添付資料③

**日本の海外移住者数の変遷**




出典：「海外移住統計（平成6年10月）国際協力事業団」に基づき作成。






主な国。🧍は1万人（千の単位を四捨五入）。総数には無国籍者603人を含む。法務省 国籍・地域別在留外国人統計、2016年6月　グラフィック・山田 英利子

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 大塚　圭 | 学校名 | 東京都<br>中央大学杉並高等学校 |
| 担当教科等 | 英語 | 対象学年（人数） | 高校１年・２年・３年（２６名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年１０月～１１月（３時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習(探究)の時間

2. 単元(活動)名：SDGsでつなぐ国際協力

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「国際協力×SDGs」

単元目標：SDGsを通して国際協力の意味を考え、多角的な視野に触れること

関連する学習指導要領上の目標：

(1)　探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2)　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3)　探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 先進国及び途上国の社会問題とSDGsとの関連性を理解できるようにする。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 資料や統計データを読み取り、情報を整理して課題を設定できるようにする。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 先進国と途上国の課題を同時に解決するアイデアを協働して考え、発信できるようにする。 |

5. 単元設定の理由・単元の意義

（児童／生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由】

SDGsを通して国際協力を捉えると、先進国と開発途上国における環境、開発、人権、平和、多文化、持続可能性などの幅広い問題を協力して解決していくというプロセスを読み取ることができる。SDGsは、先進国と途上国の課題を同時に解決するための架け橋（ツール）であるという認識のもとに、生徒たちが多角的に国際協力という概念を理解する機会として、本単元を設定した。

【単元の意義】

国際協力やSDGsの題材を通して、個人の価値観は普遍的に共有されたものではなく、周りの環境に影響を受けていることを認識して自己の視点を見直し、実社会や実生活において多角的な視野で物事を考えられるようにすることを目的としている。

【児童／生徒観】

本校では、土曜日の３・４時間目を「土曜講座」として高校の通常カリキュラムとは別にさまざまな選択講座を用意し、生徒一人ひとりが各自の興味・関心に応じて履修できるようになっている。本単元は、この土曜講座の一つとして開講されているため、国際協力やSDGsに興味のある生徒が参加している。しかし、学年が異なり、お互いに初対面の生徒が多いので、最初に良好な人間関係を構築するように配慮する必要がある。

【指導観】

生徒たちの興味のある国は、欧米諸国などの先進国及び近隣諸国であり、非常に偏った視点を持っている。政治的・経済的・歴史的な欧米型の枠組みだけでなく、各国の生活様式や文化的背景を反映した多元的価値に触れてもらいたい。

6. 単元計画（全３時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | SDGs の概要と日本の社会問題 | ・先進国と途上国について視点をずらしてみる。<br>・SDGs の概要を理解する。<br>・日本の社会問題と SDGs との関連性を知る。 | ・日本とキルギスの高校生におけるアンケートを比較して、「なぜ日本の高校生と日本とは異なる社会・文化を持つキルギスの高校生が同じ欧米諸国に興味を持つのだろうか？」について意見を共有する。<br>・国連作成の DVD を視聴して SDGs の概要を理解する。<br>・SDGs に関係すると思われる写真を見て SDGs のどの目標に関連しているのか意見を共有し、発表する。<br>（写真は生徒が事前に１枚撮影）<br>（例：通勤電車・コンビニ弁当・ゴミ不法投棄）<br>・「持続可能な開発レポート 2020」における日本の目標達成度について情報を共有する。<br>・学んだことを踏まえて、「SDGs とは・・・」と端的に表現する。 | 【動画】<br>国連広報センター「持続可能な開発とは？」<br><br>【資料】<br>「持続可能な開発レポート 2020」 |
| 2 | SDGs と途上国の社会問題 | ・途上国の社会問題と SDGs との関連性を知る。<br>・カンボジアの社会問題を理解する。<br>・資料を整理・分析して発表する。 | ・本校で実施しているカンボジアでの研修の写真を見て、カンボジアには、どのような社会問題があるのか自分の「予想」及びそれらの問題は、SDGs のどの目標と関連しているのか考える。<br>【ジグソー法】<br>・カンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料を読み、最も優先的に取り組むべきだと思う課題を理由とともにグループで話し合う。<br>（エキスパート活動）<br>・一人一人がエキスパート活動で得た知識や考え方を、グループの他の人に説明する。<br>（ジグソー活動）<br>・カンボジアが抱える問題で、最も優先的に取り組むべき社会課題・SDGs の目標について意見を共有し、発表する。<br>（クロストーク活動） | 【資料】<br>ジグソー法で使用するカンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料 |
| 3<br>本時 | 国際協力と SDGs の役割 | ・先進国と途上国の問題を同時に解決するアイデアを考える。<br>・SDGs を通して、国際協力の役割を理解する。<br>・新たな価値を創造することで多角的な視野に触れる。 | ・One Planet Café の活動における写真を見て日本とザンビアの問題をどのようなアイデアで解決したのか意見を共有する。<br>・ザンビアにある村の貧困問題と日本の環境問題を理解する。<br>・ザンビアのオーガニックバナナ畑で通常捨てられる茎の繊維を利用し、日本の和紙工場で古紙を加え、質の高いバナナペーパーを作る One Planet Café の活動ついて意見を共有する。<br>・日本とカンボジアの課題を「一気に串を刺すように」解決するアイデアを考える。<br>1. 日本の課題をできるだけ多く挙げる。<br>2. 前回のエキスパート活動で使用した資料を使ってカンボジアの課題を挙げる。<br>3. 日本とカンボジアの課題を同時に解決するアイデアを考え、SDGs との関連性を含めて発表する。 | 【写真】<br>One Planet Café の活動写真<br><br>【資料】<br>カンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料 |

7．本時の展開（３時間目）

本時のねらい：SDGs を通して先進国と途上国の問題を同時に解決するアイデアを考える

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入 | 前回までの授業における「日本と途上国の社会問題と SDGs との関連性」について振り返り、本日の授業の目標は、「先進国と途上国の問題を同時に解決する」であることを説明する。 | 数名の生徒を指名して学んだことについて意見を共有する。 | |
| | 【グループ活動】<br>One Planet Café の活動における５枚の写真を見て、日本とザンビアの問題をどのようなアイデアで解決したのか意見を共有する。 | バナナから紙を作っていることを想像することは難しいので、適宜ヒントを与える。 | 【写真】<br>One Planet Café の活動写真 |
| （5 分） | | | |
| 展開 | 資料を用いて One Planet Café の活動及びザンビアにある村の貧困問題と日本の環境問題を理解する。 | 同時に問題を解決するプロセスに焦点を当てる。 | 【資料】<br>One Planet Café のバナナペーパーについてのスライド |
| | 【グループ活動】<br>日本とカンボジアの課題を同時に解決するアイデアを考える。<br>１．日本の課題をできるだけ多く挙げる。<br>２．前回の授業で使用した資料を用いて、カンボジアの課題を挙げる。 | 一つひとつのステップに十分な時間を使うように留意する。 | |
| | ３．日本とカンボジアの課題を「一気に串を刺すように」解決するアイデアを考え、意見を共有する。<br>（SDGs との関連性を含める） | アイデアの質よりも考えるプロセスを重視する。 | 【資料】<br>カンボジアの「教育」「観光と環境」「保健・医療」「産業・労働」についての資料<br>（本時で使用した資料に一部を掲載） |
| | グループで考えたアイデアを代表者が発表する。 | 改善点などの意見を共有する。 | |
| （40 分） | | | |
| まとめ | SDGs とは多角的に物事を考えるときに活用する世界共通のツールであることを説明する。 | | |
| | 振り返りシートに「Keep（このまま継続すること）」「Problem（課題）」「Try（解決策）」という３つの項目を踏まえて記入する。 | 個人で考えるように促す。 | |
| （5 分） | | | |

| |
|---|
| 8. 評価規準に基づく本時の評価方法<br>毎回の授業における振り返りシート・授業全体の感想シート・グループ活動の観察・解決策のアイデアなどを観点に単元の評価規準の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を評価する。 |
| 9. 学習方法及び外部との連携<br>今回の授業では、学年が異なり、お互いに初対面の生徒が多いので、最初に良好な人間関係を構築するために自己紹介などを含むアイスブレイクの時間を通常授業より多く設定した。また、３年生とは事前に打ち合わせをして、ファシリテーターとしての役割を認識してもらうようにした。そのため、フォトランゲージやジグソー法を活用したアクティビティでは、３年生が１年生と２年生に声をかけ、発言しやすい雰囲気を作ってくれたことで、積極的な議論をすることができた。良好な人間関係を築くための時間及び事前の打ち合わせの効果を実感することができた。また、教師海外研修でお世話になった One Planet Café の活動は、本単元の「SDGs でつなぐ国際協力」に合致した取り組みであったため、生徒が SDGs を通して二つの国の問題を同時に解決する国際協力についてイメージを持つために非常に重要な資料となった。 |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>SDGs やカンボジアについての知識などの不足を補うために、基本的には地歴公民科の教員とティームティーチングで本単元を実施した。ジグソー法で使用したカンボジアの資料などは、地歴公民科の教員によって作成されたものである。また、SDGs に興味のある教員には、事前に本単元の話をして、授業でグループ活動などのサポートに入ってもらった。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 高校１年生から３年生までの生徒が混在するために、SDGs や国際協力についての背景知識（今までの授業におけるテーマの扱い）やグループ活動における協働学習による経験などは、学年によって異なるので、議論が上手く進まないこともあった。また、教員にとっては通常授業における専門以外の知識が必要になるために、授業準備に時間がかかってしまうことも継続性を考えるうえで一つの課題である。 |
| 12. 改善点 | 上記の課題を解決するために、１年生や２年生には事前学習としての時間を設定して背景知識になるべく偏りがないようにすることは一つの方策である。また、授業における専門的な知識を補うためには、外部機関との連携が必要である。テーマによっては、外部機関に委託することで、生徒の学びをより充実したものになると考える。その際には、授業の目的や外部機関の伝えたいことなどをしっかりと調整することが重要である。 |
| 13. 成果が出た点 | 本校では、今年度、コロナ禍の影響で海外での研修はすべて中止になり、生徒たちがグローバルな視点で物事を捉えることのできる機会は限定的なものになってしまった。しかし、このような状況の中で、今までの実践を参考にして SDGs と国際協力をテーマにした授業を実践できたことは大きな成果であると考える。また、土曜日の３・４時間目という通常授業とは異なる時間設定や希望者のみという形で実施したことで SDGs や国際協力についての生徒のニーズを把握することができた。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ・第１回：SDGs の概要と日本の社会問題<br>今回の写真を見ながら SDGs について考える時間では、自分では思いつかないような意見もグループの人との話し合いで共有できたので良かったです。例えば、スーパーのカゴに沢山のお弁当が入っている写真を見たときに、私は「プラスチック容器による環境破壊」を真っ先に思いましたが、他の人は「手頃な値段で食べ物が手に入る」と考えました。同じ写真を見たとしても、SDGs においてプラスな面とマイナスな面があることに気づかされた瞬間でした。<br><br>・第２回：SDGs と途上国の社会問題<br>カンボジアなどの発展途上国において、予想される問題として、貧困や都市部と郊外における経済格差を中心として考えていました。今回、グループ内での話し合い、他のグループとの発表・比較を通して、根本的に考えると「教育」に繋がることに気づきました。しかしながら、これらの情報はカンボジアという国の表面的問題に限られてしまっていると思います。一方で、こちら（先進国）から見た問題が実際に現地では問題として考えられていなかったり、それが普通のこととして考えられていたりと実際の生活を通して、現地の人の目線から考える必要があると思います。<br><br>・第３回：国際協力と SDGs の役割<br>私のグループでは、カンボジアのゴミ問題と日本の過疎の問題を解決するアイデアについて話し合いました。話し合いで出た案は、まず、日本の過疎化地域特有の材料や技術を利用したゴミ箱を作り、それをカンボジアに買ってもらい、そして、そのゴミ箱をカンボジアのゴミが溢れる川の周辺地域に設置するというものです。話し合いでは特に、過疎化地域特有の材料、技術は何であるかを考えるのに時間を多く割きました。２つの問題を解決する一つのアイデアを考えるのは、前回の資料やグループでの話し合いがあっても、とても難しかったです。しかし、「多角的な視野」は、こういう（今回のテーマのようなことを考える）時に必要なんだと思いました。<br><br>・全体の感想<br>「多角的な視野から考える」がテーマなだけあって、グループごとに違った意見が沢山出てきて大変勉強になった。２回目の授業は特に、エキスパートで分かれて情報をシェアするときの伝え方や捉え方が人によってそれぞれであるし、与えられた情報から思いつく事も人それぞれで、異なった思考回路をもつ人と意見交換する楽しさを改めて感じた。多様な考え方が混在するこの世の中で相手の意見を否定せず受け入れることは大切だと思った。自分の考えをより深めることができるし、新たな発見もあるかもしれない。相手の意見は否定せず、よりよい方向にもっていくという考え方は、大人になってからも忘れないようにしたい。これからも社会問題や世界の問題が尽きることはないと思うため、多角的な視野から物事を考え、積極的に自分の意見を持とうと思った。 |

| | |
|---|---|
| 15. 授業者による自由記述 | 教師海外研修に参加して、日本国内から発信する国際協力について学べたことが一番の収穫である。今までは、どちらかと言うと、途上国を中心としたテーマで授業を実践することが多かったが、今回、日本と途上国をつなぐ架け橋となるような国際協力を参考に授業を展開することができた。また、２０２０年度から順次実施されている新学習指導要領の幼稚園から高等学校における前文に記述されている「持続可能な社会の創り手」を育成するために、「SDGs」と「探究」という二つのキーワードを自身の教育実践にどのように取り入れていくかを深く考える機会になった。 |

参考資料：

国連広報センター「持続可能な開発とは？」：https://www.youtube.com/watch?v=1c48vhokWLQ&feature=emb_logo

持続可能な開発レポート 2020：

https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2020/2020_sustainable_development_report.pdf

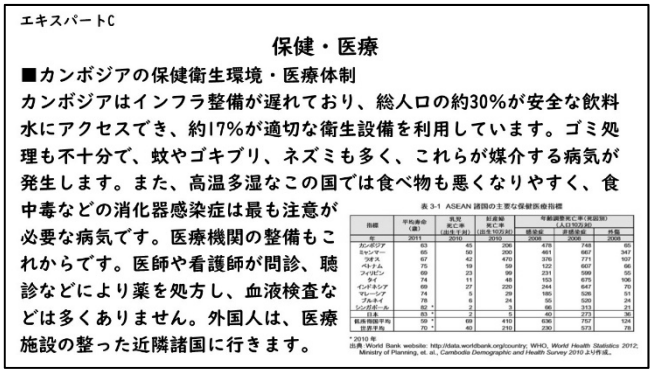
One Planet Café：https://oneplanetcafe.com/

本時で使用した資料：

One Planet Café の活動写真

One Planet Café のバナナペーパーについての資料

カンボジアについての資料（抜粋）



エキスパートC

保健・医療

■カンボジアの保健衛生環境・医療体制

カンボジアはインフラ整備が遅れており、総人口の約30%が安全な飲料水にアクセスでき、約17%が適切な衛生設備を利用しています。ゴミ処理も不十分で、蚊やゴキブリ、ネズミも多く、これらが媒介する病気が発生します。また、高温多湿なこの国では食べ物も悪くなりやすく、食中毒などの消化器感染症は最も注意が必要な病気です。医療機関の整備もこれからです。医師や看護師が問診、聴診などにより薬を処方し、血液検査などは多くありません。外国人は、医療施設の整った近隣諸国に行きます。

表 3-1 ASEAN 諸国の主要な保健医療指標

| 指標 | 平均寿命（歳） | 乳児死亡率（出生千対） | 妊産婦死亡率（出生10万対） | 年齢調整死亡率（男女別）（人口10万対） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 感染症 | 非感染症 | 外傷 |
| 年 | 2011 | 2010 | 2010 | 2008 | 2008 | 2008 |
| カンボジア | 63 | 45 | 206 | 428 | 708 | 65 |
| ミャンマー | 65 | 52 | 200 | 415 | 642 | 347 |
| ラオス | 67 | 42 | 470 | 376 | 771 | 357 |
| ベトナム | 73 | 19 | 59 | 310 | 577 | 66 |
| フィリピン | 69 | 23 | 99 | 231 | 589 | 95 |
| タイ | 74 | 11 | 48 | 153 | 675 | 106 |
| インドネシア | 69 | 27 | 220 | 244 | 647 | 75 |
| マレーシア | 74 | 5 | 39 | 185 | 526 | 51 |
| ブルネイ | 76 | 6 | 24 | 55 | 526 | 24 |
| シンガポール | 82 * | 2 | 6 | 66 | 313 | 21 |
| 日本 | 83 * | 2 | 5 | 40 | 273 | 36 |
| 低所得国平均 | 66 * | 68 | 410 | 636 | 757 | 124 |
| 世界平均 | 70 * | 40 | 210 | 230 | 573 | 79 |

* 2010 年

出典：World Bank website: http://data.worldbank.org/country; WHO, *World Health Statistics 2012*; Ministry of Planning, et. al., *Cambodia Demographic and Health Survey 2010* より作成。

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 吉田大祐 | 学校名 | 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 |
| 担当教科等 | 社会科 | 対象学年（人数） | 全校生徒（８３３名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年１２月３日（１時間）<br>５限：1・2 学年　6 限：3 学年（体育館） | |

【実践概要】

1.　実践する教科・領域：総合的な探求の時間

2. 単元(活動)名：防災教育講演会

2.　授業テーマ：「１０回目の３月１１日を越えて」

単元目標：震災やボランティア活動の実態について知るとともに、命の大切さをとらえ直し、今ある自分の生活、これからの自分の生活について考える機会とする。

関連する学習指導要領上の目標：探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 東日本大震災に関する基礎的な事項を理解する。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 女川町の中学生の詩や震災に関わった３名の方の詩の想いを受け取り、自分自身の感想や考えを詩を通して表現する。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 命の大切さを理解するとともにボランティア活動に関わる際にどのような心構えで臨むべきかを考える。 |

5. 単元設定の理由・単元の意義

（児童／生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由】

本校では２０１３年から２０１８年の６年間、夏休みに有志の生徒を募り、１泊２日で東日本大震災の被災地にボランティアに訪れる「被災地ボランティア」が行われていた。「被災地ボランティア」自体は２０１８年で終了したが、その活動の成果を報告し、ボランティアに参加していない生徒も震災ついて考える「防災教育講演会」は毎年１２月に継続して実施してきた。例年、東北から講師の方をお招きしていたが、今年度はコロナウィルスの関係で外部講師の来校が難しくなったため、本年度中止も含めて対応が話合われた結果、本校教員で授業を行うこととなった。

【単元の意義】

２０２１年の３月１１日で東日本大震災からちょうど１０年が経つ。生徒は当時、５歳～８歳であり、当時の状況をどれだけ理解できていたかは分からない。また、１０年の歳月の中で、東日本大震災の記憶も薄れてしまっているのが実情である。２０２０年、コロナウィルスが猛威を振るい、学校や日常生活の「当たり前」を奪われ、見通しの立たない社会に進んでいく生徒たちだからこそ、東日本大震災から「当たり前」の大切さ、人との繋がりの大切さを考えることができると考える。

【児童／生徒観】

本校は進路多様校であり、四年制大学、短大、専門学校、就職と生徒の進路は多岐にわたり、多様な考えや背景を持った生徒が在籍している。また、コロナウィルスの関係で文化祭をはじめ各種学校行事が中止になるなど、生徒たちは期待していた学校生活が送れず、目に見えないストレスを抱えている。

【指導観】

１０年の年月は確実に東日本大震災に対する生徒の興味や知識、当事者意識を薄れさせているので、生徒自身が自分事として捉える授業を行う。

| 6. 単元計画（全１時間） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
| 1<br>本時 | 防災教育講演会 | 震災やボランティア活動の実態について知るとともに、命の大切さをとらえ直し、今ある自分の生活、これからの自分の生活について考える機会とする。 | ・震災に関するクイズ<br>・震災下のボランティア<br>・女川町の中学生の詩を読む、繋ぐ<br>・震災に関わった３名の詩を読む、繋ぐ | ・女川町の中学生の詩<br>・震災に関わった３名の方の詩 |

7. 本時の展開（１時間目）

本時のねらい：クイズと講演と連句を織り交ぜ、生徒自身が東日本大震災を振り返ることで、命の大切さをとらえ直し、今の生き方、これからの生き方について考える機会とする。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（20分） | ・自己紹介<br>・「2011 年 3 月 11 日あなたはどこで何をしていましたか？」と発問。近くの人と話合わせる。<br>・震災に関する５つのクイズを出題する。出題の度に近くの人と話合わせる。<br>１・２問目：数字で考える<br>１問目：犠牲者数<br>２問目：波の高さ<br>３・４・５問目：ボランティア体験から考える<br>３問目：泥かきのボランティア体験から<br>４問目：学習支援ボランティア体験から<br>５問目：子供向けイベント開催の体験から | ・生徒と距離が出ないように穏やかな口調で語りかける。<br>・発問後は近くの人と話合わせる時間をとる。 | ・PPT「１０回目の３月１１日を越えて」<br>・WORD「１０回目の３月１１日を越えて」 |
| 展開<br>（20分） | ・女川第一中での山中先生の詩の実践の紹介する。<br>・女川第一中の生徒の詩を読み、生徒に自分の７・７の言葉をつないで連句を完成させる。<br>・近くの人と完成した詩や感想を共有させる。<br>・東日本大震災時の国際協力の事例を紹介する。パラグアイの豆腐百万丁プロジェクトなど | ・一つ一つの言葉を丁寧に読み上げる。<br>・詩の作成の時間は可能な限り多くとるが、時間で調整する。 | |
| まとめ<br>（10分） | ・震災に関わり今を生きる３名の方の詩を紹介する。<br>・宿題として 3 名の方の詩に生徒自身で言葉をつなぎ、連句を完成させるように連絡する。 | | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

①知識及び技能：ワークシート

②思考力、判断力、表現力等：ワークシート

③学びに向かう力、人間性等：ワークシート

9. 学習方法及び外部との連携

・学習方法

① 話し合い活動：クイズや発問ごとに生徒同士で話合いをする時間を設けた。（１～３分）

② 詩の創作：女川第一中の詩と３名の方の詩の続きを考える活動を行った。

・外部との連携

今回、「震災を経て今を生きる人の言葉」として３名の方に生徒向けの詩の創作を依頼した。

① 徳水利枝氏（一般社団法人 雄勝花物語代表理事）

宮城県石巻市雄勝町で人々の憩いの場となる「雄勝ローズファクトリー」を運営。2018 年に本校最後の被災地ボランティアの受け入れをしていただいた関係で依頼。

② 竹田憲弘氏（Africa Note 代表）

震災時のボランティアが契機となり、青年海外協力隊に参加し、アフリカでツアー業を起業。2019 年自主教師海外研修の際にお世話になった関係で依頼。

③ ジギャン・クマル・タパ氏

東日本大震災、ネパール大地震双方の震災で支援活動に尽力。震災を受けた日本とネパールの子供たちを結ぶ「たまごプロジェクト」を行う。JICA 埼玉デスク矢田部氏の紹介で依頼。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

**・3 年選択世界史の授業「命の詩を繋ぐ」**

「命の詩を繋ぐ」をテーマに詩の創作を通じた歴史×国際理解教育の実践

① JICA 埼玉デスク矢田部氏による「ラテンアメリカ出前授業」

② Africa Note 代表竹田氏による「ルワンダオンライン授業」

③ イスラエル人家具職人ダニー氏による「パレスチナ問題出前授業」

④ JICA パレスチナ事務所坂元氏・ナサール氏協力による「高校生オンライン対談―鳩ヶ谷高校×パレスチナ―」

⑤ カンボジア人留学生ソヘーン氏・JICA 埼玉デスク矢田部氏による「カンボジア×SDG s ワークショップ」

**・１・２学年での総合的な学習の時間「海外ボランティア講演会」**

青年海外協力隊をはじめとした海外ボランティア経験者８名の方を招き、１、２学年の各教室で出前授業を実施。

**・３学年での総合的な探求の時間「SDG s 講演会」「海外起業家講演会」**

JICA 埼玉デスク矢田部氏による「SDG s 講演会」、Africa Note 代表竹田氏による「海外起業家講演会」の実施。

**・ビジネスコンテスト「高校生みんなの夢アワード」「高校生ビジネスアイデアコンテスト」への参加**

「地域×国際理解×ビジネス」をテーマに有志の生徒と「高校生みんなの夢アワード」、「高校生ビジネスアイデアコンテスト」に参加。双方で全国大会に進出し、発表。

**・「彩の国 SDG s セミナー」における生徒との共同発表**

これまでの国際理解教育の授業実践とビジネスコンテストのアイデアを生徒と共に発表。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ① 「震災の自分事化」<br>東日本大震災から 10 年が経つ中で、いかに生徒たちに震災を自分事として捉えさせ、今、これからの自分の生き方に繋げさせるか。今回は個人の体験と詩を用いることで、生徒自身が震災を追体験できるように工夫した。<br>② 「導入と内容の切り替え」<br>導入をポップにして生徒との距離を縮めつつ、いかに内容に引き込み生徒自身の心を動かすか。今回は「何故今ここで自身が話をするのか」の説明を起点に、導入と内容（授業）を明確にわけることで、意識の差別化をはかった。<br>③ 「授業への当事者意識の醸成」<br>数百人という規模で、いかに生徒一人一人に授業への当事者意識を持たせるか。今回はクイズや話し合い活動を導入し、生徒参加型の授業とすることで、授業への参加意識を高めた。 |
| 12. 改善点 | ① 「内容の普遍化」<br>前半の導入内容が個人の体験ベースとなってしまった。しかし、自身の体験も含め、「2011 年の震災時にあった出来事」として 1 つのエピソード化することで、普遍的に使用可能な教材となると考える。<br>② 「他教科との連携」<br>連句を扱う本実践は特に国語科との協力が可能であったと考える。事前に国語科と連携して当日に向けた連句を含めた詩の授業をすることで授業の効果を高められると考える。<br>③ 「年間計画の中での位置づけ」<br>総合的な探究の年間計画の中で、2 学期のこの時期に「防災教育講演会」を行うことの意義付けはできなかった。前後の時間も含めて計画を立て連続性を授業に持たせることで効果を高めたい。 |
| 13. 成果が出た点 | ①「生徒の意欲的な参加」<br>毎年行われる「防災教育講演会」への慣れ、木曜 5・6 限という時間、数百人規模で体育館で実施という状況から生徒の消極的な参加態度が懸念された。しかし、当日は積極的にクイズや話し合い活動に取り組み、話に耳を傾ける生徒の様子が見られた。<br>②「震災の追体験」<br>連句を通し、より深く震災について考えさせることが出来たと考える。「詩を書いた女川の中学生の目線で考えるのが苦しかった」というとある生徒の感想から単に話を聞くよりも震災を自分事化してとらえる効果があったと考える。<br>③「国際協力への共感」<br>生徒の感想に国際協力への感動や共感の声が多く見られた。「震災」という一つの具体的な記憶をもとにすることで、生徒たちによりわかりやすく国際協力の重要性を理解する機会を設けられたと考える。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | <u>1　生徒が書いてきた詩</u><br>テーマ１　徳水利枝さんの詩<br>・痛みの地　人の繋がり　希望生み　一輪の花　誰かの光<br>・痛みの地　人の繋がり　希望生み　辛さを共に　分かち合うもの<br>・痛みの地　人の繋がり　希望生み　明日へと繋がる　種を残した<br>テーマ２　竹田憲弘さんの詩<br>・凍て解けの　止まった時計　種をまく　一刻一輪　成長する<br>・凍て解けの　止まった時計　種をまく　追い越す秒針　糸をつないだ<br>・凍て解けの　止まった時計　種をまく　動かぬ針は　心を動かす<br>テーマ３　ジギャン・クマル・タパさん<br>・災害の　せいかお陰か　仲良しに　貴方の手を取り　歩む世界<br>・災害の　せいかお陰か　仲良しに　繋いだ手と手　もう離さない<br>・災害の　せいかお陰か　仲良しに　お陰と言える　未来を掴む<br><br>感想<br>・詩には短い言葉しか表せないが、だからこそ、心の言葉が強く表せるんだと思えました。<br>・今の私たちは家に帰ったら「おかえり」と迎えてくれる家族がいるし、美味しいご飯を食べれたり、学校に行って勉強したり、友達と交流するのが当たりまえにできているけど、それができない人がいると考えると、わがままばかり言っている暇なんてないし、普通の生活をできない人に失礼だと思いました。今幸せに生きていけることに感謝して、これからの人生に希望をもって前向きに生きたいです。<br>・ボランティアに実際に行った方々や、被災された方の詩を読んで、人の優しさや強さを感じました。私も誰かの気持ちによりそって誰かのために動ける人になりたいです。<br>・辛く、苦しい思いをされた方々の詩を私が書いてよいものなのかと思いましたが、今を生きる事ができなかった方を想うと、スラスラとペンが進みました。とても深く、良い授業をありがとうございました。<br>・積み上げてきたもの、築き上げてきたものが、一度の出来事で崩されて、誰かのせいにも恨みも出来ず、そんな中、もとの形に戻そうと、様々なところから様々な人達と助け合える、人間は素晴らしい生き物だなと思いました。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 本年度参加した JICA 教師国内研修は自分の授業観を大きく広げる機会となった。今年度はコロナ禍の影響で海外研修から国内研修となったが、国内諸施設の視察だけでなくオンラインを活用して東京にいながら様々な立場で国際理解教育に携わる方たちからお話を伺うことができた。さらにその学びを多種多様な自治体、校種から来た先生方と共有することで、多くの刺激とアイデア、モチベーションを得る事ができ、教員としてまた一つ成長を実感できた研修であった。様々な制約がある中で本研修を実現してくださった皆さまへの感謝の意味を込め、今後も本研修の成果を学校現場に還元していきたい。 |

・授業用ワークシート

防災教育講演会ワークシート

## 十回目の三月十一日を越えて

年　組　番　氏名

・女川一中の詩

□ 黒い波　のまれて消える　町の色

□ がれきから　やっと見つけた　父の写真

□ ただいまと　聞きたい声が　聞こえない

□ 夢だけは　壊せなかった　大震災

□ 笑えてる　お帰りなさい　もとの自分

□ 見上げれば　ガレキの上に　鯉のぼり

防災教育講演会ワークシート

## （授業後）鳩校生に贈る三名の詩

年　組　番　氏名

三名の方からみなさんに贈られた詩にこたえてみましょう。それぞれの句を読み、続くあなたの7×2字を付け加えて、5・7・5・7・7の連句を完成させてください。共感でも返答でも決意でも何でもかまいません。想いを文字に起こしてみてください。書けそうな一つだけでもかまいません。3名の方にみなさんの返事としてそれぞれ紹介します。

□ 痛みの地　人の繋がり　希望生み

[illegible]水利枝さん　宮城県石巻市雄勝町で生まれ育つ。震災により雄勝町は壊滅的な被害を受け、自身も母と祖母を亡くし、実家も流されてしまう。更地となった実家の跡地に一輪の花を植えたことがきっかけで、「人と繋がり希望を紡ぐ」ガーデン「雄勝ローズファクトリー」を設立。2018年度鶴ヶ谷高校最後の被災地ボランティアを受け入れる。

□ 凍て解けの　止まった時計　種をまく

竹田憲弘さん　学生時代に起きた東日本大震災に衝撃を受け、社会起業家を志す。卒業後お菓子メーカーに就職し仙台に勤務。震災復興に関連のボランティアやイベントを企画する。その後青年海外協力隊としてアフリカ・ルワンダで活動。現地で得た学びや出会いを活かし、ルワンダでツアー業を起業。日々ルワンダを訪れる人々に歴史や魅力を伝えている。

□ 災害の　せいかお陰か　仲良しに

ジギャン・クマル・タパさん　ネパールで出会った日本人ボランティアに憧れ、猛勉強の末日本の大学に留学。東日本大震災復興支援活動では国籍を問わない「外国人バス」を出し、現地で連日支援を行う。2015年のネパール大地震後は、震災を経験した両国の子どもの交流を図る為「たまごプロジェクト」を立ち上げ、子どもが成長する手助けをしている。

感想

・参考資料：


山中勉編『みあげれば　がれきの上に　こいのぼり（地球人の交換日記 1)』，遊行社，２０１２

和合亮一著，『詩の礫』，徳間書店，２０１１

まげねっちゃプロジェクト編，『まげねっちゃ　つなみの被災地宮城県女川町の子どもたちが見つめたふるさとの１年』，青志社，２０１２

小野　智美編，『女川一中生の句　あの日から』，はとり文庫，２０１２

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 陣野　俊彦 | 学校名 | 東京都立大島海洋国際高等学校 |
| 担当教科等 | 外国語（英語） | 対象学年（人数） | 2 年　A　組（　23　名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2020 年　9 月　　～12 月（　11　時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国際理解

2. 単元(活動)名：なし

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「多民族二ホン　多文化共生社会への第一歩　」

絶対から相対へ、国際（くにのきわ）理解で自分事化へ

単元目標：

日本の中にある“国際”を知り、自身の価値観を相対化させる。自分たちが住む日本、東京の姿を知り、多文化共生の姿勢を育む。

関連する学習指導要領上の目標：

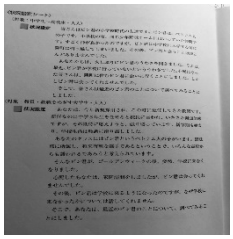
多文化共生をテーマに体系的な国際理解教育の実践を目指す

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 多分共生社会の実情を知り、他者とグループワークなどで意見を交わすことができる。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 多文化共生社会実現に向けての葛藤や課題を文章の形で表現できる |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 自身の意見のみを押しとおすことなく、他者の意見を尊重しながらグループの意見を集約できる。 |

| | |
|---|---|
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>昨今ヘイトスピーチやネット右翼によるSNS上での暴言など、外国人に対しての差別は目に余るものがある。それらの課題に対し、教育活動上でできる対策は何かないかと思案していた。本研修で多文化共生の街、鶴見区をフィールドワークで訪れた際、鶴見を教材に生徒に多文化共生を促す授業実践をしようと決意し、本単元を設定した。<br><br>【単元の意義】<br>マイノリティーの人たちと暮らす多文化共生社会において、他者に思いを馳せることは重要な資質である。ロールプレイやグループワークを通じ、上述の課題に取り組み、振り返りを続けることで、社会的情動性知性などを育むことが期待できる。<br><br>【児童／生徒観】<br>本校は２年時から海洋科と国際科に分かれる。2A国際科の生徒は大学進学を目指す生徒も多く、活動に対しては前向きである。しかしながら議論に熱中し、意見の異なる級友に激昂してしまう生徒がいるなど、本単元を通して他者の意見を尊重する力を伸ばしたいと考える。教室の中での多文化共生も喫緊の課題である。<br><br>【指導観】<br>グループワーク、ロールプレイ、発表活動を重視し、活動後教員が知識の補充をする。基本的に教員はファシリテーターとして、生徒の活動を促す。授業の終わりに振り返りを行い、次週教員がその振り返りに対しフィードバックを行い、生徒の思考の変化に気づきを得るよう工夫する。 |

6. 単元計画（全時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 北朝鮮拉致被害について | 拉致被害の映像を視聴し、日本側から見た朝鮮のイメージを一部理解をする。 | 東京都人権教育プログラム記載の政府インターネットチャンネル「めぐみ」を視聴し、拉致被害の実情を知る。 | |
| 2<br>3 | 在日韓国朝鮮人について | ヘイトスピーチなどの現状をとらえ、朝鮮人１人１人が日本に行き、共存していた事実に思いをはせる。日本で多文化共生社会の実現を考える。 | ヘイトスピーチなど共生とは逆を行く流れがあることへ思いをはせながら、どのように韓国・朝鮮人が日本に来て生活をしてきたかを理解する。自分たちの住む東京で、韓国・朝鮮人の居住区について調べる。 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4<br>5<br>6 | 在留外国人への厳しさを知る | 在留外国人への在留資格の厳しさを知る<br><br>在日外国人が持つ言語・文化上の葛藤を知る<br><br>日本文化の独特さに気づく<br><br>外国人から見た日本語の難しさを理解する | １人１人が在留外国人役になり、掲示されているアルバイトに応募できるか調べる。応募できる場合、できない場合はどのような規則が適応されているのか、理解を深める。<br>１、２限で学んだ韓国朝鮮人への労働環境と比較し、100 年たっても抜本的な解決には至っていないことに気づく。<br><br>「ビン君の悩み」のワークを通し、ビン君が直面する困難に対する解決策を皆で考える<br><br>学校での掃除の時間、国で掃除をする立場にない生徒に掃除をさせるべきか、させないかを議論する。<br><br>中学校で日本語が分からず進路を実現することができない女子生徒に、周囲の大人役となりロールプレイで課題解決を図る。 |  |
| 8<br>9<br><br>１０<br><br>１１（本時） | | 震災時に実際に起きた外国人へのトラブルを解決する<br><br>ちがいを違いとして認識する尺度をグループ内で比較する<br><br>国際理解とは何かとの本質的な考えを深める | 震災時に外国人が困っている例を通し、課題解決方法を提案することで被災時の多文化共生を考える。<br><br>ちがいのちがいカードを使って神経衰弱をする。その違いが許せるのか許せないかをグループで議論しながら、互いの価値基準について理解を深める。<br><br>多文化共生の街、鶴見の成立背景と具体的な共生方法を提示し、今後の多文化共生社会と自身の国際感覚について再度思考をする。 | |

7. 本時の展開（１時間目）

本時のねらい：国際理解とは何かとの本質的な考えを深める

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(10 分) | 1~10 時間目の授業の振り返り。授業の振り返りごとに、自身の価値観や考えがどのように変化をしたのかプロセスをたどる。<br><br>授業ごとに多文化共生を理解する上でのキーワードとなる言葉をスライドに提示し復習を行う | | |
| （15分）<br>展開 | 質問１：日本で外国にルーツを持つ人たちと一緒に暮らしていく中で、大切なことは何ですか？をワークシートに記入、グループでシャア、代表者が発表する。<br><br>日本も海外移民を推奨した史実を学び、それがなぜか考える。また沖縄、ボリビア、鶴見との関係を捉え、鶴見で多文化共生社会が形成されていることを学ぶ。<br><br>多文化共生社会のために必要なことをプリントに記述する。 | プリントの記述 | <br> |
| （5 分）<br>まとめ | 日本人だからとこだわるが、沖縄からボリビアに移住し、日本語が話せない人たちも日本人である。日本人とは何か問う。 | | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

振り返りシートの記入：1~10 時間の授業を受けた振り返りと、本時の授業の振り返りを通して、自身の多文化共生や国際理解に対して、どのような思考の変化があったのか、まとまった文章で記述することができる。

9. 学習方法及び外部との連携

ロールプレイやグループ分けはメンバーが同じにならないよう、ランダムに構成した。様々な級友と意見を交換することにより、まず学級の中に意見を尊重する態度を養い、教室内での多文化共生を目指したからである。

| |
|---|
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み<br>１点目にザンビアのバナナで作られた名刺を持ち、常に配る。ほとんど人は興味をもってくれ、国際理解の話題になる。<br>２点目に職場の湯茶飲み場に佐藤先生の探究 BOOK などを置き、読んでいる人がいたら声をかける。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 在日韓国朝鮮人を扱う際に自身の発言に思想面での偏りがでないか非常に難儀した。この話題を扱ってもらいたくない生徒もいることを想定し、担任に生徒のルーツやアイデンティティをあらかじめ聞き授業に臨んだ。 |
| 12. 改善点 | 国内研修や自身が見聞きした事柄を詰め込みすぎ、生徒が考える時間や意見を記述する時間を十分にとることができなかった。また授業の終盤は教員が講義をする場面が多くなり、相互性にかけた。 |
| 13. 成果が出た点 | 毎週国際理解の授業実践を重ねる中で、生徒の感想の質に変化が出た。<br>理解や尊重だけではなく、妥協できる部分とそうではない部分を自分の中で確立し相手に伝える。その上でお互いにベストな手段や案を考えることが大切<br>など、議論にも慣れてきた。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | 国際理解で外国人と共生していくためにはどうすればよいかなど、様々な問題がとりあげられ、自分なりに正解を見つけていましたが、講義を聞いてその自分の中で見つけた答えは本当に正しいのかという疑問が芽生えた。実際に授業で扱う問題に直面したことなく、狭いコミュニティーで生活しているので、自分の思う正しい答えを違う視点で見れば、間違ったものになると感じました。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 国際理解の授業を特別番組にせず、毎週続けることの大変さ、大切さを感じたことは今までなかった。教科書がなく１から授業を準備する大変さは想像していただきたい。しかし大型書店には少数ではあるが、ワークショップ式の国際理解実践本が売られている。毎月大型書店を回り、購入し実践するのはこれは楽しい時間であった。研修内容で伝えたい内容はある程度固まっていたので、それを伝えるために有効な手立てを１０時間分用意し実践をした。１０時間の実践はもちろん苦痛も伴ったが、発表時の生徒の発言や振り返りで生徒の変容を見ることができ、実践をしてよかったと心から思った。ただし評価や振り返りをポートフォリオ化し、思考のプロセスを明確にするなど、課題も非常に多く残った。 |

参考資料：


- 大谷泰照(2007) 日本人にとって英語とは何か　大修館書店
- 開発教育研究会(2012 ) 身近なことから世界を考える授業　明石書店
- 外国につながる子供たちの物語編集委員会(2020)　クラスメイトは外国人課題編、入門編 明石書店
- 金時鐘(2014) 朝鮮と日本に生きる　岩波新書
- 倉八順子(2016) 対話で育む多文化共生入門　明石書店
- 高柳俊男(1996) 東京の中の朝鮮　明石書店
- 多文化共生のための市民社会性教育研究会(2020) 多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック　明石書店
- 藤波海（2020）沖縄ディアスポラ・ネットワーク　明石書店
- 沼尾実(2020) 多文化のまち鶴見・潮田地区

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| 氏名 | 仲田莉果 | 学校名 | 埼玉県立大宮中央高等学校<br>（単位制による通信制） |
|---|---|---|---|
| 担当教科等 | 地理歴史（地理 A） | 対象学年（人数） | １～３年次（３２名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２１年　１　月　７　日　（　１　時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地理歴史　「地理Ａ」

第４回目のスクーリング（最終回）

2. 単元(活動)：「地球的課題と私たち」「日本の自然環境と防災」

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「地球的課題と私たち」「日本の自然環境と防災」

―ＳＤＧｓを通じて地球的課題や防災に関する問題を学び、私たちの生活の在り方について考えよう―

単元目標：①環境、資源・エネルギー、人口、食料問題は、それぞれ相互に関連し合っていることに気付き、これらの課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。／②我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることについて考察させる。

関連する学習指導要領上の目標：

１．科目の目標：（１）ウ、地球的課題の地理的考察「環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。」／（２）イ、自然環境と防災「我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。」

２．内容とその取扱い：（１）ウ、地球的課題の地理的考察

「この中項目は、環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を大観するとともに、具体的な事例地域を通してとらえ、各地域でその現れ方が異なっていることを理解させ、また、それらの解決に当たっては持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させることを主なねらいとしている。」・・中略・・

・・「環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題」は、現代世界が抱えている多くの地球的課題の中で、地球的視野から大観するとともに、地域性を踏まえてとらえることによって問題の所在や解決の方向性などがより明確になり、地理的に考察することが効果的な課題である。」

（２）イ、自然環境と防災

「この中項目は、生活圏の諸課題のうち、自然災害に関する課題を扱い、日本で発生する自然災害の典型的な事例を学習するだけでなく、生徒が居住している地域の自然災害について、年次の異なる地形図やハザードマップなどを読み取るなどの作業的、体験的な学習を通して、生活圏における自然環境の特色と自然災害とのかかわりを理解させるとともに、地理的技能を身に付けさせ、これらの学習から防災意識を高めることを主なねらいとしている。」

| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | ①環境、資源・エネルギー、人口、食料問題といった地球的課題について理解を深め、それらが互いに関連していることに気付くことができる。「ＳＤＧｓ」や「フェアトレード」についての基礎 |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| | | 的な知識を身に付け、開発途上国の現状を知ることができる。<br>②日本の自然環境の特色と自然災害の関わりについて知識を深め「ハザードマップ」の基本的な使い方を理解することができる。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | ①地球的課題が相互に関連しあっていることを踏まえ、先進国と開発途上国が協力して解決していかなければならないことに気付くことができる。また、そうした世界の現状を知り、自らの生活を振り返ることができ、考えたことを適切に表現できる。<br>②東日本大震災で被災した「旧荒浜小学校」について学び、なぜ震災遺構として残されたのかについて考えることができる。また、防災の重要性について考え、ＧＩＳを用いた「ハザードマップ」から、指定された場所を正しく見つけることができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | ①地球的課題について学び、「SDGs」が自分の生活のどの部分に関わっているものであるかを考え、生活を見直すことができる。<br>②震災遺構である「旧荒浜小学校」の映像や、「ハザードマップ」の読み取り作業などを通して、防災意識を高めることができる。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>本課程は県内唯一の公立通信制高校に置かれた課程であり、様々な事情により他校から転学または退学した生徒のみを受け入れている。グローバル化が進む中、こうした特殊な環境で学ぶ通信制の生徒に対しても、環境問題やエネルギー問題、人口、食料問題など世界中で起こっている地球的課題について理解を深めてもらいたいと考え、今回の単元設定に至った。また、東日本大震災が起こって１０年目を迎えようとする今、「防災教育」の必要性を鑑み、災害の恐ろしさや防災の重要性について考えてもらいたいと思い、日本の地形と自然災害についても取り上げる。<br>【単元の意義】<br>「地球的課題と私たち」と「日本の自然環境と防災」は、「地理Ａ」の最後に学ぶ大単元で、令和４（２０２２）年から実施される「地理総合」の新しい学習指導要領にも引き継がれる重要な単元となっている。現代社会が直面しているさまざまな地球的課題や特徴ある日本の自然環境、そして日本で実際に起こった自然災害などについて扱う。<br>今回は、今注目されている「ＳＤＧｓ（エスディジーズ）」を紹介し、環境問題とエネルギー問題、人口、食料問題が相互に関連しあっていることに気づいてもらうことをねらいとする。また、それらが複雑に関連しあうことで、より解決が難しくなっていることにも触れていきたい。スクーリングでは「SDGs」を切り口に、日本やザンビアで撮影された写真が「SDGs」のどのゴールに当てはまるものかを考えてもらう。また、フェアトレード認証のバナナ繊維からできた「バナナペーパー」製の「SDGs」シールを使ってワークをしてもらうことで、生徒に「フェアトレード」をより身近に感じてもらうような工夫も取り入れる。<br>もう一つの単元「日本の自然環境と防災」では、東日本大震災の遺構である「旧荒浜小学校」を取り上げる。地域の住民にとって、震災の悲しい記憶のある遺構をなぜ残すことにしたかの経緯、震災後今なお大勢の人々が来館されていることについて学び、防災の重要性について考えてもらうきっかけを与えたい。また、今回はスマホを用いて、生徒に「防災マップ」を実際に使ってもらい、防災意識を高めることもねらいとする。<br>【児童／生徒観】<br>本校は通信制高校であり、生徒は週1回のスクーリング（面接指導）、レポート（提出課題）による自学自習を中心に学んでいる。単位制であるため学年の枠がなく、生徒は自分の未修得の科目を選んで履修する。単位認定は半年ごとに行われている。<br>今回対象とする「地理Ａ」のスクーリングは、新入生を含んだ３２名が受講している。生徒の実態として、いじめや不登校の経験等さまざまな事情を抱えて本校に来た生徒が多く、他人と関わることが苦手な生徒も見られる。学力や学習意欲の差も大きいため、具体的でわかりやすい教材の提示やこまめな机間巡視、学習の動機づけが求められる。 | |

【指導観】

先述したように、通信制高校には他人との関わりに強い苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、グループワークなどの主体的な活動を入れることが難しい。全日制に比べて授業時数も少ないので、１回で最低１つの大単元、一度に教科書数十ページを進めなければならない。従って授業内容の精選を念頭に置きつつも、生徒に主体的な学びを提供できるような授業づくりを心掛けた。今回はプリントを用いて、生徒が個人でも学べるシールを用いたワークを導入し、映像などの視聴覚教材も積極的に活用した。

6. 単元計画（全　１　時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>本時 | 「地球的課題と私たち」 | 環境、資源・エネルギー、人口、食料問題は、それぞれ相互に関連し合っていることに気付き、これらの課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。 | ・「地球環境問題にはどんなものがありますか」を発問し、生徒に考えてもらう。世界中で環境、資源・エネルギー、人口、食料問題が起こっていることを説明する。<br>・環境問題の解決のために「持続可能な開発」が目指されていることを紹介し、ＳＤＧｓについて解説する。ＳＤＧｓを載せたプリントを配布し、「あなたは『ＳＤＧｓ』の中で、どれが最も大切な目標であると思いますか？」と発問し、生徒に選んでもらう。<br>・日本の「次の写真は、『ＳＤＧｓ』の１７のゴールのどれに関連するだろうか？」と発問し、提示された写真をＳＤＧｓで分類してもらう。　例）ＳＤＧｓの 12<br> <br> <br><br>・「フェアトレード」について簡単に紹介する。「みなさんは『フェアトレード』というと、どんなイメージが浮かびますか？」と発問し、世界のフェアトレードの概要や理念についてまとめた映像（ＤＶＤ）を視聴する。 | ・ＪＩＣＡで入手した世界地図<br>・フェアトレード認証のバナナ繊維からできた「ザンビアバナナペーパー」製のシール<br>・ザンビア各地で撮影した写真（鍵のついた水道、路上で販売されている木炭）<br>・アジア太平洋資料センター（ＰＡＲＣ）「もっと！フェアトレード」（2014 年製作）DVD<br> <br> |
| | 「日本の自然環境と防災」 | 我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。 | ・「日本はなぜ地震大国なのだろう？」と発問し、日本はプレートの境界にある国であるため地震などの災害が多いことを説明する。<br>・東日本大震災の震災遺構「旧荒浜小学校」を紹介する。震災が起きて１０年目を迎えようとする今も、被災した荒浜小学校が、震災遺構として残されていることに触れ、残された意義や防災の重要性について考えさせる。<br>・奈良大学地理学科が作成した「防災マップ」から「大宮中央高校を探してみよう」と指示する。生徒には、ＱＲコードからスマホで読み取ってもらい、実際に探してもらう。<br> <br>「防災マップ」を読み取り、大宮中央高校は「避難場所」となっていることを説明する。 | ・仙台市の公式ホームページ「震災遺構仙台市立荒浜小学校」紹介映像（https://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html ）<br>・「防災マップ」（奈良大学地理学科の木村教授より提供）<br>（https://arcg.is/1eHDru） |

7. 本時の展開（　1　時間目）

本時のねらい：ＳＤＧｓを通じて地球的課題や防災に関する問題を学び、私たちの生活の在り方について考察する。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 出欠確認<br>(3分) | ・ＯＣＲ（出席表）をまわし、出欠確認をする。<br>・レポートについての本校のルールを説明する。<br>・教科書やレポートのページを確認させる。 | ・レポートの提出期限など、具体的な日にちを板書し、確認させる。 | 地理Ａレポート６通目（以下、レポート p○○と表記する） |
| | 発問「地球環境問題にはどんなものがありますか」<br>Ex)森林破壊、砂漠化、地球温暖化、ｵｿﾞﾝ層の破壊・・世界中で環境問題が起こっていることを説明。<br>レポート p6-1 1節【1】（1）～（6）を解説。<br>・日本の動向として、2020 年菅首相が 2050 年までに温室効果ガスゼロを目標としたことを紹介する。 | ・本校では指名をすると生徒が委縮してしまうことがあるので、様子を見ながら行うよう配慮する。<br>・教科書ｐ１４８を参考にして問題を解いていく。机間巡視で確認。 | 教科書ｐ１４８「さまざまな環境問題」<br>レポート p6-1<br>・世界地図 |
| | 環境問題の解決のために持続可能な開発が目指されていることを説明し、ＳＤＧｓについて紹介。<br>発問「あなたは『ＳＤＧｓ』の中で、どれが最も大切な目標であると思いますか？」（3分）<br>こうした地球規模の問題に対する、2030 年までの１７のゴールを「ＳＤＧｓ」と言うことを解説。<br>レポート p6-2 3節【1】（1）を板書し解説する。<br>レポート p6-2 4節【1】（1）を板書し解説する。<br>発問「次の写真は、『ＳＤＧｓ』の１７のゴールのどれに関連するだろうか？」（5分）<br> <br> | ・ＳＤＧｓシールを配布（ＪＩＣＡ東京より提供して頂いたもの）<br>・シールの使い方を説明しておく。<br>・授業プリントを配布<br>・黒板に貼った世界地図で「ザンビア」の位置を確認させる。<br>・ＳＤＧｓ１２「つくる責任 つかう責任」を例に挙げ、【Ｑ２】の作業の方法を説明する。机間巡視も行う。<br>・【Ｑ２】の解答は大型 TV 画面に表示する。<br>・授業プリントにある例２を一緒にやりながら、作業の方法を説明。 | 教科書ｐ１４９<br>レポート p6-1<br>1節【1】（6）<br>・ＳＤＧｓの図<br> <br><br>授業プリント【Ｑ１】<br>・世界地図<br>教科書ｐ１５４、１５８<br>レポート p6-2<br>授業プリント【Ｑ２】<br> <br><br>ＳＤＧｓ１２「つくる責任 つかう責任」 |
| | 「開発途上国」ではＳＤＧｓの達成が困難であることを伝え、途上国の食料問題について紹介する。<br>レポート p6-3 6節【1】（1）を板書し解説する。<br>発問「みなさんは『フェアトレード』というと、どんなイメージが浮かびますか？」<br>DVD「もっと！フェアトレード」（4分）を視聴。<br>・安価な農産物や衣類、雑貨の生産には、途上国の犠牲があることについて、補足説明を加える。<br>・配布したＳＤＧｓシールもフェアトレード認証のバナナ繊維から作った製品である事を伝える。<br> <br><br>配布したシール | ・「発展途上国」ではなく「開発途上国」という言い方に留意する。<br>・教科書ｐ１６２を読んでもらう。<br>・授業者が実際に去年ザンビアを訪問した時の体験なども伝える。<br>・生産者も消費者も、エシカル（倫理的）でサステナブル（持続可能）な視点が必要であることを伝える。<br>・地球的課題の解決のためには、開発途上国と先進国が協力していかなければならないことを強調する。 | 教科書ｐ１６２<br>レポート p6-3<br>教科書ｐ１６３<br>DVD「もっと！フェアトレード」(2014 年製作) アジア太平洋資料センター（ＰＡＲＣ）<br> <br> |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | バングラデシュ縫製工場倒壊事故の解説を行う。<br>発問「日本はなぜ地震大国なのだろう？」<br>Ex)兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震・・<br>→日本はプレートの境界にある国だと説明する。<br>レポート p6-4 2章【1】（1）～（3）を解説。<br>「遺構荒浜小学校の紹介映像」（3分）を視聴。<br>東日本大震災が起きて9年目を迎える今も、被災した荒浜小学校が、震災遺構として残されていることを紹介し、防災の重要性について考えさせる。<br>発問「防災マップで大宮中央高校を探してみよう」<br>→大宮中央高校は「避難場所」であると説明する。<br> <br>防災マップ | ・教科書ｐ１７８を参考にして、レポート p6-4 2章【1】（1）をやってもらう。机間巡視で確認。<br>レポート p6-5 2章【2】（5）<br>・仙台市のホームページにある「震災遺構仙台市立荒浜小学校」の項目を提示し、施設概要を伝える。<br>・ＱＲコードからスマホで「防災マップ」を読み取ってもらい、大宮中央高校を探してもらう。<br>・机間巡視をしながら声掛けする。 | 教科書ｐ１７８<br>レポート p6-4, p6-5<br>・仙台市の公式ホームページ「震災遺構　仙台市立荒浜小学校」紹介映像<br> <br>・「防災マップ」QR コード（奈良大 地理学科） |
| **まとめ**<br>(5 分) | 本時の感想をプリント【Ｑ３】欄に記入（3 分）<br>・単位を修得するための教科のルールを説明する。 | ・【Ｑ３】に感想を記入しているか確認し、レポート締切日を伝える。 | 授業プリント【Ｑ３】 |

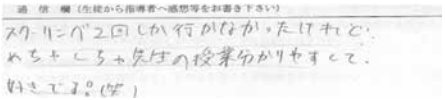
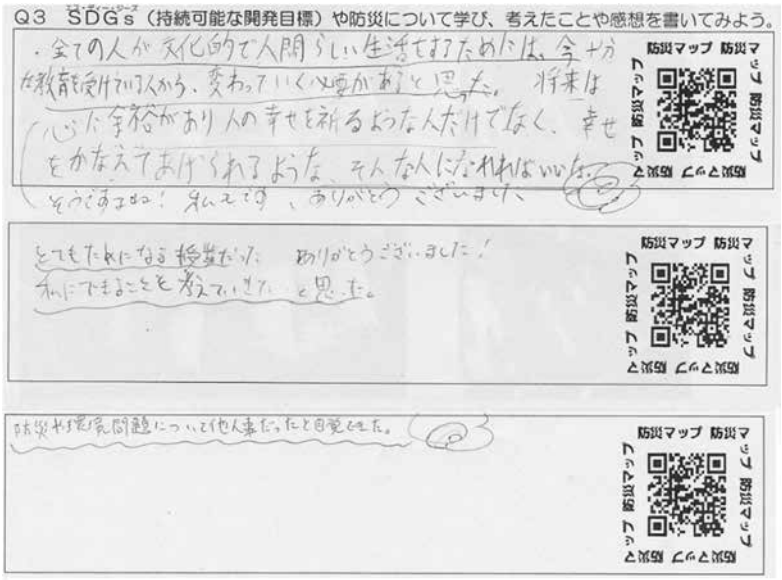
9. 学習方法及び外部との連携：外部機関との連携はできませんでしたが、現代社会「私たちの生きる社会」の単元でも、ザンビアの写真や実物教材を活用し、現地での体験を紹介しました。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

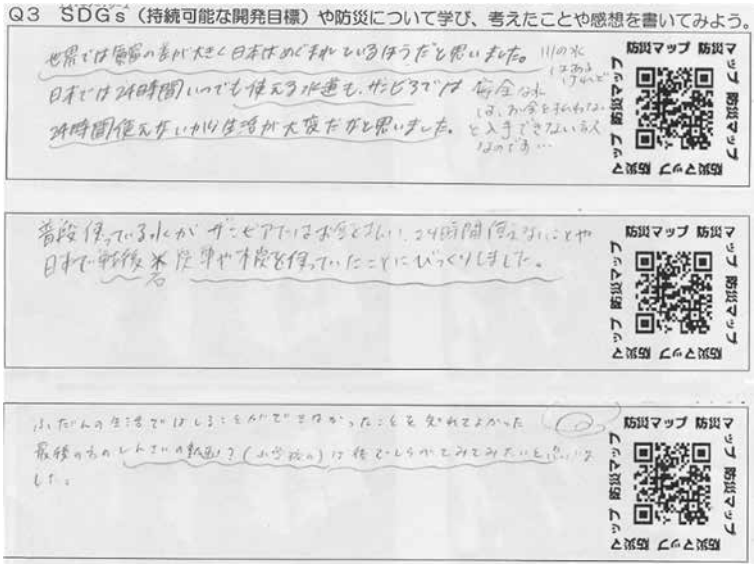
今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響のため、学校内外で授業実践を広める取組はほとんどできなかったです。前年度の教海研参加時に参加した、埼玉県高等学校定時制通信制教育研究協議会も開催されなかったため、校外で国際理解教育や授業実践の取組を紹介することはできませんでした。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 通信制高校での実践だったため、通信制ならではの様々な制約があり、指導案作りには非常に苦労しました。通信制では、授業の出席は任意で、遅刻は 10 分まで認められていることや、当日にならないと何人出席するかわからないことなど、全日制高校とは異なるルールがあります。<br>今年の教師海外研修では、震災遺構である「遺構荒浜小学校」関係者によるオンライン講義がありました。私自身、この遺構荒浜小学校との ZOOM を用いた研修プログラムが大変心に残り、せっかくなので防災をテーマに授業づくりをしたいと考え、「地理 A」の授業に決めました。授業前半に「地球的課題」の単元で SDGs を取り上げ、後半に「日本の自然環境と防災」で「遺構荒浜小学校」を取り上げることにしました。しかし、テーマは決まったものの、通信制では 1 回のスクーリングで教科書数十ページ進めなければならず、教材を精選していかなければなりませんでした。また、本校の生徒は県内様々な高校から転退学して来ているため、学力差が大きく、教授方法にも工夫が必要です。いじめや不登校の経験を持った生徒も多いため、対人関係にトラウマを持つ生徒に、いきなりグループワーク等の主体的な活動をしてもらうことはできません。こういった様々な課題を 1 つ 1 つ検討しながら、指導案を作っていくことは、予想以上に大変でした。<br>ただ一方で、昨年度から教師海外研修に参加していたため、前回の授業づくりがヒントになることもありました。昨年度は「スマートフォン」の原料である「レアメタル」をテーマに授業を作りましたが、生徒の反応が良好でした。そのため、今回は実際に「スマートフォン」を用いた活動 |

| | |
|---|---|
| | を取り入れてみたいと思い、QR コードを用いた作業を取り入れることにしました。その結果、QR コードからスマートフォンで「防災マップ」を開き、身近な地域を読み取ってもらうような作業を入れました。このように、昨年度を参考にしつつ、日々悩みながら指導案を書いていきました。<br>そして、指導案を考える上で苦労したもう 1 つの点は、生徒に興味を持ってもらえる視聴覚教材探しです。今回は、「地理 A」の教科書にも載っている「フェアトレード」についての映像を見つけたいと思い、映像探しに奔走しました。膨大な内容を一度に扱う通信制の授業では、時間の制約があるので、自分が解説するよりも見せた方がいいと思える映像だけを厳選しました。 |
| 12. 改善点 | 先述した通り、本校は通信制高校であるため、対人関係に強い不安や苦手意識を持つ生徒が多く、グループワークなど主体的な活動を取り入れることができませんでした。コロナ禍の今は、全日制高校でも難しいとは思いますが、できれば生徒同士直接やり取りができるような活動を取り入れたかったです。ただ、今回はその分机間巡視で生徒に声掛けをし、生徒の意見を紹介することができました。今回感じた改善点は、今後の授業づくりに活かしていきたいと思います。 |
| 13. 成果が出た点 | 通信制高校である本校では、授業（スクーリング）を受けるだけでなくレポートを提出しなければなりませんが、授業実践後は、昨年よりもレポートの提出状況が非常に良くなったように感じました。出席した子の中には、レポートの通信欄に感想を書いて出してくれる生徒もいました。<br>  <br>通信欄（生徒から指導者へ感想等をお書き下さい）<br>スクーリングは2回しか行けなかったけれど、<br>めちゃくちゃ先生の授業分かりやすくて、<br>好きでした。(笑) |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | 授業後の感想には「全ての人が文化的で人間らしい生活をするためには、今十分な教育を受けている人から、変わっていく必要があると思った。」というものや、「とてもためになる授業だった。私にできることを考えていきたいと思った。」といった、授業を好意的に受け止めてくれている感想が多かったです。この授業を通じて、生徒が自らの生活を見直すことに繋がったようでした。「防災や環境問題について他人事だったと自覚できた。」という感想もあり、生徒が途上国の現状や SDGs、震災を自分事としてとらえることができるようになったように感じました。<br>  <br>Q3 SDGs（持続可能な開発目標）や防災について学び、考えたことや感想を書いてみよう。<br>・全ての人が文化的で人間らしい生活をするためには、今十分な教育を受けている人から、変わっていく必要があると思った。将来は心に余裕があり人の幸せを祈るような人だけでなく、幸せをかなえてあげられるような、そんな人になれればいいな。<br>そうですよね！私もです。ありがとうございます。<br>とてもためになる授業だった。ありがとうございました！<br>私にできることを考えていきたいと思った。<br>防災や環境問題について他人事だったと自覚できた。<br>防災マップ<br>また、授業で扱った内容そのものに関心を持ってくれている感想も目立ちました。ザンビアの水事情に対して、「日本では 24 時間使える水道も、ザンビアでは 24 時間使えないから生活が大変だと思いました。」や、資源・エネルギー問題で紹介した木炭車を挙げて、「日本で戦後木炭車や木炭を使っていたことにびっくりしました。」などがありました。また、動画を流した「遺構荒浜小 |

学校」に関心を持ち、「普段の生活では知ることのできなかったことを知れてよかった。最後の震災の動画（小学校）は後で調べてみたいと思いました。」と書いてくれた子もいました。




**15. 授業者による自由記述**

今回で教師海外研修は 2 回目の参加となりましたが、前回に引き続き、学び多き研修となりました。今年度は新型コロナの影響で海外に行くことができず、国内研修となりましたが、中身の濃い充実した 1 年間を過ごすことができました。何より、これまでこの研修は一生に一度しか参加できないものでしたので、2 年連続して受講することができたのは幸運でした。過年度参加者をはじめ、他県や異校種の先生方と出会うことができ、大変刺激を受けました。コロナ禍で社会情勢が不安定な中、開催してくださった JICA 東京の皆様、講師の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

教師海外研修の魅力の 1 つは、何と言っても普段の生活ではお会いできない多様な先生方と出会えることです。私自身は、教師海外研修に参加する前は家と職場の往復といった生活で、日々分掌の仕事や授業の準備をするのに精一杯でした。しかし、教師海外研修には自分よりももっと視野の広い先生方が沢山いらっしゃるので、自分の世界観を広げることができます。新しい知識や技術が次々と生まれ、ますます複雑化していく世の中において、教師海外研修は自分を「アップデート」できる機会だと思います。そしてここでの経験は、この先どんな学校に赴任しても役立つものだと感じています。

また、今回の研修では「SDGs」以外にも、例えば「震災」や「移民」、「多文化共生」など国内の様々なテーマも扱ってくださいました。一見すると関連がないように思えますが、その 1 つ 1 つが、SDGs と関わっていること、相互に関連しあっていることに気付くことができました。

今後も国際理解教育に携わっていきたいと実感できた 1 年でした。ありがとうございました。

参考資料：アジア太平洋資料センター（ＰＡＲＣ）（2014）DVD「もっと！フェアトレード」、
柴山知也（2011）「3.11 津波で何が起きたか―被害調査と減災戦略―」（早稲田大学ブックレット「震災後」に考える 004）、早稲田大学出版部 、吉野英岐/編・加藤眞義/編（2019）「震災復興と展望―持続可能な地域社会をめざして―」（シリーズ被災地から未来を考える）有斐閣

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| 氏名 | 水野　修 | 学校名 | 東京 (都) 道・府・県<br>私立　和洋九段女子中学校高等学校 |
|---|---|---|---|
| 担当教科等 | 日本史 B | 対象学年（人数） | 高校 2 年 A 組（ 16 名 ） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２１年　１月（　３　時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：高校日本史B

2. 単元(活動)名：琉球・沖縄史

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：琉球・沖縄史から考える　～あなたにとって「日本とは？日本人とは？」～

単元目標：「世界の中の日本」を考える実践テーマとして「琉球王国の歴史」を取り上げる。先史から近現代に至る沖縄の歴史を概観・理解しつつ、通常の日本史より空間的範囲を押し広げた視座から社会や文化を考える。

関連する学習指導要領上の目標:我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

| 4. 単元の評価規準 | | |
|---|---|---|
| | ①知識及び技能 | 歴史の展開における諸事象の意味や意義を理解し、その知識を身に付けている。歴史資料を含む諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 歴史事象の推移や変化、相互の因果関係を多面的・多角的に考察し、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈して、その過程や結果を適切に表現している。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 常に主体的取り組み、自分ごととして考えることができ、他者との共同作業の中で他者の意見を受け入れるとともに、自分の意見も主張できる。 |

**5. 単元設定の理由・単元の意義（児童／生徒観、教材観、指導観）**

【単元設定の理由】

本来は沖縄に修学旅行に行くはずであったが、新型コロナウィルス感染拡大の影響で行くことができなくなった。しかし、自分たちでバーチャル修学旅行を企画するなど、沖縄に関しての理解に積極的に取り組んでいた。しかし、第二次世界大戦中の悲惨な歴史を学んでいたが、それ以外の歴史的な知識が欠落し、意識されていないなど不十分な点があったことを踏まえ、琉球・沖縄史として地域史を学ぶことによって、よりよく他の地域を知ることの意義を学んでもらいたく、この単元の設定に至った。

【単元の意義】

琉球・沖縄史について、本来地域史として時代ごとにバラバラに学ぶ範囲であるが、通史で学ぶことにより、琉球・沖縄が本土とは違い独自の歴史と文化があること知ることができる。そこから、同じ日本であっても必ずしも均一化されたものではないこと、それによる差別や偏見があったことを学ぶことにより他者理解の一助になると考える。また、「SDGs」を絡めることにより、日本国内の問題に留まらず、他国との文化的な理解つながることを意識させたい。

【児童／生徒観】

本学級の生徒は、積極的な生徒が多い。Globalコースに所属している生徒もおり、英語学習を含め、他国に興味を示す生徒や、発想力に富む生徒も多い。SDGsはもとより、社会貢献活動に従事したいと考えている生徒もいる。

| | |
|---|---|
| | 【指導観】<br>世界には国同士の無関心や無理解から戦争や紛争に至る事例が多々あるが、それは他人事ではない。日本においても起こりうる可能性がある。現在、沖縄には基地問題を始め、本土との格差を感じる人の割合が多い。同じ日本でもこのような意識の差があることを知り、他者を積極的に理解する姿勢を持つ生徒の育成を目的とする。 |

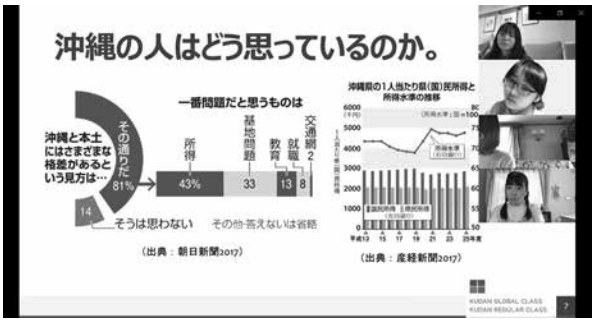
6. 単元計画（全 3 時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 原始から近世までの琉球史の流れ（琉球王国の繁栄） | 今まで、時代ごとにバラバラに学んでいた地域史としての琉球史を統合することにより、どのような歴史を歩んできたのかを理解させる。 | ZOOM を利用したオンライン授業である<br>・Google の Jamboard や ZOOM のブレイクアウトセッションにより適宜、意見表明の機会を作る。<br>・PowerPoint を利用したスライドを使い、視覚に訴えつつ、歴史の流れをイメージさせる。<br>・琉球文化を紹介するだけでなく、三線の音色を実際に聞くことを通して、日本本土とは違う歴史をたどっていることを意識させる。 | ・『新詳日本史 B』山川出版社<br>・『新詳日本史』浜島書店（資料集）<br>・琉球・沖縄史授業プリント（自作）<br>・授業用 PowerPoint |
| 2<br>本時 | 近現代の琉球・沖縄史の流れと移民について考える | 戦前の近代史を学ぶことにより、本土との制度や経済的な差を理解しつつ、世界各地に沖縄の人が移住したことの意味や背景について理解させる。 | ZOOM を利用したオンライン授業である<br>① 今回の授業のキーワードを意識させる<br>② 前時の授業の振り返りから、今回の授業の流れを意識させる。<br>③ 「問い」からのブレイクアウトセッション４人１組で、自分の考えを述べ合う。<br>④ 沖縄の県民意識調査の結果の共有<br>⑤ 近代史の講義と移民についての理解と共有<br>⑥ 神奈川県横浜市鶴見区の事例を挙げ、沖縄・南米・日本との関係を考える<br>⑦ 動画「HOME」から世界と日本と地域について考えさせる<br>⑧ 次の時間までの宿題の提示<br>・ユネスコ憲章の前文を読んでくる | ・『新詳日本史 B』山川出版社<br>・『新詳日本史』浜島書店（資料集）<br>・琉球・沖縄史授業プリント（自作）<br>・海外移住資料館の資料<br>・鶴見区のデータ<br>・県民意識調査<br>沖縄タイムス<br>朝日新聞<br>産経新聞<br>・授業用 PowerPoint |
| 3 | あなたにとって「日本とは？日本人とは？」 | ２回の授業を受けて「日本とは？日本人とは？」という問いに対して、ルーツとアイデンティティを踏まえ、異文化理解と平和についてつなげ、考えさせる。 | ZOOM を利用したオンライン授業である<br>・前時の宿題について、考えるポイントになった部分を、チャットに入力させる。<br>・各々の考えた、「日本とは？日本人とは？」という問いに対しての、答えを発表する。<br>・価値観の違いを、育った環境を例にして考える。<br>・あなたを知っているコミュニティーから知らないコミュニティーに生活の場が変わった場合を想定し、文化の違いだけではなく、立場の違いも問題になってくることを学ぶ。<br>・上記２つの事例から、多文化共生について考えてみる。<br>・日本の歴史を学ぶことと、ルーツ・アイデンティティのつながりについて考えてみる。 | ・授業用 PowerPoint<br>・UNESCO 憲章の前文 |

7. 本時の展開（ 2 時間目）

本時のねらい：沖縄の歴史を本土と比べながら学ぶことにより、本時最初の問いである「沖縄は日本だと思いますか？」について学習者の考えを深める。また、沖縄の移民の歴史と横浜市鶴見区の事例を踏まえ、移民を多く受け入れている日本の現状を捉え、「日本とは？日本人とは？」という問いに様々な角度から向き合うことができるようにする。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br><br><br><br><br><br><br>（7分）<br>展開 | ① 今日の授業において、頭に置いて欲しいキーワードの共有<br>ルーツとアイデンティティ<br><br>② 前時の振り返り<br>近世までの琉球史のポイントについての問いかけ<br>チャットを利用して、アウトプット<br><br>③ 問いかけ<br>「あなたは沖縄を日本だと思いますか？」<br>・個人ワーク：自分の考えの整理（２分）<br>※この時間に、ブレイクアウトの準備<br>・ブレイクアウトセッション（５分）<br>※上記の問いについての意見の発表とグループで出た意見を集約して、グループ代表として発表してくれる人を決める<br>・発表（３分）<br>グループで意見などを発表し、みんなで共有<br> <br>④ 沖縄の県民意識調査の結果を共有する<br>沖縄の人は本土についてどう思っているのかを各新聞社が調べたデータを利用して共有する | ・ルーツとアイデンティティの意味を伝えつつ、今回の授業に参加する姿勢を作る<br>・積極的に参加できるよう、チャットの内容を声に出して復唱しつつ、「ありがとう」の声掛けをする<br>・ブレイクアウトの各ルームに参加し、話し合いが進んでいるか確認する<br><br>・発表に対し、気付きの部分を復唱し、何がポイントなのかを意識させる。<br><br>・できるだけ淡々と事実だけ述べる | ② 振り返り<br>琉球・沖縄史のプリントの左側を確認<br><br>④ 県民意識調査を利用<br>沖縄タイムス（2017）<br>朝日新聞（2017）<br>産経新聞（2017） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| |  <br>⑤ 明治以降の沖縄史についての講義<br>琉球王国から琉球藩、沖縄県へ変化<br>謝花昇らの自由民権運動が起こった理由<br>本土以上の不況と移民との関係性を考える<br>沖縄戦の悲劇について、事前学習を振り返る<br>※チャットを利用して、事前学習で学んだことやその時の感情を聞く | ・本土との違いを政治・経済・社会の各方面から説明する<br>事前学習で通じた学びによって得た感情を率直に出す声掛けをする | ⑤ 琉球・沖縄史のプリントの右側を進める<br>海外移住資料館資料<br>笠戸丸移民 |
| | <br>⑥ 戦後の沖縄の流れ<br>本土が主権回復後もアメリカ政府の間接統治が続くこと。また、高度経済成長期の本土に対して、沖縄は経済的に後れを取っていたことを理解する | ・沖縄県公文書館のHPを見せながら、沖縄と移民についての説明を、本土との違いを意識させる | ⑥ 沖縄県公文書館HPを引用 |
| | <br>⑦ 鶴見のお店の写真を見て気が付くことは<br>生徒にチャットで気が付いたことを入力 | | ⑦ EL BOSQUEの写真を利用 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | <br>⑧ 鶴見区の事情<br>沖縄出身の人が多いこと。ブラジル人が多い歴史的な背景を知り、その支援が行われていること。また、それにより自分のルーツやアイデンティティに悩む人がいることを理解する。 | ・なぜ、一軒のお店なのに沖縄とラテン料理を出すのかを意識させる<br><br>・特に「沖縄へのルーツを探る旅」について言及し、アイデンティティとは何か？を考えさせる | ⑧ 横浜市鶴見区の資料を利用 |
| （33分）<br>まとめ | <br>⑨ 日本はすでに多文化社会<br>現在、日本は OECD の中で４番目に移民が多い国であることから、相手のルーツを理解し、アイデンティティを尊重することが必要になってきている<br>その上で、日本の歴史をなぜ学ぶのか。そして、今日学んだことを踏まえて | ・鶴見区の事例は、私たちにとっても身近になりつつあることを意識させる<br>・SDGs との関連について説明をする | |
| （５分） | <br>⑩ 宿題の提示<br>あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」という問いに答えてもらう | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・動画「HOME」を見せながら地域と世界の問題がつながることの説明をする | ⑩ UNESCO 憲章前文<br>動画「HOME」 |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

1．問いかけに対しチャットで反応することができる。

⇒後日、入力したチャットの内容を踏まえて振り返りをおこなう。

2．ブレイクアウトルームにおいて自分の意見を相手に伝えることができる。

⇒短い時間の中で、前時の授業内容も踏まえ、自分の考えを整理しまとめることができるか。

3．ブレイクアウトルームにおいて相手の意見に共感し、自分の意見を補足・修正することができる。

⇒自分の意見を押し通すだけでなく、相手の意見を受け入れ、自分の意見を補強することができるか。

4．後日配布する振り返りシートに漏れなく、記述することができているか。

⇒自分自身の考えを文章により表現することができるか。

9. 学習方法及び外部との連携

・学習者同士がオンライン上でのブレイクアウトルームにおいて、自分の意見が述べられるようにするために、日頃の授業方法から意識する。

1．日頃の授業から、話し合いが活発になる「問い」を作ることを心掛け、練習をしておく

⇒ 日頃の授業から、学習者同士が意見を言える機会を多く準備しておく。

2．ファシリテーター役を決める方法を作っておく

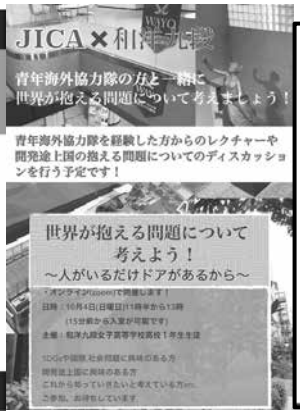
3．発表が終わったときに拍手をする癖をつける（学習者同士が、快く発表ができる場づくり）

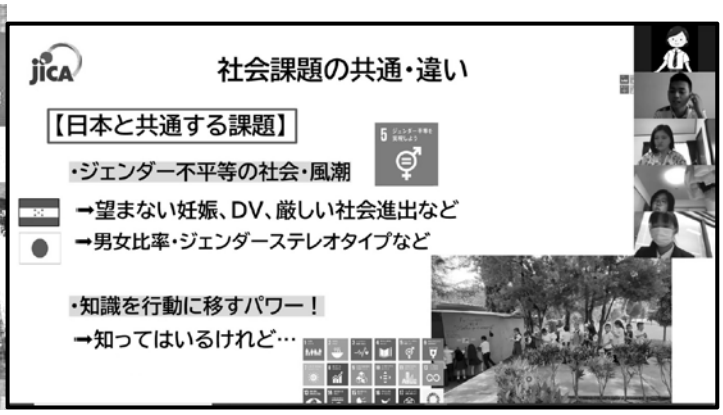
当たり前ですが、日頃から意識し、常日頃から行っておくことがオンラインになっても生きてくる。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

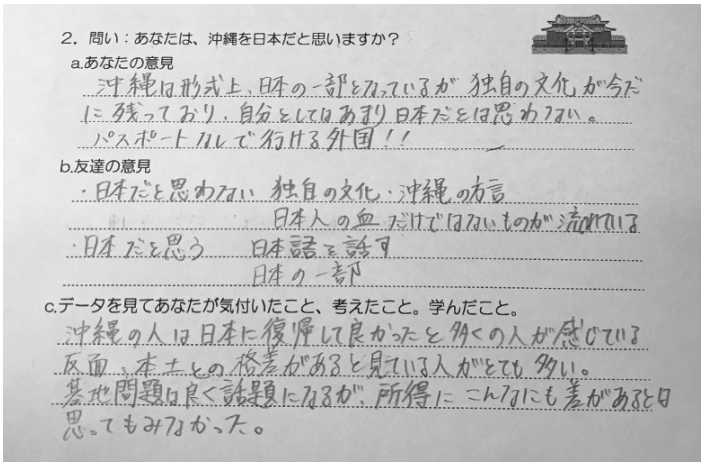
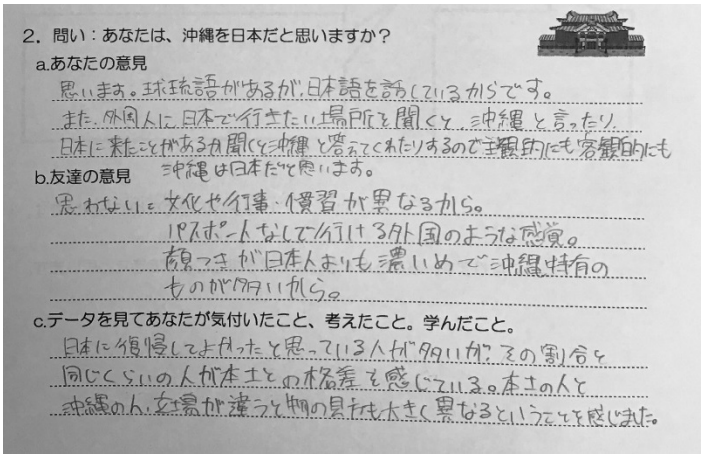
【校内】

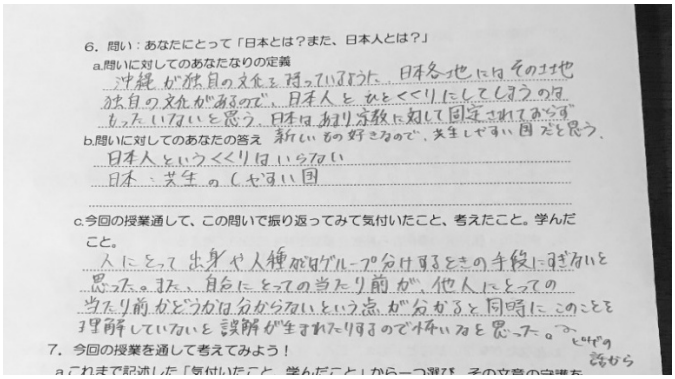
・オンライン上で行った文化祭において、JICA 東京より佐谷孝行様をお招きして、ホンジュラスでの国際協力と問題点などを講演して頂いた。加えて、国際理解について生徒とディスカッションをして頂いた。



【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | オンラインでの研究授業であったため、事前に紙ベースの資料を渡すことができなく、すべてオンライン上で行った点。また、授業時にPowerPointの画面を共有してしまうと、生徒の反応が分からなかった点。本来使用するはずだった、Jamboardが機能しなかったこと。 |
| 12. 改善点 | 【オンライン】<br>最後に振り返りを入れることができるように、5分程度の時間を確保できる時間配分を考えておく。<br>【対面授業】<br>オンラインを意識したスライドになっているので、板書計画を作る必要がある。また、付箋を使い自分の考えをどんどん貼らせていくワークを入れると、その後の意見交換において効果的である。 |
| 13. 成果が出た点 | 沖縄県を日本の一つの地方という捉え方だけでなく、沖縄を独自の歴史や文化を持ち、東アジアの地域史にとって重要な立場であったことを意識させることができた。また、沖縄の独自の歴史や文化を学ぶことによって、日本・日本人という定義はあくまでも便宜的であり、相互理解が重要な点について学習者自身の気付きを引き出すことができた。そこから、移住・移民に対する理解と、現在の日本の抱え問題の一つ、多文化共生について様々な角度から考える機会になった。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ワークシートの振り返りより<br>  <br>2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思いますか？<br>a.あなたの意見<br>沖縄は形式上、日本の一部となっているが 独自の文化が今だに残っており、自分としてはあまり日本だとは思わない。<br>パスポートなしで行ける外国!!<br>b.友達の意見<br>・日本だと思わない 独自の文化、沖縄の方言<br>日本人の血だけではないものが流れている<br>・日本だと思う 日本語を話す<br>日本の一部<br>c.データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと。学んだこと。<br>沖縄の人は日本に復帰して良かったと多くの人が感じている反面、本土との格差があると見ている人がとても多い。基地問題は良く話題になるが、所得にこんなにも差があると思ってもみなかった。<br>  <br>2. 問い：あなたは、沖縄を日本だと思いますか？<br>a.あなたの意見<br>思います。琉球語があるが、日本語を話しているからです。<br>また、外国人に日本で行きたい場所を聞くと、沖縄と言ったり日本に来たことがあるか聞くと沖縄と答えてくれたりするので主観的にも客観的にも<br>b.友達の意見 沖縄は日本だと思います。<br>思わない。文化や行事・慣習が異なるから。<br>パスポートなしで行ける外国のような感覚。<br>顔つきが日本人よりも濃いめで沖縄特有のものが多いから。<br>c.データを見てあなたが気付いたこと、考えたこと。学んだこと。<br>日本に復帰してよかったと思っている人が多いがその割合と同じくらいの人が本土との格差を感じている。本土の人と沖縄の人、文化が違うと物の見方も大きく異なるということを感じました。 |



6. 問い：あなたにとって「日本とは？また、日本人とは？」

a.問いに対してのあなたなりの定義

沖縄が独自の文化を持っているように、日本各地にはそのような独自の文化があるので、日本人とひとくくりにしてしまうのはもったいないと思う。日本はあまり宗教に対して固定されてからず

b.問いに対してのあなたの答え　新しいもの好きなので、共生しやすい国だと思う。

日本人というくくりはいらない

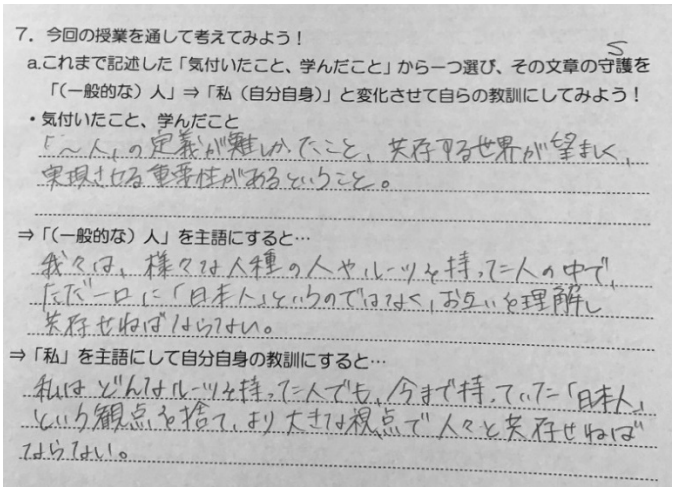
日本、共生のしやすい国

c.今回の授業通して、この問いで振り返ってみて気付いたこと、考えたこと。学んだこと。

人にとって出身や人種がグループ分けするときの手段に過ぎないと思った。また、自分にとっての当たり前が、他人にとっての当たり前かどうかは分からないという点が分かると同時にこのことを理解していないと誤解が生まれたりするので怖いなと思った。

ヒロゲの話から

7. 今回の授業通して考えてみよう！



7. 今回の授業を通して考えてみよう！

a.これまで記述した「気付いたこと、学んだこと」から一つ選び、その文章の守護を「（一般的な）人」⇒「私（自分自身）」と変化させて自らの教訓にしてみよう！

・気付いたこと、学んだこと

「～人」の定義が難しかったこと、共存する世界が望ましく、実現させる重要性があるということ。

⇒「（一般的な）人」を主語にすると…

我々は、様々な人種の人やルーツを持った人の中で、ただ一口に「日本人」というのではなく、お互いを理解し共存せねばならない。

⇒「私」を主語にして自分自身の教訓にすると…

私はどんなルーツを持った人でも、今まで持っていた「日本人」という観点を捨て、より大きな視点で人々と共存せねばならない。

| | |
|---|---|
| 15. 授業者による自由記述 | 最初に新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外への派遣が中止になったにも関わらず、国内での実施を模索し、実施していただいた JICA 東京の関係者の方々に感謝申しあげます。私にとって、この教師海外研修は、多くの先生方と意見を交わす貴重な機会となりました。特に、普段話をする機会のない小学校や特別支援の先生方との学びは、物事を様々な角度から捉えるきっかけとなりました。また、中高の先生方とは教科科目を越え、どのような目線で生徒と向き合うのかの実践的な視点をいただきました。佐藤先生からは「公平」「公正」その先の視点、視座を高くすることを学び、フィールドワークの中で実践することにより、今まで見えなかったことまで見ることができるようになりました。今回の研究授業の題材は、私が日本史を生徒と一緒に学ぶ良い機会となりました。研修に参加して、他の教員仲間と語り合うことにより、日頃からモヤモヤしていた何かが見えた気がします。それが、「日本とは？日本人とは？」という私なりの「問い」です。日頃何となく使っている、「日本人」という言葉は本当に使い方が合っているのか？また、「日本」や「日本人」という括りはどこまでなのかという疑問を、「沖縄」という存在にヒントを得た思いがします。すでに OECD の中で 4 番目の移民大国日本は、多文化共生に向けた動きを加速させる必要があります。それには、多くの気づきが必要だと思います。特にこれからの世代である生徒の視座を高くするためには、教員である私たちの視座を高めなくては到底できることではないと思います。この教師海外研修というプログラムは、さまざまな刺激を私たちに与えてもらうだけでなく、視座を高めるきっかけになります。参加を悩まれている先生方におかれましては、生意気ではありますが勇気を持って、ちょっと学校の外に出てみてください。きっと素敵な出会いや視野の広がりを体験することになるでしょう。 |

参考資料：

・『新詳 日本史 B』（山川出版社）
・『新詳 日本史』資料集（浜島書店）
・鶴見区多文化共生推進アクションプラン 改訂版 平成 23～26 年度：鶴見区役所（平成 23 年 4 月）
・外国人住民調査書-改訂版-：公益財団法人 人権教育啓発推進センター（平成 29 年 6 月）
・UNESCO 憲章前文：https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000125590.nameddest=constitution
・日本に復帰してよかった？（沖縄タイムス HP より）：
https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/97097
・「本土と格差」沖縄県民調査（朝日新聞 HP より）：
https://www.asahi.com/articles/ASK5C05N3K5BTPOB003.html
・琉球新報（2020 年 6 月 23 日の記事より）：
https://viewer.ryukyushimpo.jp/books/viewer/app/P000003970/2020/06/23
・沖縄県公文書館（琉球政府計画移民）HP より：
https://www.archives.pref.okinawa.jp/news/that_day/5804
・朝日新聞 GLOBE+（主な国への移民の数）HP より：https://globe.asahi.com/article/13996571
・神奈川県横浜市鶴見区資料より（多文化共生のまち、外国人住民）
https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/kusei/tokei/20170923165819.files/0032_20181030.pdf
・海外移住資料館（ブラジルへの日本人移住、海外移住とは何か）
https://www.jica.go.jp/jomm/outline/list.html
・動画「HOME」：https://www.youtube.com/watch?v=8eJD0BuNN1Y
・ABC ジャパン PowerPoint 資料より

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 松井　市子 | 学校名 | 新潟県立津南中等教育学校 |
| 担当教科等 | 外国語（英語表現Ⅱ） | 対象学年（人数） | ５年（高校２年）（55 名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 令和２年９月～11 月（9 時間） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域：外国語（英語表現Ⅱ） | | |
| 2. 単元(活動)名：外国語授業におけるデータサイエンスを活用した地域探究学習 | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：「住み続けられるまちづくり Resillient citizens in Tsumari Region」<br>単元目標：大地の芸術祭 2030 を描き伝える<br>関連する学習指導要領上の目標：SDGs と ESD を組み込んだ、外国語新設定科目「論理・表現Ⅲ」における、社会に開かれたカリキュラムを意識した発信力の強化 | | |
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、コミュニケーションの目的、場面、状況に応じて論理の構成や展開に配慮し、情報や考えを適切に表現することができる |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 地域に関連した具体的な課題を自ら設定し、コミュニケーション活動を通して得た情報や考えなどをデータサイエンスも活用して統合的に表現したり伝え合ったりすることができる |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、情報の送受信者に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>地域で一つの高校が消えるかもしれない…自分たちに何ができるか、何を学ぶべきか、何を伝え残すべきか、津南中等生が関わり続け、3年ごとに開催される大地の芸術祭が未来永劫続くことを願って、高校生の視点で考え発信する単元を学校行事と絡ませて設定する。<br>【単元の意義】<br>地域で8回目を迎える大地の芸術祭を前に、教育現場はコロナ禍で当たり前の日常を捉え直す大きな機会となったが、時を同じくして、学校の存続が問われるニュースが飛び込んだ。持続可能な教育や社会、市民の特質について、有効なデータを精査して考察し、英語力を活用した校外交流や課外活動を通して、思い描く未来図を英語力を活用して地域や海外に発信することは、地域振興や地域理解につながり、生涯を通して持続可能な生き方を追求することに資すると考える。<br>【児童／生徒観】<br>地元と50キロ周辺地域からそれぞれ半分程度入学するが、近年定員割れが続いており、1万人規模の地元は過疎高齢化が急速に進行している。本校の生徒は、大学進学を目指して勉学に勤しむ生徒が多い。家庭からの期待も大きく、学校の教育方針に共感的な世帯が多い。<br>【指導観】<br>英語をコミュニケーションツールの一つをして捉え、持続可能な社会を目指して生涯学び続ける地球市民としての資質や能力を国際交流を通して身に着けてもらいたい。 | |

6. 単元計画（全 9 時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 持続可能な市民の特性 | 資料を通して「持続可能な市民」の特性について学ぶ | 資料 1 を英文で読み、日本語に置き換えて解釈する。<br>資料 2 を日本に置き換えて捉え直す。<br>（SDGs169TARGETS アイコン日本版制作プロジェクト https://www.asahi.com/ads/sdgs169/参加） | 1. ESD が示す 8 つの能力<br>2. SDGs17 の下位目標 169 |
| 2-3 | 防災と国連 | 資料を通して災害を自分事として捉え直し、自分にできることを考える | 資料 3 の自然災害をテーマとした Leeson 5（阪神淡路大震災）, Lesson 11（東日本大震災）、および資料 4, 5, 6 を見たり聞いたりして、学校行事である東北へのキャリア研修と絡めて減災教育を自分事として捉え直す機会とする。<br>資料 7 を通して、キャリア研修で訪問する自治体が震災後、どのように復興してきたのか、自身は起こりうる災害にどう備えるべきなのか、評価し考察する。<br>資料 8 国連関連教材を活用し、UN の枠組みと活動をこれまでの学習と関連付ける。 | 3. 『SDGs 英語長文』（三省堂）<br>4. はるかのひまわり<br>5. JICA 教海研関連資料<br>6. 釜石東中学校の防災教育<br>7. “Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030” (UN, 2015)<br>8. UN75 Dialogue SDG ACTION ONE |
| 4-6 | 記録文学から読み取る人の情動 | 課題図書を通して遺族の情動や取材に必要な特性について学ぶ | 課題図書 9-11 を通して、異なる国籍の著者による東日本大震災の記録文学を比較し、遺族の情動に注目して文学を解釈し、クラスで共有する。また、キャリア研修に向けた取材構想を練る。<br>資料 12(http://www.thinktheearth.net/data/sdgs_bookguide2020.pdf) pp.10-14 を活用し、取材準備をする。 | 9. 『南三陸日記』三浦英之著<br>10. 『津波の霊たち』リチャード・ロイド・パリ―著<br>11. The Guradian’s Book Review of Ghosts of the Tsunami<br>12. 『SDGs アイデアブック』活用ガイド |
| 7-8 本時 | 津南妻有学の発信 | 「持続可能な市民」として学習成果を特定の情報の受け手に発信する | 自ら設定した地域に関連する課題について、想定した情報の受け手にこれまでの学習成果を発信する。<br>想定される発信ツールや場面：<br>ツール：Edmodo, Tour Builder, Flipgrid, SDGs アイデアブック、<br>場面：各種コンテスト、校内外発表会 | |
| 9 | 鑑賞とまとめ | 鑑賞とまとめ | 他のグループの学習成果物を鑑賞する。<br>SDGs17 の下位目標 169 から学習成果に関連した項目を抽出し、日本に捉え直した目標を作成し、共有する。<br>ESD の 8 つの能力に照らし合わせて学習成果を評価する。 | |

資料 1：https://www.unece.org/fileadmin/DAM/env/esd/13thMeetSC/Documents/Presentations/ESDG_learning_objectives_EN_long_version.pdf

資料 4：https://haruka-project.jimdofree.com/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AB/

資料 6：http://kousin242.sakura.ne.jp/maccchin/bbb/%e9%9c%87%e7%81%bd%e9%81%bf%e9%9b%a3%e3%81%a8%e5%ae%9f%e6%85%8b/%e9%87%9c%e7%9f%b3%e5%b8%82%e7%ab%8b%e9%87%9c%e7%9f%b3%e6%9d%b1%e4%b8%ad/000-2/

資料 7：https://www.preventionweb.net/files/43291_sendaiframeworkfordrren.pdf

資料 8：UN75 Dialoguehttps://www.un.org/sites/un2.un.org/files/un75_toolkit.pdf,
SDG ACTION ZONEhttps://sdgactionzone.org/home-2/

資料 10：https://www.lrb.co.uk/the-paper/v36/n03/richard-lloyd-parry/ghosts-of-the-tsunami

資料 11：https://www.theguardian.com/books/2017/aug/16/ghosts-of-tsunami-japan-disaster-richard-lloyd-parry-review

7．本時の展開（7-8 時間目）※県ふれあい事業を兼ねる　zoom meeting
本時のねらい：複数の視点に立って物事を捉え、複数の情報を精査し、自らの設定した課題解決策を論理の構成や展開を工夫して創造的に表現する

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（10分） | これまでの活動を振り返る。（全体）<br>１．総合的な学習の時間のねらいは？<br>―地域振興策を高校生の視点で表現する<br>２．設定したグループ探究テーマの関連は？<br>―ビジネスプラン・コロナ・震災・その他<br>３．外部連携先は？<br>―学校・地縁組織・NPO/NGO・学術/研究機関・自治体・企業<br>４．SDGs に絡めて英語で発信したツールは？<br>―SDGs アイデアブック・Tour Builder・ScreencastOmatic・ Flipgrid<br>５．学習成果を誰にどう還元する？<br>―下級生の学びに還元するために今できること・すべきこと<br>６．ESD の 8 つの能力とは？<br>―システム思考・予測・規範・戦略・協働・批判的思考・自己認識・統合的思考<br>７．SDGs17 の TARGET はどう関わっている？<br>―SDGs11 住み続けられるまちづくりと生き方 | 総合的な学習のねらいと関連付けられるように導く。<br>学習成果の還元は具体的にイメージできるように言語化の手助けをする。 | |
| 展開<br>（85分） | 収集した情報を元に『SDGs 英語長文』を参考にして下級生のためにデータを活用して英語長文テキストを作成するための構想を練り、県ふれあい事業で交流する留学生に伝え、フィードバックをもらう。（グループ）<br>『SDGs 英語長文 of Tsunan S.S - Quest for Echigo Tsumari Art Triennale 2030 -.』<br>（説明文・統計データ・詩・俳句・イラスト等の表現が考えられる） | 新指導要領ではほとんどの支援を活用しなくてもねらいを達成することが掲げられているため、支援は極力行わない。 | 『SDGs 英語長文』（三省堂） |
| まとめ<br>（5 分） | 成果物を修正し、Edmodo に保存する | | Edmodo |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

以下の観点に基づき評価する

①知識及び技能：1）これまでの2回の交流から留学生の英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、論理の構成や展開に配慮することができる　→　コミュニケーション障害が起こった場合支援する

②思考力、判断力、表現力：自ら設定した課題に関して、震災学習と関連付けながらデータや写真を精査して、様々な情報伝達ツールから選択して、情報の受け手に効果的に表現することができる　→　グループで取り組み、英語表現Ⅱのパフォーマンス点として10点満点評価（SDGsとの絡み、地域・研修先・取材に関連する写真や描写、データ）

③学びに向かう力、人間性：ESDにおけるSDG 11「住み続けられるまちづくりを」目指して、認知的・社会情動的・行動的に変容が見られる　→　総合的な探究の時間の振り返りで自己評価する

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】

現代文、コミュニケーション英語、総合的な探究の時間等、クロスカリキュラムで取り組み、学習成果物をICTを活用して外国人留学生と意見交換する。

【外部との連携】

・自治体職員から大地の芸術祭に関する歴史や意義について講演を聞く。

・県ふれあい事業を通して留学生と各国の地域課題について議論する。

・自治体と共同開催の大地の芸術祭に関わるバス巡検に参加し、地元サポーターからガイドを受ける。

・キャリア研修に向けた取材企画を作るにあたり、取材の心得や手法等を学ぶため、他校勤務のALT、起業家教育講師（バイオマスレジン南魚沼）、民間社員営業担当（リクルート）、旅行会社職員（共立観光）から講演を聞く。

（希望者）

・コロナ禍におけるオンライン交流プログラムに参加する。（ザンビアとのオンラインミーティング、模擬国連、ディベート大会、RESAS発表会等）

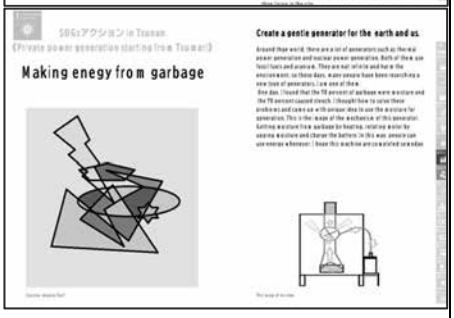
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

中等教育学校という特性を生かして、6年間で地域探究「津南妻有学」を推し進め、地域理解から地域振興策へと有機的につながるように「総合的な学習の時間」を位置づけた。また、3年ごとに開催される「大地の芸術祭」を一つの地域活性起爆剤として官民の垣根を超えた協働を目指し、様々な団体と連携することを心掛けている。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 「学びに向かう力や人間性」をどう評価しようか悩んだ。外部から評価されるより内発的気づきに基づく省察を重視しようと考えた。英語力に関わる評価との関連をどの程度バランスをとるのがよいのか、年度末に実施する日本語の描写（振り返り）を分析して本実践に関わる学びの効果を検証しようと思う。授業者目線で本実践を振り返ると、英語の描写に関わる部分は授業者の支援なしで外国人と交流していたので、多くの生徒は「学びに向かう力」を十分発揮していたと感じる。他教科や学校行事など、様々な学習活動と連携させ、クロスカリキュラムで評価育成していきたい。 |

| | |
|---|---|
| 12. 改善点 | 展開で Tour Builder を用いた発表に統一した。本活動後、様々なツールを用いた成果物作成の活動に展開したかったが、コロナ禍で様々な行事に制約がかかり、結果的にまとめの時間を十分に割くことができなかった。US や NZ など交流予定だった学校数も減少し、限定的な活動となってしまった。年度をまたぐことになるが、生徒の自主性が育成されるように工夫しながら実践したい。 |
| 13. 成果が出た点 | 教師海外研修で得た知識やつながりを生かすことができた。ザンビアのオンライン交流は本研修参加者である須賀与恵教諭につないでもらい、数学教師や獣医、看護師を目指す生徒が参加し、このメンバーでチームを作って新潟県国際理解教育プレゼンテーションコンテストに参加し、審査員奨励賞を頂いた。キャリア形成にも有用だった。<br>本研修顧問の佐藤真久先生から提供いただいた ESD の学習目標を活用して、地域に根差したオリジナル学習目標を作成できたことは、これを下級生と共有することで SDGs を中核として育成したい能力を全校で共有することにつながり、英語力も駆使して地域理解をより深めることにつながると思った。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ・『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』<br><br>昨年度『SDGs アイデアブック』を英語に翻訳するプロジェクトに参加した（Think the Earth ｜ SDGs for School ｜ 英語版翻訳プロジェクト）。Think the Earth のサイトを活用して地域課題に関する記事が作成できる（Think the Earth ｜ SDGs for School）。<br>右図は生徒の成果物の一部である。写真やグラフ、イメージ図などを 2 枚まで挿入できる。関連する SDGs のロゴを選択すればきれいなレイアウトで記事が作成される。美的な視点にも注意を向け、成果物を誰にどのように提示すると効果的なのかを考える良い機会になる。<br><br>手順）利用者登録　→　生徒とアカウントを共有　→　成果物を PDF で共有プラットフォーム(Edmodo)に提出<br><br>・Tour Builder<br>Google が提供するサービスの一つで、マップ機能を持ったプレゼンツアーツールである。写真、図、動画などを挿入できる。地域探究テーマに絡めて日英バイリンガルで作成した。 |



右図は本時の展開であるグループが使用した一連のストーリーの一部である。地図と連動した提示になるため、ストーリーの流れに配慮する（論理の構成や展開を考える）力が育成できる。また、日英バイリンガルで表記することで、英語力が未発達の日本語話者にも提示できたり、教師の支援なしでどのようなことを表現したかったのか確認したりすることもできる。

Gアカウントがあれば誰とでも共有できる。本サービスは 2021 年 7 月に終了し、Google Earth に統合される。

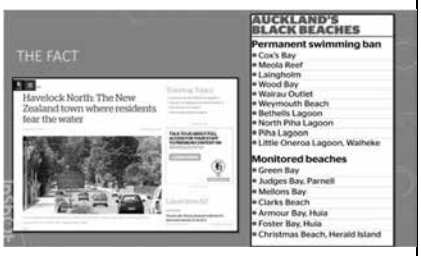
・Flipgrid

動画同士のやりとりができるツールである。字幕も自動で提示選択できるため初級英語力の生徒でも英語の母語話者とやり取りを楽しめるし、自身の英語の発音の癖も発見できる。

右図はモンゴル模擬国連に参加した生徒が日本人参加者に学びの総括や感想について投稿依頼したページである。時差や地理的制約を受けないのが良い点である。授業ではディベートやディスカッションに活用できる。

・Edmodo と ScreencastOmatic

Edmodo は教育関係者専用のオンライン非同期型プラットフォームである。小テストを実施したり課題を提出させたりできる上、保護者も活動を見ることができる。機能を上げればきりがないが、主にメッセージのやり取りや資料等（動画、静止画、音声等含む）の共有目的で使用している。




右図は Edmodo に提出された動画で、ScreencastOmatic を使って、静止画に表情と声を乗せて海外研修の学びを下級生に伝える動画を作成したものの一部をスクリーンショットしたものである。

本校の生徒は 4 年次に全員で約 10 日間の海外研修に行く。昨年度、NZ に行き現地の高校で SDGs に関わる共同授業を開催した。NZ では水不足や水質汚染が深刻だという話を聞いた。津南は清水で有名である。この生徒はそれらを関連させて、現地でどのような授業が展開さ

| | |
|---|---|
| | れたのか、自身で調べた内容も加えて資料を作成した。また、現地へ行く前のアドバイスも加えて、海外研修の心構えを示した（コロナ禍で海外研修実施可否が分からない中でのアドバイスとなっている）。<br>Edmodo では共同編集機能はないが、小グループを下位作成できるため、グループ内の生徒同士のやりとりを推進したい場合は効果的だと思う。<br> <br> |
| 15. 授業者による自由記述 | ICT を効果的に活用することで、誰に向けてどのようにどのような内容を伝えればよいのか、様々なツールから選択する力が身に付くと考える。本実践は英語の授業における探究活動の一部で、年度末の総括や次年度の活動に向けた助走が含まれていない。来年度は生徒の論理的思考や判断力、表現力を英語力を駆使してさらに磨いていきたいと思う。様々な交流場面を設定して、生徒一人一人が「持続可能な生き方」がどのようなものなのか表現・実践できるよう支援していきたい。 |

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 篠崎早織 | 学校名 | 千葉市立稲毛高等学校 |
| 担当教科等 | 英語 | 対象学年（人数） | 2 年　　Ⅰ組（　38　名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2021 年　1 月　　～　　2 月（　　6　時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：

総合英語（SDGsについては、総合的な探究の時間に別途学習済み）

2. 単元(活動)名：

The Vancouver Asahi　（20世紀初頭の日系カナダ人の境遇と野球との関わりについて理解する）

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：

「多文化共生社会の実現～地域、SDGs、日系人を視点として～」

単元目標：

・カナダの日系移民が歩んだ苦難の歴史を知り、海外移住に伴う苦労を理解する。

・資料を用いて、SDGsの視点から、多文化共生社会を実現するための手段を考える。

・日本に住む外国人や日系人コミュニティの存在を知る。

・「豆腐100万丁プロジェクト」を例に、海外に住む日系人と日本とのネットワークを知るとともに、国際協力のあり方について考える。

関連する学習指導要領上の目標：

① 外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深めること。 ② 外国語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。 ③ 外国語を通じて，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養うこと。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 無生物主義、倒置、what を用いた強調について理解する。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | ・テーマについて自分の考えを英語で述べることができる。<br>・様々な資料から大事な情報を読み取り、英語でわかりやすく相手に伝えることができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | ・相手の考えや発表を、興味を持って聴くことができる。<br>・学んだことを自分事として捉え、社会のためにできることを考える。 |

| | |
|---|---|
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>教科書本文では、在加日系人の苦難の歴史が、日系野球チームAsahiを通して語られている。今でも多くの人々が移民として、様々な困難を抱えながら生活していること、そして日系人のネットワークは世界各地にあり、今でも日本とのつながりを様々な方法で保っていることを学ぶことは、世界を多角的に見るために重要であると考え、この単元を設定した。<br><br>【単元の意義】<br>グローバル化が進み、人の移動がより多くなった現在は、私たちの住む地域にも、多くの外国人コミュニティが存在している。当時の日系移民の境遇に思いを馳せながら、現在地域に住む外国の方について知り、日本で生きる彼らの苦労や祖国への思いを理解することは、国際協力への興味関心と異文化理解への一歩として、重要である。<br><br>【児童／生徒観】<br>2年生の国際教養科、女子31名と男子7名のクラスである。素直で、協調性があり、人の話をよく聴くことができる。英語を使うことに慣れており、英語で積極的にペアワークやグループワークを行う。学ぶ意欲は概ね高いが、新型コロナウィルスによって海外との関わりが減ってしまい、内向き志向になってしまっている生徒もいる。幅広い視野を持ち、外国への関心を持ち続けられるための指導を引き続きしていきたい。<br><br>【指導観】<br>本授業では、地域にいる外国人向けの実際の資料や写真を多く用意し、生徒に提示する。その理由としては、SDGsをすでに学んでいる生徒が、その達成のためにどのような取り組みが実際に行われているかを知るため、そして、在日外国人の日々の暮らしをより身近に感じるためである。それらの資料を用いながら、生徒同士による英語のディスカッションを多く取り入れ、生徒の考えを共有し、理解し合うように工夫をした。 |

6. 単元計画（全　6　時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 教科書<br>Lesson9<br>導入 | ・本文の舞台であるカナダの基礎情報を英語で理解する。<br>・在日外国人労働者の実情を知り、海外移住に関して英語でディスカッションをする。 | ①カナダに関するクイズに答える。<br>②在日外国人労働者に関するニュース映像を観て、彼らの抱える困難について議論する。<br>③教育、文化、仕事などそれぞれの観点から、海外移住にはどのような困難が伴うのかを考え、意見交換をする。 | 動画<br>ワークシート |
| 2～5 | 本文理解<br>Part1～4 | ・英語で本文を理解し、自分の言葉で要約することができる。<br>・日系人が移住先で経験した苦労について知り、人種差別や多文化共生について考える。 | ・新出単語理解<br>・本文リスニング➡Retelling<br>・Picture Retelling | ワークシート<br>パワーポイント |
| 6<br>本時 | Lesson9<br>まとめ | ①地域に住む外国人の暮らしや現状について理解する<br>②国内外の日系人コミュニティについて知る<br>③多文化理解と国際協力への姿勢を養う | ①実際に地域にある資料を用いて、それが何のために使われているのか、SDGsに照らしてペア（生徒A、B）で考え、議論する。インフォメーションギャップの手法を用いるため、生徒Aと生徒Bは異なる資料を用いる。<br>②群馬県大泉町の写真を見て、国内の日系コミュニティについて知る。<br>②③豆腐100万丁プロジェクトの記事を読み、国外の日系コミュニティについて知るとともに、国際協力がどのような状況下、考えにおいてなされるのかを考える。 | ・ワークシート<br>・パワーポイント<br><br>・大泉町の写真<br><br>・朝日新聞の記事<br>・岐阜新聞の記事 |

7. 本時の展開（ 6 時間目）

本時のねらい：

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(5 分) | 自分の住む地域で、多文化共生のための工夫がみられる例を挙げる<br>・ペア（生徒 A と生徒 B）での話し合い後、数人に発表させる。 | 具体例が出ないときは、教師が例を出し、議論を促す。 | パワーポイント<br>ワークシート |
| 展開<br>(35 分) | ①実際の資料を見て、外国人が地域で生活するためにどのような工夫があるのかを考える<br>・生徒 A は資料 A 群を、生徒 B は B ペアの生徒は資料 B 群をそれぞれ見て、資料を 1 つ選ぶ。<br>・待っている時間で新聞記事を各自読む。<br>・選んだ資料がどのような目的で、どのように役立てられているのかを SDGs に照らして考え、ワークシートに記入する。<br>・ペアで自分たちの考えを共有する。<br>・代表者がクラスで発表する。<br><br>②群馬県大泉町の写真を見て、日系人のコミュニティが日本にもあることを知る。<br><br>③新聞記事から豆腐 100 万丁プロジェクトについて知り、<br>・海外の日系人コミュニティと日本との関わり<br>・豆腐を届けようとした人々の気持ち<br>について議論し、国際協力について考える。 | 資料を閲覧する際に密にならないよう生徒の閲覧を数回に分ける。<br><br>選んだ資料が重ならないように、発表者を選定する。<br><br>写真が何を表しているのか、考えさせる。<br><br>ゆっくりと簡単な英語で説明をする。 | 在日外国人向けパンフレット、情報誌<br>『日本語学習生活手帳（中国語版）』<br>『日系ブラジル母子サポートマニュアル』<br>『指で話そう　災害緊急時多言語ハンドブック（8 か国語）』<br>『 Philippine Digest』<br>『Latin-a』<br>『 NIKKEI Network 海外日系人協会だより』等<br><br>群馬県大泉町の写真<br>法務省によるデータ<br><br>朝日新聞(2011 年 4 月 7 日)<br>岐阜新聞(2012 年 5 月 14 日) |
| まとめ<br>(10 分) | ①教科書にあるカナダと日系移民にとっての野球が果たした役割について考える。<br>②感想記入 | | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

生徒の発言内容、ペアワークの様子、ワークシートへの記入事項により、授業への取り組み状況を総合的に評価する。

9. 学習方法及び外部との連携

7 から 12 月にかけて、SDGs に関する外国と日本との比較研究とそのプレゼンテーションをクラス内で行った。それに伴い、千葉大学大学院在学の留学生 8 名に計 3 回来ていただき、生徒とのディスカ

| |
|---|
| ッションや研究へのアドバイスをしていただいた。異なる文化的背景を持った人との交流により、様々な視点を得ることができて海外への興味関心が高まったのと同時に、英語で国際問題について知り発表することの大変さと意義を生徒は経験することができた。SDGs のレンズを通して世界のことを学べた充実感も生徒は感じられたようである。<br>また、10 月には市ヶ谷にある JICA 地球ひろばをクラスで訪問し、ワークショップ参加や施設見学によって、SDGs や国際協力への理解を深めた。 |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>SDGs に関する外国と日本との比較研究の成果発表会を、校内の下級生に向けて行った。 |

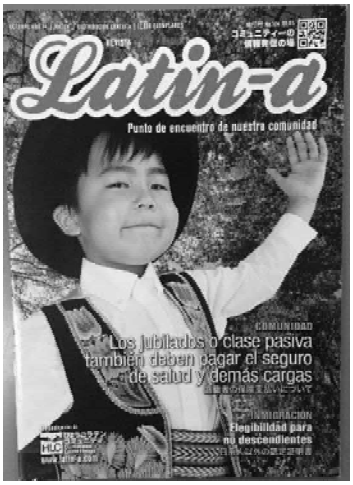
【自己評価】

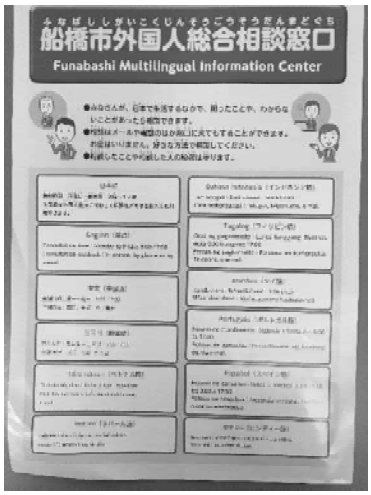
| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | 現場での研修には参加できず、完全にオンラインだけの研修参加だったため、研究で自分自身が学んだことを、どのような形で生徒に還元することができるのか、どのような資料や教材を使えばよいのか、当初は悩んでいた。そこで、千葉県国際交流センターに赴いて資料の提供を受けた。また、新型コロナウィルスによる休校や行事予定の変更もあり、授業の見通しを立てるのも困難であった。グループワークができない中で、どのように生徒とインタラクティブな授業ができるのかについても、工夫が求められた。 |
| 12. 改善点 | 何を単元全体で生徒に学んでほしいのか、そのために各 1 時間の授業では何をすべきなのかを、より具体的に、詳細に考えるべきであった。いろいろなものを 1 つの授業に落とし込んでしまったため、生徒に考えさせたい点（国際協力に必要なこととは、という観点）について十分に提示することやその時間をとることができなかったことが反省点の 1 である。<br>また、感染予防のため、グループワークができなかったが、その中でも複数人と議論が可能になる方法を考えていかねばならないと感じた。<br>英語の使用に関しては、議論の中で使用すべき表現などより明確にして、言語的サポートをより計画的に行うべきであった。 |
| 13. 成果が出た点 | 地域にいる外国人について、生徒が地域にある様々な取り組みや実体験を多く語っており、これまで意識していなかった地域の問題を知ったり、地域をグローバルな視点で考えたりするきっかけとなったようだった。また、以下にあるように、文化の異なる人々を差別してはならないという認識を強くしたようだ。<br>また、本授業前に行った SDGs に関する比較研究では、各生徒が国際問題に関心を持ち始め、中には海洋プラスチックごみ削減のためのボランティアに参加した生徒もいた。自分たちの住む社会に対する意識が高まったように思う。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | 生徒が授業後に英語で書いた感想の一部を以下簡潔に和訳）<br>「一人一人に多様なバックグラウンドがあることを知った。それにより、日本において必要な支援を受けられないのであれば、直ちに解決すべき問題だと思う。」<br>「外国人や異なる文化を理解することは大切であり、多くの取り組みがそのためになされてきたことを知った。そうした取り組みを行っていけば、お互いが困難な状況に陥ったときに、助け合えると思う。」 |

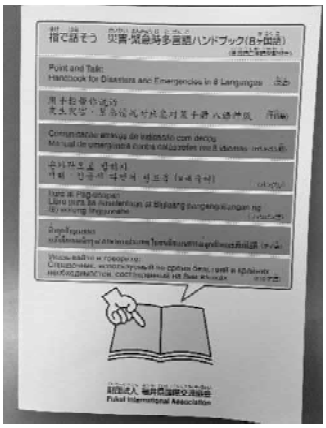
| | |
|---|---|
| | 「世界には多くの差別を受け、奴隷のように扱われてきた歴史があることを学んだ。今の日本でも、外国人に対して同様な状況があるのではないか。日本人も多文化を尊重し、悪しき状況を変えていかねばならないと思う。」<br>「(豆腐100万丁プロジェクトについて) 感謝の気持ちを持つということは、世界に共通しているものであるということ、多くの国が日本と深いかかわりがあるということを学んだ。」 |
| 15. 授業者による自由記述 | 本来であれば、海外や実地による研修に行き、そこで得た情報をもとに生徒に授業をするはずであったが、それが不可能となってしまい、授業のやり方について、悩むこともあった。しかし、実際に授業を考えていく中で、本研修で学んだことに加えて、自分が大学時代で取り組んできたことや、自分の身近にあるものを教材として活用していくことができるのではと考えられるようになった。このような時期だからこそ、より柔軟な考えや対応が大切なのであると感じた。「できない」ではなく「どうやるか」について、考え、実行する良い機会となった。<br>本研修に参加して、国際理解教育を実践する多くの先生方の取り組みを知れたことも、前向きに授業実践を考えるきっかけとなった。特に、佐藤先生の講義にあった、「学校現場や教員間でも協働が必要だ。学校も、外に目を向けて助けを求めたり、外部リソースを使ったりすることができる。」という言葉を受け、JICA 地球ひろばへの訪問や千葉大学の留学生を授業にお呼びするなど、外部との連携の実行に移すことができた。この研修では、知識だけでなく、自分の意識や行動の面で、多くのものを得ることができ、関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいである。<br>海外との交流が難しい中でも、生徒がグローバルな視野を持てるよう、国際理解を促進する取り組みを、個人の力だけでなく、地域や他の団体などの力を借りて、これからも続けていきたい。 |

参考資料：
資料・書籍の貸し出し
千葉県国際交流センター　https://www.mcic.or.jp/ja/

実際に授業で使用した資料の写真





# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| 氏名 | 菅原　唯 | 学校名 | 千葉　都・道・府・(県)<br>県立市川工業高等学校 |
|---|---|---|---|
| 担当教科等 | 理科 | 対象学年（人数） | ３年４クラス（１４５名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年４月　～　１２月（４時間＋α） | |

【実践概要】

| | | |
|---|---|---|
| 1. 実践する教科・領域：科学と人間生活 | | |
| 2. 単元(活動)名：科学技術と人間・環境 | | |
| 3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標<br>授業テーマ：「こころあるものづくりができるひとを目指して」<br>単元目標：<br>・現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたこと、科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解させる。科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。<br>関連する学習指導要領上の目標：<br>(1)　科学技術の発展　科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。(3)　これからの科学と人間生活 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習 を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。 | | |
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | 自然の事物や現象に関して、地球に住む人間が長い時間をかけて獲得した知識の有用性を理解するとともに、知識を獲得する方法や世界の実情についても理解し、適切に利用することができる。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 自然の事物や現象に問題を見出し、実験・観察・調査を行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 自然の事物や現象に関心を持ち、科学の発展と人間生活との関係を意欲的に調査・探究して、科学的な見方・考え方を身につけようとする。 |
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（児童／生徒観、教材観、指導観） | 【教材観】<br>現行の学習指導要領では、科学と人間生活において「自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、 科学に対する興味・関心を高める。」とされている。ものづくりを学んでいる本校の生徒は科学技術の活用についてはある程度の理解があるが、さらに持続可能な社会に向けて、これから必要なものづくりについて学んでいく必要がある。<br>【児童／生徒観】<br>本校は、工業教育を専門とする専門高校として、科の特色を生かした専門教育を行っておいる。「研学愛理」、「互助信頼」、「自主明朗」の校訓のもと、心あるものづくり技術者を育成することを教育目標としている。卒業後は、在学中に磨いた工業の確かな専門力を武器に、進学はもちろんのこと、関東近辺の企業に就職する生徒が多い。３学年は卒業を控え、多くは社会に出て活躍する生徒が多いため、今後の実生活に興味関心が高まる授業展開をしていきたい。<br>【指導観】<br>海外を身近に感じてもらうと共に、海外を視野に入れた仕事観（キャリア形成）やものづくりの視点を身につけてもらいたい。 | |

6. 単元計画（全５時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など<br>※：JICA リソース活用はこちらに記載 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 科学技術と人間 | ・ザンビアについて知る。<br>・オンラインでつながることで、科学技術の進歩を理解する。 | JICA ザンビア事務所と生徒自宅と学校（授業担当者）でライブストリーミング授業<br>・ザンビアの場所を Google earth を使って探す<br>・授業担当者から JICA 事務所松村次長の紹介<br>・松村次よりザンビアの紹介、現地の様子 Live<br>・質疑応答、まとめ | ・Google Meet |

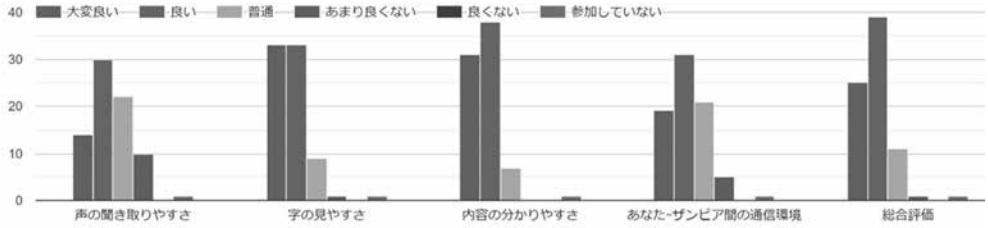



図１　ライブストリーミング授業の生徒評価

【生徒の感想】

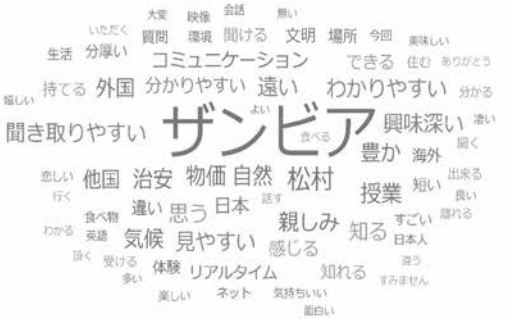



図２　自由記述の単語分析

・最近自宅付近しか見てないので気分がリフレッシュされました。ネットが普及してかなり便利になりこうして学校で顔を合わせなくてもオンライン授業で授業が受けられるのは嬉しいと思いました。
・松村さんとのライブストリーミングを通して、日本とザンビア及び海外との違いを実際の映像などを通じて教えていただき、今まで知らなかった新たな知識に触れられたことでより他国への興味や関心を深められたと思います。一方で、ザンビアでの生活についての質問への回答を拝聞していた中で、自分達の現在の環境がいかに恵まれているかという事に気づかされ、その環境に慣れきってしまっている自分を痛感させられました。今回の授業は、急な長期休業で緩んでしまった自身を見つめ直し、それを正していくきっかけにもなる非常に価値のある授業になったと思っています。
・日本とはほとんど真逆の国にいる人とこんな形で身近に感じられる授業が出来て面白かったです。向こうは果物が美味しい事や、お肉を分厚いまま食べたりしてる事、気候など、海外は行ったことが無いので今回知れて良かったです。次回の授業が楽しみです。
・外国にいる人と、ほぼ遅延なしで会話できてよかったです！普通の高校ならこんなことできないと思うので嬉しいです！オンライン授業を受けて、まず時差が約 7 時間あるザンビアと中継するというのがとても新鮮な体験でした。
・僕は何度か海外に行ったことがあります。しかし、今回初めてビデオチャットを利用して別の国にいる方とコミュニケーションを取りました。今までこのような体験をした事がなかったのでとても貴重な体験が出来たと思います。もし自分が英語をしっかり喋れるなら自主的に別の国の方とコミュニケーションが取れるかなと思いました。英語は世界共通語、英語に対する捉え方がかなり変わりました。

【授業の評価】
・ 学習が苦手な生徒も多い中で、本時の授業は非常に高い評価となった。授業アンケートの提出状況も普段の授業よりも良好で、生徒の興味関心の高さが伺えた。
・ 生徒の持つ端末の違いや学校の WiFi 環境の不安定さが原因で通信環境の乱れが一部あった。Live でやる際には、授業以降の録画配信も検討する。見学している先生が近くでビデオ参加してハウリングが何度か起こったり、使用した学校 PC の性能が低く固まることもしばしあった為、次回以降は改善を検討する。
・ 授業が終了しても 20 分以上画面に居残り参加してくれる生徒もいた。もっと話したい、質問したいという生徒が多かった。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | | ・ザンビアの紹介動画を観て、ザンビアについて理解し、内容を自分なりにまとめる。 | ・JICA ザンビア事務所松村次長作成のスライド動画を観ながら、内容をまとめる。<br> <br> <br>図３　授業の様子<br>・資格試験：日本語ワープロ検定のタイピング演習用授業としても活用した。 | ・JICA ザンビア事務所松村次長作成のスライド動画 |
| 3<br>本時 | | ・「ザンビアの水、インフラ、教育、保健の分野において①何が課題か②課題を解決するためのアイデアをみんなで考える | ・録画編集したものを、後日配信して、同様の学習をオンラインで行った。 | ・授業スライド |
| 4 | | 「ものづくりとは何かを考えよう」<br>・丸森町プロジェクトを通して、ものづくりに必要なことを考える。 | ・丸森町プロジェクトについて知る。<br>・豆腐百万丁プロジェクトについて知る。 | ・丸森町 HP<br>・丸森町の農家さん達の言葉<br>・株式会社ギアリンクス HP（豆腐百万丁プロジェクト） |
| 5 | まとめ | 発表 | ・（コロナの影響で形態を変更）まとめをワークシートに記入して提出する。 | ・Google　Form |
| ＋α（３時間） | 身近な自然景観と自然災害 | ・自然災害（地震、津波、洪水）について正しい理解を深め、防災に対する意識をつけよう。<br>・卒業後、安心安全な生活が送れるように、自分の進路先の災害の危険を見つける。<br>・ふるさとを失った人々の強く生きる姿から、自分の生き方を見つめ直す。 | ・自然災害が起こるメカニズムを知り、正しい知識を身につける。<br>・自分の住む町、進路先のハザードマップを確認して、災害時の対策を考える。<br>・ふるさとを失われた人の気持ちを理解し、自分のふるさとの大切さ、家族の大切さを理解する。<br>※動画視聴については、災害映像による生徒への精神的な負担を考慮し、事前に確認をして、視聴を無理強いはしない。 | ・教室に残る津波の爪痕　震災遺構・荒浜小<br>・震災遺構仙台市立荒浜小学校<br>・津波直後の大洗港・空撮［震災当日］<br>・爆発 炎上する石油コンビナート［震災当日］ |

7. 本時の展開（　時間目）

本時のねらい：ザンビアの水、インフラ、教育、保健の分野の課題に気づき、課題が相互に関連していることに気づき、解決方法もまた相互に影響することに気づく。

使用ツール等：Zoom、授業スライド　　授業形態：ライブストリーミング授業

| 開始 | 活動 | 生徒の活動 | 授業担当者 | 講師 | 操作・画面 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 18:45 | 講師入室開始 | | 待機<br>入室 18:45<br>録画！ | 待機<br>入室 18:45 | 講師待機 18:45～<br>生徒入室開始は<br>18:50~ | ミュート指示、名前変更 |
| 18:50 | 生徒入室開始 | 入室、ミュート設定・名前変更 | ミュート設定・名前変更の指示 | | 講義の前に事前スライド | |
| 18:50 | チャットや質問等のアイスブレイク 2、3 分 | チャットにコメント、質問答える | | | | |
| 19:00<br>導入<br>(10 分) | 授業開始の挨拶 | 代表生徒が号令<br>「気をつけ。礼」<br>参加生徒がチャットに「よろしくお願いします」と入力 | 号令指示 | | | グリッド |
| 19:02 | 記念撮影 | なるべく顔出し | 顔出し指示 | | 撮影 | |
| 19:05 | 本日の流れ | 事前に確認済みなので、再確認 | 授業の流れ説明 | | | パワポ共有 |
| 19:10<br>展開<br>(50 分) | ①水、②インフラ、③教育、④保健の分野において<br>講師の方が 1 分野 5 分ずつ説明 | 事前配布した資料にメモしたり、端末上にメモしたり等、自分なりに聞く | パワポ画面共有する<br>菅原がページ送り | パワポ画面を使い説明<br>①②松村さん→③大澤さん→④別府さん<br>ページ送り指示 | | 4 分野に関するスライド |
| 19:30 | 【課題提示】<br>ザンビアの水、教育、農業、保健の分野において①何が課題か②課題を解決するためのアイデアをみんなで考えよう | | 注意事項説明<br>・話し合いの時間は 15 分<br>・19:50 まで<br>・分野はこちらで指定<br>・テーマには必ず触れる、柔軟に | 松村さんが課題指示<br>↓<br>菅原へ | ルーム振り分け 3～5 人ずつ | 課題スライド |
| 19:35 | 各テーマについて、班に分かれて話し合う | ブレイクアウトルームに分かれて活動<br>発表者を決めておく | ホストで巡回 | ホストで巡回 | ブロードキャストで残り時間を周知<br>チャットに指示<br>・②の話し合いを始めましょう<br>・残り 5 分です。発表者を決めておいてください。<br>・残り 1 分です。内容をまとめてください。 | |
| 19:50 | 1 テーマ 2 班ずつ、合計 8 班が発表<br>1 班 2 分以内合計 16 分 | 発表者はミュートを解除して発表<br>発表が終わったら拍手アイコン、コメントしても良い | 菅原が指名する | | | |
| 20:20 | ご講評<br>4 分野は独立したものではなく繋がっている | よく聴く。講評が終わったら拍手、コメントをあげても可 | | 講師の方からご講評 | | |
| 20:27<br>まとめ<br>(10 分) | 次回授業予告<br>授業終わりの挨拶 | 代表生徒が号令<br>「気をつけ。礼」<br>「ありがとうございました」と手を振る | 号令指示 | | | |
| | | 授業終了後、生徒はフォームに回答する | | | | |
| 20:30 | アフタートーク<br>講師同士で意見交換 | | | | | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

定期考査や授業中の様子、ワークシートに記入されている内容をみて、3 つの観点を評価する。なお、録画編集したものを後日授業で扱ったため、授業としての評価に入れた。

| |
|---|
| 9. 学習方法及び外部との連携<br>JICA ザンビア事務所次長　松村元博　様（第１回及び本時の講師でザンビアより Live 中継を行った）<br>元青年海外協力隊　大澤明浩　様（本時の講師、松村様からのご紹介）<br>元青年海外協力隊　別府真衣　様（本時の講師、松村様からのご紹介）<br>キュリー株式会社　板倉賢太郎様（以前からオンラインについての技術指導をいただいている。本校の課題研究の授業にも指導助言をいただいた）<br>共同通信社　中田祐恵　様（取材） |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>・本校ＨＰにて授業実践を紹介した。　https://cms1.chiba-c.ed.jp/ichiko/joy6wq98d-701/#_701<br>・職員会議にて、実践内容について紹介した。<br>・ＩＣＴ教育に関する団体にて授業実践の一部を発表した。<br>i Teachers TV：https://www.youtube.com/watch?v=nGF3YIGKVeI<br>https://www.youtube.com/watch?v=85bGRrkDps8<br>・授業内容とともに生徒２名が共同通信社の取材を受け、新聞に掲載された。（令和２年９月２７日千葉日報、秋田魁新報、四国新聞、琉球新報） |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ・ライブストリーミング授業に向けての、ＩＣＴ活用の計画や事前準備が非常に大変であった。<br>・コロナによる授業形態の制約により話し合いやペアワークが禁止（制限）されたため、ホワイトボードや板書、タブレットのアプリを活用したりと工夫たが、授業内での生徒同士の活発な意見交換を行わせることが難しかった。改めて、生徒同士の話し合いや学び合いの大切さを実感することができた。 |
| 12. 改善点 | ・２学年の時に SDGs について学習していたため、授業時数の都合上、今回は改めて行わなかった。しかし、時間が許せば１時間でも SDGs に関する授業を行い深い理解を促した後に授業をすれば、より深い考察と授業効果があったと思われる。 |
| 13. 成果が出た点 | ・こちら側が想定する以上に、生徒は課題について深く考えてくれていた。情報化社会で様々な情報に触れている生徒にとって、様々な物事に幾分かの知見はあるが、考えたり話したりするきっかけがないだけだと感じた。また、発達段階によって、１つの物事に対する考え方や価値観は違ってくる。12.改善点の内容も踏まえ、１つ１つの学びを大切にし、深く考えることのできる機会を提供できる授業設計をしていきたい。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | 本授業の前は、「１つの課題をまずは解決する」「他国で起こっている問題は日本とはかけ離して考えるもの」といった声が大きかった。<br>以下は授業後の記述である。<br>参加生徒「専門家の講師のお話を聞き、一つの課題を解決するには、他の課題も同時に解決しないといけないと思った。もちろん、全部を一気に解決するは難しいけれど、１つの課題を解決するときに他の課題に対する影響（良いのと悪いのと）も考えないとダメだと感じた。お互いに良くも悪くも作用している。だから、一つが良くなれば相乗効果で他も良くなったりする。だから課題を１つと考えるのではな |

| | |
|---|---|
| | く、大きな一つかたまりとして考えるといいんじゃないかなって思った。」<br>後日授業にて参加した生徒「日本はただ技術をどんどん良くして、楽にして便利にして利益を考えて。というのは、もう古くさいんだなと思いました。間に海があるだけで同じ地球に住んでいるんだから、他国の問題を解決できるような人材とかがこれからは必要なのかなと思います。」「就職したら、日本の中でのものづくりはいつか限界が来そうだなって思った。日本の高い技術や伝統的なやつを、海外に提供したりすることも大切なのでは。そうすれば、ザンビアが持っている問題も今よりもずっと良くなると思うし、日本も幸せになると思う」「日本が全部やってあげれば何とかなるという意見の人もいましたが、私は違うと思いました。いつか手伝ってあげなくなったら、手伝いをやめた日本をひなんすると思うし、ザンビアの人が自分達でできるようになったと思えるような助け方をしてあげて、優しく見守ってあげるような助け方をして、課題を解決すればいいと思いました」 |
| 15. 授業者による自由記述 | 昨年度からの一斉休校により、生徒の学びの機会を保障・提供するかを考え続けた日々であった。そんな中、教師海外研修のネットワークを通じて様々な情報交換を行い、新しい授業実践に挑戦できたことは、私自身も学びを継続することができ、非常に大きな経験となった。今回、過年度研修者として国内研修に参加させていただいたが、新しい出会いと学びの多い大変有意義な研修であった。最後に、研修を企画・運営してくださったＪＩＣＡ東京の皆様、研修を共にした尊敬する先生方に感謝申し上げます。 |

参考資料：

・丸森町 HP　http://www.town.marumori.miyagi.jp/machisen/kouya-mati/zambia/zam2019.html
・株式会社ギアリンクス　http://www.gialinks.jp/tofu100mancho.html

・教室に残る津波の爪痕　震災遺構・荒浜小
https://www.news24.jp/articles/2020/03/11/07607310.html
・震災遺構仙台市立荒浜小学校
https://www.youtube.com/watch?v=N1EbEPKQWM8
・津波直後の大洗港・空撮［震災当日］
https://www.youtube.com/watch?v=fAmX7_cBv68
・爆発 炎上する石油コンビナート［震災当日］
https://www.youtube.com/watch?v=TaBx1j0hbHQ

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 鈴木優成 | 学校名 | 千葉県立東金特別支援学校 |
| 担当教科等 | 全教科 | 対象学年（人数） | １年生～３年生（７名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年７月～２０２１年２月（１３時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間「東金タイム　ボランティアサークル」

2. 題材(活動)名：友達と協力して社会貢献活動に取り組もう～僕たち、私たちにできること～

3. 授業テーマ（タイトル）と目標

**授業テーマ**

友達と協力して社会貢献活動に取り組もう。

**目標**

・友達と協力しながら自分の得意な力を生かして社会貢献活動に取り組むことができる。

・社会貢献活動に取り組むことを通して、達成感を感じたり、自己有用感を高める経験を重ねたりすることで、社会的な課題の解決に向けた活動に自分から取り組もうとする意欲や態度を身につける。

**関連する学習指導要領上の目標**

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 題材の評価規準 | ①知識及び技能 | 難民について知り、「もし自分が難民だったら」と考えることができる。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 難民について考えたことや感じたこと、社会貢献活動での取り組みを発表することができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | 難民に関心をもって、自分から友達と協力して社会貢献活動に取り組むことができる。 |

**5. 題材設定の理由・題材の意義**

（児童/生徒観、教材観、指導観）

【題材について】

難民について学び、社会貢献活動「届けよう　服のチカラプロジェクト（以下、服のチカラ）：株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ、ジーユー）」に参加する。難民の人々のために子ども服を回収し、服を届ける活動である。

【題材設定の理由】

学習指導要領前文にある「持続可能な社会の創り手の育成」についての記述や特別支援学校学習指導要領第５章にある社会と関わる体験活動についての記述を踏まえて設定している。生徒に社会とのつながりを感じてほしいと願い、地域や企業と協力して社会貢献活動に取り組む本題材を設定した。

【題材の意義】

社会貢献活動に参加し、活動の成果を知ることで、他者の役に立つ喜びや達成感を感じると共に、自己有用感を高めることができる。また、協働的に活動に取

り組むことで、他者との関わりが増え、コミュニケーション力や人間関係の形成の力なども高めることができる。さらに、社会的な課題に対して、自分たちにできることは何かを考えて、行動することの楽しさや喜びを感じることも期待できる。

【生徒観】

主に知的障がいを有している１～３年生の７名である。これまで、難民について学習したことや地域のボランティア活動に参加した経験はないが、友達や教師と一緒に学習をしながら活動に取り組むことで、意欲的に社会貢献活動に参加する姿が期待できる生徒達である。

学校内の学習では、自信をもって取り組める活動が増え、様々な場面で成功体験を重ねる経験をしてきている。学校外と連携した社会貢献活動への参加を通して、自己肯定感、自己有用感を高めることで、主体的な社会参加へとつながることを期待している。

【指導観】

文部科学省は持続可能な開発のための教育の「学び方・教え方」について「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成を通じて、 具体的な行動につなげる」と示している。また、「知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探究や実践を重視する参加型アプローチをとる」ともある。 それらを踏まえ、本題材では、「知ろう、学ぼう」→「伝えよう」→「行動しよう」の流れを意識し、実践していく。

学習前半は、難民の人々に思いを寄せながら、自分達にできることは何かを考えることができるように「知ろう、学ぼう」の観点を意識した授業に取り組む。最初に、「服のチカラ」協力企業から講師を招き、難民の人々の様子や「服のチカラ」の目的や活動について学ぶ。さらに、「もし自分が難民だったら」と考えながら、難民シミュレーションやワークショップ形式の学習に取り組み、難民に対する理解を深めていきたい。

題材後半では、「伝えよう」を意識し、生徒のアイデアを生かしたチラシの配布や校内掲示物の作成、集会発表の準備に取り組む。他者とのつながりを感じることができるようにしたい。また、「行動しよう」として、子ども服回収箱の作成、回収、箱詰め、発送などの体験活動に取り組む。その際、生徒一人一人に合わせて活動や補助具を準備し、生徒が得意な力を生かして活動に取り組むことができるようにする。

これら体験的な学習での学びを生かして、身近な課題に気づき、課題解決に向けた活動に自分から取り組もうとする姿へつながることを願っている。

6. 題材計画（全１２時間）

| 時 | 小題材名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 年間計画を立てよう。 | 学習の見通しと期待感をもつ。 | ○前年度の取り組みの振り返り。<br>○年間活動計画についての話し合い。 | 年間学習計画 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2～3 | ユニクロ社員の出張授業を聞いて学ぼう。 | 「服のチカラ」参加への期待感をもつ。 | ○ユニクロ社員による出張授業の準備。<br>○ユニクロ社員による出張授業。 | ユニクロ出張授業スライド |
| 4～5<br>本時<br>6 | 「もし自分が難民だったら」と考えてみよう。 | 「もし自分が難民だったら」と考える。 | ○難民シミュレーション<br>○あるものないものワークショップ | スライド教材 |
| 7 ～<br>10 | 「服のチカラ」に取り組もう。 | 「服のチカラ」に取り組む。 | ○「服のチカラ」活動<br>・回収箱、チラシ、校内掲示物を作成する。<br>・子ども服の回収、箱詰め、発送をする。 | |
| 11 ～<br>13 | 学校、地域のために活動をしよう。 | 身近な活動に取り組む。 | ○身近な社会貢献活動 | |

7. 本時の展開（４・５時間目）

本時のねらい：

４時間目・「もし自分が難民だったら」と考えながら、避難時に必要だと思うアイテムを考えたり、それを選んだ理由を友達と話し合ったりすることができる。

５時間目・避難時の困難を知り、「もし自分が難民だったら」と考えることができる。

・難民の写真を見て、気づいたことを発表することができる。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| ４時間目<br>導　入<br>（10分）<br>（10分） | ○前時を振り返る。<br>・難民の様子や社会貢献活動の意義、活動の流れを確認する。<br>○難民シミュレーション<br>・設定とルールを知る。 | ・生徒が理解しやすいように、写真や分かりやすい言葉をスライドに使用する。<br>・設定は生徒が理解しやすい内容とし、分かりやすい言葉で伝える。 | スライド |
| | 【難民シミュレーションの設定とルール】<br>自分たちが住むリナサーマ王国で争いが起こり、家族と一緒に隣国ワイヘナ王国へ避難する。その際に持ち出すアイテムを５つ選ぶ。避難中の困難にアイテムで対処できると避難ルートマップのマスを一つ進むことができる。 | | |
| 展　開<br>（15分）<br>（10分） | ・避難時に持っていくアイテムを５つ選ぶ。<br>・選んだアイテムとその理由を発表する。 | ・話し合いながらアイテムを選ぶことができるように、少人数のグループを作る。<br>・アイテム一覧表を用意しておく。<br>・発表前に、アイテムを選んだ理由を教師と一緒に確認しておく。 | アイテム一覧表 |
| ５時間目<br>（20分） | ・避難中の困難に対処できるアイテムを選んでいるかを確認する。<br>・アイテムで対処できた場合は避難ル | ・避難中の困難が分かりやすいようにイラストを提示する。<br>・生徒の様子に合わせて、個別に内容 | 避難ルートマップ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ートマップのマスを一つ進める。 | の補足説明をする。 | |
| まとめ<br>（15分） | ・ワイヘナ王国に避難できたか確認し、難民シミュレーションの振り返りを行う。<br>・難民の人々の写真を見て、気づいたことを発表する。 | ・避難ルートマップを確認しながら、振り返りを行なう。<br>・実際の避難の様子から気づいたことを発表できるように難民の写真を提示する。 | |
| （10分） | ・国境なき医師団作成の「難民すごろく」を知り、避難の困難さを考える。<br>・感想を発表する。<br>・次時の授業について知る。 | ・難民すごろくが避難の困難さを表現していることを伝える。<br>・感想を考える時間をとり、教師と話し合って良いことを伝える。 | 「難民すごろく」 |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

4時間目【行動観察・ワークシート（アイテム一覧表）】

・「もし自分が難民だったら」と考えながら、難民が避難時に必要だと思うアイテムを考えたり、それを選んだ理由をワークシートに記入したりすることができたか。

5時間目【行動観察・ワークシート（アイテム一覧表）】

・避難時の困難に対して、選んだアイテムで対処できるかを考えていたか。

・難民シミュレーションと関連づけて、難民の写真を見て気づいたことを発表することができたか。

9. 学習方法及び外部との連携

**「届けよう服のチカラ」への参加**

・JICA から「服のチカラ」の情報をいただき、総合的な学習の時間である東金タイムの「ボランティアサークル」にて、難民について学習をしながら活動に参加した。

・活動参加への導入として、ユニクロの社員に出張授業をしていただいた。難民の人々の様子や「服のチカラ」の意義や目的、SDG`s について話を聞いた。

・生徒のアイデアを生かした子ども服回収箱の作成や、服を手渡している様子を描いたチラシの配布、自分達で考えた原稿での全校への校内放送など「服のチカラ」に関連した学習機会を多く設定した。

**「難民シミュレーション」**

避難ルートマップ

・簡単なすごろくゲームの要素を取り入れた。

・「もし自分が難民だったら」と考えることができるように、架空の国「リナサーマ王国」から「ワイヘナ王国」まで避難する設定で、難民の避難を疑似体験した。友達の顔写真を貼りつけた「すごろくのこま」を作成する活動を取り入れ、すごろくの要素があることやグループの友達が分かるようにした。

・避難する際に持ち出すアイテムを考える時間を設けた。その際、話し合いをしやすいようにグループを３～４人で構成し、「家族」と設定した。また、アイテム一覧表を用意した。

**「あるものないものワークショップ（国連 UNHCR 協会）」**

・難民の人々と自分たちの生活を比較しながら「あるもの」と「ないもの」に注目し、難民についての気づきを得るワークショップに取り組んだ。国連 UNHCR 協会の方から承諾をいただき、スライド資料の一部を本校の生徒の理解に合わせて修正した。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

○学部会での学習指導案の提案と学部会資料としての管理職への回覧。

○職員会議での本活動の連絡。

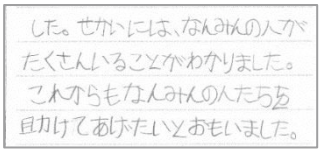
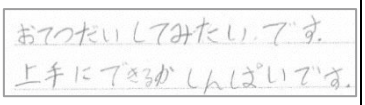
○社会貢献活動協力を依頼するチラシの作成と全校児童生徒への配布。

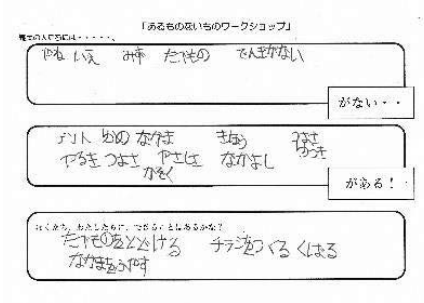
○校内放送での全校児童生徒、教職員への告知。

○生徒の学習の様子や教材の校内掲示。

校内掲示物

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ・感染症の影響による長期の休校もあり、「服のチカラ」の活動期間と授業時間の調整が難しかった。<br>・生徒の理解する力や得意な力が一人一人異なっているので、生徒に合わせた手立ての工夫や目標設定に努力した。 |
| 12. 改善点 | ・「服のチカラ」の活動の様子や難民の人々の様子を多くの人に伝える機会を設けていきたい。<br>・協力企業や地域とのつながりをより意識できる校外学習や、外部講師を招いての出前授業等、難民への関心を高める授業を計画していきたい。 |
| 13. 成果が出た点 | **「服のチカラ」への参加**<br>・出前授業では、多くの質問がされ、活発な学びの機会となった。<br>・「服のチカラ」の活動に意欲的に取り組み、７００枚の子ども服を集めることができた。活動の成果が分かりやすく、達成感を感じている様子が見られた。<br>・活動後のアンケートでは、「今後もボランティア活動に取り組みたい」と生徒全員が答えていた。「地域のごみ拾いをしたい」と活動を提案する生徒もいた。<br>**「難民シミュレーション」**<br>・生徒が互いに意見を伝える場面が多くあり、「もし自分が難民だったら」と考えて話し合いをしている様子が見られた。<br>・難民の写真を提示すると、学習と関連づけ、気づいたことや考えたことを発表することができた。<br>・難民を知らなかった生徒達だが、「戦争で故郷に住めなくなった」「家が壊れる前に違う国へ行く」など、自分なりに難民について説明できる生徒が５名に増えた。<br>**「あるものないものワークショップ（国連 UNHCR 協会）」**<br>・難民の人々の生活と自分たちの生活の「あるもの」と「ないもの」に注目しながら友達と気づいたことを共有し、難民の様子について考えることができた。<br>・ワークショップ後、難民の人々の役に立ちたいという気持ちを強くもった様子があった。<br> <br>授業の様子 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | **「服のチカラ」への参加**<br>・難民の人々に関心を寄せ、活動への不安を感じつつも、頑張って取り組みたい、難民の人々の役に立ちたいという思いをもって活動に取り組もうとする<br>  <br>した。せかいには、なんみんの人がたくさんいることがわかりました。これからもなんみんの人たちを助けてあげたいとおもいました。<br>  <br>おてつだいしてみたいです。上手にできるかしんぱいです。 |

| | |
|---|---|
| | 様子が見られた。<br>**難民シミュレーション**<br>○ワークシート（アイテム一覧表）への記入<br>・「もし自分が難民だったら」と考え、避難時に必要なアイテムを選ぶことができた。のどが乾くことや食べ物が足りなくなること等に気づいた様子が見られた。<br> <br><br>**「あるものないものワークショップ（国連 UNHCR 協会）」**<br>・難民の人々に「あるもの」と「ないもの」に注目したことで、難民の人々の様子を考えることができた。「後輩に伝える」「仲間を増やす」「チラシを配る」など、難民の人々のことを多くの人に伝え、協力して活動に取り組みたいという気持ちをもったことが分かった。<br>  <br> |
| 15. 授業者による自由記述 | ２０１０年の教師海外研修にてブータン王国に行かせていただき、多くのことを学ばせていただいた。今年度、主にオンラインでの研修に参加させていただいたが、「持続可能な開発のための教育」を実践している先生方と出会い、多様な考え方や授業実践に触れることができ、新しい視点での刺激を多くいただいた。研修への参加を支えてくださった皆様に感謝致します。<br>本題材では、体験的な学習に取り組みながら、社会的な課題への関心を高めていき、生徒の意欲的な取り組みを引き出すことを目標とした。「難民シミュレーション」では、「自分が難民になったら」という視点で考え、「あるものないものワークショップ」では、自分達の日常と比べて難民について考えることができた。学習後、難民の人々のために活動しようという気持ちをもつことができ、生徒一人一人が得意な力を生かして「服のチカラ」に意欲的に取り組むことができたと感じている。また、「服のチカラ」の活動に最後まで取り組むことができたことで、達成感や社会のために行動する喜びを感じることもできたと思う。<br>私の目標の一つに、本校の生徒にとって分かりやすい授業となるよう教材を工夫することがあった。本実践では、生徒が積極的に授業に取り組む様子が見られたことが良かった。また、「今後もボランティア活動に参加したい」と全員がアンケートで答えていたことは嬉しかった。今後、生徒が難民のニュースなどに触れた際、本実践での学びを思い出し、何か行動しようと考えてくれると嬉しく思う。また、生徒が卒業した後、身近な社会貢献活動への参加につながると嬉しい。私自身も、持続可能な社会の担い手の一人として、今後も生徒と一緒に学び続けていきたいと思う。 |

参考資料：

・JICA 教師海外研修国内代替研修　高田裕行先生の発表資料

・難民についての授業の手引き　国連 UNHCR 協会

・難民すごろく　もしあなたが難民となったら・・。　国境なき医師団

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| 氏名 | 鍵本ひかる | 学校名 | 東京都立足立特別支援学校 |
|---|---|---|---|
| 担当教科等 | 特別活動（LHR） | 対象学年（人数） | 高等部　職能開発科<br>2 年 A 組（10 名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2021 年 1 月　～　2 月（ 3 時間） | |

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：特別活動（LHR）

2. 単元(活動)名：「SDGsについて知ろう」

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「SDGsについて知ろう」

単元目標：

・SDGsが世界共通の目標であることを理解できる。（知識及び技能）

・なぜSDGsが必要なのか考えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

・世界の課題に目を向け、自分の生活や将来と結び付けて考えることができる。
（学びに向かう力、人間性等）

関連する学習指導要領上の目標：

高等学校学習指導要領（平成30年告示）　第5章　特別活動

第1　目標（中略）

(3) 自主的，実践的な集団生活を通して身に付けたことを生かして，主体的に集団や社会に参画し，生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）第5章　特別活動

特別活動の目標，各活動・学校行事の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取扱いについては，高等学校学習指導要領第5章に示すものに準ずる（以下略）

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | ・SDGs の成り立ちや目指すゴール、世界が抱える課題について理解できる。<br>・SDGs が世界共通の目標であることを理解できる。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | ・1～4 の目標について考えることができる。<br>・SDGs がなぜ必要なのか考えることができる。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | ・2030 年に自分がやってみたいことや目標を考えることができる。<br>・自分の生活や将来と SDGs を結び付けて考えることができる。 |

| | |
|---|---|
| 5. 単元設定の理由・単元の意義<br>（生徒観、教材観、指導観） | 【単元設定の理由】<br>かねてから学校の授業において国際理解や国際交流、世界の課題について扱う機会を増やしたいと考えていた。本校の職能開発科の生徒たちは、高等部卒業後、社会に出て働くことを希望している。そのため、生徒が社会で活躍し、様々な人と関わる際に、日本や世界について少しでも目を向けてほしいと思い「SDGs について知ろう」という本単元を設定した。<br><br>【単元の意義】<br>本単元では、国際理解の観点及び持続可能な社会の創り手を育てるという観点に基づいている。SDGs を授業で扱うのは初めてである。SDGs の成り立ちや目指すゴール、世界が抱える課題を知り、クラス全体で考えることで、生徒の現在の生活や将来を見つめなおすきっかけになってほしいと考える。<br><br>【生徒観】<br>本授業の対象生徒は特別支援学校高等部職能開発科第 2 学年の 10 名である。職能開発科には中軽度の知的障害がある生徒が在籍しており、卒業後の企業就労を目指して日々の学習に取り組んでいる。口頭での指示はおおむね伝わるが、個別に丁寧な説明が必要な生徒もいる。<br>意見を発表することや自分自身で考えることに苦手意識がある生徒もいるが、学習に対して真面目に取り組める力はある。ゲームや芸能人など興味の幅が限られている生徒が多く、世界の課題に対しての興味関心は低いと考えられる。生徒の生活や経験に即した説明や質問をすることで深い理解につなげたい。<br><br>【指導観】<br>提示する情報を多くしすぎないこと、抽象的な説明を避けて具体的かつ視覚的情報を多くすることを心掛けた。本単元で生徒に理解してほしい内容を「SDGsは2030年に向けた、世界をより良くするための目標である」「世界には解決すべき課題があり、自分たちでも身近に考えられる」の二つに絞り、この視点からワークシート作成や動画、写真の選定を行った。また、生徒が考えたり発言したりする時間を十分とることで、クラス全体で考え、学び合いながら授業を進めたい。意見を発表することや自分自身で考えることに苦手意識をもつ生徒に対しては、どの意見が良かったかを聞いたり、個別に補足の説明をしたりすることで対応していく。 |

6. 単元計画（全 3 時間）

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 自分の現在と将来について考えよう | ○自分の将来について考える。<br><br>○今から 9 年後（2030 年）にどのように過ごしたいか考えて発表する。 | ・2021～2030 年までの年齢とその時に予想される出来事や目標、やってみたいことなどを書く。<br>・先生たちの話から、将来についてのイメージをもつ。<br>・今から 9 年後の自分の生活や目標を考える。 | ・ワークシート |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2<br>本時 | SDGs について知ろう | ○SDGs について知る。<br>○それぞれの目標について考える。 | ・SDGs の成り立ちや目指すゴール、世界が抱える課題を知る。<br>・クイズに答えたり、言葉の意味を考えたりしながら、それぞれの目標の意義を考える。 | ・ワークシート<br>・バナナペーパーで作られた SDGs シール<br>・動画<br>・写真 |
| 3 | SDGs と自分の将来を結び付けて考えよう | ○それぞれの目標について考える。<br>○今から 9 年後（2030 年）にどのように過ごしたいか、世界がどうなっていてほしいか考えて発表する。<br>○なぜ SDGs が必要なのか考えて発表する。 | ・クイズに答えたり、言葉の意味を考えたりしながら、それぞれの目標の意義を考える。<br>・1 時間目に考えたことを見直しながら、9 年後の自分の生活や目標を改めて考える。学んだことを生かし、世界がどうなっていてほしいか考え、そのためには今どうすればいいか考える。<br>・今までの学習を振り返り、なぜ SDGs が必要なのかを考える。 | ・ワークシート<br>・バナナペーパーで作られた SDGs シール<br>・写真 |

7. 本時の展開（2 時間目）

本時のねらい：

・SDGs について理解することができる。

・目標 1・2・4 について考え、世界の課題に目を向けることができる。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5 分） | ○始めの挨拶をする。<br>・日直の号令で挨拶をする。<br><br>○前時の復習をする。<br>・今から 9 年後（2030 年）にどのように過ごしたいか書いたものを発表する。 | ・前時を思い出し、2030 年を意識できるようにする。<br>・TV 画面に生徒のワークシートを映す。 | ・前時のワークシート<br>・本時のワークシート<br>・タブレット端末<br>・TV<br>・SDGs の説明動画『未来の授業「SDGs」ってなんだろう？』（https://www.youtube.com/watch?v=Ku0SEud_1gE）<br>・バナナペーパーで作られた SDGs シール<br>・SDGs についての資料（『Find the Link どうなってるの？世界と日本　第二版』12 ページより抜粋） |
| 展開①<br>（15 分） | ○本時の学習への見通しをもつ。<br>目標<br>・2030 年までの世界の目標（SDGs）について理解しよう。<br>・世界の課題について考えよう。<br><br>○SDGs について知る。<br>・「2030 年　世界の目標」と検索する。<br>→SDGs という言葉を見つける。<br>・動画を見る。<br>→世界共通の 17 の目標があることを知る。<br>成り立ちや目指すゴールを知る。<br>・SDGs シールを見ながら 17 の目標を確認する。 | ・タブレット端末で生徒に検索をしてもらう。<br>・動画を使い、視覚的に分かりやすくする。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 展開②<br>（20分） | ○それぞれの目標について考える。<br>・17の目標の中の1・2・4について考える。<br>・目標1「貧困をなくそう」<br>☆貧困ってなに？<br>☆なんでなくした方がいいの？<br>貧困だとどうなってしまうの？<br>☆1日210円以下で生活する人の数は？<br>・目標2「飢餓をゼロに」<br>☆飢餓ってなに？<br>☆なんでなくした方がいいの？<br>飢餓だとどうなってしまうの？<br>☆給食を全部食べていますか？<br>・目標4「質の高い教育をみんなに」<br>☆学校に通うことができない子どもは世界中にどれくらいいる？<br>☆学校に行けない子どもは何をしているのだろう？<br>○海外での体験談を聞く。<br>・アフリカで指導経験のある教員の話を聞く。 | ・目標 1～4 について問いかけ、共有することでクラス内の交流を図る。<br>・抽象的な質問は避ける。<br>・意見の出ない生徒には個別の言葉掛けをする。<br>・体験談を聞くことで、世界の課題に対する具体的なイメージをもてるようにする。 | |
| まとめ<br>（10分） | ○振り返りをする。<br>・「1・2・4の中で特に大切だと思った目標」「今日の授業の感想」をワークシートに記入する。書き終えた生徒は「なぜSDGsが必要なのか」を考える。<br>・「1・2・4の中で特に大切だと思った目標」「今日の授業の感想」を発表する。<br>・「なぜ SDGs が必要なのか」を書いた生徒は発表する。<br>○本時のまとめをする。<br>・本時の学習を振り返る。<br>・頑張ったことや良かったことを知る。<br>○終わりの挨拶をする。<br>・日直の号令で挨拶をする。 | ・TV 画面に生徒のワークシートを映す。<br>・SDGs について再度振り返り、理解を深める。 | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

・SDGsについて理解できる。（観察・ワークシート・発言）

・1・2・4の目標及びSDGsについて自分なりの考えをもつことができる。（ワークシート・発言）

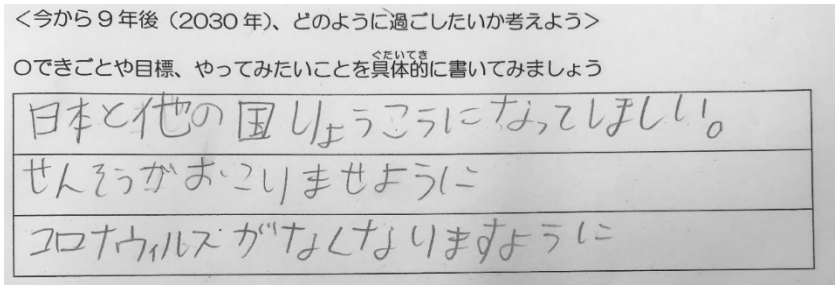
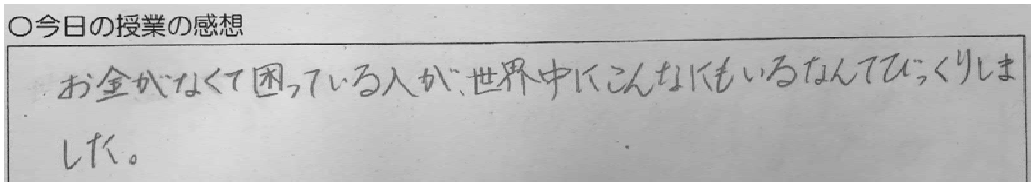
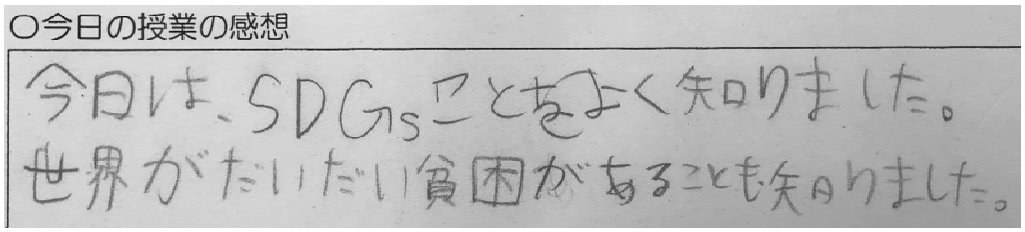
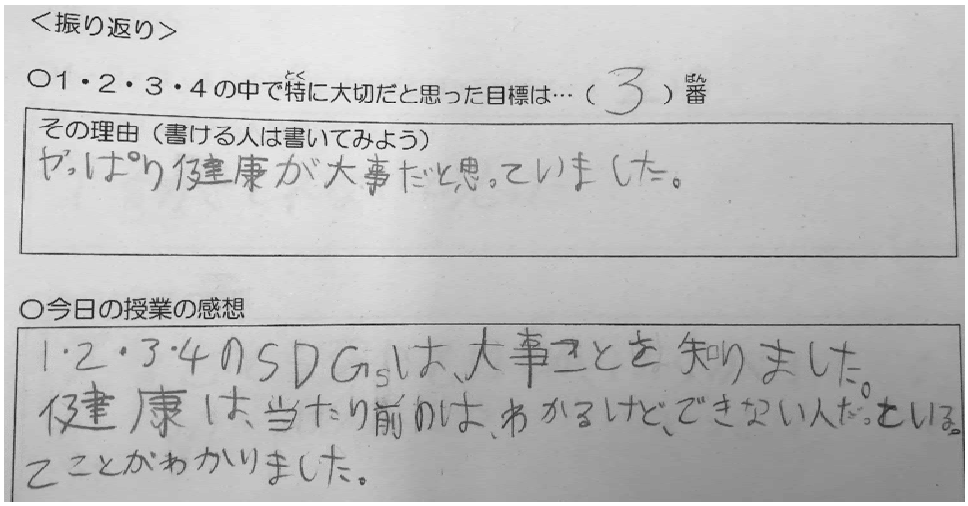
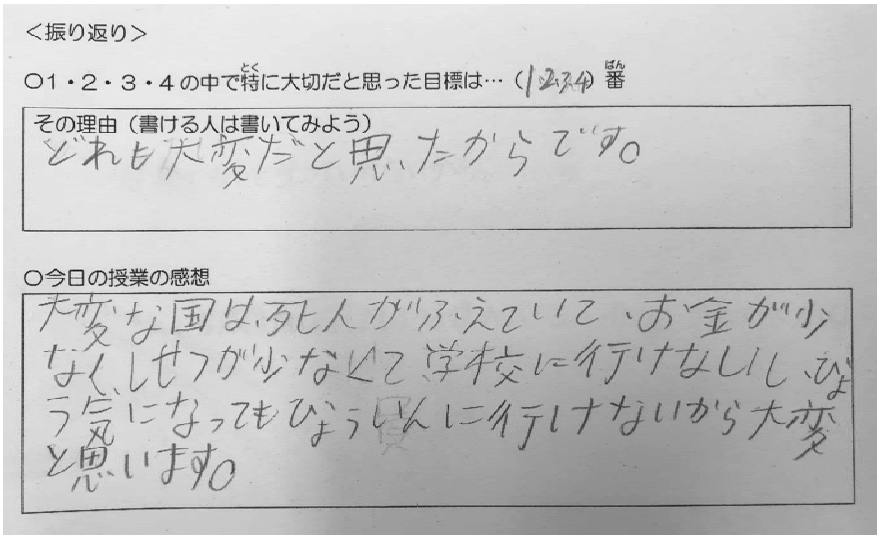
9. 学習方法及び外部との連携

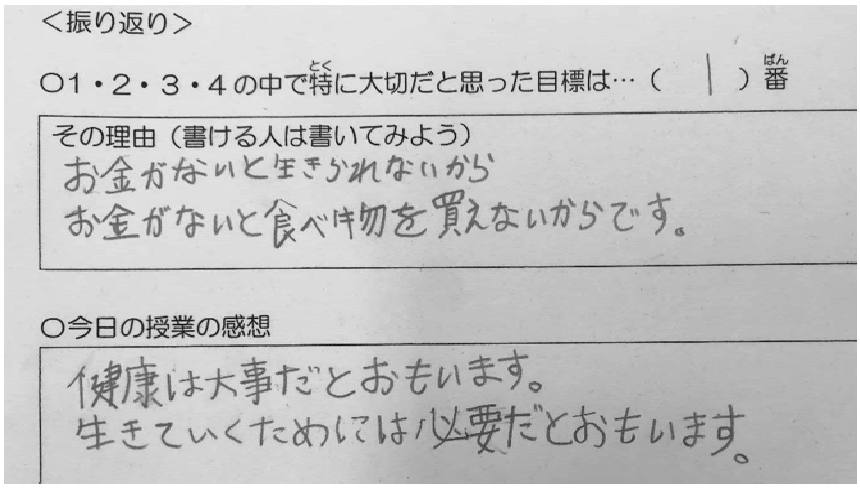
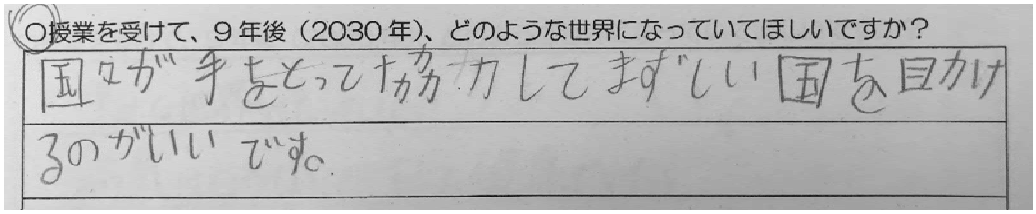
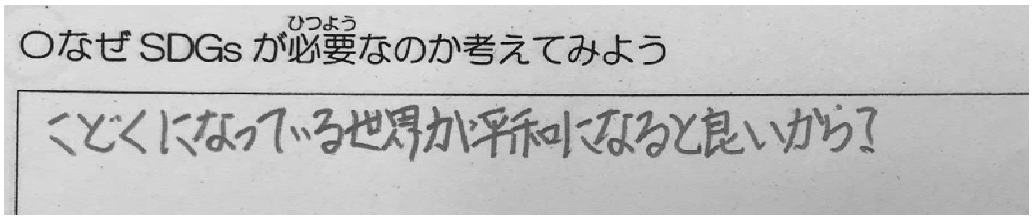
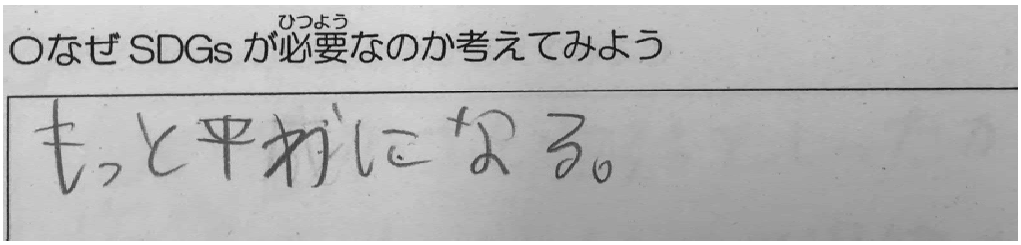
学習方法：対面になり話し合う活動が制限されているため、ワークシートをTV画面に映して発表・共有したり、発言を教員がホワイトボードに書いたりすることでクラスでの学び合いにつなげた。

| |
|---|
| また、ニジェールでバレーボールの指導経験がある先生の協力を得て、海外での経験を話してもらった。<br>外部との連携：実施できなかった。 |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>学校内： 研究授業として授業及び指導案を公開した。<br>学校外：実施できなかった。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | ・生徒の実態に差があるため、単元設定及び授業テーマの設定に苦労した。<br>・SDGs の内容をどこまで扱い、深めていくかに悩んだ。生徒の実態を鑑み、「SDGs は 2030 年に向けた、世界をより良くするための目標である」「世界には解決すべき課題があり、自分たちでも身近に考えられる」という二つの視点で伝えることにした。<br>・SDGs という抽象的なテーマを、具体的にイメージさせるために何を問いかけ、何を提示したらよいのか考えることが難しかった。 |
| 12. 改善点 | ・SDGs と 1・2・4 の目標を 1 時間で考えるという単元計画を立てて実践したが、時間内に終わらなかった。また、単元目標の「なぜ SDGs が必要なのか考えることができる」まで到達できなかった。SDGs について扱う時間を長くし、考える時間を十分とる、ゆとりのある単元計画にすべきだった。<br>・生徒の生活に即してないことに関してはイメージがつきづらく抽象的なまま終わってしまった。身近な例を多く取り上げることが効果的ではないかと感じた。<br>・日本と発展途上国との比較になってしまった面もあったため、資料の提示に改善が必要であった。 |
| 13. 成果が出た点 | ・コミュニケーションを取りながら進めることで、生徒の理解を把握しながら進められた。問いかけに対して自分の言葉で答えようとする姿勢がみられた。<br>・他の教員から海外での経験を聞くことで、生徒が発展途上国への生活に興味をもっていた。<br>・世界には日本と違う生活があることを理解できた生徒が多かった。<br>・授業後に「他の国の教育が気になった。」と話しかけてきた生徒がいた。特に学校が気になるというので、個別に写真を見せたところ、日本と海外の共通点や相違点に気づき、笑顔を見せてくれた。<br>・「健康が悪くならないようにするため、栄養を沢山取りたいです。」と自分の身近な生活に関連付けて感想を書いた生徒がいた。<br>・「(コロナのせいで) 貧困のお金がふえないと思っていました」と、昨今のニュースと関連付けて感想を書いた生徒がいた。 |

| | |
|---|---|
| 14. 学びの軌跡（生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | ＜1時間目の感想＞<br>  <br>＜今から９年後（2030年）、どのように過ごしたいか考えよう＞<br>○できごとや目標、やってみたいことを具体的に書いてみましょう<br>日本と他の国りょうこうになってほしい。<br>せんそうがおこりませように<br>コロナウィルスがなくなりますように<br>＜2時間目の感想＞　目標1について学んだ感想<br>  <br>○今日の授業の感想<br>お金がなくて困っている人が、世界中にこんなにもいるなんてびっくりしました。<br>  <br>○今日の授業の感想<br>今日は、SDGsのことをよく知りました。<br>世界がだいたい貧困があることも知りました。<br>＜3時間目の感想＞　目標2～4について学んだ感想、全体のまとめ<br>  <br>＜振り返り＞<br>○1・2・3・4の中で特に大切だと思った目標は…（3）番<br>その理由（書ける人は書いてみよう）<br>やっぱり健康が大事だと思っていました。<br>○今日の授業の感想<br>1・2・3・4のSDGsは大事ことを知りました。<br>健康は当たり前のはわかるけど、できない人がいる。<br>ことがわかりました。<br>  <br>＜振り返り＞<br>○1・2・3・4の中で特に大切だと思った目標は…（1・2・3・4）番<br>その理由（書ける人は書いてみよう）<br>どれも大変だと思ったからです。<br>○今日の授業の感想<br>大変な国は死人がふえていて、お金が少なくしせつが少なくて学校に行けないし、びょう気になってもびょういんに行けないから大変と思います。 |

| | |
|---|---|
| |  <br>＜振り返り＞<br>○1・2・3・4の中で特に大切だと思った目標は…（　1　）番<br>その理由（書ける人は書いてみよう）<br>お金がないと生きられないから<br>お金がないと食べ物を買えないからです。<br>○今日の授業の感想<br>健康は大事だとおもいます。<br>生きていくためには必要だとおもいます。<br>  <br>○授業を受けて、9年後（2030年）、どのような世界になっていてほしいですか？<br>国々が手をとって協力してまずしい国を助けるのがいいです。<br>  <br>○なぜSDGsが必要なのか考えてみよう<br>こどくになっている世界が平和になると良いから？<br>  <br>○なぜSDGsが必要なのか考えてみよう<br>もっと平和になる。 |
| 15. 授業者による自由記述 | 国内代替研修で学んだことを、目の前の生徒にどう伝えるかが授業づくりで一番苦労した点である。担当教科が国語である私にとって、このような実践の機会は初めてであり、不安も大きかった。だが、生徒が自分なりに考えながら書いたり話したりしてくれたことが嬉しく、大いに勉強になった。<br>特別支援学校における国際理解教育・開発教育について考えつつ、今後は様々な実践を行いたい。そして、生徒がこれから生活していく中で、学んだことをふと思い出し、自分と世界について考えるきっかけとなるような授業をつくりたい。 |



参考資料：SDGs 未来会議チャンネル『未来の授業「SDGs」ってなんだろう？』
（https://www.youtube.com/watch?v=Ku0SEud_1gE）
独立行政法人 国際協力機構『Find the Link どうなってるの？世界と日本　第二版』
独立行政法人 国際協力機構『私たちが目指す世界　子どものための「持続可能な開発目標（SDGs）」～2030 年までの 17 の目標～』

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 汐中義樹 | 学校名 | 埼玉県立熊谷特別支援学校 |
| 担当教科等 | 自立活動 | 対象学年（人数） | 高等部ⅠⅡ類（8 名） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | 2020 年 12 月 3,10 日（2 時間） | |

【実践概要】

1. 実践する領域：**自立活動**

2.題材名：**産廃×幸せな生き方×SDGｓ**

3. 授業テーマ（タイトル）と題材の目標

**授業テーマ：『シタラ興産』**(深谷市の産廃中間処分業者）で働く外国人従業員の幸せな状態（well-being）についての考察から、自分の幸せな生き方を設計する

**目標：**

①自らの幸せ体験を友達と共有し、幸せ（well-being）について定義できる

②**『シタラ興産』**で働く外国人従業員の生き方や経営者の想いから普遍的な幸せに気づくことができる

③幸せな生き方に向け、自らのアクションプランを描くことができる

| | | |
|---|---|---|
| 4. 題材の評価 | ・心理的な安定 | 主体的に生活を送る良さに気づくことができる |
| | ・人間関係の形成 | グループ間の交流を深め、広い視野で人との関わりがもてる |
| | ・コミュニケーション | 内省したことを表現したり、友達の意見を受け止めたりできる |

**5. 題材設定の理由・題材の意義**
（生徒観、教材観、指導観）

【題材設定の理由】

生徒たちに、よりよい生き方や、幸せに生きるための気持ちの作り方について考えて欲しいという想いから、本題材を設定した。具体的に以下の 2 点である。

①卒業後、就労等で社会に出る高等部の生徒が対象である。生徒たちが新たな場所で活動していくには、社会に適応できる態度や能力の他、「幸せの状態（well-being）」に自分をもっていくことが大切だと考える。

新たな環境に対する不安は生徒に限らず我々にもある感情だが、不安を解消し乗り越える中で生きる力が培われると考える。“物事の向き合い方や捉え方”を学ぶことは、不安を生きる力に変えるために必要なスキルであると考える。

②事前に近隣の産業廃棄物中間処分工場（以下**『シタラ興産』**）で働く外国人従業員へのインタビューを行った。そのインタビューをもとに、外国人従業員の「幸せ」について考察する。身体的なハンディキャップを抱える生徒たちが、言葉や文化の違いといったハンディキャップを抱えながら働く外国人従業員の幸せについて考えることで、幸せを客観視できると考えた。また、幸せに障害の有無は関係なく、どう生きるかが大切であることを知る機会になると考える。

以上により、自分、友達、社会人、外国人と関わるコミュニティを広げ、多くの人の生き方に触れながら自分なりの人生を前向きに描けるよう指導したい。

【題材の意義】

2時間の授業計画である。意義と授業形態は以下の通りである。

・「幸せ」といった目に見えない状態はどういった気持ちの変化や環境によってもたら

| | |
|---|---|
| | されるのか。自分の幸せな状態を振り返る、友達の幸せな状態を聞く。そして、国際データや研究をもとに、普遍的な幸せな状態について知る。幸せの四因子である「主体性、自主性、楽観性、利他性」を紹介し、「幸せ」について定義する。<br>・授業者が事前に行った**『シタラ興産』**でのインタビューを用いる。地域や外国人といった普段あまり関わることのない人たちの生活や生きがいなどを知る。今後の幸せについて深く考え、行動が変容する機とする。<br>【生徒観】<br>高等部１～３年生の8人で構成されたグループである。脳疾患などによる上下肢や体幹の機能障害を抱える生徒、車いすや短下肢装具の着用などで生活上に制限を伴う生徒たちである。<br>高等部では、日々の学校生活で教科学習や生活において社会で活躍するための実践的なスキルを培っている。<br>学校コミュニティでの活動は、社会の多様性に気づくための外部との交流は多くない。よって今回の授業では、普段の学習とは違った角度で社会を見ることを提案している。さらに一歩踏み込んだ「働く人の幸せ」まで思考を膨らませる。これまで積み重ねた学習の意義や、今後の学習の価値が高まり、より意欲的に学校生活を営む気持ちが醸成されると考える。<br>【指導観】<br>生徒は、自分の障害を理解し、受け止め、将来に向かって自分なりに考えているように感じる。卒業後の新しい環境で生活したり働いたりする中で、自分の将来を明るくする軸をもって生きてもらいたいと考える。<br>幸せな人生を歩むには、幸せになる方法を知る必要がある。幸せの輪郭を描き、幸せとそうでないものとの境界線を考える。その中で、これまで「幸せじゃなかった」と感じている出来事が、捉え方次第で幸せの境界線を超えられる（幸せだと思える）可能性を模索していく。さらに外国人の生き方働き方を知りながら、普遍的な幸せを考え、「主体性、楽観性、自己性、利他性」を軸に、今後のアクションプランに落とし込んでいく。 |

6. 指導計画（全２時間）

| 時 | 指導内容 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 幸せの境界線を考える | 幸せの境界線について考え、幸せを定義する | ・「幸せな出来ごと」ベスト３を考える<br>・「幸せな出来ごと」をみんなで共有する<br>・似たものをグループ化する<br>・グループに名前を付けて抽象化する<br>・どんな場面や気持ちの時に幸せを感じられるのか考える<br>・幸せじゃない出来事を１人１つ挙げる<br>・幸せグループとそうじゃない出来事との間に境界線（しあわせライン）を引く<br>・「幸せの境界線」を考察し、幸せに生きるためにどう行動すればいいかを考える<br>・「幸せの四因子」を提示し、幸せについて | ・世界幸福度ランキング<br>（国連データ）<br>・SDGｓ達成度ランキング<br>（国連データ） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 定義する<br>・地位財、非地位財によって幸福度の時間軸が違うことも知る | |
| 2<br>本時 | 外国人従業員の幸せについて学ぶ | 言葉や文化を乗り越え働く外国人の方々の幸せについて考え、自分の将来の幸せを設計する | ・廃棄物について資料をもとに知る<br>・産廃処理現場の写真を見て、分かったこと、気づいたこと、思ったことを発表する<br>・**『シタラ興産』**について知る<br>・外国人従業員に行ったインタビューから、働きがいや幸せについて考える<br>・社長の社員を思う気持ち、社員の会社を思う気持ち、会社の変化について考察を深める<br>・幸せに四因子と照らし合わせ、幸せについての理解を深める<br>・将来の自分の幸せを設計する | ・シタラ興産への取材をもとに作成したパワポ資料（添付データ参照）<br><br>・ワークシート（添付資料参照） |

7．本時の展開（2 時間目）

本時のねらい

・**『シタラ興産』**で働く外国人従業員の「幸せ」について考察する

・将来に向けた自らの「幸せ」を設計する

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(10 分) | ・前時の振り返る<br>・生活ゴミに着目し、学習の視点を学校外に向ける<br>・産業廃棄物について知る<br>・一般廃棄物と産業廃棄物の違い、産業廃棄物の処理方法について学ぶ<br>・自動車の生産で排出されるゴミから、産業廃棄物へのイメージを高める<br>・産業廃棄物が積まれた写真を提示する | ・自由意見とし、発言を板書して共有<br>・環境省の資料から、廃棄物の年間排出量、産廃の処分方法（最終処分、減量、再利用）を示す<br>・説明の簡素化の為、車のプラモデルを例に自動車産業の廃棄物を考える | パワーポイント資料（添付資料参照） |
| | 産業廃棄物の写真を見て、分かったこと・気づいたこと・思ったことを発表しよう | | |
| 展開<br>(30 分) | ・写真を見た考えや意見を共有する<br>・**『シタラ興産』を紹介する** | ・素直な意見を発表していいと声掛けする<br>・前出の写真で抱いた産 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | （本校すぐ近くにあり、日本で初めて AI 搭載の自動選別機を設けた工場をもつこと、社長の設楽竜也氏の会社や従業員への想いなど）<br><br>・外国人従業員の方々がいることを知らせる<br>（工場で働く姿や、外国人従業員だけのミーティングの様子など） | 廃のイメージと、そこで働く人たちの仕事に対する尊さを比較させる | |
| | **『シタラ興産』**で働く外国人従業員の幸せとはなにか？ | | |
| | ・なぜ日本で、なぜ産廃で、なぜ**『シタラ興産』**で、という視点から、外国人従業員が働いている理由について考える<br><br>・外国人従業員の方へのインタビュー内容を提示し、働きがいや幸せについて考える<br><br>・組織文化の変化について考える<br><br>・前時で学習した、幸せの四因子を再掲し、働きがいや幸せ感について考察を深める。 | ・自国とは言葉も生活様式も人間関係も違うことに気づかせながら考える<br><br>・外国人従業員の「ここで働きたい」という想いと、社長さんや他の社員さんの「働いてくれてありがとう」という気持ちが繋がっていることに気づかせる<br><br>・幸せとは短期的な利益ではなことに気づかせる | |
| まとめ<br>(10 分) | これからの自分の「幸せ」について計画しよう | | |
| | ・ワークシートに取り組む<br>①タイムライン<br>②スリー・グッド・シングス<br>・まとめの講話をする<br>小さな成功に目を向け、自分らしさを追求し、仲間と理解し合うことの大切を伝える | ・取り組み例を示しながら自由に想いをかけるよう声かけする<br>・生徒の行動変容が促せるよう、講話を行う | ・ワークシート<br>（添付資料） |

評価規準に基づく本時の評価方法
以下の観点に基づき評価する
・心理的な安定：主体的に生活を送る良さに気づくことができる
・人間関係の形成：グループ間の交流を深め、広い視野で人との関わりがもてる
・コミュニケーション：内省したことを表現したり、友達の意見を受け止めたりできる

9. 学習方法及び外部との連携
【学習方法】
自分の考えを述べたり、友達の意見を聞いたり、社会で働く人たちの様子を考察したりしながら「幸せ」について考えるオープンエンド型授業。
【外部との連携】

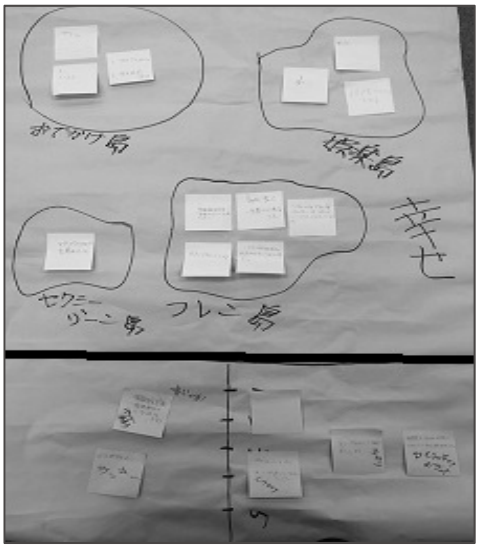
| |
|---|
| **『シタラ興産』**にて、工場見学、社長さんや外国人従業員へのインタビューなどをさせてもらい、働く意義や外国人を受け入れるまでの経緯、環境整備、組織文化の変化について伺った。 |
| 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組<br>地元企業との関係を構築し、本授業実践の理解や協力を得ることや、実践内容を自校 HP とお便りによって情報発信することで、学校内外に実践内容を広めた。 |

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | **『テーマの絞り込み』**と**『授業の展開方法』**である。<br>**1. 『テーマに絞り込み』について**<br>本プログラムの目的である「国際理解教育」を踏まえる前提はあるものの、授業の対象グループの実態や学年に合わせて「就労」「卒業後の進路」「余暇の過ごし方」など、より実生活に即したテーマを設けようと考えた。<br>題材として**『シタラ興産』**を扱っていくことは決めていたものの、働くことか、進路全般か、長期的な視点から人生に関することかを決めるのには苦労を要した。結果、幸せな生き方という、他のテーマを包含するものにできた。<br>**2. 『授業の展開方法』について**<br>苦労したことでもあり、授業を組み立てる楽しさでもあった。点と点が線でつながるがごとく、2 時間の授業の中でどうやってゴールまでの道筋を作っていくかは、教員としての腕の見せ所でもある。クリエイティブな作業である一方、生みの苦しみを伴うものでもあった。<br>50 分×2 時間に収めるにはテーマが大きすぎるため、随分と内容を削ったが、結果としては、生徒のテーマ理解が促進できたと考える。 |
| 12. 改善点 | 『授業内容の高度化』と『フォローアップの充実』を挙げる。<br>**1. 『授業内容の高度化』について**<br>自分自身、小学校と特別支援学校小学部での担任経験しかないため、中学部・高等部での授業はいまだに指導内容の充実という点で課題が多い。今回も、高等部の生徒に授業内容がマッチさせられていない部分も多かった。生徒との関係を深め、実態に即した授業内容の高度化を図りたい。<br>**2. 『フォローアップの充実』について**<br>授業では 1 年後、3 年後、5 年後の目標について考えたり、1 日のいいことを思い返して記録しようという「スリー・グッド・シングス」に取り組んだりした。well-being の追求は長期にわたるものである。授業をして終わりではなく、今後生徒たちの人生の目標に対してフォローを続けたい。 |
| 13. 成果が出た点 | 成果が出た点は 2 点である。<br>**『well-being についての理解が得られた』**と**『地域で活躍する人たちを知ることができた』**である。<br>**1. 『well-being についての理解が得られた』について**<br>嬉しい思い出やいやな思い出について振り返ることで、生徒がどういった心の状態で過ごせばよりよい生活が送れるかを問うた。そこから「well-being」につい |

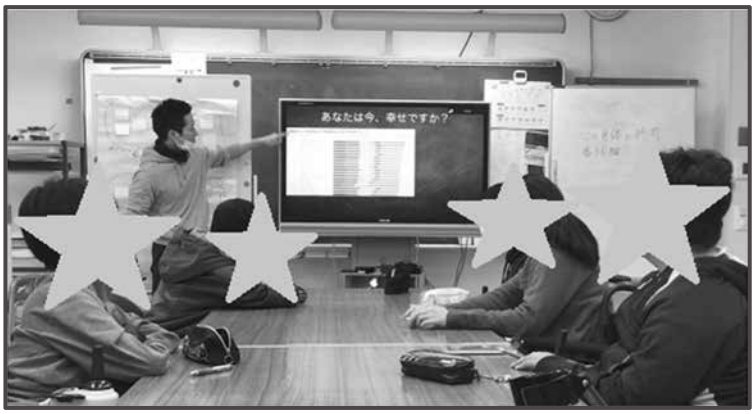
| | |
|---|---|
| | て説明したことで、「幸せな状態でいた方が、人生は楽しいはず」という思考に上手く繋がったと考える。今後の物事の捉え方について学ぶきっかけが作れたのは、大きな成果と考えられる。<br>**2. 『地域で活躍する人たちを知ることができた』について**<br>生徒は学校から自宅までスクールバスで登校しており、学校周辺で生活したり働いたりしている人々と関わる機会はあまりない。地域に開かれた学校となるために、学校から主体的に地域との関係作りをし、関わる機会を創出する必要がある。メディアでたびたび取り上げられる地元の企業、**『シタラ興産』**に焦点を当てて授業を展開した。生活において必ず出るゴミは生徒も容易くイメージできる。身近なゴミが自分たちの知らないところでどういった処理のされ方をしているのか。既知と未知のギャップの中で働く地元企業で活躍する人たちのことを、経営者、幹部、女性従業員、外国人従業員など多面的に捉えながら知ることができた。日々出るゴミと、そのために懸命に働く人たちの姿を思うきっかけが作れたのは大きな成果である。 |
| 14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど) | **「シタラ興産の紹介」**では、以下の画像等を用い考察を深めた。<br> <br><br> <br> |

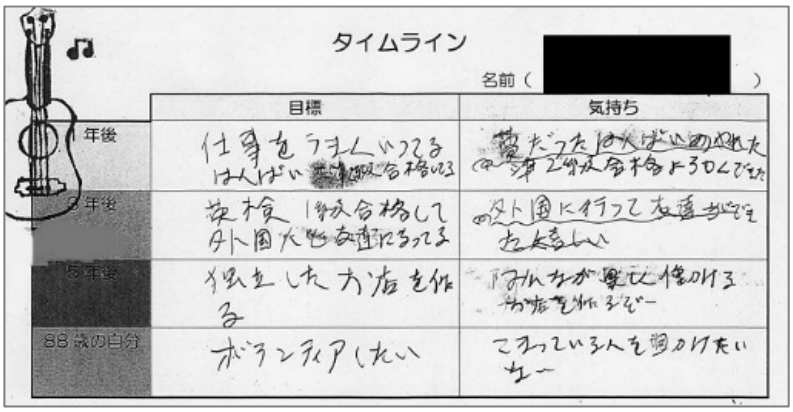
**「幸せの境界線」**では、幸せな思い出と幸せじゃない思い出を共有し、何によって幸せかそうでないかは決まっていくのかを考えた。




授業で扱った**「タイムライン」**は、1 年後、3 年後、5 年後の自分の状況とその時の気持ちを想像しながら書いていた。皆、それぞれの明るい未来を想像し、前向きに生活する様子が描けていた。

**「スリー・グッド・シングス」**は 9 日間に渡る宿題としたが、ほぼ全員が取り組んでいた。「良かったこと」を主体的に見つけている様子が窺えた。1 日ごとコメントを付して返した。（以下、生徒名と授業者のコメント部を修正して掲載）

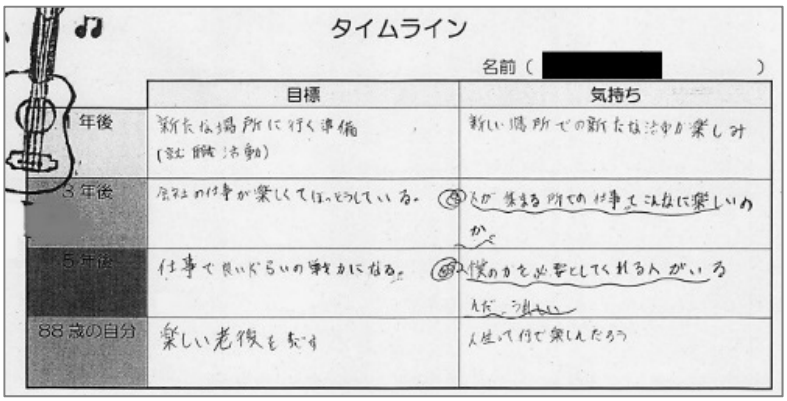




タイムライン

名前（[redacted]）

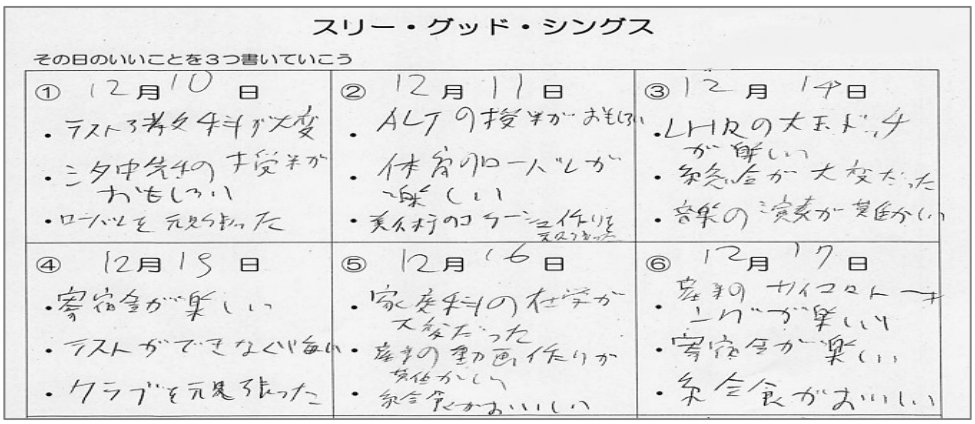
| | 目標 | 気持ち |
|---|---|---|
| 1年後 | 仕事をうまくいってる はんばい 準備 合格する | 楽だった はんばいのやれた 準備 合格よろしくできた |
| 3年後 | 英検 1級合格して 外国人 友達になってる | 外国に行って友達作りでき たら楽しい |
| 5年後 | 独立した方法を作る | みんなが楽しく 作れる 方法を作るぞー |
| 88歳の自分 | ボランティアしたい | こまっている人を助けたい ナー |



タイムライン

名前（[redacted]）

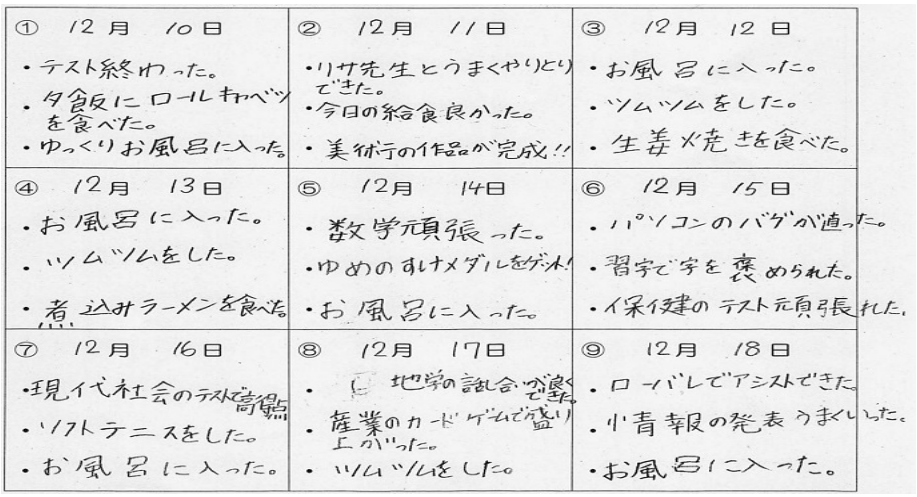
| | 目標 | 気持ち |
|---|---|---|
| 1年後 | 新たな場所に行く準備 (就職活動) | 新しい場所での新たな活動が楽しみ |
| 3年後 | 会社の仕事が楽しくてほっとしている。 | 人が集まる所での仕事 とても楽しいのかな |
| 5年後 | 仕事で良いぐらいの戦力になる。 | 僕のかを必要としてくれる人がいる人生 楽しい |
| 88歳の自分 | 楽しい老後を送る | 人生って何で楽しんだろう |



スリー・グッド・シングス

その日のいいことを3つ書いていこう

| | | |
|---|---|---|
| ① 12月10日<br>・テストで数学が大変<br>・シタ中先生の授業がおもしろい<br>・ローバルを元気張った | ② 12月11日<br>・ALTの授業がおもしろい<br>・体育のローバルが楽しい<br>・美術のコラージュ作りを頑張った | ③ 12月12日<br>・LHRの大玉ドッチが楽しい<br>・給食が大変だった<br>・音楽の演奏が難しい |
| ④ 12月13日<br>・寄宿舎が楽しい<br>・テストができなくて悔しい<br>・クラブを元気張った | ⑤ 12月16日<br>・家庭科の社学が大変だった<br>・音楽の動画作りが難しい<br>・給食がおいしい | ⑥ 12月17日<br>・音楽のサイコロトーキーが楽しい<br>・寄宿舎が楽しい<br>・給食がおいしい |



| | | |
|---|---|---|
| ① 12月10日<br>・テスト終わった。<br>・夕飯にロールキャベツを食べた。<br>・ゆっくりお風呂に入った。 | ② 12月11日<br>・リサ先生とうまくやりとりできた。<br>・今日の給食良かった。<br>・美術の作品が完成!! | ③ 12月12日<br>・お風呂に入った。<br>・ツムツムをした。<br>・生姜焼きを食べた。 |
| ④ 12月13日<br>・お風呂に入った。<br>・ツムツムをした。<br>・煮込みラーメンを食べた。 | ⑤ 12月14日<br>・数学頑張った。<br>・ゆめのすけメダルをゲット!<br>・お風呂に入った。 | ⑥ 12月15日<br>・パソコンのバグが直った。<br>・習字で字を褒められた。<br>・保健の テスト頑張れた。 |
| ⑦ 12月16日<br>・現代社会のテスト高得点<br>・ソフトテニスをした。<br>・お風呂に入った。 | ⑧ 12月17日<br>・地学の試合が楽。<br>・産業のカードゲームで盛り上がった。<br>・ツムツムをした。 | ⑨ 12月18日<br>・ローバルでアシストできた。<br>・小青報の発表うまくいった。<br>・お風呂に入った。 |

| | |
|---|---|
| 15.　授業者による自由記述 | **①準備　②実践　③改善**<br>の３つの視点で記述する<br>**①準備**<br>授業作りで難しさを感じたのは、授業者が対象グループの担任ではないため、設定した目標が生徒の実態と照らし合わせて適切かどうかの判断がしづらいことであった。そのため担任の先生に話を聞き、普段の授業の様子やクラスの雰囲気などをもとに０ベースで授業を組み立てていった。<br>SDGｓや国際理解教育という本研修テーマを抽象化すると、「利他的な考え方」や「多様性の認め合う」といった言葉が浮かび上がった。さらに、生徒の実態や課題を考える中で「well-being」というテーマに至った。２時間の授業計画のうち、１時間目の授業を実践し、振り返りを踏まえて本時の精度を高めようと考えた。柔軟に授業を組み立てなおすという計画により、本時の授業の質が向上した。<br>**②実践**<br>１時間授業をしてみて気づいたことは、生徒たちは担任の先生方と授業の積み重ねが豊富であり、主体的に学ぼうとする姿勢があるということだった。<br>本授業に対してもとても意欲的に取り組めた。生徒にとっては馴染みのない言葉が出てきたり、「幸せ」という形のないものを考えたりすることは、教科学習と違う難しさがあったと思うが、興味深そうに授業を受けていた。<br>**『シタラ興産』**の協力を得ながら構成した本時の展開部では、特に興味深そうに発問に取り組み、授業者としても素直に嬉しく、有意義な時間であった。<br>シタラ興産・well-being・SDGｓという一見すると関連性の低そうなものが、意義深く融合していき、素晴らしい教材になりえることが知れたのは、大きな成果である。<br>**③改善**<br>本来の目的は生徒たちの卒業後の生活の充実である。そのためには今後も関係を維持しながら見守っていくことが大切である。生徒それぞれの人生の価値観を高められるような支援、授業を考えていきたい。 |

※参考文献

「旗を立てずに死ねるか！」設楽竜也　/「幸福の意外な正体」ダニエル・ネトル
「自己肯定感ノート」中島輝　/「幸せのメカニズム」前野隆司
「嫌われる勇気　～自己啓発の源流　アドラーの教え～」岸見一郎ほか

※添付資料

# タイムライン

名前（　　）

| | 目標 | 気持ち |
|---|---|---|
| １年後 | | |
| ３年後 | | |
| ５年後 | | |
| 88 歳の自分 | | |

# スリー・グッド・シングス

その日のいいことを３つ書いていこう

| | | |
|---|---|---|
| ①　　月　　日<br>・<br>・<br>・ | ②　　月　　日<br>・<br>・<br>・ | ③　　月　　日<br>・<br>・<br>・ |
| ④　　月　　日<br>・<br>・<br>・ | ⑤　　月　　日<br>・<br>・<br>・ | ⑥　　月　　日<br>・<br>・<br>・ |
| ⑦　　月　　日<br>・<br>・<br>・ | ⑧　　月　　日<br>・<br>・<br>・ | ⑨　　月　　日<br>・<br>・<br>・ |

# 8．教師海外研修 OB/OG による 在外事務所とのオンライン授業

新型コロナ感染症対策により、全国的な休校措置が続いた５月、JICA 東京教師海外研修の OB・OG 教員の皆さんは、研修で生まれたつながりを活かし、各地で国際協力の重要性を考えるオンライン授業を展開しました。

４月、これまで経験したことのない教室に児童生徒のいない新学期を迎え、JICA 東京教師海外研修 OB 会は「今できること」「今だからできること」を模索してオンライン会議を重ねました。「JICA の在外事務所や専門家、協力隊員とオンラインでつながって授業が展開できないか」その思いに、教師海外研修受け入れやオンライン授業に協力した経験のある、ザンビア事務所、パレスチナ事務所が応えてくれることになりました。

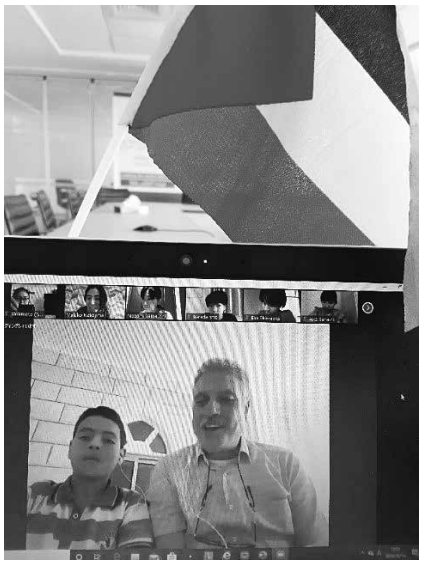
**＜OB会で共有できる教材づくり＞**

まずは両国の概要紹介。ザンビア事務所は松村次長が日本語で、パレスチナ事務所はラスラン所員が英語でプレゼンして坂元次長が解説しました。プレゼンには各国のコロナ対策の状況も盛り込まれました。OB 会は、これを授業で使いやすいように 10 分程度の動画教材にまとめ、日本語字幕もつけて共有しました。この情報をベースに、児童・生徒がそれぞれのテーマで探究活動を行う授業が、各校で展開されました。
この動画教材は、本報告書巻末の DVD に収録されていますので是非ご視聴ください。

**＜オンライン授業で現地の声、帰国中の専門家・海外協力隊員の声を聴く＞**

中島真紀子先生（2018 年参加者・筑波大学附属中学校）は、中学２年生の HRH( 道徳・学活活動 ) で、両事務所と３週連続のインタビュー授業を行いました。次ページからの報告をご参照ください。このインタビューも編集し、授業で活用できる動画教材にまとめました。長野高校では、2019 年参加の竹村ゆかり先生が中心となって、海外研修で訪問したプロジェクトの専門家、海外協力隊員との縁を繋ぎ、その声をオンラインで届ける授業を展開しました。

新型コロナ感染症との戦いは日本だけのものではありません。色々な国、色々な人の思いを知り、分かち合うことは、「今できること」「今だからできること」。国際協力の意義や、共に生きること、平和について考える学びが、各地で展開されました。



パレスチナ事務所とのオンライン授業
ラスラン所員と長男のモハメド君

ザンビア事務所　「どうしてザンビアは独立以来、
内戦がないのですか？」という質問に答えるムワバ所員

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

| | | |
|---|---|---|
| ザンビア | 学校名：筑波大学附属中学校<br>氏名： 中島真紀子<br>[担当教科： 英語] | ● 実践教科等： HRH（オンライン実施）<br>● 対象生徒 ：中学2年生<br>● 対象人数 ： 204 人 |

**1 活動名 HRH シリーズもの学習 「立場をこえて，広がる輪」 2年生バージョン**

**2 活動の目標**

・世界に目を向け，「違う立場の人々」との交流を通して，「日本」に住む自分自身を振り返る。

・学年目標である“Respect”も再認識し，なりたい自分のありかたを考える。

HRH(ホームルームアワー)とは，本校独自の時間であり，特別活動と道徳を合わせた時間である。週2時間で，内容は，「オリエンテーション」「行事と私たち」「自治活動と私たち」「学習と生活」「心身の健康」「人間関係を考える」「社会と私たち」「その他」と示されており，この内容に沿った活動を行う。この HRH の中でこれらの内容に沿ってテーマを決め，数時間かけて学びを深めるものを「シリーズもの学習」としている。

**3 活動の指導について**

昨年度の HRH「シリーズもの学習」で，「立場をこえて，広がる輪」というテーマを設定し，「障がいについて知る」→「考える」→「体験する」→「共有し，より深く考える」という流れの中で，学びを得てきた。そして，3月からの突然の長期の休校となり，誰一人として経験をしたことのないこの状況下で，「新型コロナ報道について」や，「この状況下でこそできること」をテーマに，ロイロノート(学習支援クラウド)を活用し，204 人で意見交換を行うという活動を行った。「新型コロナウィルスに関して，常に世界各国と日本の感染者数を確認したり，対応策を比較したりしている」「この瞬間，世界で何が起きているのかを知り，積極的に関わることが大切」，また，報道に関しては，「報道だけに頼らず自分で調べる」「1つの報道を鵜呑みにするのではなく，いろいろな情報を得る」「報道自体を多面的に見ることが必要」など，さまざまな意見が出され，オンライン上ではあったが活発なやり取りができた。

そんな中，新型コロナウィルスの問題に関して，アメリカやイタリア，フランス，中国…こうした国々についての報道はたくさんされているが，支援を必要としている国々や元々閉鎖的な地域はどのような状況なのだろうか，という疑問が出された。それを受け，「こんな時だからこそ，世界の人々と繋がり，リアルに声を聴いてみてはどうだろう？」「この危機的な状況下でも活動している日本人や組織があるということも，ぜひ知って欲しい」「さまざまな立場の方々から直接話を聞いて，私たちから「輪」をどんどん広げていきたい」このような思いから，JICA（国際協力機構）のザンビア事務所，そしてパレスチナ事務所の方々に協力していただけることとなり，この学びがスタートした。閉鎖された時期にこそ，自分自身の視野をさらに広げてほしい，世界に目を向けることで，日本という国に住む自分自身を振り返る機会としてもらいたい，という強い願いが込められた活動となった。そうすることで，学年目標である“Respect”を再認識し，なりたい自分の「ありかた」も考えるきっかけとなった。

**4 実施期間**

休校中の 5 月第 3 週目(11 日～)より 5 月第 5 週目(25 日～)までの活動となったが，この時期以降も意見交換，またインタビューを行った。さらに，ボランティア生徒によるまとめの発表が全員での登校が始まった7月に行われた。

**5 使用機器**

休校期間中での活動であったため，教科学習で使用していたロイロノートを使用した。また，実際のインタビューや代表でインタビューを行ったボランティア生徒たちの打ち合わせでは，Web 会議サービスの Zoom を使用した。

**6 活動の構成**

| ５月３週（１１日～） | ５月４週（１８日～） | ５月５週（２５日～） |
|---|---|---|
| テーマ:「立場をこえて，広がる輪」<br>・世界に目を向け，「違う立場の人々」との交流を通して，「日本」に住む自分自身を振り返ろう。<br>・学年目標である“Respect”も再認識し，なりたい自分のありかたを考えよう。 | | |
| **①オリエンテーション**<br>※HRH 担当からのメッセージ<br>※ザンビア・パレスチナ事務所の方々にインタビューをしたり，みんなの意見をまとめたりしてくれる生徒を募集します。<br>**②調べ学習開始**<br>以下 2 点を各自考えたり，調べたりする。<br>1.ザンビア・パレスチナの自分なりの印象<br>2.これらの国・地域，JICA について調べたこと（各自）<br>**③調べ学習を通して出てきた疑問をロイロノートのカードで提出**<br>（各自）<br><br>◎インタビュー<br>パレスチナ事務所(14 日 15:00)<br>ザンビア事務所(15 日 15:00) | **①インタビューの視聴とレポートの閲覧→感想や考え，さらに疑問に思ったことを HRH ノートに記入（各自）**<br>※パレスチナ，ザンビア事務所の方々からの質問や課題が出ます。<br>**②感想や質問，課題への回答をロイロノートのカードで提出**<br>（各自）<br><br>◎インタビュー<br>パレスチナ事務所(21 日 15:00)<br>ザンビア事務所(22 日 15:00) | **①インタビューの視聴とレポートの閲覧→感想や考え，さらに疑問に思ったことを HRH ノートに記入**（各自）<br>※パレスチナ，ザンビア事務所の方々からの質問や課題が出ます。<br>**②感想や質問，課題への回答をロイロノートのカードで提出**<br>（各自）<br><br>◎インタビュー<br>パレスチナ事務所(21 日 15:00)<br>ザンビア事務所(22 日 15:00)<br><br>**③最後のまとめをロイロノートのカードで提出** |
| ③1枚のカードにまとめて提出<br>【13 日(水)16:00〆切】済 | ②1枚のカードにまとめて提出<br>【20 日(水)16:00〆切】 | ②1枚のカードにまとめて提出<br>【27 日(水)16:00〆切】<br>③1枚のカードにまとめて提出<br>【6 月 4 日日(木)】 |
| 1 年生時の「シリーズもの」のテーマを引き継ぎ，今回は「世界」に目を向けて考える準備 | 日本ではあまり報道されていない国や地域の事情を知り，そこで活躍する人々や「違う立場の人々」との交流を通して，日本に住む自分自身を振り返ろう。 | ・PostCovid19 の時代，世界とどのように共存していくべきなのかを考えるきっかけとする。<br>・学年目標である“Respect”も再認識し，なりたい自分のありかたを考える。 |
| 道徳との関わり<br>(C)主として集団や社会との関わりに関すること　(13)勤労 (18)国際理解，国際貢献<br>あすを生きる② 16 小さな工場の大きな仕事 10 海と空－樫野の人々－ 28 ダショー・ニシオカ | | |

【インタビューに協力してくださった方々】

パレスチナ事務所

ラスランさん
（Raslan YASIN パレスチナ ラマッラ事務所）
モハメドくん
（13歳男子・ラスランさんの長男）
坂元律子さん
（JICA パレスチナ事務所 次長）

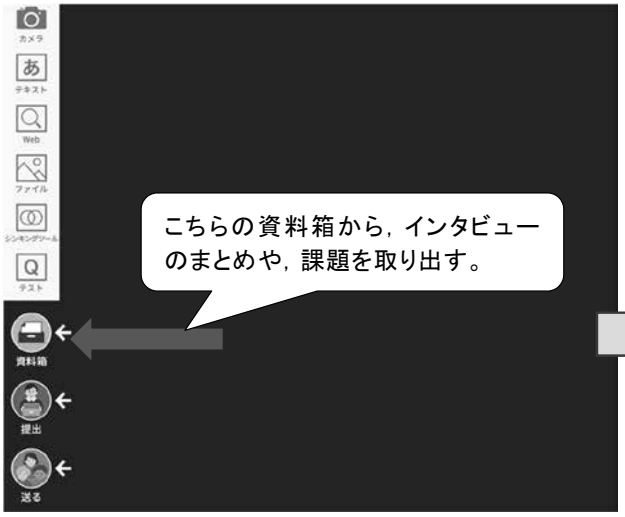
ザンビア事務所

マラマさん
（Mukupa Malama ザンビア事務所）
ムワバさん
( Mwaba Mumba ザンビア事務所）
松村元博さん
（JICA ザンビア事務所 次長）

古賀聡子さん(JICA 東京)にはパレスチナ事務所，ザンビア事務所とつないでいただいた。また，代表でインタビューを行った生徒は14名（ザンビア8名　パレスチナ6名）であった。

## 7 授業事例の紹介

### (1) ロイロノート(学習支援クラウド)の使用方法



ザンビアPart３～アフリカの旗に込められた願いとは？～

この質問はJICAの松村さんが「アフリカはなぜカラフルな国旗が多いのか、調べてみると面白いかもね」と言ってくださったのをヒントにこの課題にしました。**アフリカ54カ国このうちどれか1カ国以上調べてください！**

この課題は『ザンビアPart３～アフリカの旗に込められた願いとは？～』に入れてください！

ザンビアPart１～次回インタビューする内容の自分なりの答え～

これは、次の6つある質問のうち**どれか１つ以上**この問いに対する自分なりの考えを書いてロイロノートの『ザンビアPart１～次回インタビューする内容の自分なりの答え～』の提出箱に入れてください！

次回する質問

1.経済力が上がっている中、下がらないようにする対策は？

2.今、一番ザンビアで深刻な問題は？

3.鉱物はたくさんあるのになぜあまり発展しないのか？

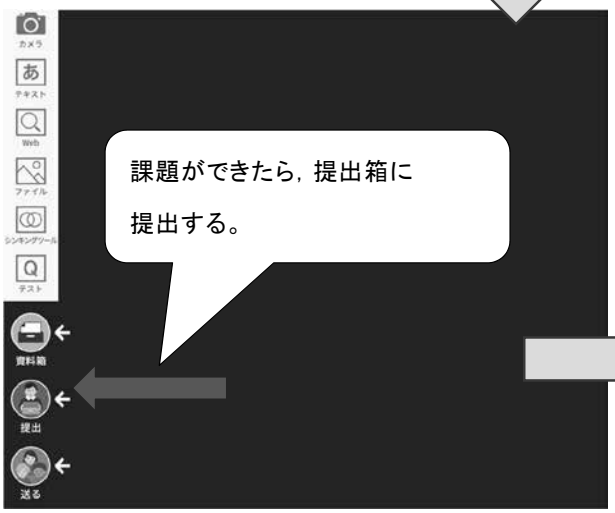
4.具体的にどんな対策のおかげで学校に行けている人が多い？

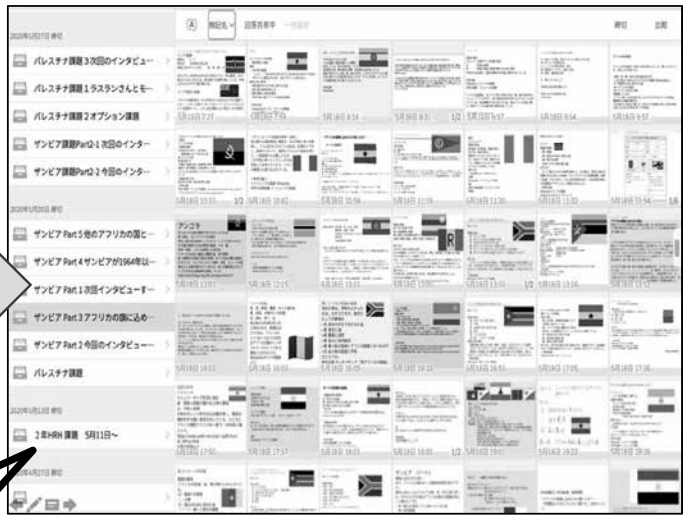
5.母子手帳による効果は？

6.ザンビア政府、JICAのコロナ対策は？

どれかひとつでも構いません！自分なりの考えを書いてみてください！

こうした課題を取り出して，
それぞれが課題に取り組む。



提出箱を開くと，全員で閲覧・共有できるようになっている。

**(2) 3週間の学び**

※課題や取り組み，質問は全て，活動の一部を掲載

5月3週（11日～）

担当者からのメッセージ

ボランティア募集

調べ学習開始

1.ザンビア・パレスチナの自分なりの印象
2.これらの国・地域，JICAについて調べたこと

**課題への取り組み**

ザンビア、パレスチナ共に、名前だけ知ってるような名前なのであまり親近感がなく関係が薄い国なのかな、と思っていたので、JICAなどを通じて、支援をしていると知った時は驚きました。日本も発展途上の国などに対してもっと関心があってもいいのにあまりみんな親近感がないのは何故だろうと思い、調べてみたいと思いました

**・ネットで調べたら、ザンビアは一時期コレラで大変だったと知りました。今、コロナが広まる中どんな思いで毎日過ごされているのかが知りたいです。また、そんな感染症にしっかりと向き合う事で、何か新しい発見（信頼など）があるのかも知りたいです。**

**・アフリカはまだ発展途上国が多く、水質汚染等の問題が多々ありますが、そんな中、自分がこの国に生まれてよかった、と思う事を教えて下さい。**

**・小学校の頃、JICAについて学習した事がありました。その時に①知ること・興味を持つ事②相手の立場に立って考えることを意識されているとお聞きしました。ザンビアやパレスチナ等を支援されている時、常に意識して行っていることを教えて下さい。**

ボランティア生徒による課題まとめとインタビュ

質問：パレスチナ
Q. I would like you to tell us if there is something different between the needs
of Palestine and the support JICA is doing
Q. What do you think about Japanese people?
質問：ザンビア
Q. 73 も部族があるのに内乱しない理由は？

インタビュー実施
パレスチナ事務所
(14 日 15:00)

ザンビア事務所
(15 日 15:00)

パレスチナ事務所インタビュー①
ラスランさん親子

ザンビア事務所インタビュー①

ボランティア生徒による
インタビューのまとめと課題作成

5月4週（18日～）

ボランティア生徒より配信
・インタビューのまとめ
・課題
・インタビューの様子

パレスチナチームまとめ

**パレスチナのニーズとJICAの支援にすれ違いはあるのか**

今回インタビューしたラスランさんによると、JICAはパレスチナのことを十分に下調べをして、どのような支援が必要かを把握しているとのことでした。また支援に優先順位をつけて支援に確信を持ってやっているとのことでした。なので支援とニーズの間にすれ違いはないとのことです。JICAの素晴らしさを改めて実感しました!!

ザンビアチームまとめ

1週目　ザンビア　インタビュー
Q.「国旗に込められた意味や由来は何か。」

(ザンビアの国旗)

A.
-それぞれの色が表していること-
緑:豊かな自然
黒:ザンビア人
オレンジ:鉱物資源
赤:血の色(独立のためには血を流さざるおえなかったから)
イーグル:愛国心や自由、困難に負けず突き進む国民の力

-そして…-
ザンビアも含め、世界の国旗を見てみると、色鮮やかなものがたくさんある。
そこでぜひ、世界中の国旗を調べて、どんな色やものが使われているかやその色やものが表現していることなどを学ぶのも良いだろう。

パレスチナチームからの課題

課題（パレスチナ）
JICA現地職員であるラスランさんの息子さんであるムハンマドくんが以下のことを知りたがっていました。どれか１つに答えて、提出箱に提出してください。

①パレスチナの印象、知っていること
②フットボール（サッカー）について
　※ムハンマドくんはキャプテン翼が大好きなのですが、知っていますか？
　※日本の人気のあるサッカー選手チームのことを知りたいそうです。
③自粛中、どんな生活を送っているか
④中東地域で起きている戦争について知っていること

ザンビアチームからの課題

ザンビアPart３～アフリカの旗に込められた願いとは？～

この質問はJICAの松村さんが「アフリカはなぜカラフルな国旗が多いのか、調べてみると面白いかもね」と言ってくださったのをヒントにこの課題にしました。アフリカ54カ国このうちどれか1カ国以上調べてください！

この課題は『ザンビアPart３～アフリカの旗に込められた願いとは？～』に入れてください！

課題への取り組み
→共有

パレスチナ課題への取り組み

①パレスチナについて知っていること
　残念ながら、私がパレスチナについて知っていることは本当に少ないですが、

・有名なバンクシーの絵がたくさんあること
・イエス＝キリスト生誕地、ベツレヘムがあること
・ある日イスラエルが建国され、多くのその土地に住んでいたパレスチナの人々が難民となったこと
・水タバコというものがあること
・アラビアのロレンスという映画でパレスチナ問題の発端が描かれていること（祖母と母から聞いただけで映画を見たことがなくて残念です）

印象
　古代、ユダヤの人々も住んでいる場所を奪われたのかもしれないがパレスチナの人々はごく最近、住んでいる場所をイスラエルに奪われている。また、パレスチナに住む人々はイスラム教の人々が多いが、聖地エルサレムはイスラエル側にある。エルサレムはイスラム教だけでなく、ユダヤ教、キリスト教の聖地でもあり、複雑な関係にありそうだ。住んでいる場所を、心の拠り所を返して欲しくて戦っているという印象がある。
　いくつもの宗教の聖地だからか、地理的に押さえておきたい場所だからなのか、かなり昔からローマがきたり、十字軍が遠征に来たり争いが勃発する回数が多いようだ。古代から栄えているので色々魅力的な遺跡があるはずだ（壊れされていなければ）。

ザンビア課題への取り組み

アフリカの旗に込められた願いとは？
スーダン共和国
国旗の意味
赤:革命の犠牲者の血
白:平和、未来への希望
黒:アフリカ大陸、革命のシンボルの黒い旗、国名
緑:繁栄、農業、イスラム教

　赤、白、黒、緑はアラブ人解放のシンボルカラー(汎アラブ色)。また、国名のスーダンとはアフリカの黒い人を意味する言葉でもある。

南アフリカ共和国
　アパルトヘイトの終わりと人種差別主義からの脱却を示すため1994年4月27日に制定された。公募案が多かったため決まらず暫定的に南アフリカと関係の深いアフリカ民族会議の旗とイギリス、オランダの国旗を組み合わせた旗であったが、その後も使い続けられている。
　正式な国旗の色の意味は決まっていないが、

赤:過去の対立の中で流された血、
青:空と二つの海、
緑:農場と自然、
黄:天然資源(この色は金を)
黒:黒人の国民、他のアフリカ諸国とのつながり
白:白人の国民、平和

をそれぞれ表しているとされる。

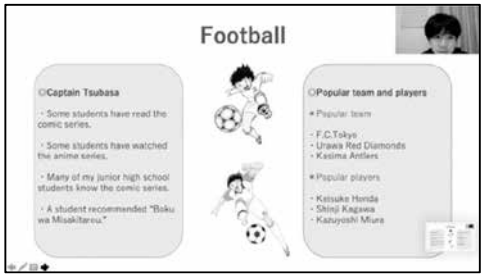
インタビュー実施
パレスチナ事務所
(21 日 15:00)

ザンビア事務所
(22 日 15:00)

質問：パレスチナ
Q. What do you think is interesting about Palestine?
Q. Is there something traditional about culture or food in Palestine?
質問：ザンビア
Q. 経済力が上がっている中，下がらないようにする対策は？

ボランティア生徒による
インタビューのまとめと
課題準備

パレスチナ事務所インタビュー②でのプレゼン




ザンビア事務所インタビュー②

5月5週（25日～）

ボランティア生徒より配信
・インタビューのまとめ
・課題
・インタビューの様子

**パレスチナチームまとめ**

**ザンビアチームまとめ**

**パレスチナチームからの課題**

2、オプション課題
次の6個の課題から一つ以上の課題に答えてください。それぞれの説明のカードが後ろにあります！
①エルサレムの宗教の聖地について
②中東戦争について
③コロナウイルスについて
④世界と日本
⑤ガザ地区について
⑥インタビューで気になったこと、知りたくなったこと

**ザンビアチームからの課題**

**第5週ザンビア課題Part2-2～今回のインタビューの考察、質問～**

今回のインタビューの考察や質問は、「インタビューの事後報告」というファイルをよんで、カードにかいてください。
できる人は新たに調べたことなども入れてください。
提出箱は、
ザンビア課題Part2-2～今回のインタビューの考察、質問～
です。間違えないよう、注意してください。

※今回は、課題の答えの見本をのせません。どうやって書くか見たい場合は、前回の課題説明をみてください。

課題への取り組み
→共有

**パレスチナ課題への取り組み**

コロナウイルスについての課題

もし私がJICAの職員だったら、石鹸、消毒液、マスクを作って寄付したいです。なぜなら、石鹸で手を洗うことで感染リスクをとても減らせ、消毒で除菌できるから。
みなが最大限の感染予防ができるよう、そのサポートをしたいと思った。

**ザンビア課題への取り組み**

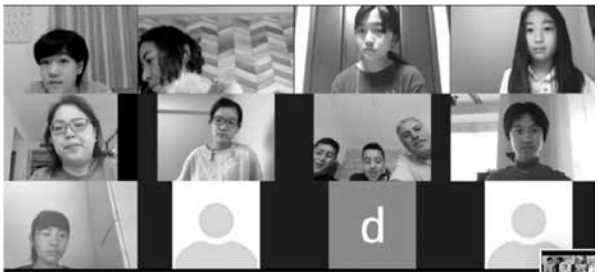
私は、ザンビアの経済の農業の活性化させることについて考えました。確かに農家の方に補助金を与えて農家の方が自由に使用したほうが確かに改善しやすいと思いました。貧困解消のために、農家と農家が協力すれば良いのかなと思いました。そうすれば、昔の日本みたいに機械を貸し合ったり、情報を共有できたり、作業も人数が多くなることで効率よく進むなどと考えました。そこで新しい質問です。農家の方たちが良い仲じゃなければ協力をしてできないと思ったため、農家の方たちは仲が良いのですか？

インタビュー実施
パレスチナ事務所
(28 日 15:00)

ザンビア事務所
(29 日 15:00)

質問：パレスチナ
Q. What is the most joyful experience at JICA?
質問：ザンビア
Q. 具体的にどんな対策のおかげでアフリカの中でも学校に行くことができている人が多い国になっているのか？

**パレスチナ事務所インタビュー③**



**ザンビア事務所インタビュー③**
**ムワバさん・松村さん・マラマさん**

ボランティア生徒による
インタビューのまとめと
課題準備

教師海外研修
オンライン授業

【学びのまとめ】

ボランティア生徒より配信
・インタビューのまとめ
・課題
・インタビューの様子

↓

まとめ課題（感想）
「3週間の学びを終えて」

**パレスチナチームまとめ**

**QJICAで働いていて、嬉しかったことはなんですか？**

A日本から学ぶことがたくさんあります。そして、日本を訪ねることが楽しいです。その他にも、いろいろな国の文化や技術を見られて嬉しいです。
また、グループワークなどを行いながら支援を行っています。そのとき、自分から様々なアイデアを言うことができてとても良いです。
そして、日本やインドネシアでのプロジェクトで学んだことなども活かしながら、支援を行っています。

**ザンビアチームまとめ**

なぜザンビアの子供たちの学力が低くなってしまうのか？

《原因》
・ルサカ(都市)と農村を比べると農村の学校には理科実験室や図書館などがなく、充実していない
・先生1人に対して生徒が50~60人いる状態なので、勉強の質が下がってしまっている
→まずは学校に行くことが大切なのでJICAは学校を沢山作ってきたが、今は先生が足りないという問題が新たに発生してしまっている
《取り組み》
・とても貧しい地域で、隊員が学校を作った。しかし、お金がないために学校が途中までしか作れず、屋根や窓がない。
ザンビアには乾季と雨季があり、雨季には勉強ができなくなってしまう。その隊員はクラウドファンディングによって最後まで完成させた。
・ザンビアの先生は黒板に書いてノートに移させるという教え方をしているが、それは良い教え方ではない。そこで、日本の学校の先生がどのような教え方をすれば良いか教えたりしている。今、アフリカでは「生徒中心の授業」が呼びかけられている。

生徒1

今回のインタビューで，世界には様々な状況におかれた国がたくさんあるということを改めて知りました。私は，パレスチナとイスラエルの関係について興味を持ちました。今までニュースで見たことは何度かあったのですが，実際にそこに住んでいる方々のお話を聞くのは初めてだったので，「遠くの国」という認識から親近感のようなものがわきました。今回私が感じたのは，戦争の解決は一筋縄でいかないということです。イスラエルもパレスチナも色々な歴史や情報などによってこのような事態になってしまったのだと思います。なかなか解決するのは難しいと思います。しかし，私としては今こそ団結すべきときなのではないかと思いました。コロナウイルスが猛威を奮っている現在，諸外国との助け合いはとても重要だと感じます。人間というのは共通の敵をつくると団結するという習性があると私は思います。お互いに争うのではなく，民族，国境に関係なく広がっていくウイルスを敵にすることで仲が少しでも解決するのではないか。でも，現実は米中対立が深まったりと難しいです。私たち日本人はそれを黙って見ているのではなく，JICA の取り組みを理解し，自分たちでも考えていくことが大切だと思います。これからも，国際情勢に目を向けていきたいと思います。

生徒2

私はパレスチナのインタビューの事後報告を見ていて，今の自由があることは当たり前のことじゃないんだ，そうじゃない人たちもいるのだなと思った。パレスチナのインタビューに対して，ラスランさん達は平和で豊かで自由のある国にしたいということをおっしゃっていた。今のパレスチナはイスラエルに占領されていて，パレスチナの人たちはあまり自由に動けない。正直私は他の国の方たちの生活をあまり考えたことがなく，今の日本のような自由でみんなが満足できるような暮らしが当たり前のような気がしていた。けれど，今回のラスランさんたちの意見を聞いて申し訳ない気持ちになった。私たちのような自由な生活ができることは決して当たり前なことではなく，本当に恵まれている。世界には自由に生活できない人が何人もいるのだと思った。またそれと同時に，自由な生活を送れていない人たちに対して，私たちができる支援は何だろうと考えてみた。募金や物の寄付，現地では学べないようなことを日本が教える…などなど。本当にいろいろなことがあると思う。たとえ小さな支援だとしてもそれを積み重ねていけば大きな支援に繋がるから，やっていくべきだ。私はこのようなことを率先してやっていけるような人になりたいと，このHRH を通して思った。

生徒3

この三週間で私が一番学んだことは何事も自分のイメージで決めつけないことだ。ザンビアとパレスチナという国は最初は全く知らなかった。名前を少し聞いたことがある程度で，なんでそんな国のことについて調べたりするのかな，と思っていた。実際インタビューのこととかを読んでみて，それぞれ問題があるけど，自然が美しかったり，とても平和だったりと見えなかった部分もたくさん見えてきた。そんな素敵な国が，困っていることを少しでも自分たちが助けられるようになりたい。世界中の国について理解して，深く知り，助け合うこと。それがとても大切だと気づくことができた。

**8 授業の振り返り**

休校中のオンラインを使ってのリモート学習ということで，最初に設定した目標は自分自身を振り返り，見つめる，他人の考え方を知り，視野を広げられる，という2つのみであった。しかし，約一ヶ月間のこの取り組みを終え，「互いに協力する」「自治活動の能力を伸ばす」「他人の考えや立場を思いやる」といった，休校中では難しいと思っていた HRH のねらいも生徒自身の力で達成できたのではないかと思っている。インタビューの回数を重ねるごとに，生徒たちの「もっと知りたい」という欲求が高くなり，議論も深まっていくのを感じた。聞きたい質問が多すぎて，絞るのに苦労していたこともあった。この取り組みを通して一番感じたことは，教師は単なる「コーディネーター」であり，生徒たちは想像以上に自分たちで学びを得る力を持っている，ということであった。

「僕の夢は，パレスチナに公平と正義が訪れること」
これは，パレスチナ人のモハメドくんと将来の夢をお互いに伝え合っているとき，彼から出てきた言葉である。この言葉には，多くの生徒が衝撃を受けたようで，書いてきた感想からもそれが伝わってきた。「戦争のない，平和な日本に生まれて幸せ」そう思っただけで終わりではなく，「モハメドくんの住む地域に平和がやってくるために，私にできることは何だろうか？」や「本当の平和とは何だろうか？」「公平と正義とは？」といった問いを探究し続けてほしい，そう強く思った。とても壮大な問いであり，もちろんはっきりとした正解があるわけではない。しかし，そんな自分自身への「問いかけ」を探し，追究していける力をもっと育んでいきたいと強く感じた。

# JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 吉田大祐 | 学校名 | 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 |
| 担当教科等 | 社会科 | 対象学年（人数） | 第三学年（３８人） |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | | ２０２０年７月～１１月<br>（１学期６時間＋２学期５時間＝１１時間） | |

【実践概要】

1.　実践する教科・領域：社会科・世界史B

2. 単元(活動)名：「命の詩を繋ぐ」第六部パレスチナ

2.　授業テーマ：「命の詩を繋ぐ」

単元目標：パレスチナ問題について、起源や内容について学ぶとともに、現地の方との交流を通じ、世界の問題や歴史を学ぶ意義を自分事として捉える機会とする。

関連する学習指導要領上の目標：世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

| | | |
|---|---|---|
| 4. 単元の評価規準 | ①知識及び技能 | (1)中東をめぐる歴史的背景や現在の社会情勢について、複数の視点から理解を深める。 |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | (2)パレスチナ問題の起源や今後の社会の在り方について想像力を働かせ、他者と共働しながら詩という形で表現する。 |
| | ③学びに向かう力、人間性等 | (3)歴史を現在や未来と結び付け、往還させる中で問題の本質を見出し、自分の生活と関連付ける。 |

5. 単元設定の理由・単元の意義
（児童／生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由】

パレスチナ問題は、宗教や植民地、近代国家や今日の国際情勢など、複合的な問題が重なり合って、成立している。よって、「パレスチナ問題」という１つの具体的なテーマを通した学習により、各問題が今日の現実社会に与える影響をより切実感を持って生徒は学ぶことが出来ると考え、この単元を設定した。

【単元の意義】

パレスチナ問題を通し、歴史の連続性や領土問題、宗教問題の困難さを追体験させ、今日の国際問題に共感と当事者意識を生み、生徒自身も歴史を形成する地球市民の一員であるという意識を養いたい。また双方の立場を考えさせることにより、複合的な視点で歴史を捉える習慣を身に付けさせたい。

【児童／生徒観】

本校は進路多様校であり、四年制大学、短大、専門学校、就職と生徒の進路は多岐にわたり、多様な考えや背景を持った生徒が在籍している。本授業は、3年生の選択授業であるが、消極的な理由で選択した生徒が多く、決して学習へのモチベーションは高くない。また、コロナウィルスの関係で文化祭をはじめ各種学校行事が中止になるなど、生徒たちは期待していた学校生活が送れず、目に見えないストレスを抱えている。

【指導観】

生徒たちは歴史を現実と切り離して捉えがちである。教科書の中の出来事がいかに世界に影響を与え、今日を生きる人々の生活を左右しているのかを各種グループワークやZOOMを活用したインタビュー、対談を通して自分事として捉え、歴史を学習する意義をより深めることができるような指導を行いたい。

| 6. 単元計画（６時間＋５時間＝全１２時間） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| １学期（全６時間） | | | | |
| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
| 1 | PHOTO LANGUAGE | 視覚的情報をもとに、パレスチナ・イスラエル間の差や問題について感覚的に理解する。 | ・１２グループで別々の写真を配り、内容を読み取らせ、発表させる。<br>・写真の一覧を各グループに配り、6 枚ずつの２つのグループに分類させる。<br>・写真グループの特徴を話し合い、発表させる。<br>・分類の正解を発表する。土地の名はパレスチナ。１つの土地に混在するパレスチナ自治区とイスラエルの写真であることを、地図を用いて説明する。 | ・WS「PHOTO LANGUAGE」<br>・PPT「PHOTO LANGUAGE」<br>・写真（A３）×12 種<br>・補 P「12 枚の写真」（A4） |
| 2 | それぞれの想いは？ | 1 枚の写真から、パレスチナ自治区とイスラエルの現在の社会状態の違いについて理解する。 | ・ある 1 枚の写真の二人の人物のセリフを考えさせ、発表させる。<br>・各班イスラエルの資料とパレスチナ自治区の資料をまとめるグループに分かれ、もとの班に戻って情報を共有させる。<br>・改めて、最初の写真の二人の人物のセリフと自身の捉え方の変化をまとめ、発表させる。 | ・WS「それぞれの想いは？」<br>・PPT「それぞれの想いは？」<br>・EP「イスラエル」「パレスチナ」 |
| 3 | もしも歴史を変わったら？ | パレスチナ問題にまつわる 20 世紀の３つの出来事を学び、何が根本的な原因なのかを考察する。 | ・20 世紀までのパレスチナの概略を説明する。<br>・各班イギリスの三枚舌外交、ナチスのホロコースト、国連のイスラエル建国案に資料をまとめるグループに分かれ、もとの班に戻って情報を共有させる。<br>・各班で最も大きな要因を１つ選び、「ここがこうだったらもしかしたらパレスチナ問題は生じなかったのでは？」という案を考え、発表させる。 | ・WS「もしも歴史を変わったら？」<br>・PPT「もしも歴史を変わったら？」<br>・EP「イギリスの 3 枚舌外交」「ナチスのホロコースト」「国連のパレスチナ分割案」 |
| 4 | テスト返却及び質問づくり | パレスチナの方への質問を個人で考え、班でまとめる。 | ・個人でパレスチナの方への質問を考えさせ、班で共有させる。<br>・班長を決め、班長を中心に班で質問を６つにまとめさせる。<br>・課題として「天井のない監獄に“灯り”を」（2019）を視聴してくるよう告知する。 | ・WS「質問づくり」 |
| 5 | オンラインインタビュー―鳩ヶ谷高校×JICA パレスチナ― | パレスチナの方へのインタビューを通し、パレスチナの現状や生活について現地で今を生きる人の目線で理解する。 | ・生徒、JICA パレスチナ次長坂元さん、JICA パレスチナスタッフナサールさんの順で自己紹介をする。<br>・ナサールさんにパレスチナの概要について説明してもらう。<br>・各班長が順に班を代表して１つずつ質問を行う。<br>・宿題としてお礼状の指示を出す。 | ・WS「オンラインインタビュー」 |
| 6 | 学びの振り返り | 各個人がインタビューやパレスチナの授業全体を通じて得た学びを共有し、より深化する。 | ・インタビュー授業での学びや気付きを個人で振り返り、班で共有、発表させる。<br>・パレスチナの授業全体を通して得た学びや気付きを個人で振り返り、班で共有、発表させる。 | ・WS「学びの振り返り」 |

| 2学期（5時間） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
| 1 | パレスチナ問題の復習と『プロミス』（2001） | パレスチナ問題について復習し、映画『プロミス』の1シーンを見て、何故イスラエル人とパレスチナ人の融和は難しいのかを考察する。 | ・班にパレスチナ問題の復習の問を3つ投げかけ、話合わせ、発表させる。<br>・PPTを用いながら、簡単に説明を行う。<br>・ドキュメンタリー映画『プロミス』のラストシーンを鑑賞し、感想を書き、グループで発表させる。 | ・WS「『プロミス』（2001）」<br>・PPT「それぞれの想いは？」 |
| 2 | イスラエルの方が語るパレスチナ問題 | 在日イスラエル人家具職人ダニー・ネフセタイさんによるイスラエルの歴史やパレスチナ問題の話を聞き、改めてパレスチナ問題について考える。 | ・ダニーさんによる講演 | ・WS「イスラエルの方が語るパレスチナ問題」<br>・ダニーさん自作PPT |
| 3 | オンライン対談に向けて | 相互交流となるように、共通質問の自分たちの答えとパレスチナの方への追加質問を考え、まとめる。 | ・ダニーさん作成の詩を朗読する。<br>・班長を募り、各班に役割を振り、作業させる。<br>５班→各共通質問の答えを画用紙にまとめる。<br>３班→個別質問を白紙に書き出す。 | ・WS「オンライン対談に向けて」 |
| 4<br>本時 | 高校生オンライン対談―鳩ヶ谷高校×パレスチナ― | JICAパレスチナ現地スタッフナサールさん、ナサールさんの息子カミールくんと相互交流を行い、対等な存在として国を越えた繋がりを考える。 | ・生徒、JICAパレスチナ事務所次長坂元さん、JICAパレスチナ事務所スタッフナサールさん、ナサールさんの息子カミール君の順で自己紹介を行う。<br>・５つの共通質問に生徒とナサールさん、カミール君が交互に答える。<br>・生徒からナサールさん、カミール君へ、ナサールさん、カミール君から生徒へ個別で質問を行う。<br>・生徒、ナサールさん、カミール君、坂元さんの順で詩を朗読する。 | ・スケッチブックを用いた次第<br>・生徒が用意した質問、回答用紙 |
| 5 | 詩を創る・詩を味わう③ | 他者から自分の詩に寄せられたコメント及び詩の鑑賞を通したうえで、パレスチナに対する学びや気付きを詩に表現する。 | ・テーマ３「ルワンダ」テーマ４「大英帝国」の自分の詩へのコメントを確認、感想を書かせる。<br>・テーマ５「アヘン戦争」テーマ６「南アフリカ」の詩の一覧を鑑賞し、他者の詩にコメントを記入させる。<br>・テーマ７「パレスチナ」で詩を記入させる。 | ・WS「詩を創る・詩を味わう③」<br>・補 P「テーマ５アヘン戦争」の一覧「テーマ６南アフリカの一覧」<br>・コメントシート |

7. 本時の展開（４時間目）

本時のねらい：相互交流と詩の交換を行うことで、距離は離れていても同じ地球に住む一員であることを体感し、今後の歴史を学ぶ意義や自分自身の生き方を捉え直す。

| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動<br>・指導形態 | 指導上の留意点<br>（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5分） | 1　互いに自己紹介を行う。<br>・代表生徒<br>・JICA パレスチナ次長　坂元さん<br>・JICA パレスチナ現地スタッフ　ナサールさん<br>・ナサールさんの息子　カミールくん | ・PC を２台持ち込み、Zoom を活用することで、パレスチナと教室をオンラインで繋ぐ。<br>（１台は教師＋全体用、もう１台は班長用） | ・スケッチブックを用いた次第<br>・生徒が用意した質問、回答用紙 |
| 展開<br>（20分） | 2　相互交流を行う。<br>STEP１共通質問への回答（１５分）<br>５つの共通質問に生徒とナサール一家が交互に応える。<br>1　自分の国のいいところ　2　国が抱える問題<br>3　コロナウィルスの影響　4　幸せを感じる瞬間<br>5　将来の夢<br>STEP２　個別質問（１５分）<br>①生徒　to　ナサール一家　個別質問✕３<br>②ナサール一家　to 生徒　個別質問✕３<br>STEP３　詩の交換（１０分）<br>③生徒→ナサールさん一家→坂元さん | ・PC の画面をプロジェクターで投影する。<br>・班長６名はまとまって座り、応答を行う。<br>・質問・回答は日本語で行い、坂元さんに通訳をお願いする。<br>・質問の数は時間で調節する。<br>・詩を詠み、想いも簡単に説明する。 | |
| まとめ<br>（5分） | 3　まとめ | ・宿題として、お礼状を書いてくるよう指示を出す。 | |

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

①知識及び技能：ワークシート、授業中の観察

②思考力、判断力、表現力等：ワークシート、授業中の観察

③学びに向かう力、人間性等：ワークシート、授業中の観察

9. 学習方法及び外部との連携

学習方法

・ZOOM を活用することで、パレスチナと相互交流を行った。一学期に続き、2 度目のオンラインを活用したパレスチナとの授業であったが、前回一方的なインタビューとなってしまった反省点を踏まえ、今回は相互に質問に答える相互対話とすることで、より生徒が能動的に授業へ参加することができたと考える。

・班長 6 人をクラスの代表者としてパレスチナ側との質疑応答を行ってもらった。６人で相談しながら質疑応答を行い、当日はスムーズに対話を行うことが出来た。

・前時を活用し、生徒からの質問や共通質問への回答は、音声トラブルがあったときのために、画面越しでも見える大きな紙にまとめさせた。これにより、よりスムーズに相手に内容を伝えることが出来た。また、班で役割分担をしたことで、準備段階から班長だけでなくクラス全員で授業に参加することが出来た。

外部との連携

・JICA パレスチナ事務所次長坂元さん、現地スタッフのナサールさん、ナサールさんの息子のカミールくんに全面的に協力していただいた。授業当日だけでなく、事前に共通質問を送り、回答を考えてもらうとともに、生徒への質問も考えてもらった。また、詩の創作も依頼し、当日生徒と互いに読み合うことで言葉や年齢、距離を越えた心の共有ができたと感じている。

・授業は埼玉県高等学校社会科教育研究会の研究授業に指定していただき、校内だけでなく埼玉県内の社会科の先生 15 名ほどに参観及び事後討論をしていただき、より内容を深め広げることができた。

・2 時間目には埼玉県秩父市在住のイスラエル人家具職人ダニー・ネフセタイさんに来校していただき、教室で講義を行ってもらった。イスラエル、パレスチナ双方の今を生きる人に触れ、二つの視野から問題を考える機会とすることが出来たと考える。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

**・3 年選択世界史の授業「命の詩を繋ぐ」**

「命の詩を繋ぐ」をテーマに詩の創作を通じた歴史×国際理解教育の実践

① JICA 埼玉デスク矢田部氏による「ラテンアメリカ出前授業」

② Africa Note 代表竹田氏による「ルワンダオンライン授業」

③ イスラエル人家具職人ダニー氏による「パレスチナ問題出前授業」

④ JICA パレスチナ事務所次長坂元氏・パレスチナ人現地スタッフナサール氏協力による「高校生オンライン対談―鳩ヶ谷高校×パレスチナ―」

⑤ カンボジア人留学生ソヘーン氏・JICA 埼玉デスク矢田部氏による「カンボジア×SDG s ワークショップ」

**・１・２学年での総合的な探究の時間「海外ボランティア講演会」**

海外ボランティア経験者８名の方を招き、１、２学年の各教室で出前授業を実施。

**・３学年での総合的な探究の時間「SDG s 講演会」「海外起業家講演会」**

JICA 埼玉デスク矢田部氏による「SDG s 講演会」、Africa Note 代表竹田氏による「海外起業家講演会」の実施。

**・ビジネスコンテスト「高校生みんなの夢アワード」「高校生ビジネスアイデアコンテスト」への参加**

「地域×国際理解×ビジネス」をテーマに有志の生徒と「高校生みんなの夢アワード」、「高校生ビジネスアイデアコンテスト」に参加。双方で全国大会に進出し、発表。

**・「彩の国 SDG s セミナー」における生徒との共同発表**

これまでの国際理解教育の授業実践とビジネスコンテストのアイデアを生徒と共に発表。

**・「教員のための SDG s 勉強会 2021」**

「命の詩を繋ぐ」実践を中心に、参加者に報告、ワークショップの実施。

**・「国際協力トークショー～平和と多文化共生を考える～」**

パレスチナの実践を中心に、参加者に報告、ワークショップの実施。

【自己評価】

| | |
|---|---|
| 11. 苦労した点 | **①「活発な相互交流が生まれる授業設計」**<br>前回のオンラインインタビューで生徒が話を聞く一方になってしまった反省点から、対等な関係で交流を図りたいと考え、共通の質問項目を５つ用意し、交互に質問に対して答えたのち、さらに互いに直接質問を行う授業設計とした。 |

| | |
|---|---|
| | **②「全生徒の参加」**<br>「活発な相互交流」のために、授業中に質疑応答を行う 6 名の班長を設置した。一方で、班長以外の生徒の授業への関りが弱くなってしまうので、前時の準備において役割分担を行い、班員に質問の答えや質問自体を考えさせた。<br>**③「円滑な授業進行」**<br>「活発な相互交流」のために、教師が簡単な司会を行うことにした。また、授業の流れを可能な限り簡素化し、スケッチブックを使って流れを図示して画面から見せることで、言葉による指示を最小限にするよう工夫した。 |
| 12. 改善点 | **①　「生徒全員の当事者意識の向上」**<br>班長以外の生徒はどうしても授業時間内の活動は少なくなってしまった。前時の役割分担の際により仕事を細分化して振り、1 人 1 人の授業内での存在の意義付けを行うことで、全員の当事者意識を向上させることができたと考える。<br>**②　「機材の設置・準備の調節」**<br>当日スピーカーがハウリングを起こす場面もあったので、特に音響や映像に関しては事前に極力確認する必要があった。一方で、最小限の準備で授業を実現できるように機材や設備を精選する必要もある。<br>**③　「スマートフォン、タブレットの活用」**<br>可能であれば生徒一人一人が持つタブレットを用いて、個人でログインをする方法も考えられる。通信量などのリスクはあるが、手元に画面がある事で、より一人一人の当事者意識を生むことが出来るのではないかと考える。 |
| 13. 成果が出た点 | 生徒の感想からより世界を身近に感じることが出来る機会となったと考える。オンラインを活用することで時間や距離を越え、容易に繋がることができたことや、実際に話をすることで自分たちと同じ感覚を持った人達であるということに改めて気付く生徒の声が目立った。また、今まで机上で習ってきた歴史や国際問題の話を当事者から温度を込めて聞くことで、より歴史や世界の問題を自分事として捉える生徒が目立った。この経験は、今後の学習意欲向上や自己実現の際にも力になるのではないかと期待をする。 |
| 14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど） | **<u>1　生徒が書いてきた詩</u>**<br>「同じ」<br><br>何故奪われたのか<br>僕らは弱かったから<br>何故奪うのか<br>僕らは強いから<br>勘違いから崩れた平等を<br>力を合わせてつくっていこう<br>今生きている君たちも<br>あのとき死んだ彼らも<br>みんな同じ<br>素晴らしくて美しい人間 |

「そして生活は続く」

世界のエライ人でも
トイレについた汚れと戦ってる
かもしれない。
パレスチナで生きてる人だって
朝寝坊して急いで
歯を磨いてるかも。
どんなに強い人だって
どんなに辛い人だって
日本にいたってパレスチナにいたって
生活は続くのだ。

「希望」

大人から繋がれた希望の苗木
今にも枯れそうだけど
その苗木を元気にできるのは
“今大人になろうとしている「私たち」”
パレスチナと日本から広がって
世界中に咲き誇る希望の花を
私は見たい。

**２　授業を受けた生徒の感想**

・難民とか紛争とか日本ではあまり耳にしないので、授業とかで話を聞くだけではあまり想像できなかったけど、実際に話をすることでよりリアルに現実に起こる問題として考えることができました。
・カミール君の夢が「ガザの外に出ること」ということがとても衝撃的で、生まれてから小さな地域の中から出たことがないというのが想像つきませんでした。ですが、詩の中で世界の平和を願っている姿を見て、私よりはるかに苦しい生活をしているはずの子が輝いて見えて、私にできることはたくさん協力したいと思わされました。
・ナサールさんとカリームくんの話を聞いてみると、イメージしていたパレスチナとのギャップがかなりありました。特に印象に残っているのが、カミールくんには医者になるという夢があり、日本にいる僕たちと何ら変わらない遊びをして楽しんでいるということです。自分よりも年下の子がこんなに立派に夢に向かって頑張っていることを知り、僕もカミールくんに負けないよう、夢に向かって邁進します。

| | |
|---|---|
| 15. 授業者による自由記述 | 本年度、教師海外研修 OB・OG の取り組みとして、JICA パレスチナ事務所との連携授業の機会を２度いただくことができた。高校生だからこそ、社会科だからこそできる取り組みを考え、歴史や国際社会をテーマに授業を設計した。実際にオンラインでパレスチナと繋がったことで、生徒は世界を身近に感じるだけでなく、歴史そのものを自分たちの生きる生活の延長線上で捉える事ができたと考える。また、授業や学校の枠組みを越え、コロナ禍であっても世界と繋がれる可能性も体感することができ、主観的ではあるが、教室に希望や前向きなエネルギーが生まれる空間となった。貴重な機会をくださった JICA 関係者の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、パレスチナ、日本含めた世界の皆様の幸せを祈念し、私の報告としたい。 |

・授業用ワークシート

世界史への挑戦Ｎｏ２９「命の詩を繋ぐ」第６部　パレスチナ

**高校生オンライン対談**
**～日本×パレスチナ～**

本日は１学期にもお世話になった坂本さん、ナサールさん、みなさんと同じ高校生のナサールさんの息子さん15歳のカリームくんとオンラインで交流します。距離9000ｋｍ。時差は７時間。これまで学んできたことを思い出し、特別な気持ちを持って取り組もう。

流れ
① 自己紹介
↓
② 共通の質問項目の回答を交互に発表
1　自分の国のいいところ　2　国が抱える問題　3　コロナウィルスの影響
4　幸せを感じる瞬間　5　将来の夢
↓
③ 交互に質問
1　鳩ヶ谷　to パレスチナ　2　パレスチナ　to 鳩ヶ谷
↓
④ 詩の交換

ワーク　気になることがあればメモをしよう。

課題　今回ご協力いただいたパレスチナみなさんにあてて手紙を書いてもらいます。日本語でかまいませんが、英語に挑戦してみてもかまいません！（皆さん読めます。）

① 授業を受けて感じた、学んだこと
② 自分がこれから生きる上で大切にしたいこと
③ メッセージ

等を織り交ぜて書いてください。まとめてパレスチナまで郵送します。

**期限　１１月１７日（火）まで**

年　　組　　番　名前

メモ

・参考資料：


ダニー・ネフセタイ著『国のために死ぬのはすばらしい?』，高文研，２０１６

マーティン・ギルバート著 ／ 千本 健一郎 訳『イスラエル全史』，朝日新聞出版，２００８

マフムード ダルウィーシュ著，四方田 犬彦（翻訳）『詩集 壁に描く』，書肆山田，２００６

広河 隆一編集『パレスチナ 1948 NAKBA』，合同出版，２００８

ジャスティン・シャピロ，B.Z.ゴールドバーグ監督（２００３）『プロミス』[DVD]、日本、アップリンク

「映像教材を使用した SDGs 学習への動機づけ」
渋谷区立松濤中学校第 3 学年教諭　石井　誠（2016 年度教員海外研修タイ）

巻末にある DVD に収録されている JICA パレスチナ事務所と作成した動画は、2020 年の新型コロナウィルス感染症対策下におけるパレスチナの生活を現地 JICA 事務所スタッフが説明し、視聴した生徒が質問を行い、その質問に再度スタッフが回答するというビデオレター形式でのやりとりを収めたものである。

本校においては、総合的な学習の時間における SDGs 学習の導入として本映像資料を使用した。この学習は例年「国際理解」として指導している単元に SDGs の要素を含めることで、生徒が「ジブンゴト」として世界の諸問題を捉え、自校の特色を生かしたアクションプランを提案することをねらいとしている。

本単元の指導のポイントとしては、明確なゴールの設定と、生徒が「ジブンゴト」として課題を捉えられる導入が必要であると考えた。そのため中学生が最も身近に感じる SDGs 課題の一つである「質の高い教育をみんなに」を切り口として、同年代の子供たちが生活する様子から、背景にある諸課題について探求していく仕組みを設定した。生徒自身もこれまで学んでいた環境が大きく様変わりをし、予定していた行事や学習内容が思うように進まない中で、「他国の中学生はどのように暮らしているのだろう」「どうすればこの状況が変わるのだろう」という課題意識を抱き始めていた。

映像資料にあるパレスチナについては多くの生徒が「紛争地域である」というイメージをもっていた。しかしながらその一方で市民の生活や経済状況についてはよくわからないという考えが多く、「貧しい」「教育が行われていない」という回答が事前アンケートには多く見られた。こうした点から、JICA 現地スタッフの視点から市民の生活や子供たちの暮らし、学校環境について語ってもらうことで、普段メディアで目にする情報とは異なる「ジブンゴト」化できる視点を得ることができた。

**「映像資料 1 パレスチナの概要と 2 子供の様子」**

本動画の中ではパレスチナの概要として、地理や歴史、人口についての説明がラスラン氏から行われ、同氏の家庭生活の様子が撮影されている。特に生徒が関心をもった点は、子供たちの様子である。映像資料の中にある寝室やリビング、子供部屋で過ごす様子を見て、生徒たちは「これは一般的なパレスチナ市民の生活なのか」「窓の外にあまり家屋が見られないから郊外に住んでいるのではないか」と関心を高め、様々なことを推察した。また衣服や生活用品についても、生徒に馴染みのあるアニメキャラクターが使われている点や、視聴しているテレビの内容から、「自分たちと同年代の子」という意識が強まったようである。新型コロナウィルス感染防止策下におけるパレスチナの子供の遊びとしては、普段屋外で行っているサッカーを屋内で行うなど、日本と同様の生活の変化を見ることができたことも、同じ世界に生きる友達という意識が強まったようである。

このように本映像資料を視聴して指導を行うことで、今まで抱いていた紛争地域として援助が必要な国、という印象から「自分たちと同年代の子供たちと困っていることが共有できる」視点へと少しずつ変わっていく様子が見られた。学習環境についても、パレスチナでのオンライン学習や息抜きにチェスなどを行って遊ぶ様子から、自分たちが家庭学習として行っている課題やオンライン学習でのやりとりなどと比較することができ、「どうすれば友達と勉強できるのか」「このまま待っていれば状況は改善するのだろうか」という意見も出てきた。

本映像資料の終わりにはラスラン氏から家族へのインタビューとしていくつか質問が投げかけられた。同士の息子であるムハンマド君の答えとしては、「最近の生活については朝早く起きる必要もないし、家族とサッカーをしたりテレビを見ることができたりして楽しいが、時々つまらなく感じる。」また、「オンラインについては答えが必要なときに質問できてよいが、どちらかといえば先生と学ぶほうがいい。」「(この状況が終わったら) 学校に戻るほうがいい。家で過ごすのは楽しいが、学校のほうがいい。先生にも会いたいと思う。」と回答があり、生徒もパレスチナでの学校での学習環境が日本と共通する点があることを理解した様子であった。

この動画を視聴した後の生徒アンケートからは、新型コロナウィルス感染症対策下での世界における生活様式に次のような質問が挙げられた。

| |
|---|
| 海外の人は、食料の買い出しをどうやってしているのか/世界では、休校が続いているのか/ロックダウンはしているのか/あまり外に出られない今、どのようなことをして家族で楽しんでいるのか/世界ではオンライン授業などがどのくらい普及しているのか/もう学校が再開している場所などはありますか/世界の学校が休校している人たちは、どういう方法で勉強しているのか/日本の対応は世界と比較して遅かったのか。/学校の再開のめどは立っているのか。/新型コロナウイルスにおける JICA の取り組みはどんな活動があるか。/海外の休業している学校はどうやって宿題を出しているのか/世界の学校はどんな課題が出されているのか |

**「映像資料 3 世界との共生を考える JICA パレスチナ事務所インタビュー」**

「映像資料 1 パレスチナの概要と子供の様子」を視聴した授業の後に、次の映像資料である授業の後に**「映像資料 2 世界との共生を考える JICA パレスチナ事務所インタビュー」**を使用して授業を行った。これはパレスチナの概要と子供の様子を理解をする中で、生徒から出てきた質問の一部を、筑波大学附属中学校生徒が日本からのインタビューとしてオンラインでのやり取りを収めたものである。

この映像資料においてはラスラン氏の息子であるムハンマド君が、日本の生徒から挙げられた質問について答えるという形をとっている。前回の映像資料では、これまで生徒が知らなかったパレスチナの生活を現地スタッフによるプレゼンテーションで理解し「同じ」で

あることに気付くことができた。今回は日本の生徒から出された質問をもとに異文化への理解を深め、「違い」について知ることがねらいである。

映像資料の中でムハンマド君は、母国であるパレスチナについて「イスラム教徒とキリスト教徒にとっては特に大切な聖地」であり、パレスチナの理想の未来像については「イスラエルによる占領への恐怖」「さらなる戦争が起こることへの不安」「未来への良いイメージは占領が本当に終わったら想像できるかもしれない」と述べている。また、JICA に求める支援については「多少のお金は必要なく、避難する場所（国）」が必要だという回答について、生徒は自分たちの抱く夢との違いから、そうした基本的人権を維持することを「夢」だとしている点について「意外だ」という反応を返していた。

このインタビュー動画からは、普段生徒が暮らす中では「ジブンゴト」として考えることが難しい「人や国の不平等をなくそう」について、同年代の子供たちの現状からその実態を知り、実感を伴って難民問題について考えるきっかけとなった。他にも感染症対策下での生活については、日本と同様に様々な感染防止の取り組みや支援が JICA をはじめとした諸機関により行われていることについても子供たちから述べられ、「共通の課題を解決していく同年代の子供たちをつなぐもの」としての映像教材の価値を改めて感じることができた。

今回の映像資料を使用した指導から、子供たちが相互に世界のことを「ジブンゴト」として捉える大切さについて学ぶことができた。「ジブンゴト」をする上で大きなヒントになったことは子供たちが「共感」できる機会を得ることである。新型コロナウィルス感染症が世界を大きく変える中で、子供たちが自分たちの生活に危機感をもち共通の課題としてウィルスの脅威や世界の変容を考えたことや、世界の同年代の子供たちに共感したことは紛れもない「ジブンゴト」の第一歩である。さらにその共感が「違い」を受け入れるための基礎となり、人や世界との関わりについて視野を広げるきっかけにもなった。SDGs の目標のひとつである「パートナーシップで目標を達成しよう」についても「違い」を受け入れることで、相互に支援をする共依存の関係を築いていくことができる。

子供たちが世界を切り取る視点については、学校教育における指導はもちろん、メディアの報道内容も大きく影響する。その中で他国については普段目にしたり耳にしたりする情報を真実だと思いがちだが、今回の映像資料のように「普段の生活」を収めることが共感するきっかけとなる。「ジブンゴト」として世界を捉えるにはこうした映像資料が今後欠かせない教材になってくる。「世界との共生を考える」ことは日本の生徒にとって大きなひとつのテーマとなっていくことであろう。

# 授業実践報告書

報告者：長野県長野高等学校　教諭　竹村　ゆかり

【実践概要】

| |
|---|
| 授業テーマ：ザンビアにおける鉛汚染 |
| 講師：北海道大学獣医学部毒性学研究室研究員・JICA在外研究員　中田北斗先生 |
| 実施日：2020年5月22日（金） |
| 実施形態：長野県長野高等学校×長野県上田染谷丘高等学校×埼玉県立浦和高等学校<br>３校合同オンライン講座 |
| 参加者：３校の希望者 約150名が参加 |

授業内容

第一部　地理×化学×英語　教科横断リレー授業　「鉛とは？」

ザンビアにおける鉛汚染に関する理解を深める目的で、３校の教員が「鉛」をテーマにリレー方式で授業を行った。

地理：資源の博物館とよばれるほどありとあらゆる資源を算出していた日本と明治時代の急成長の背景で深刻な社会問題となった足尾鉱毒事件

化学：鉛の性質と、自動車のエンジンなど身の回りで使われる鉛

英語：英語論文で読み解くザンビアの鉛汚染

第二部　「ザンビアにおける鉛汚染」中田北斗先生による講演概要

鉛は安くて加工がしやすいという性質を持ち、自動車のエンジンをはじめ様々な工業製品に使用されてきた。ザンビアのカブエにある鉛鉱山周辺では、2013年の調査でほぼ100%の子どもたちの鉛の血中濃度が基準値を超えるという衝撃的な報告がなされた。ATSDRによる2015年の報告では、鉛中毒により年間23万人以上が死亡し、60万人以上の子どもの知的発達に影響があるとされる。ザンビアのカブエは、米国Pure Earthにより世界で最も汚染された10の地域の1つとされた。しかし、鉛鉱山が人々の雇用を生み、街が発展したことは事実であり、そうして産出された鉛が日本も含め、工業先進国の豊かな生活の背景にあることも紛れもない事実である。それは、なぜ途上国の支援が必要なのかという問いの答えを考えるうえで重要な事柄であり、忘れてはならないのが第二次世界大戦後に日本も世界各国の支援を受けて発展し、東日本大震災においても大きな支援を受けたということ。発展途上国について考えることは、日本の地域創生にもつながることである。そして、新型コロナウィルスで世界中が混乱の最中にある今、アフリカには日本以上に感染症に対するノウハウを持つ国もあると言われている。「共に学ぶ大切さ」である。

参加した生徒の感想

・３校合同の大規模な学習会はとても刺激的でした。今の時代、なかなか外部の刺激を受けて勉強する環境が作れない中でとても今回の講義は貴重なものでした。長い歴史の中でも汚染というのは人々の生活の中で問題となっていると実感しました。鉛に限らず原発事故でも汚染は広がりましたし、ゴミの焼却などの見えない汚染も日々広がっていると実感しました。私たちが新しいものを生み出し豊かな生活になっていく代償のようにも思えました。

・中田先生のお話の中でも特に、「国際協力をする上で、私たち日本人がやりたいことではなくて、現地の人たちがやりたいことをすることが大切だ。」という言葉がとても心に残っています。当たり前のことだけれど、国際協力では、問題を主観的に見るのではなくて、客観的に見ることが必要なんだ、と改めて気づかされました。私は、客観的に物事を見ることが苦手なので、まずは友達との関わり方や学校生活などの身近なことを、客観的な視点で振り返ることから始めていきたいと思いました。また、「現地に行く前にはなるべく下調べをせず、その国への先入観を持っていない状態にしておく。行ってから学ぶことは多い。」というお話も、自分の予想とは真逆で興味深かったです。そして、市外や県外の高校と合同で学ぶことで、とても良い刺激をもらいました。

・僕は先生のお話の中の「自助努力」という言葉がとても印象に残っています。主役は先進国の人ではなく現地の人々であり、先進国の人は現地の人のニーズを聞いて、現地の人が自立できるような手助けをするというのは開発をする側にとっては現地のことをよく理解しなければならず、意見が食い違うこともあるでしょうから、大変なことだと思います。それでも現地の人々が自立し、これからも豊かで安全な生活をおくるためにと現地の人々に寄り添って活動する先生の姿はとてもかっこいいと思いました！先生のように世界をまたにかけて活動することはできませんが、僕も日常生活で「自助努力」を意識して相手に寄り添って考えられたらいいなと思います。貴重な講演をありがとうございました！

・序盤の地理、化学、英語のリレー授業は一見つながりのないように見える教科でも、共通点を見出すことによって理解が深まったし、実際の教育現場でも取り入れて行って欲しいと思いました。また、長野高校だけでなく、浦和高校や上田染谷高校の方の積極的な姿勢に刺激を受けました。外部から受ける刺激は印象に残りやすいですし、今後も機会があればいろいろな学校の生徒と議論したり、活動していきたいなというように感じました。今回の講演に尽力して下った全ての方々、本当にありがとうございました。

自由記述

2020 年 3 月、新型コロナウィルスの蔓延により全国一斉休校となった。海外への自由な移動どころか、登校すらままならない。休校は新年度となっても延長し、休校中の各校の取り組み等、学校や地域を越えて情報交換するなかで、今であるからこそ深く学べることはないかと本校、長野県上田染谷丘高等学校、埼玉県立浦和高等学校、３校の教員で話し合い、実現した３校合同によるオンライン講座であった。中田先生の講演の理解を深めるために行った３校の教員による「鉛」をテーマとした地理×化学×英語の教科横断リレー授業は、鉛汚染の多角的な理解だけではなく、他校の特色を垣間見ることもでき、生徒にとっては新鮮だったようである。そして、講演後の質疑応答では、多くの生徒が中田先生に質問するために名乗り出た。他校の生徒の積極性や考えに触れたこの瞬間は刺激的であったに違いない。休校中の今だからこそ学べることがある。距離を越え、「共に学ぶ大切さ」を学ぶことができた３校合同オンライン講座であった。

# 9．授業実践報告会

参加者の各都県で実施された国際理解教育セミナーやグローバルセミナーにおいて、地域の方々に教師海外研修代替国内研修の経験を生かした授業実践についての報告を行いました。

■東京都

イベント名：教育× SDGs ～持続可能な社会づくりのための授業～（JICA 教師海外研修東京都報告会）

日　時：2021 年２月 14 日（日）14:00 ～ 17:00

場　所：ZOOM

主　催：JICA 東京

参加者：59 名

プログラム：

1. 教師海外研修代替国内研修紹介
2. 校種別ブレイクアウトセッションによる授業実践紹介
3. ブレイクアウトセッションで座談会（ファシリテーター各校種過年度参加者）
4. 学びの共有
5. ふりかえり

■埼玉県

イベント名：教員のための SDGs 勉強会 2021

日　時：2021 年１月 31 日（日）

場　所：ZOOM

主　催：JICA 東京埼玉デスク、（公財）埼玉県国際交流協会、埼玉ユニセフ協会

参加者：76 名

プログラム：

1. 開発教育案内（JICA 埼玉デスク）
2. 『持続可能な社会の創り手を育むために』（埼玉県ユニセフ協会）
3. 『県内の小中高へ、外国人講師や海外で八ツ役する日本人講師を派遣している「世界のトビラ事業」』（埼玉県国際交流協会）
4. 2020 年度（過年度）JICA 教師海外研修参加教員の報告発表会
5. 座談会～自己紹介・発表の感想・SDGs に関連した取り組みの共有など
6. まとめ

■長野県

イベント名：国際理解教育・SDGs 実践授業オンライン報告会

日　時：2021 年２月７日（日）

場　所：ZOOM によるオンライン開催

主　催：JICA 東京長野デスク

参加者：50 名

プログラム：

1. 2019 年度参加者の授業実践報告
2. 生徒による SDGs アクション発表
3. 講評・情報交換

■新潟県

イベント名：JICA 教師海外研修報告会

日　時:2021 年２月６日（土）

場　所：Zoom

主　催：にいがた NGO ネットワーク

共　催：JICA 東京

参加者：24 名

プログラム：

1．RING の紹介とアイスブレイク
2．教師海外研修の概要説明
3．授業実践報告
4．ブレイクアウトセッションで質疑応答・交流
5．振り返り・感想共有

■千葉県

イベント名：国際理解セミナー

日　時：2021 年２月 27 日（土）

場　所：Zoom

主　催：国際交流センター

共　催：JICA 東京

参加者：107 名

プログラム：

第一部　国際交流センター講演会

第二部　JICA 教師海外研修報告会

・教師海外研修の概要説明
・授業実践報告（5 名）
・CIEN/ 過年度参加者の先生方の取り組み紹介
・神田外語大　石井先生コメント
・JICA 東京挨拶

# 10. 総括研修

日時：2021 年 3 月 21 日（日）
場所：JICA 東京　セミナールーム 411/ZOOM
目的：持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる

| 所要時間 | | プログラム | | 目的／説明 | 講師・進行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9:30 | | 受付開始 | ロビー/411 | 対面で参加される方は 411 に移動、各自 PC を立ち上げ、Wifi に繋ぎ、ZOOM にチェックイン | 全体進行：JICA 東京　前橋 |
| 10:00 | 5 | 開会あいさつ<br><br>プログラム説明 | 411 | 今日の目的の確認<br>「持続可能な社会づくりの創り手となることができる児童・生徒の育成」育てたい資質能力とは何か、どう育てていくのか、来年度以降に続く指針を得ていただきたい。 | JICA 東京<br>市民参加協力第一課長　高田 |
| 10:05 | 65 | ＜校種別＞【グループワーク】<br>授業実践の振り返り | 411,<br>410,<br>409 | 授業実践を発表・総括する（実践報告書手元に）<br><br>授業実践について発表　55 分（5 分×人数）<br>・授業実践の概要<br>・イチオシ（またはメイン）の授業<br>・良かった点、反省点、課題<br>・来年度考えていること・やりたいこと<br><br>グッドプラクティス、課題、来年度への計画など次の時間で共有する内容･発表者を決める（10 分） | 小学校、特別支援学校<br>JICA 東京　前橋<br>千葉デスク　木村、<br>インターン　広瀬<br><br>中学校<br>埼玉デスク　矢田部<br>インターン　長田<br><br>高校<br>JICA 東京　古賀<br>インターン　小口 |
| 11:10 | 50 | 振り返りの共有・講評 | 411 | ・校種グループ代表より発表　（15 分　5 分× 3）<br>・意見交換（5 分）<br><br>佐藤先生より講評（30 分） | 東京都市大学教授　佐藤真久 |
| 12:00 | 60 | 昼食 | 各自 | | |
| 13:00 | 30 | 写真課題・私の一枚を比較して共有 | 411 | 研修前に実施した写真課題と、研修後の私の一枚を比較し、自身の変容を含めて発表（班別） | |
| 13:30 | 120 | 【講義】<br>持続可能な社会づくりの学びを支える授業研究 | 411 | 1. 【講義】授業研究は目指す資質・能力と子どもの実態のサンドイッチで考える | 東京大学教授　白水始 |
| | | | 411,<br>410,<br>409,<br>408,<br>407 | 2. 授業で扱った「育成したい資質・能力とSDGs」の共有 15 分（教科別 ･5 班）<br>3. グループの 1 授業例について「育成したい資質･能力」「見取の観点」を見直し、次年度の授業改善案を検討する　45 分（班別） | |
| | | 【演習】<br>持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力とは… | 411 | 4. クロストーク 15 分（2 分× 5 班）<br>5. 【講義】「授業改善のサイクルにどうつなげるか。」10 分<br>6. 質疑応答 10 分 | |
| 15:30 | 5 | 休憩 | | 記念写真　設営 | |
| 15:35 | 10 | 修了証授与 | 411 | | JICA 東京所長　田中　泉 |
| 15:45 | 5 | 閉講のあいさつ | | | JICA 東京所長　田中　泉 |
| 15:50 | | 記念撮影・解散 | | | |

【講義】白水始先生

修了証書授与

# 11. 教師海外研修を終えて

JICA東京　学校教育アドバイザー
前橋　俊輔（埼玉県教育委員会より派遣）

今年度は、コロナ禍の中での教師海外研修となりました。4月当初を振り返ると、緊急事態宣言が発令され、すべての方々にとって公私にわたり大きな変化がありました。教師海外研修についても予定していたザンビア及びパラグアイでの現地研修を中止し、代替国内研修を計画実施することとなりました。

オンラインとオフラインを併用した研修を企画し実施しました。これまで国外での研修を中心としてきた中で、今年度は国際協力を実施している日本の団体の取組や、国内における多文化共生、開発教育／国際理解教育／SDGsに関する課題等を軸として企画されました。日本国内から海外を見る視点です。今年度訪問予定であったザンビアとパラグアイに関する国内のリソースが中心となりました。

学校現場において、コロナに対する対応に追われ、お忙しい状況の中でも、22名の先生方が今年度の研修に参加されました。10名の方がはじめて参加される先生方、12名の方が過去に教師海外研修に参加したことがある先生方となりました。困難な状況にあっても、児童生徒に開発教育／国際理解教育／SDGsに関する学びの提供を進めていった先生方に敬意を表しますとともに、先生方を研修に快く送り出し、公開授業にも多大なるご協力をいただいた各所属校の校長先生はじめご関係の先生方に、改めて御礼申し上げます。

オンライン研修では、知識構成型ジグソー法のグループワークを実施するなど、オンラインであっても対話のある学びを模索し、研修内容を豊かにする試みが実践されました。

国内視察では、横浜移住資料館や横浜市鶴見区を視察することができました。横浜市鶴見区には沖縄物産店、沖縄料理、ラテン料理のお店があります。大正末期から沖縄県では経済的に困窮する人がいて、国の政策の後押しもあり多くの人々が南米の国々へ移住をしました。その後、横浜に京浜工業地帯ができ、入国管理法が改正されると、南米で三世、四世となった人たちが仕事を求めて日本に移住し、沖縄出身者の集住地区ができました。そこで、横浜市鶴見区には、沖縄物産の店があり、沖縄と移住地両方の郷土料理が食べられる店があるという歴史を学びました。

歴史を知らないと見えてこない事実でした。「同じものを見ていても、見ているものが異なる」と教師海外研修アドバイザーの佐藤先生からお言葉をいただきましたが、今回の代替国内研修は、そういった視野の広がる研修内容が豊かに含まれているものでした。ここですべての研修内容に触れることはできないのですが、過年度参加の先生方も含め、新たな気づきのあった研修だという感想を多く聞いております。

また、8月末に実施された集合研修では、先生方が実施を検討している授業案を持ち寄り、授業案の研究を行いました。校種が異なり、専門教科も異なる先生方が、「持続可能な社会の創り手を育てる授業実践」を目指し、今回の研修内容をもとにお互いの授業案について、熱く楽しく柔軟に対話を重ねる姿が印象に残っています。学校訪問をさせていただき、この場から生まれた授業は、それぞれの教室で児童生徒に届いていることも実感しました。

私自身、教師海外研修代替国内研修に携わらせていただいたことで、かけがえのない体験をし、多くのことを学ばせていただきました。

困難な状況下においても、豊かな研修を企画実施されたJICA東京開発教育担当の皆様、研修にご協力いただきました皆様、研修に参加された先生方、指導助言をいただきました佐藤真久先生、白水始先生に心から感謝申し上げます。

# 学校・教員のための開発教育・国際理解教育支援プログラム

JICAは、これまでの開発途上国での国際協力の経験を通じて培ってきた知見を、持続可能な社会づくりを担う子供たちを育成する教育に役立てていただくため、国際理解教育/開発教育支援事業を行っています。
JICAは、開発教育/国際理解教育を支援することにより、「世界の様々な開発課題と我が国との関係を知り」「それらを自らの問題として捉え主体的に考え」「根本的解決に向けた取り組みに参加する」人を増やすことを目指します。

## 教員向けプログラム

**●教師海外研修**

国際理解・開発教育に関心を持つ教員を対象に、夏休み期間中10日間程度の開発途上国視察を含む1年間のプログラムです。世界が直面する開発課題および日本との関係、国際協力の必要性に対する理解を促進し、学校現場等での授業実践を通じて国際理解・開発教育の推進を担っていただきます。
JICA東京では、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals; SDGs)を切り口に研修を構成しており、世界の課題を自分事としてとらえ、地域の課題にも目を向け、主体的に行動できる児童・生徒の育成を目指しています。

**●青年海外協力隊（現職教員特別参加制度）**

公立学校、国立大学付属学校及び私立学校の教員が「教員」としての身分を保持したまま青年海外協力隊・日系社会青年ボランティアへ参加する制度です。教員が開発途上国において国際教育協力に従事することによって、コミュニケーション・異文化理解の能力を身につけ、国際化のための素養を児童・生徒に波及的に広めることが期待されています。

## 児童・生徒向けプログラム

**●国際協力出前講座**

開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性について考える機会として、JICAボランティア経験者を講師として紹介するプログラムです。
ご希望に応じて、開発途上国からの研修員をご紹介することも可能です。
学校を中心に、毎年全国で2,000件以上、約20万人が受講しています。

**●国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト**

開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解を深め、自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。上位入賞者には、副賞として開発途上国へのスタディーツアーへ参加することができます。
毎年、7万点を超える作品が寄せられています。夏休みの宿題や作文指導としてもご活用ください。

**●「世界の笑顔のために」プログラム**

開発途上国で必要とされている、教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を提供していただき、JICAが派遣中のボランティアを通じて世界各地へ届けます。
国内の指定倉庫までの送料はご負担いただく必要がありますが、
現地までの送料をJICAが負担いたします。
個人での参加はもちろん、学校やクラス単位でもご応募いただけます。

# 開発教育・国際理解教育のための教材

**●先生のお役立ちサイト**
JICAでは、国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ教材を作成し、無料で提供しています。国際協力や地球規模の課題をテーマにした冊子・動画・ウェブ等の教材をダウンロードすることができます。
授業に合わせてぜひご活用ください。

**●授業で使える10分映像集**
授業でそのまま活用できる、中高生を対象にしたアクティブラーニング用の映像教材です。四つのテーマ「難民」「イスラム」「国際協力・ODA」「教育」をそれぞれ10分程の映像にまとめています。

**●国際理解教育実践資料集**
世界に存在している課題について、その問題のポイントや子どもたちに知ってほしい内容を分かりやすく解説しています。また、それぞれの学習内容ごとに学習指導要領やESDの分野との関連を示しています。

**●どうなってるの？世界と日本**
私たちの日常生活と開発途上国とのつながりについて、クイズに答えながらわかりやすく学べる小中学生向け資料です。食べ物やエネルギーなど私たちの生活に欠かせないものはどこからきているのでしょうか。かわいいイラストで楽しく学ぶことができます。

# 「JICA地球ひろば」のご案内

**●JICA地球ひろば**
JICA地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、開発途上国での活動体験談や参加型学習を組み合わせたプログラムを実施しています。修学旅行、社会科見学等の団体訪問も受け入れており、年間約1万人に見学いただいています。

開館時間：10時～20時（平日）／10時～18時（土・日・祝）
休館日：第1・第3日曜日、年末年始　　〇入館無料
連絡先：〒162-8433　東京都新宿区市谷本村町10-5
TEL：03-3269-2911／0120-767278

詳しくはコチラ
JICA地球ひろば　検索

# あなたの近くのJICA相談窓口

**●JICAデスク**
開発途上国で活動した経験を持つ国際協力推進員が、皆さんのお越しをお待ちしています。

| | | |
|---|---|---|
| 埼玉県 | （公財）埼玉県国際交流協会内 | Tel: 090-4024-0253<br>✉jicadpd-desk-saitamaken@jica.go.jp |
| 千葉県 | （公財）ちば国際コンベンションビューロー内 | Tel: 090-4024-0441<br>✉jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp |
| 群馬県 | （公財）群馬県観光物産国際協会内 | Tel: 090-4024-0097<br>✉jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp |
| 新潟県 | （公財）新潟県国際交流協会内 | Tel: 090-4024-1323<br>✉jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp |
| 長野県 | （公財）長野県県国際化協会内 | Tel: 080-1043-2268<br>✉jicadpd_desk_naganoken@jica.go.jp |

※東京都については、JICA東京（Tel: 03-3485-7461）までお問合せください。

# おわりに

2020 年度の教師海外研修プログラムは、年度当初から世界的に広がった新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の影響を受けて、海外研修を中止せざるを得ない状況となりました。このグローバル感染症は、数多くの私たちの周りにあった問題を浮き上がらせました。新しい感染症の頻度が高まっているのは、森林伐採などで動物の生態が変わり、途上国における人口増加と都市への人口集中による人間居住の過密化、動物と人間の接点が変化していることが遠因だと言われています。さらには、経済のグローバル化が進むことで、国を超えた人の往来がこの感染拡大を助長させました。このグローバル感染症と、気候変動、高齢化、エネルギー問題などに共通して言えることは、多くの要因が複雑にからまった“複雑な問題”であるということです。そして、地球環境問題、貧困・社会的排除問題、人間居住、グローバルな経済、健康などの多くの問題が相互に作用しながら深刻化してきており、先進国と途上国の相互作用も深まりつつ、類似する問題が共通する構造から生まれてきています。

このような状況のなかで、本研修の事務局を務める JICA 東京の運営のもと、どう研修プログラムを運営し、意味あるものにしていくのかについての議論を重ねてきました。そして、本年度は、グローカルな視点を強めた代替国内研修を実施することに至りました。本代替国内研修では、UNESCO（1996）の報告書（ドロール報告書）で提示されている 21 世紀に克服すべき 7 つの緊張・文化的対立に加え、筆者が提示した「人工知能と人間知性」を加えた 8 つの視点を軸に、グローバルな視点で物事を捉えるものでした。さらには、持続可能な開発のための教育（ESD）で指摘されている 4 つのレンズを通して、さまざまな課題・資源・時間・空間・人をつなげる統合的レンズ（つながり・かかわり）、身近な文脈（歴史や地域）で深め、世界の文脈に拡げる文脈的レンズ（拡がり・ふかまり）、課題の再設定や捉え直し、意味づけ、問いを重視する批判的レンズ（捉え直し、意味づけ）、社会が変わる・変える、個人が変わることを連関させた変容的レンズ（個人の変容、社会の変容）を活かすことにより、今日までの教育実践を新たな次元で捉え直すものでした。

幸いにも、派遣予定国であったザンビア・パラグアイとの国際協力を実施されている団体や企業、日本国内の国際化・多文化共生の実現に取り組む団体の協力を受けることができ、いままでとは異なる意味で大変充実した研修となりました。参画した教員は、地域･校種を超えた混成チームとなり、一年を通して、参加準備と現地・オンライン研修、授業づくり、授業実践に取り組みました。新学習指導要領では、「持続可能な社会」という用語が多々明記されているだけではなく、「何ができるか」や「知っていること・できることをどう使うか」といった資質・能力の重視、主体的・対話的で深い学びやカリキュラム･マネジメント、社会に開かれた教育課程について強調がなされています。近年のグローバル化の時代、これからの地球市民性と混成文化の時代、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代において、本代替国内研修プログラムに参画された教員自身がこの経験を活かし、同僚の教員らや地域の方々とともに、新たな次元で、学校教育活動の充実に役立てていただけることを切に願う次第です。

2020 年度教師海外研修アドバイザー

東京都市大学大学院　環境情報学研究科
教授　佐藤　真久

2020 年度　教師海外研修　報告書
～「持続可能な社会の創り手」を育てる授業実践集～

※過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、
ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。
是非ご覧ください！

https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/

独立行政法人 国際協力機構　東京センター　市民参加協力第一課
〒151-0066
東京都渋谷区西原 2-49-5
Tel:03-3485-7461
http://www.jica.go.jp/tokyo/